

授業科目名	大学生活と心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530		
オフィスアワー	特に定めない。		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	大学生活, 心理学, 心の問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	大学生活を始めるにあたって, 個々の学生が直面する可能性のある心理学的な問題についての理解を深めることを目標とする。		
授業の内容	大学生が直面する発達課題や心の問題についての基本的な知識を平易に解説していく。具体的には, 発達障害やトラウマなどの心の問題や親や友人などの他者との関係, そして心理的援助の利用などについて取り上げる。		
成績評価の方法	期末試験90%, 講義への参加状況10%の割合で評価する。期末試験は持ち込み不可で実施する。授業進行の妨げになる行為(私語等)に対しては, 当該学生の評価に反映させるなど厳しく対応する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。参考文献は講義中に示す。		
参考文献	なし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	試験においては, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	生活と心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	勝見吉彰		
研究室の場所	三原キャンパス 4530		
オフィスアワー	特に定めない		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	大学生活, 心理学, 心の問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	大学生活を始めるにあたって, 個々の学生が直面する可能性のある心理学的な問題についての理解を深めることを目標とする。		
授業の内容	大学生が直面する発達課題や心の問題についての基本的な知識を平易に解説していく。具体的には, 発達障害やトラウマなどの心の問題や親や友人などの他者との関係, そして心理的援助の利用などについて取り上げる。		
成績評価の方法	期末試験90%, 講義への参加状況10%の割合で評価する。期末試験は持ち込み不可で実施する。授業進行の妨げになる行為(私語等)に対しては, 当該学生の評価に反映させるなど厳しく対応する。		
テキスト	テキストは使用しない。資料を配布する。参考文献は講義中に示す。		
参考文献	なし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	試験においては, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	住田 光子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	TOEICの実践力を養うことを目指し、TOEICの総合問題を解いてゆく。なお、自宅課題としてはリスニング用副教材を指定し、聴くことに重点を置く。① 各自で取り組む自宅課題と ② 授業で扱う総合問題集の二つを通して、英語の総合的な力を養い、TOEICのスコアアップにつなげてゆく。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC 500点、TOEICテスト実践問題、演習と解説、さまざまなイギリス英語音声		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的 attitude、等で評価する。TOEIC受験を求める。		
テキスト	<テキスト>石井隆之他著, Overall Skills for the TOEIC(R) Test. 成美堂, 2014. (ISBN: 978-4-7919-1018-2) 2,200円 (税別) <副教材>『究極のイギリス英語リスニング Deluxe—6000語レベルでUK英語探究』アルク, 2009. (ISBN-13: 978-4-7574-1805-9) 1,800円 (税別)		
参考文献	国際ビジネスコミュニケーション協会『TOEICテスト新公式問題集<vol.6>』2014. *良書です。TOEIC受験に際して、授業のテキストとは別に、<公式問題集シリーズ>を解いてゆくのをおすすめします。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	三分の二以上の出席が必須。①自宅課題 <副教材> と ②テキスト課題: 2種類の課題に取り組みます。各受講者は、期日までに、課題を積極的にこなすことが求められます。授業のなかで、スコアや達成度を確認してゆきます。		

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	岩井 千秋 (非常勤講師)		
研究室の場所	—		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業では必ず予習として課題を出し、それを出席クイズとして出題します。さらに、TOEICなどの英語検定の出題形式に慣れてもらうために、書き取り(ディクテーション)や音読(シャドーイング)などを繰り返し行うほか、学習者どうして解答結果を評価し合うようなピア学習を取り入れた形式で授業を進めます。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC、英語検定試験、運用能力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC(国際コミュニケーション英語能力テスト)においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させます。語彙や英語の慣用的な表現の知識を増やすことが重要であるため、かなりの量の単語や英語独特の言い回しを覚えることを目標とします。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解, 速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行います。また英語の本当の力を身につけるには TOEIC 対策の学習では十分とは言えないため、日常的に英語の学習に取り組むためのノウハウを知り、それを実践してもらいます。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価します。TOEIC受験を求めます。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。		
テキスト	『TOEIC テストー公式問題で学ぶボキャブラリー』 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)		
参考文献	各種の教材やサイトを授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、与えられる課題や学習方法を実践する覚悟で受講してください。		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	波多野 五三 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。英語文献の読解並びに聴解を行う際に、ペアまたはグループに分かれてディスカッションを行うことがある。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, 英語能力試験, 英語のスキル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得し, 英語運用能力を総合的に高めるため, 聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い, TOEICに対応できる力を養う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態度、等で評価する。TOEIC受験を求める。		
テキスト	『文法・読解で高得点をねらう新TOEIC Test (Develop Your Grammar and Reading Power of the TOEIC Test)』 (安藤祐介・他. 2007. 東京: 松柏社.)		
参考文献	『新TOEIC TEST 英単語・熟語高速マスター』 Linkage Club. 2012. ISBN: 978-4-947747-22-8		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習の際に、センテンスやパラグラフの要点を把握するとともに全文を和訳し練習問題を解いておくこと。さらに、内容理解ののちに本文を3回以上朗読しておくこと。特に、無生物主語、関係代名詞/関係副詞、分詞構文、倒置、強調、省略などに注意する。未知語は、Longman Dictionary of Contemporary EnglishやOxford Advanced Learner's Dictionaryなどで語義を調べたのちに英和辞典で日本語訳を確認すること。		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	川尻 武信 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	語彙, 文法, 直読直解, 聴解力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得し, 英語運用能力を総合的に高めるため, 聴解・読解の能力を発展させる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い, TOEICに対応できる力を養う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的 attitude、等で評価する。TOEIC受験を求める。		
テキスト	安浪誠祐, Richard S Lavin 著 "Next Step to the TOEIC Test" 「TOEICテスト:」さらなる一歩」朝日出版社		
参考文献	「TOEICテスト新公式問題集」国際ビジネスコミュニケーション協会		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和・和英辞書を持参してください(電子辞書可)。テキストの予習と復習が必要です。		

授業科目名	資格英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	1822		
オフィスアワー	研究室のドアに表示		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEIC または TOEFL のスコアを取得する。		
授業の内容			
成績評価の方法	TOEIC、550点以上、TOEFLiBT、57点以上で単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	資格英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	1822		
オフィスアワー	研究室のドアに表示		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEIC または TOEFL のスコアを取得する。		
授業の内容			
成績評価の方法	TOEIC 700点以上またはTOEFLiBT、76点以上で単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	毎週火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 文法 聞く 話す		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②文法力を高めること、③日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めることである。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要となる抽象的な語彙や表現を学ぶ。日本語の文法に関する知識を確認し、それを運用に結び付ける。他の人の意見や感想を理解する練習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (20%) 期末テスト (50%) 出席 (10%)		
テキスト	『聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	毎週火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 聞く 話す 書く 発表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めること、③大学生活で必要とされる日本語力のうち主に話しの活動(課題について情報を集める、自分の考えを効果的に発表するなど)の日本語力を高めることである。この「日本語Ⅱ」では、「日本語Ⅰ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要となる抽象的な語彙や表現を学ぶ。 作文では、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。プレゼンテーションでは、自己の考えを聞き手に分かりやすく表明する練習をする。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 発表、宿題 (30%) 期末テスト (40%) 出席 (10%)		
テキスト	『聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)、 『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社)を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。日本語Ⅰから継続で受講することが望ましい。		

授業科目名	日本語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 読む 書く		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めることである。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (20%) 期末テスト(またはレポート) (50%) 出席 (10%)		
テキスト	『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 読む 書く		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めることである。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (20%) 期末テスト(またはレポート) (50%) 出席 (10%)		
テキスト	『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 漢字 読む 書く プロジェクト課題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、課題について情報を集める、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めること、③他者と自分との意見を調整し、問題解決をすることである。この「日本語Ⅳ」では、「日本語Ⅲ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。		
授業の内容	大学の学習活動に必要な抽象的で専門性の高い語彙や表現を学ぶ。レポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。他者と自分との意見を調整し、問題解決をする活動として、プロジェクト学習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト(またはレポート) (40%) 出席 (10%)		
テキスト	『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。日本語Ⅲから継続で受講することが望ましい。		

授業科目名	日本語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所	1132		
オフィスアワー	火曜日10時から12時		
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1年次		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 漢字 読む 書く プロジェクト課題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、課題について情報を集める、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めること、③他者と自分との意見を調整し、問題解決をすることである。この「日本語Ⅳ」では、「日本語Ⅲ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。		
授業の内容	大学の学習活動に必要な抽象的で専門性の高い語彙や表現を学ぶ。レポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。他者と自分との意見を調整し、問題解決をする活動として、プロジェクト学習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト(またはレポート) (40%) 出席 (10%)		
テキスト	『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本語レベルによって内容を変更する。 日本語Ⅲから継続して受講することが望ましい。		

授業科目名	ITパスポート検定		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。 また、自習についてはeラーニング教材を使用する。 学生は、授業への出席、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】人間文化学部，経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国家試験，ITパスポート試験，ストラテジ系基礎知識，マネジメント系基礎知識，テクノロジー系基礎知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。ITに関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として、国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。		
授業の内容	本講義では、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して、以下にあげることが身に付く。 ・企業活動と法務の基本について理解し、経営科学の各手法についての基礎知識を備え、企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。 ・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し、プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え、情報システムの開発および運用に活かすことができる。 ・情報科学を支える基礎理論について理解し、コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに、データベース、ネットワーク、セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ、適切なコンピュータシステムの運用ができる。		
成績評価の方法	集中講義を受講し、期末試験に合格した者については、得点に応じ、評定値C以上A未満の評定値を与える。履修期間中、LMS上のeラーニング教材で学習し、集中講義が始まる前までに『ITパスポート試験』に合格した者については、その得点に応じ、評定値を上方修正する。また、LMS上のeラーニング教材への取組状況が良好な者に対しても評定値を上方修正する。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株)		
参考文献	LMS上のeラーニング教材については、講義の際に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	LMS上のeラーニング教材を用いて予習と復習をしっかりと行うこと。 ITパスポート試験の受験案内も行うので、積極的に受験し取得して欲しい。		

授業科目名	ITパスポート検定		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。 また、自習についてはeラーニング教材を使用する。 学生は、授業への出席、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】人間文化学部，経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国家試験，ITパスポート試験，ストラテジ系基礎知識，マネジメント系基礎知識，テクノロジー系基礎知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。ITに関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として、国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。		
授業の内容	本講義では、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して、以下にあげることが身に付く。 ・企業活動と法務の基本について理解し、経営科学の各手法についての基礎知識を備え、企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。 ・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し、プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え、情報システムの開発および運用に活かすことができる。 ・情報科学を支える基礎理論について理解し、コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに、データベース、ネットワーク、セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ、適切なコンピュータシステムの運用ができる。		
成績評価の方法	集中講義を受講し、期末試験に合格した者については、得点に応じ、評定値C以上A未満の評定値を与える。履修期間中、LMS上のeラーニング教材で学習し、集中講義が始まる前までに『ITパスポート試験』に合格した者については、その得点に応じ、評定値を上方修正する。また、LMS上のeラーニング教材への取組状況が良好な者に対しても評定値を上方修正する。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株)		
参考文献	LMS上のeラーニング教材については、講義の際に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	LMS上のeラーニング教材を用いて予習と復習をしっかりと行うこと。 ITパスポート試験の受験案内も行うので、積極的に受験し取得して欲しい。		

授業科目名	情報科学入門		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【26年度以前入学生】国際文化学科，経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報化社会と文化，社会生活におけるコンピュータ利用，情報倫理， 情報セキュリティ，コンピュータアーキテクチャ，表計算，データベース		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の情報科目に区分され、「情報リテラシーの向上」を目標としている。 具体的には、情報化社会におけるコンピュータシステム利用の実際に関する基礎的な知識および情報倫理と情報セキュリティに関する基礎的な知識を習得するとともに、コンピュータアーキテクチャに関する基礎的事項を理解する。さらに、社会生活におけるコンピュータ活用を目指し、表計算およびデータベース利用のための実践的なスキルを身に付ける。本科目の目指す到達レベルは、各項目の理解、表計算ソフトウェア利用、データベースソフトウェア利用において何れも中級者レベルにおく。		
授業の内容	情報や情報技術が社会生活で果たす役割や、社会生活に及ぼす影響を理解するため、まず、社会の情報化と情報に関連する法律、コンピュータと仕事の関わり、情報と基幹業務システムの関わり、エンドユーザコンピューティングの概要について講義する。次に、情報倫理と情報セキュリティの構築、コンピュータシステム導入と運用管理について講義・実習により学ぶ。また、コンピュータのハードウェアと周辺機器の理解、表計算とデータベースについて実習を多用して教授する。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席状況および期末試験70%、課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。 期末試験は、指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート・教科書類持ち込み不可で実施する。主に練習問題の中から問題を作成し試問する。 レポート(宿題)の課題は学習単元毎の授業の最後に提示する。 各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。 課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株) noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の際に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/ ”アルゴリズム”，”ハードウェアとソフトウェア”，”データベース”，”情報機器の発達の歴史”を中心に視聴しておくことと良い。		

授業科目名	体育実技Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	楠堀誠司(庄原)、塩川満久(三原)、辻文(広島)		
研究室の場所	広島キャンパス 1541室(辻)		
オフィスアワー	※随時対応 要連絡		
授業の形式・方式	集中授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度以降入学生】全学部 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	しまなみウォーク、山寺、学生交流		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。 ②ウォーキングの特性や技術を説明できるとともに、生涯スポーツとして実践できる技能が身につく。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技Ⅱは、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>1)しまなみウォーク(主担当:楠堀)もしくは2)山寺での農業体験(主担当:塩川)のいずれかを選択する。しまなみウォークは、しまなみ海道(85キロ)を3泊4日かけてウォーキングする。山寺農業体験は、県内の山寺にて2泊3日の農業体験を行う。 この体育実技Ⅱは3キャンパス(広島、三原、庄原)合同の授業であり、運動を通じたキャンパス間の学生交流も重要なテーマとしている。</p>		
成績評価の方法	授業態度およびレポート等によって総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>交通費および宿泊にかかる費用は自己負担となる。</p> <p>授業内容等についての説明会を行いますので、履修希望者は説明会に参加してください。</p>		

授業科目名	保健体育理論		
担当教員氏名(助手氏名)	辻 文		
研究室の場所	広島キャンパス 1541研究室		
オフィスアワー	※随時対応 要連絡		
授業の形式・方式	対面授業。本授業科目では、一方的な講義形式ではなく、グループにわかれて学生同士の議論や意見発表、全体で教員も含めた質疑などを行い、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	平成26年度以前入学生：必修 ／平成28年度入学生：選択
履修要件	国際文化学科、健康科学科、経営学科、経営情報学科1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	健康づくり、生涯スポーツ、運動、トレーニング、生活習慣病		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】①現代の日本人の健康状態や運動・スポーツと健康のかかわりを理解する。②生涯に渡って運動・スポーツを継続するために必要となる環境や取り組みを説明できる。③運動・トレーニングを行った場合に身体の中でどのような変化(生理的変化)が起こるのか、さらに、それらが健康の保持・増進とどのように関係するのか説明できる。④運動を実施する上で必要となる基本的な技能を身につける。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】保健体育理論は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>本授業は、3部構成になっています。第1章(第1～5回)では、健康と運動について考えていきます。日本人の健康状態を理解し、運動・スポーツが病気(生活習慣病)やこころの健康とどのように関わるのか、さらに運動・スポーツを生涯に渡って継続していくにはどういった環境や取り組みが必要になるのか理解を深めます。第2章(第6～10回)では、運動時の身体のしくみについて学びます。運動やトレーニングを行うと身体の中でどのような変化や適応が起こるのか、さらにそれらの身体的変化が健康とどのように関わるのか理解を深めます。第3章(第11～15回)では、運動・トレーニングの方法について学びます。実際に運動を実施・継続していく上で、どのようなトレーニングの種類があり、それぞれどのような効果が得られるのか等について、実習を交えながら理解を深めてきます。これら15回の授業を通して、生涯スポーツを実践していく上での基本的知識、態度および技能を身につけていきます。</p>		
成績評価の方法	<p>授業態度20%、講義中のレポート30%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。</p> <p>「期末試験」：期末試験(90分)を行う。試験は自身が作成したA3サイズのメモのみ持ち込み可(メモ用紙は、事前に配布した指定の用紙のみ認め、試験後に回収する)。出題は第15回までの講義内容及び小テストの中から行う。</p>		
テキスト	教科書なし。毎回、資料プリントを配布する。		
参考文献	健康づくりのための運動の科学(鶴木秀夫 編、化学同人)、スポーツ生理学(富樫健二 編、化学同人)、トレーニングの科学的基礎(宮下充正、ブックハウス・エイチデイ)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業態度は、積極的な授業参加だけでなく、私語の抑止、携帯電話の禁止、教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。無断の途中退室は認めない。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>		

授業科目名	キャリアデベロップメント		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式による解説を行い, 必要に応じて適宜, 演習を実施する.		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力, 感情コントロール, ストレスコントロール		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、感情のコントロール、ストレスへの対処、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p>		
授業の内容	<p>1) 社会で活躍するために必要な能力, 2) セルファイメージと目標設定, 3) 情報収集と要約のスキル, 4) コミュニケーションと対人関係のスキル, 5) 論理的に説明するスキル, 6) 問題解決・発想法, 7) 感情とストレスのコントロール</p>		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する		
テキスト	講義資料は毎回配布する.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター (原田)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目	特になし		
キーワード	キャリア開発、基礎的・汎用的能力、論理的思考、プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	前半は、社会で必要とされる能力や資質を理解するための講義を行い、後半は、「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ、ヨーロッパ、中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原武士, 山縣誉志江, 富田哲治, 式部信		
研究室の場所	広島キャンパス 1823 (栗原)		
オフィスアワー	随時 (アポを取ってください)		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見詰めようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の複合科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。したがって、2年次での履修も可能であるが、上記の意味で3年次の履修が望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。		

授業科目名	哲学		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科・経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード	原因、根拠、神、科学、帰納、演繹、循環		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の人文系科目。哲学を初めて学ぶ学生を対象に、哲学とはどのようなものかを紹介する。併せて、論文を読み、論理的展開を正確に把握できるようになることを目指す。		
授業の内容	Stephen Law “THE PHILOSOPHY GYM”の中から、Chapter 1、Chapter 16、Chapter 18、Chapter 19、を、それぞれ三回で取り上げ、そこで何が問題となっているのか、どのような解決策がありうるのか、それぞれの解決策にどのような問題が潜んでいるのか、等々を考えながら、全体の構成(アウトライン)を読み取る。取り上げる各章は、ステイブン・ロー著『北極の北には何がある? 「考える脳」をつくる哲学トレーニング 19』中山元訳、ランダムハウス講談社、に収録されているが、現在絶版。すべてのChapterについて翻訳を準備する。 時間に余裕があれば、Chapter 7、Chapter 9、Chapter 4 のいずれかを取り上げる。		
成績評価の方法	期末試験の成績による。		
テキスト	Stephen Law “THE PHILOSOPHY GYM” (翻訳を準備する)		
参考文献	岩崎武雄『西洋哲学史』(再訂版)有斐閣、門脇俊介『現代哲学』産業図書、熊野純彦『西洋哲学史』上・下 岩波新書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	添付ファイルから、PhG_01.pdf, PhG_16.pdf PhG_18.pdf, PhG_19.pdfを各自でプリントする。		

授業科目名	倫理学		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択必修、高一種免(公民)選択必修		
キーワード	善悪、人格、自由、決定論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の人文系科目。倫理学を初めて学ぶ学生を対象に、哲学の一部門としての倫理学とはどのようなものかを紹介する。併せて、論文を読み、論理的展開を正確に把握できるようになることを目指す。		
授業の内容	Stephen Law, "THE PHILOSOPHY GYM" (スティーブン・ロー著『北極の北には何がある? 「考える脳」をつくる哲学トレーニング19』中山元訳、ランダムハウス講談社)の中から、Chapter 20、Chapter 5、Chapter 12、Chapter 17を取り上げる。全体の構成(アウトライン)を読み取る努力をしよう。 テキストは翻訳を準備する。		
成績評価の方法	期末試験の成績による。		
テキスト	Stephen Law, "THE PHILOSOPHY GYM"		
参考文献	大庭健 『善と悪 - 倫理学への招待 -』 岩波新書 中島義道 『悪について』 岩波新書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各自でテキストをプリントする。		

授業科目名	心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～2回の講義につき、1章の講義を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科・健康科学科 1年次対象、経営学科・経営情報学科 1・2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(公民) 選択必修		
キーワード	知覚、記憶、思考、社会的認知、パーソナリティ、発達		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔たりがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の全般的な内容について講義を行う。そして、心理学に対してこれまで抱いていた誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象にしている。		
授業の内容	授業では、人間の基本的な心の働きや行動を扱う。授業内容は、心理学の歴史に始まり、感覚・知覚、認知、社会、発達、教育、パーソナリティ、臨床など多岐にわたる心理学分野を少しずつ紹介するものとなっている。毎回の授業において、学生からも日常生活で体験する「心についての素朴な疑問」を受け付ける。そして、それら疑問は「学問としての心理学」ではどのように考えられているかを講義内容に沿って紹介する。		
成績評価の方法	試験90%、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み不可、座席指定、学生証呈示、途中退室不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子 共著 「グラフィック心理学」 サイエンス社 1997		
参考文献	第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	歴史学		
担当教員氏名(助手氏名)	小平 直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業（講義）		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次，健康科学科2年次，経営学科，経営情報学科 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	資本主義、フォーディズム、グローバリゼーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	受講生が、現代の世界資本主義に内在する重要な諸問題について、基礎的理解ができるようになることを目標とする。		
授業の内容	<p>コンドラチェフの長期波動によれば、現在われわれは、単なる世界恐慌的局面に直面しているのではなく、長期の1周期（1990～2020年）の下降局面にある。これまで、こうした時期には、基礎的エネルギーの転換、資本主義経済（基軸的資本・産業、世界商品）の根本的变化、国家と国家間システムの変容などが生じており、したがって、われわれは歴史の転換期に際会している。本講では、歴史の現局面を理解するために、「1960～1990年の上昇局面」（＝「20世紀型資本主義」の盛期）と「1990年～の下降局面」（＝「21世紀型資本主義」の開始期）——における世界資本主義と諸国家の形態と構造について論じる。すなわち、過去（「20世紀型資本主義」）との〈対話〉を通して、現在（「21世紀型資本主義」）の理解をめざす。</p>		
成績評価の方法	期末試験による。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	文学		
担当教員氏名(助手氏名)	遠藤 伸治		
研究室の場所	研究室番号 2406 (庄原キャンパス)		
オフィスアワー	毎週金曜日14時から16時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主に講義形式で実施する。原則として隔週レポート課題を課し, 提出させる。学生は, 授業に出席し, レポートを作成・提出すること, 試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	作者, 読者, テキスト, リアリティ, 社会性, 時代性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現代日本の社会状況に深く根ざし, 時代の推移と社会の変貌につれ, その時々々の課題に取り組んできた, 時代を捉える指標になると思われる作品をテキストとし, 現在の我々を考える上で必須の, 家族, 性, グローバル化などの問題がどのように表わされているかを読み取っていく。そして, それらの表象がその時々々の読者にどのように理解されてきたのかを考察する。それを通じて自らがどのような時代的变化を内包した現在の状況の中で生きているのかを理解し, その中で生きる方を確立していくための問題提起と手がかりとする。		
授業の内容	この科目では, 文学と人の生き方との関わり, 日本文学と外国文学との関係, 文学と他のさまざまな文化現象との影響関係などについて基本的内容を講義する。本科目の内容は, まず, 履修学生が文学作品を鑑賞し, それを楽しむこと, そして, 文学に関する基本的な概念, 基礎的内容を理解することである。これによって文化研究の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。		
成績評価の方法	期末試験60%, 課題レポート40%の割合で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で, 持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業中に提示する。課題レポートの用紙(A4・罫線有り)は授業時に配布する。		
テキスト	プリントを使用する。参考文献については授業時に指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	教育学		
担当教員氏名(助手氏名)	木本 尚美		
研究室の場所	広島キャンパス (2217)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義形式で行うが、一部演習形式を当てる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1年次, 健康科学科1・3年次, 経営学科, 経営情報学科1・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	教育, 学習, 発達, 社会, 家庭, 学校, 子ども		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の教養/人文系科目。 知識・理解: 「教育学とは何か」という問いを考えるヒントとなる基礎的な知識が獲得できる。 思考・判断: 現代の教育問題に関して教育学的観点に基づき, 検証することができる。 関心・意欲: 教育や子どもの成長に興味関心を持ち, 考える態度を養うことができる。 技能・表現: レポート課題に積極的に取り組むことにより, 学習のデザインとマネジメントを修得することができる。 総合的には, 広い視野に立つものの見方と, 自ら考える力(クリティカルシンキング)を身につけることができる。</p>		
授業の内容	<p>人間は, さまざまな教育の営みを通して発達し続けるが, 教育活動全般は社会環境と密接な関わりを持っている。本授業は, 受講生の皆さんがこれまで経験してきた家庭教育や学校教育, 現段階の大学教育, 生涯学習を視野に入れ, 教育の基礎をどう捉えるか, 子どもと家庭, 学校, 社会等をめぐる諸問題をどのように解決するかについて, 多角的に考察する。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1～4・・・15点×4回 ・現代の教育課題について議論・・・10点×4回 ・コメントシート・・・(+α) 		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>教育という社会的な活動が社会でどのような意味を持っているのか, 課題は何かを考えていきたいと思います。受講生一人ひとりの意見や考え方は, クラス全員の貴重な教育資源となります。単に授業に出席するだけでなく, 授業時間内の学習活動に積極的に参加されることを望みます。</p>		

授業科目名	日本語表現		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー	在室時であれば基本的にいつでも対応する。 時間割が確定次第(4月)、オフィスアワーを設定し、研究室の扉に掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義と実習(課題に則った作業)、受講生同士の相互評価を組み合わせて実施する。学生は、毎時間課題(400字から1200字)に取り組み、その結果を提出することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象(3・4年次生履修可、2年次生履修不可)		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修, 高一種免(国語)必修		
キーワード	事実文, 意見文, 論説文, 書簡文, 文芸創作		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標;</p> <p>(1) 魅力的かつ説得的な表現力を身につける。 (2) 時, 場所, 相手に応じた表現を学び, 身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置付け; 全学共通教育科目>教養>人文系</p>		
授業の内容	要約文, 論説文, 書簡文などの実用文, および俳句, 短歌, 詩, 小説などの文芸作品の執筆に取り組む。読む, 書く, 聞く, 話す, 推敲するといった作業を繰り返しおこなうことを通じて, 時, 場所, 相手に応じた適切な日本語表現を学び身につける。受講生相互による添削と意見交換・批評, 教員による文章添削などの方法を取り入れ, 読み手・受け手双方の立場から, 客観的に自らの表現を点検し, 構築していく力を身につける。		
成績評価の方法	毎時の取り組み(提出課題)により評価する。		
テキスト	『さらさらいくよ』創刊号・第2号(第1回の授業時に配布する) 毎回プリントを配布する。		
参考文献	日本漢字能力検定協会編『文章検 公式テキスト2級』, 樺島忠夫『五つの法則による十の方策 文章表現法』, 榊原邦彦ほか編『学生・社会人のための表現入門』など。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講生は毎回, 課題に取り組み, 提出しなければならない。読み, 書き, 聞き, 話すを粘り強く繰り返すことになる。自分の書いた文章の推敲, 他の受講生の文章・発表への批評活動も含まれる。積極的に取り組んでほしい。		

授業科目名	日本語表現		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915 研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。ほぼ毎時間、俳句の創作を行い、学生全員による句会を中心とした活動を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修, 高一種免(国語)必修		
キーワード	日本語表現、俳句、文語・口語体、日本語コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	俳句の実作、句会、鑑賞文作成等の活動を通じて、日本語による伝統的・革新的な表現方法と多様な価値観を学び、他者と豊かなコミュニケーションを行い得る言語能力と想像／創造力を身につける。全学共通教育科目。		
授業の内容	ほぼ毎時間、学生は俳句の創作を行い、自らの言語表現能力を高めていく。また、句会や鑑賞文作成活動を通じて相互批評を行い、さまざまな価値観、表現方法を学び合う。意見交換のなかで、より豊かな想像／創造力、読解力、思考力、表現力、コミュニケーション能力を養う。		
成績評価の方法	毎時の取り組み(80%)、最終レポート(20%)により、総合的に評価する。		
テキスト	『今は始める人のための俳句歳時記(新版)』(角川ソフィア文庫)		
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	俳句の創作初心者を対象として授業を進める。		

授業科目名	芸術		
担当教員氏名(助手氏名)	佐々木 悠		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書と映像資料などを用いた講義形式で実施する。1回の講義につき、1章の講義を想定し、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1年次		
免許等指定科目			
キーワード	音楽、芸術、美学、音楽学、音楽社会学、音楽文化学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業科目では、音楽（ポップスを含む）についてこれまで専門的にほとんど学習していない学生を対象にして、音楽を聴く際に必要な基礎知識（歴史など）の内容を講義する。本科目の目標は、履修学生に音楽史の基礎知識を理解させ、音楽への興味関心を抱かせることにある。さらに、単に歴史を知るだけでなく、音楽社会学の観点から様々な作品を考察することによって、「音楽はなぜ必要なのか」「音楽は時代の何を映し出しているのか」という問題の一端を考えさせたい。そして、現代社会が抱える文化の貧困という課題に対して、能動的に考える力を付けさせたい。		
授業の内容	現代の私たちが普段耳にしている様々なジャンルの音楽（クラシックやポップスなど）は、2000年以上前にまでその起源を遡ることができる。本科目では、その長い歴史を社会的観点から考察し、音楽の必然性、音楽の社会性について講義する。具体的には、クラシックとポップスの作品 — 交響曲、歌曲、オペラ、ピアノ曲、ジャズ、ゴスペル、洋楽、J-Pop、ミュージカル — を時代ごとに「聴き・観る」ことを通して、各々の歴史的背景を考察する。		
成績評価の方法	期末試験レポート(授業最終日の日に提出、課題は第1回目授業時に提示する。パソコン入力によるものとし、印刷したものも提出。1800字以上2000字以上) 50%、毎回の予習課題 40%、授業への参加度 10%		
テキスト	なし		
参考文献	岡田暁生 2005 『西洋音楽史』中公新書 岡田暁生 2009 『音楽の聴き方』中公新書 川井學監修 2012 『音楽の謎』小学館（名探偵コナン推理ファイル）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、シラバスを精読し、1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験などにおいて、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	法学		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード	法と裁判、民法(財産法, 家族法)、刑法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】</p> <p>知識・理解の観点 法とは何か、市民生活にかかわる法の概要について説明できる。 思考・判断の観点 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。 技能・表現の観点 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>まず、法とは何か、法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など、市民生活と密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には、①契約や財産に関するルール、②家族制度、③犯罪と刑罰に関するルールなどを取り上げる。</p> <p>これらを通じて、市民生活と法の密接な結びつきを理解し、社会生活に付随する現代的問題を法的な思考に基づいて解決しうる能力を養うことを目指す。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト等の成果を考慮して総合的に判断する。 大まかな内訳は以下のとおり。 (1) 定期試験 (60%) (2) 授業態度 (10%) (3) 小テスト (30%) 定期試験は論述形式であり、おおむね法学の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	法学六法'17 (信山社、2016)		
参考文献	中山竜一『法学』(岩波書店 2009) 齊藤信宰『現代社会における法学入門』(成文堂、2010)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。 本科目の履修にあたり、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。</p>		

授業科目名	日本国憲法		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科2年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	立憲主義、基本的人権、三権分立、国民主権、精神的自由、経済的自由、法の下での平等		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 知識・理解の観点 憲法の存在意義、憲法が保障する基本的人権の内容について説明できる。 思考・判断の観点 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。 技能・表現の観点 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>ニュースや新聞等では、しばしば憲法にかかわる社会問題が取り上げられる。この授業では、憲法の核である人権保障の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。</p> <p>授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容について解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は、定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト、レポート等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (60%) (2) 授業態度 (10%) (3) 小テスト、レポート等 (30%)</p> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね日本国憲法の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	<p>(1) 水島朝徳『18歳からはじめる憲法』(法律文化社、2010年) (2) 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』(筑摩書房、2004年)</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。		

授業科目名	経済学		
担当教員氏名(助手氏名)	式部 信		
研究室の場所	広島キャンパス 1722研究室		
オフィスアワー	木・2		
授業の形式・方式	対面授業・講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次対象, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード	社会科学・実在性・経済構造・資本主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は経済や社会の仕組みに関する基本的な知識を学ぶための科目である。		
授業の内容	この科目では現代の経済がどのような仕組みで動いているかを知るために必要な基礎的知識を学ぶ。最初に, 経済全体の仕組みをつかまえるための基本的な概念を理解する。その上で, 経済の動きを把握するためにつくられた簡単な理論やモデルを用いて現代経済の基本的な特徴と構造を理解する。それとともに, 経済や社会を学問として学ぶためにどのような点に注意しなければならないかを考え, 経済や社会について高校時代よりも一段深い知識をめざす。		
成績評価の方法	期間中に課す宿題と期末の試験期間中に実施する最終試験の得点結果に基づいて評価する。最終試験では論述形式の問題を出題する。		
テキスト	バスター『自然主義の可能性』晃洋書房(「経済の学び方」のテキスト)。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者には各回の授業内容を要約したレジュメを用意するので, 授業に持参すること。宿題には上記の文献(これは必読の文献である)を読んで5000~6000字程度の論文を書く課題が含まれるので, 留意すること。論文のテーマと提出期限は授業の際に伝える。		

授業科目名	政治学		
担当教員氏名(助手氏名)	原 理		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	遠隔授業：広島C発信		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【平成26年度以前入学生】健康科学科，経営学科，経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	政治，民主主義，発表，批評，安全保障，経済，英語，インターネット		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	政治学の基礎を学ぶとともに，シンクタンクのホームページから情報を収集し，論文を執筆し，発表を行う。		
授業の内容	現在の政治哲学において，民主主義は人類普遍の価値観（自由・人権・平等）を基にした政治体制であり，一般的にこれ以上の政治体制はないとされている。そこで，このクラスでは民主主義とは何であるのかを学び，世界の国々の政治体制がどの程度民主的であり，国民が政治的経済的にどの程度の自由を享受しているのかを調査する方法を学ぶ。具体的には，政治・経済・人権・軍事等に関する主要なHPの使い方を学び，それをクラスで発表してもらおう。またはある国に関する論文を書き発表する。		
成績評価の方法	授業への貢献度と論文と出席で評価する。授業への貢献度とは，授業での発表や議論や他の学生の発表への批評・評価のことであるが，これらの活動に意味のある参加をしたかどうかで評価する。		
テキスト	未定		
参考文献	以下のシンクタンクのホームページ Heritage Foundation, Freedom House, Transparency International, Amnesty International, Reporters without borders, Nationmaster.com等		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	社会学		
担当教員氏名(助手氏名)	中島 満大		
研究室の場所	広島キャンパス 1727研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード	自分らしさ, 近代家族, 晩婚化・未婚化, 会社, 地方都市		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義は、社会学の入門に該当する。私たちの身のまわりの現象を、社会学ではどのように考えているのかを紹介していく。社会学のおもしろさを少しでも講義から感じ取ってほしい。そして社会的な考え方を身につけることが本講義の目標である。経営学や経済学などの考え方と、社会学との違いを、他の科目を履修しながら考えてほしい。		
授業の内容	講義は、日常の風景や「私」という存在、人間関係、家族、働くということ、(地方)都市などについての研究をもとに進めていく。多様なテーマを扱っているが、共通しているのは、私たちにとって身近な問題を考えていくということである。最終的には個々のトピックから「現代社会」がいかにして成立しているのかを論じていく。		
成績評価の方法	コメントカードと講義への参加度に基づく平常点(30%)、試験(70%)によって成績評価を行う。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	浅野智彦ほか『考える力が身につく社会学入門』KADOKAWA/中経出版(2010年)、井上俊・船津衛『自己と他者の社会学』有斐閣(2005年)、落合恵美子『21世紀家族へ』有斐閣(2004年)など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	社会学やシラバスのトピックに少しでも興味のある者はぜひ受講してほしい。		

授業科目名	人権論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス 2223研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)選択		
キーワード	基本的人権、自己決定権、人種差別、死刑制度、社会的弱者		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 知識・理解の観点 人権とは何か、多様な人権問題の概要、発生原因について説明できる。 思考・判断の観点 現代の人権問題を多角的に考察することができる。 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする人権問題に関心を持つことができる。 技能・表現の観点 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>人権思想の歴史、その発展過程を踏まえ、今日、我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で、日本の社会における人権問題を考察する。また、人権の尊重は、全人類にとって最重要課題の1つであるから、外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって、外国の人権問題についても、日本との関係を意識しつつ、適宜取り扱っていく予定である。また、人権問題に関わる映画を教材とする場合もある。</p> <p>主要な個別論点としては、①人権思想の展開、②自己決定権、③差別問題、④社会的弱者の人権、⑤死刑制度などである。授業においては、裁判例その他の参考資料を利用しつつ、グループワークを取り入れながら、具体的な問題に即して深く考えることができるよう心がける。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は、定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それにレポートの成果等を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (50%) (2) レポート (50%)</p> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね人権に関する基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	上田正昭『国際化のなかの人権問題』（明石書店、2004年） 横藤田誠『人権入門』（法律文化社、2011年）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。 本科目の履修にあたり、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。		

授業科目名	文化人類学		
担当教員氏名(助手氏名)	上水流 久彦		
研究室の場所	庄原キャンパス 3305地域連携センター		
オフィスアワー	随時 事前に連絡がある方が好ましい。		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	フィールドワーク, 文化相対主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	私たちの身近な事柄について、人類学の方法論と人類学的思考を提示します。世界各地の多様な文化との出会いを通じて、私たちが「当たり前」と思っている考えや習慣の特殊性を理解するとともに、結婚や宗教などの意義への理解を深めます。		
授業の内容	「日本に生まれてよかった」と感じる時、そこに文化の優劣はないでしょうか。文化人類学では、文化に優劣はないという考えを基本としていますが、それは理想として語る「あるべき姿」なのでしょうか。それとも裏付けがあつてのことでしょうか。どうして文化に優劣はないと言えるのか、この問いを考えるために、第三の性の存在、一妻多夫等の多様な婚姻方法、迷信と思われがちな呪術などを事例として、文化を論じます。		
成績評価の方法	原則、期末試験で評価します。出席回数は加点の対象とします。		
テキスト	指定しません。参考図書は適宜授業で紹介します。		
参考文献	授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私語には厳しく対処します。		

授業科目名	基礎数学		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面，講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象，健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	行列，ベクトル		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	線形代数学の基本であるベクトル・行列の定義および演算を，普通の数の演算のように自由にできるようになることを目標とする。		
授業の内容	基礎数学では，統計学など他の専門分野を学ぶにあたって必要な線形代数を学ぶ。主な内容は，ベクトル・行列の定義とその演算、行列の階数、行列の基本変形、連立1次方程式の解法、行列式等を紹介する。随時、演習や小テストを行い，理解を深めていきます。		
成績評価の方法	中間試験またはレポート (30%)，期末試験 (60%)，および授業中の課題演習 (10%) で評価します。		
テキスト	やさしく学べる線形代数 (石村園子著，共立出版)		
参考文献	特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1回，1回の授業内容は難しくないが，各回の内容は密接に結びついています。前回までの内容を土台として新しい話題が紹介されるので，理解を深めるための復習が大切です。テキストは演習問題が豊富にあるので，各自の復習に活用してください。		

授業科目名	統計学		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
オフィスアワー	研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
授業の形式・方式	対面，講義形式+情報処理演習室での演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間文化学部 1年次対象，経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	データとは？，データの要約，母集団と標本，推定と検定，回帰分析，統計ソフト		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	データから意味のある情報を抽出する道具として，統計学はとても有効な道具になります。本講義では，統計学の基礎とそれにもとづくデータ解析の初歩を，Rと呼ばれる無料の統計ソフトを用いて身につけることを目標とします。		
授業の内容	統計学の考え方や手法に関する知識は多くの分野において必要とされています。本講義では，データをどのように整理し，その特性をどのように捉えていくかを，具体的なデータを利用しながら理解していきます。無料の統計ソフト「R」を用いた演習を中心に授業を進めていきます。ただし，履修者数によって内容を変更する場合があります（履修者数>PC端末数の場合など）。		
成績評価の方法	中間レポート（30%），期末レポート（50%），および授業中の課題演習（20%）で評価します。		
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	統計ソフトの力を借りることで統計学をデータ解析の道具として使えるようになることを目指した授業です。		

授業科目名	物質科学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤田 健一		
研究室の場所	広島キャンパス 1542研究室		
オフィスアワー	随時（原則として、メールなどで予約）		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業はプリントを配布して、その内容について講義する。なお、授業内容は物理学、化学の両方の学問分野に亘る。また、授業内容の理解を深めるために、適宜、練習問題を配布する。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科 1・2年次対象（平成28年度入学生）		
免許等指定科目			
キーワード	基礎粒子，マクロ構造，物性，金属，無機，有機，結晶，アモルファス，物理事象		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、物質を構成する要素と物質のマクロな物性との関係について講述する。 本科目の目標は、履修学生が、物質のミクロ構造が日常生活にどのように反映されているのかを理解できるようになることである。これによって、物理的・化学的教養を身に付け、更に、物理的・化学的専門科目の内容を理解するための素地を身に付けることができる。		
授業の内容	物質を構成する基礎粒子の階層的構造とそれぞれの性質について論じ、次に物質のマクロな構造の発現および複雑化の仕組みについて解説し、それらの構造的知識を基礎として、物質の構成要素である基礎粒子の物性とその物質のマクロな物性にどのように反映するかを、物質の構造との関連で論じる。また、生活の中で使用されている具体的な物質（金属・無機・有機，導体・不導体，結晶・アモルファス）について、その機能性と構造との関係およびその物質にまつわる物理的事象を講述する。		
成績評価の方法	期末試験で評価する。期末試験は指定された教室（試験室）内で、指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。		
テキスト	適宜、プリント配布。		
参考文献	参考書：杉森 彰 著 『化学と物質の機能性』丸善株式会社 参考書：渡邊正義・米屋勝利 著 『物質科学入門』化学同人		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	生活化学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤田 健一		
研究室の場所	広島キャンパス 1542研究室		
オフィスアワー	随時(原則として、メールなどで予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業は教科書の内容に沿って行うので、スクリーンの内容と教科書を比較しながらノートを取ることを勧める。なお、教科書に記載のない内容はプリントを配布する。また、授業内容の理解を深めるための練習問題を、適宜、配布する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1・2年次対象(平成28年度入学生)		
免許等指定科目			
キーワード	化学, 衣生活・食生活・住生活, 健康, 薬品, 産業, エネルギー, 環境, 反応, 化学的事象		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生活における化学との関わりについて講述する。本科目の目標は、履修学生が、生活の様々な分野において化学の原理が、より良い生活を実現するためにどのように反映されているのかを理解することである。これによって、化学的教養を身に付け、更に、化学的専門科目の内容を理解するための素地を身に付けることができる。		
授業の内容	我々の生活は我々の関知せぬまま、多数の化学的事象および反応によって成り立っている。そのような生活の中において発現している生活と化学との関わりについて理解するために化学の基礎的原理を分かりやすく解説する。それらの知識を応用して、生体、食品、薬品、農業・工業、エネルギー、環境などの分野において具体的な生活と化学との関わりについて化学的に講述し、より良い生活の実現のために必要な化学的な視点を身に付けられるようにする。		
成績評価の方法	期末試験で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	教科書: 井上祥平 著 『はじめての化学 生活を支える基礎知識』化学同人		
参考文献	参考書: 齋藤勝裕 著 『楽しくわかる化学』東京化学同人		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	生命科学		
担当教員氏名(助手氏名)	増山 悦子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業を基本とするが、対話形式の授業も取り入れる。視聴覚教材を使用。授業時間 2 時間 (1 回) と学生の自習 4 時間を想定した授業を行う。学生は、レポート作成・提出、小テストと期末試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 1 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ヒトの起源と進化, 細胞, 生命の設計図, 遺伝と環境, 遺伝子診断, 幹細胞技術, 発生と老化, がん, 食と健康, 脳のはたらき, 感染と免疫		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	近年, 生命科学の最先端に関わる諸問題が日常的な話題として取り上げられ, 避けては通れないほど身近に迫っている。本講義では, 生命科学の基礎固めをしながら, 関心の高いテーマ (がん, 生活習慣病, 老化, 感染など) を随時取り上げて概説する。この講義では, 生命現象の基本について理解し, 誰もが必要となる一般教養レベルの知識を習得することを目標としている。これにより, 生命科学の知識や技術, 情報があふれている現代において, 偏見を排した正しい知識を共有し, 客観的に評価できる態度や正しい生活習慣を身につけることができる。		
授業の内容	人間を中心において, 第 I 部「現代の生命科学がどのようにして出来上がったのか」を遺伝子のはたらきばかりでなく細胞レベルで説明し, 驚くべき生体の厳密な機能を講述する。生物が多様に進化し, ヒトが多細胞生物であるがゆえに, がんを発症することなどを理解する。第 II 部「生命科学で明らかになった生命のしくみ」では, 体が形成されるしくみや老化, 脳のはたらき, 免疫と感染について最新の知識を基に概説する。また, 食と健康問題を, 個体と細胞レベルから理解することにより, 自らの生活習慣の再考を喚起する。第 III 部「生命科学技術の進歩と社会との関係」では, 遺伝子治療, 幹細胞技術, 遺伝子ゲノム編集など急速に進んでいくバイオ技術について学び, 社会的影響や, リスクとベネフィットのバランスについて考える。神秘的なマイクロの世界が, より身近に捉えられるように, 視聴覚教材を活用する。		
成績評価の方法	小テスト (ほぼ毎回) 30%, 期末試験 50%, レポート (2 回) 20% の割合で総合評価する。試験は指定された試験日, 指定された教室において実施する。レポート課題は, 指定用紙を配布し, 2 週間後の授業開始時を提出期限とする。		
テキスト	東京大学生命科学教科書編集委員会編『現代生命科学』羊土社		
参考文献	田口英樹著『学んでみると生命科学はおもしろい』ベレ出版 嶋津 孝, 加藤秀夫, 増山悦子著『健康の科学』化学同人		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講目標を念頭におき, 準備学習に取り組んで授業に臨むこと。また, 宿題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則 (学則) に基づいて対応する。		

授業科目名	地球科学		
担当教員氏名(助手氏名)	山崎 博史 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	遠隔授業 (庄原キャンパス発信) 授業日程に従って、主に講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	固体地球, 物質循環, 地球と生物の共進化, 長時間スケール, 自然観		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>自然環境を考える時, ローカルからグローバルまで様々な空間スケールがあるように, 時間スケールにおいても通常の時間スケールとは異なる長い時間スケールで捉えることも重要であろう。</p> <p>本授業科目では, 現在の自然環境の成り立ちを地球史という長時間スケールの中に位置づけ, 自然と人間の関係について考えるきっかけを与える授業としたい。</p> <p>なお, 高等学校で地学を履修していない学生にも充分理解が深まるよう配慮する。</p>		
授業の内容	<p>次の項目を取り上げ, 講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎時間 ◎地球の構造 ◎地層 ◎風化・侵食・運搬 ◎プレートテクトニクスとプルームテクトニクス ◎火山と噴火 ◎地震と断層 ◎日本列島の成立 		
成績評価の方法	<p>期末試験80%, 小課題20%の割合で評価する。</p> <p>期末試験は指定された試験日の授業時間 (90分) 内で実施する。</p>		
テキスト	数研出版編集部編『もういちど読む数研の高校地学』 (数研出版)		
参考文献	<p>西村祐二郎編著『基礎地球科学第2版』 (朝倉書店)</p> <p>酒井治孝著『地球学入門—惑星地球と大気・海洋のシステム—』 (東海大学出版会) 等</p> <p>なお, これらの購入を義務づけるものではない。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。課題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則 (学則) に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	県大生として学ぶ広島と世界		
担当教員氏名(助手氏名)	上水流 木本		
研究室の場所	上水流 (庄原キャンパス地域連携センター) 木本 (広島キャンパス 2217)		
オフィスアワー	上水流 木本	随時 随時	
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	ありません
履修要件	ありません		
免許等指定科目	ありません		
キーワード	県立広島大学 留学 国外事情		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	県立広島大学の基本理念「地域に根差した、県民から信頼される大学」に基づいて、本学が立脚する広島県という地域、及び本学が協定を結んでいる大学のある国や地域について、基本的な事項を学びながら、自身に関わりを持つ広島と世界の概要を知ることが目標とする。		
授業の内容	地域の諸問題への取り組みや国際交流活動において中心的な役割を果たしている教員の講義、及び留学経験者等の話を聴くことを通して、地域に立脚した県立広島大学の歴史と現状、協定校のある中国、韓国、ハワイ、イギリス、インドネシア、タイ、台湾、ドイツ、フィンランドなどの社会や文化について基本的な知識を修得し、地域での活動や、留学への関心を高める。		
成績評価の方法	広島県という地域や本学、本学が関わりを持っている世界各地の社会や文化について、どれほど関心と理解度を深めたか、毎回の授業後の提出の簡易な感想・レポートの合計点で行う。		
テキスト	ありません。		
参考文献	授業時に必要に応じて提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	迷惑行為について厳しく対処する。		

授業科目名	地域の理解		
担当教員氏名(助手氏名)	オムニバス：五條 小枝子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク（1ヶ所）への参加を課す。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	広島県，自然環境，歴史，文化，産業，地域の実態，地域の課題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>まずは，地域の特性や課題について，様々な観点からの知見を得る。ついで，地域の生の実態を自分の眼で観察し，課題を発見し，その解決策を模索する。最後に，フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ，発表する。これら一連の流れの中で，地域に関する基礎知識を身につけるとともに，物事に主体的に向き合う姿勢を培う。</p> <p>本科目は，全学共通教育の「広島と世界」に位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>本科目では，我々が生活する地域（広島県）に注目し，1）「広島」をいろいろな視点から見つめる，2）「広島」の現状を理解し，その実態を肌で感じ取る，3）「広島」の問題や課題を発見し，それについて考察を加える。これらにより，広島県に対する関心や理解を深め，課題を議論できる素養を身につける。プログラムは，講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境，地域性，歴史，文化，産業など多岐にわたる情報を得て，地域の特性を基礎知識として身につけるとともに，フィールドワークでは，地域の実態と課題を把握し，その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告し，相互評価する。</p> <p>。具体的なプログラムについては，後期開始時に掲示で通知する。 （注）シラバスは，前年度の実施内容。</p>		
成績評価の方法	①授業レポート計3回（50%）②合同発表会における相互評価及び教員評価（40%） ③授業・フィールドワークへの取組姿勢（10%）で評価する。		
テキスト			
参考文献	参考文献は，必要に応じて，担当者から紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>単位認定の要件として，上述のとおり，レポート提出の他，フィールドワーク（指定された地域の中から1ヶ所選択）と合同発表会への参加を課す。 フィールドワーク先への交通費・入館料等は自己負担（2,000～7,000円程度、昨年度の平均負担額は、一人2,800円）とする。受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ，そこにある問題に気づき，解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p>		

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名(助手氏名)	五條 小枝子, 馬本 勉, 塩川 満久 他		
研究室の場所	広島キャンパス 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。前期集中講義(8月29日～9月2日, 3コマ×5日間)。 サテライトキャンパスひろしまで実施。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育に位置づけられる。		
授業の内容	本科目では, 新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 今年度は, 「サッカースタジアム建設」をメインテーマとし, 候補地をめぐる議論を題材として取り上げる。記事を読み, 現地へ出向いて取材を行った上で, 口頭で意見を述べたり, 記事として文章にまとめるなどの発信方法を学ぶ。さらに, グループで問題解決への提案をまとめ, プレゼンテーションを行う。		
成績評価の方法	①授業レポート (50%) ②ディベート, ディスカッション, プレゼンテーションを含む, 授業への参加度 (50%)		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。		

授業科目名	ボランティア活動		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス4525研究室		
オフィスアワー	最初の授業の時に連絡。可能な限り随時対応。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	集中講義は講義と演習により実施する。また、これとは別に福祉・介護・地域の分野でのボランティア実習を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ボランティア、地域福祉活動、市民福祉活動、NPO		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会や人に関心のある社会人としての感性を磨き、将来積極的に社会貢献に参加して行く人材を養成するために、社会福祉分野でボランティア活動を学ぶ。実践的に学べるよう、ボランティア活動の実践者による講義・演習や学生の実習を主な内容とする。		
授業の内容	(1) 集中講義・演習 ①ボランティア概論(1)・(2) ②ボランティア活動の実際 ③ボランティア活動を知る(1)・(2) ④先輩からの報告・注意事項説明 ⑤ボランティア活動報告 ⑥ボランティア活動で得たものとまとめ (2) 実習(6月～8月) ⑦ボランティア実習 実習条件(予定)：福祉分野でのボランティア活動、実働30時間以上、活動終了後にレポート提出が必須		
成績評価の方法	授業の出席、ボランティア実習、レポートにより評価		
テキスト	特になし		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	集中講義の日程は、第1～3回の授業が6月4日(土)3～5限、第4～6回の授業が6月18日(土)3～5限、第14～15回が9月10日(土)3～4限なので気をつけること。参加するボランティア実習先は、各自が探す。ただし、探す際の学生からの相談は担当教員が行う。また、実習中は食費、交通費等の負担がある場合もある。		

授業科目名	異文化としての日本		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川順子, 五條小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス1713, 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	遠隔授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間文化学部・経営情報学部2～4年次 (平成27年度入学生)		
免許等指定科目			
キーワード	異文化間コミュニケーション, 文化の多様性, 価値観の相対化, 日本観, 共生社会, 母語と外国語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。 日本を外側からの視点で捉え直すことを通して, 文化の多様性を知り, 共生社会を実現してゆける柔軟な思考力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	日本人学生と, 実際に異文化を体感している留学生とが, 日本の文化・社会をテーマにディスカッションすることを通して, 日本をひとつの異文化として捉え直す。本学の外国人教員による講話と質疑応答, それを契機とする調査とディスカッションを重ねながら, 多様な文化の共存や, 異文化間の相互理解に対する認識を深めてゆく。終盤には, 授業で学び得たことを母語以外の言語で発表する機会を設ける。		
成績評価の方法	毎回のミニレポート (50%)、母語以外の言語によるプレゼンテーション (20%)、期末レポート (30%) により評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	留学生と学ぶ広島		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川順子, 五條小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス1713, 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	遠隔授業・フィールドワーク・対面形式の合同発表会		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間文化学部・経営情報学部1・2年次		
免許等指定科目			
キーワード	異文化間コミュニケーション, 広島地域の歴史・文化・産業・自然		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。 文化的背景の異なる留学生と日本人学生とが、広島という地域への理解を深めながら、異文化間コミュニケーションの基礎を体得することを目標とする。		
授業の内容	留学生と日本人学生が、県立大学の位置する広島の3地域を訪れ、当地の歴史・文化・産業・自然をともに学ぶ。フィールドワークで得た知見を、多様な視点からの調査やディスカッションを通して深め、その成果をレポートやグループ発表によって表現する。ディスカッションは少人数のグループで行い、成果の発表に向けても、グループを単位とした共同作業を行っていく。 合同発表会は、広島・庄原・三原の学生が一堂に会して行う。		
成績評価の方法	レポート3本(30%)、合同発表会における相互評価及び教員評価(40%)、授業への参加度(30%)により、総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	10月(庄原地域)、11月(三原地域)、12月(広島地域)の土曜日に実施する、3回のフィールドワークには必ず参加すること。		

授業科目名	海外研修 I		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山浩明、吉本和弘		
研究室の場所	1712, 1824		
オフィスアワー	それぞれの教員に事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	海外研修、単位認定		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚, 1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修(最低2週間以上のプログラム)は対象となります。正規の長期留学には適用されません。課外プログラム(相手方のカリキュラム等)を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	海外研修Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山浩明、吉本 和弘		
研究室の場所	1712, 1824		
オフィスアワー	それぞれの教員に事前に連絡してから面談してください。		
授業の形式・方式	認定科目であり、授業はない。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	海外研修、単位認定		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚、1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修(最低2週間以上のプログラム)は対象となります。正規の長期留学には適用されません。課外プログラム(相手方のカリキュラム等)を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	教職入門		
担当教員氏名(助手氏名)	中村 勝美 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。主に、講義を中心とするが、一部グループワーク(討論や発表)を取り入れる。学生は、講義への出席、小レポート等の課題の提出が求められる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必須, 栄養一種免必須		
キーワード	教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容(研修、サービス、身分保障) 進路選択		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業は、教職課程の導入科目である。 授業の目標は下記の4点である。 1) 現代の教育の問題を理解し、教師の役割について考察する。 2) 教師の職務内容について説明できる。 3) 自らの教師としての資質能力について省察する。 4) 自己の教育観をもとに、教師としての使命感を培う。		
授業の内容	近年、孤立した子育て、育児不安や虐待、いじめや不登校、格差社会への不安など家庭や学校は様々な問題を抱えている。一方、変化の激しい時代の中で、教師に対しては地球や人類のあり方を自ら考え行動する能力、問題解決能力やコミュニケーション能力、実践的指導力などが求められている。本講義では教師という職業を選択することについて、学生自らが熟考する機会を提供すること、および教員養成に対する現代的課題を踏まえ、教育者としての使命感を育むことを目的とし、教師という職業に必要な基本的事項について学習する。また、現代の学校が抱える諸問題を取り上げながら、教師に求められる資質や役割について探求する。		
成績評価の方法	期末試験(70%)、課題レポート(30%)の割合で評価する。課題レポートについては、授業の際に詳細を指示する。期末試験は、論述方式、持ち込みなしで行う。		
テキスト	とくに使用しないが、講義でレジュメを配布する。		
参考文献	①秋田喜代美他『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ、②山田浩之『漫画が語る教師像』昭和堂、③汐見稔幸編『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書、④内藤朝雄『いじめの構造』講談社現代新書、⑤柿沼昌芳他『教師という<幻想>』批評社、⑥赤田圭亮『不適格教員宣言』日本評論社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本授業は、教職課程の学生のための授業である。将来、教職をめざしている学生であることを前提とし、授業中の私語、携帯電話およびスマートフォンの使用については厳しく対応する。		

授業科目名	教育学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 宣彰		
研究室の場所	庄原キャンパス 2409研究室		
オフィスアワー	前期：月曜日3時限、後期：木曜日3時限		
授業の形式・方式	対面の講義形式の授業である。授業日程に従って、各回の内容に関連する資料を配付する。授業には配布した資料を読んでくること。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	人間文化学部, 経営情報学部 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修、栄養一種免必修、学芸員資格必修		
キーワード	教育理念、学校制度の歴史、人間の発達、教育思想、学校組織、生涯学習、教育問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、教育の初学者を対象として、教育学の概要や教育の基本的な概念について講述する。教育に関する基本的な概念について理解することを目的とする。教育職員免許を取得するための必修科目である。 教育の理念について理解すること、主要な人物の教育思想を理解すること、学校教育の成立過程について理解すること、現代の教育の動向に触れることが目標である。		
授業の内容	大学入学以前に生徒として関わっていた学校教育について、その成立の過程を教育の通史や教育の思想から考える。それらの内容を踏まえ、教育の意義や目的、現代の教育に関する制度、教育実践、教育問題の解説と考察を行う。教育学の入門としての内容で構成する授業である。受講者がいままで当然のように接してきた学校教育がどのように成立してきたのか、その一端に触れるとともに、学びは学校に通う時期のみならず、生涯にわたることを理解することを目的とする。		
成績評価の方法	①定期試験90%②提出物等10%を目安として総合的に評価する。		
テキスト	適宜資料を配布する		
参考文献	田代直人・佐々木司編『新しい教育の原理—現代教育学への招待—』ミネルヴァ書房、2010年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	生徒の立場から教師の立場へ変わることを自覚して学ぶこと。 学校ボランティア等に積極的に取り組むこと。 近世以降の歴史、特に産業革命や明治維新について復習しておくこと。		

授業科目名	教育心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～3回の講義につき、1章の講義を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科・健康科学科・経営学科・経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修		
キーワード	児童・生徒の知的能力、学習の動機づけ、学習指導法、教育評価、家庭学習、障害の理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、教員免許取得を希望する学生を対象にして、児童・生徒の学習過程など教育活動に関わる心理学について、基本的な内容を講述する。将来「せんせい」と呼ばれるようになるときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけること、また、そのような知識をどのようにして教育活動に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることを目標とする。本科目は、中・高等学校教諭及び栄養教諭の免許に係る教職に関する必修科目で、教育の基礎理論に関する科目の一つとして位置づけられている。生徒・進路指導論、教育相談等の他の教職に関する科目で扱う内容は扱わない。		
授業の内容	授業では、児童・生徒の性格、知的能力(記憶、思考、学習)、やる気、学習指導と評価など教育活動に関わる心理学についての基本的知識の獲得を目指す。また、特別な学習支援が必要な児童・生徒の学習過程についても、その特徴などを学ぶ。この授業の目標は「心理学による教育方法の充実」である。授業内容を理解すれば、みなさんが今まで学校で学んできた授業やテストの方法、また先生のなにげない一言などにいろいろな意味が隠されていたことに気づくであろう。あくまでも基礎的な内容しか触れられないため、この授業をきっかけに教育に関する心理学に興味をもち、さらに発展した内容を勉強したいと感じ、実行する手助けになればと考える。		
成績評価の方法	試験70%、小テスト20%(小テスト4回、各5%)、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み不可、座席指定、学生証呈示、途中退室不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。小テストの日程と範囲は、第1回の授業において提示する。		
テキスト	第1回の授業において提示する。		
参考文献	第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	教育社会学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 宣彰		
研究室の場所	庄原キャンパス 2409研究室		
オフィスアワー	前期：月曜日3時限、後期：木曜日3時限		
授業の形式・方式	対面の講義形式で行い、一部でグループワークを取り入れる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	各学科、2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	教育制度、教育法規、教育経営組織、教育改革		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この科目は、教育職員免許法等に基づき開設されている本学教職課程の科目である。特に教育の基礎理論に関する科目として開講されており、とりわけ教育に関する社会的・制度的・経営的事項を中心に学習する。</p> <p>学校制度と改革動向について基本的な知識を身につけること、学校教育の役割について理解すること、教員の職務について理解することを目標とする。</p>		
授業の内容	<p>教育は社会とともに在る。今日の複雑な社会において、政治・経済・社会等と学校教育の制度の関係を知ることも大切であろう。また高度成長に象徴される経済的動向が、どのように教育を変えていったのかを知ることも無視できない視点である。そして少子高齢化の豊かな社会で、あふれるばかりの情報にさらされた子どもにとって、教育とはいったいどんな意味を持つのだろうか。進学率上昇の一方でおさまる気配の無い教育病理の進行という矛盾した姿を見るにつけ、現代教育の置かれた困難な課題を紐解く分析力が切に求められている。</p> <p>教員として勤務し、生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度、学校経営に関する事項を学修する。</p>		
成績評価の方法	①定期試験90%②提出物等10%を目安として総合的に評価する。		
テキスト	適宜資料を配付する。		
参考文献	河野和清編著『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。 『教育六法』（出版社は問わない）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	生徒の立場から教師の立場へ変わることを自覚して学ぶこと。 学校ボランティア等に積極的に取り組むこと。 中学校及び高等学校公民で学んだこと、特に日本国憲法、民主主義、地方自治について復習しておくこと。		

授業科目名	教育課程論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉田 成章 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、各回で配付する授業資料をもとに講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修		
キーワード	教育課程, カリキュラム, 教育方法, 授業構成		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学校カリキュラムの開発に関する知見を教育課程の歴史・原理と具体的な教育実践から学ぶことによって、教職能力の基盤となる教育課程論を構成する知識と技能を習得する。		
授業の内容	<p>教育課程とカリキュラムの概念上の違いを確認した上で、その編成原理と方法について歴史的展開や具体的な教育実践をもとに講述する。また、今日の学力論議や諸外国のカリキュラム改革などにも触れながら、教育課程を編成するための視点と課題を提示する。以下が具体的な内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学におけるカリキュラムの位置と役割 2. カリキュラムの概念と歴史的展開 3. カリキュラムの類型と教育課程の構造 4. 戦後学習指導要領の変遷 5. 教育課程行政と今時学習指導要領改訂 6. 生活中心カリキュラムの理論と実践 7. 学問中心カリキュラムの理論と実践 8. 教育課程における目標—内容—方法 9. 工学的アプローチと羅生門的アプローチ 10. 諸外国のカリキュラム改革 11. 学力の構造と評価の論理 12. 教科書教材の研究とメディアの構成 13. 学校づくりとしてのカリキュラム開発 14. カリキュラム評価と学校改善 15. 学校カリキュラムの編成と評 		
成績評価の方法	出席：20%，中間課題：10%，期末試験：70%の割合で評価する。 中間課題については、授業の中でテーマを提示する。 期末試験については、授業で配付した資料・プリントおよび授業ノートの持ち込みは可とし、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	授業プリント・資料を各回毎に配付する。 平成20年版中学校学習指導要領あるいは平成21年版高等学校学習指導要領を各自で入手しておくこと。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	特別活動論		
担当教員氏名(助手氏名)	山田 浩之 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	特別活動、およびその前提となる教育問題などに関する講義と、学生による報告、実践によって授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	特別活動 ホームルーム 生徒会 学校行事		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	特別活動は学校内における生徒の活動を支える重要な役割を持っているが、その理論や位置づけは曖昧である。本講義では、まず、特別活動の理論と歴史ばかりでなく、近年の教育問題や教育改革を背景として、その意義について検討する。それとともに、具体的な特別活動の事例を用いながら、学生自身によってその運営と実施について検討し、報告・実践を行う。これらの学習により、特別活動を学校での教育活動の中に位置づけ、学生自身が実際に特別活動の企画、運営を行う基礎を養うことが本講義の目標である。		
授業の内容	第1回 イントロダクション — 特別活動とは何か 第2回 特別活動の歴史 第3回 学習指導要領の変遷と教育問題 第4回 学校と教員へのまなざしの変化 第5回 戦後における特別活動の制度化 第6回 現代における特別活動の意義 第7回 特別活動を支える理論とその社会的背景 第8回 グループワーク1 — 指導計画の作成 第9回 特別活動の内容と指導法1 — 学級活動・ホームルーム活動 第10回 特別活動の内容と指導法2 — 児童会・生徒会活動 第11回 学校行事の内容と指導法1 — 儀式的行事 第12回 学校行事の内容と指導法2 — 健康安全・体育的行事 第13回 学校行事の内容と指導法3 — 文化的行事 第14回 グループワーク2 — 指導計画の再作成 第15回 まとめ — これからの特別活動		
成績評価の方法	授業への出席状況、および参加状況、報告の内容、レポートなどをもとに総合的に評価を行う。		
テキスト	山田浩之編『特別活動論』協同出版 2014年		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育方法学		
担当教員氏名(助手氏名)	深澤 悦子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修		
キーワード	教育方法 学習指導 授業研究 指導技術 メディアの活用		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教育方法学に関する学術的動向と歴史をふまえ, 授業方法や指導技術に関する知見を深め, 教師に必要な, 実践的知識や技能を習得する。		
授業の内容	1. 教育方法学とは 2. 教育方法の歴史 3. 子ども理解と教えること 4. 学力問題と指導のあり方 5. 確かな学力の形成 6. メディアリテラシー 7. コンピュータを活用した授業 8. 学習指導と学習形態 9. 授業のタクト 10. 授業構想と指導案 11. 教材開発 12. 実践的な指導力 13. 評価の方法 14. 授業研究と教師の専門性 15. 全体のまとめ		
成績評価の方法	出席と提出物およびテスト		
テキスト			
参考文献	日本教育方法学会編『確かな学力と指導法の探究』 図書文化 吉本 均『教室の人間学』 明治図書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生徒・進路指導論		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	2407		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	対面授業授業日程に従い、講義形式で実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科、健康科学科、経営学科、経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修、栄養免一種必修		
キーワード	生徒指導、学校における問題行動、生徒理解、学級経営、進路指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>教職免許施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」のうち、「生徒指導・進路指導の理論及び方法」に相当する科目である。多くの学生にとって、これまで児童・生徒の立場から見てきた生徒指導と本来の意味での生徒指導には大きなギャップが存在すると思われる。まずはそのギャップを知ること、そして生徒指導が目指しているものを正しく理解できることが目標である。</p>		
授業の内容	<p>学校教育の大きな柱である生徒指導の意味と役割、不登校、いじめ、体罰などの学校における問題行動の実態やその対応時の留意点、教育活動の基礎となる生徒理解の方法とそれに伴う問題点、学級を望ましい教育集団にするための方法、単なる進路先の決定にとどまらない進路指導の理念などを解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席がある学生に対して、期末試験を実施し、その結果をもとに評価をおこなう。なお、公共交通機関の遅れなどの正当の理由のない遅刻は欠席扱いとする。</p>		
テキスト	生徒指導・進路指導論 森田(編) 協同出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育相談		
担当教員氏名(助手氏名)	森田 裕司 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修		
キーワード	カウンセリング, 相談, 応答訓練, トラウマ, 発達障害		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①学校現場の様々な心理的問題に対する正しい理解と適切な対応ができるようになること。 ②カウンセリングの基本的態度を身につけること。		
授業の内容	不登校, いじめ, 神経症, 精神病, 児童虐待, トラウマ, 発達障害など, 学校現場には様々な問題が山積しており, 教師には正しい理解と適切な対応が求められる。本講義では学校教育相談の課題を明らかにした上で, 相談室活動のしかた, カウンセリング的態度等を学ぶ。さらに児童虐待, トラウマ, 発達障害などについては, 具体的な事例を取り上げ, 対応方法を検討していく。		
成績評価の方法	出席状況, 小レポート, まとめレポート課題をもとに総合的に評価する。		
テキスト	『心理学ナビゲータVer.2』神田義浩ほか, 北大路書房, 2011年		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本講義では体験実習や話し合いを重視するので, 積極的な姿勢で臨んで欲しい。毎回小レポートカードに感想・意見・質問・体験などを記入する。頭で考えるより, 自分の心で実感し, 体験から学ぶことが大切である。		

授業科目名	教育実習指導		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	中学校・高等学校, 教育実習, 事前事後指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教育実習Ⅰ・Ⅱの事前及び事後の指導を行う。事前指導では、教育実習の内容・方法、心構え、事前の準備などについて理解させる。事後指導では、教育実習の内容・体験の反省、総括、評価などを行う。		
授業の内容	事前指導は5回分、事後指導は2回分を行うとともに模擬授業を行う。事前指導では、教育実習に先立ち、教育実習の心得、教育実習の概要、学習指導案の作成、教科指導の方法、教育実習の評価など、教育実習に際しての基本事項についての指導を行う。また、中学校又は高等学校の校長による講話をお願いし、教育実習の受け入れ側からの考えや要望について認識を深めさせる。さらに、模擬授業を一人2回以上行わせるとともに、生徒役として6時限以上参加させ、相互に批評や評価を行わせる。事後指導では、教育実習終了後に、実習体験について学生間で交流を行うとともに、実習の反省、総括、評価を行う。また、今後教師として勤務する場合に周知すべきことなどについての指導も行う。		
成績評価の方法	授業参加28%(4%×7回)、模擬授業実施・参加32%(4%×8コマ)、提出物15%、期末レポート25%の割合で評価する。提出課題等については第1回の授業において提示する。期末レポートを提出すること、授業の欠席が3回未満であること、授業の無断欠席がないこと、教育実習オリエンテーションに出席すること、模擬授業を所定の回数以上実施し、所定の時限数以上参加すること、が単位認定の必要条件である。		
テキスト	宮崎猛・小泉博明 著 「教育実習完璧ガイド:実習生・受け入れ校必携」 小学館 2015		
参考文献	第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習Ⅰ・Ⅱと同時に受講すること。履修希望者は4月の第1回の授業に必ず出席すること。また、正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前指導、事後指導での欠席・遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加が義務づけられる。授業に関する連絡方法は、正式には数学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	教育実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	「教育実習指導」の第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	中学校又は高等学校での観察・参加・実習による実習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	中学校又は高等学校, 観察・参加・実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、更に実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、教師としての基本的資質を養う。		
授業の内容	中学校または高等学校で2単位相当の実習を行う。実習課程は、実習期間中における観察・参加・実習を主たるものとする。具体的には、次の事項とする。1. 実習校の教育目標、校則、校内組織の理解 2. 授業参観と授業研究 3. 指導計画の作成・学習指導案の作成 4. 教材研究 5. 授業実習 6. 生徒会活動への参加 7. 学級経営への参加 8. クラブ活動への参加 9. 教師の職務の理解 10. 教育実習の自己評価と今後の課題の検討 11. 学校と社会の関係の理解。なお、実習期間は原則として6月または9月とする。		
成績評価の方法	実習校からの評価、「教育実習の記録」(教育実習ノート)等の教育実習に関わる提出物をもとに総合的に評価する。実習校からの評価が良好であること、教育実習期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、教育実習に関わる提出物を提出すること、が単位認定の必要条件である。		
テキスト	宮崎猛・小泉博明著 「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」 小学館 2015		
参考文献	「教育実習指導」の第1回の授業において印刷資料として提示する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習I・II、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習指導と同時に受講すること。教育実習I及びIIの履修については学生便覧の関係箇所を参照すること。実習において必要となる費用(食費、交通費等)は、原則として学生の個人負担とする。		

授業科目名	教育実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	「教育実習指導」の第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	中学校又は高等学校での観察・参加・実習による実習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(全教科)必修, 高一種免(全教科)選択		
キーワード	中学校又は高等学校, 観察・参加・実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、更に実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、教師としての基本的資質を養う。		
授業の内容	中学校または高等学校で2単位相当の実習を行う。実習課程は、実習期間中における観察・参加・実習を主たるものとする。具体的には、次の事項とする。1. 実習校の教育目標、校則、校内組織の理解 2. 授業参観と授業研究 3. 指導計画の作成・学習指導案の作成 4. 教材研究 5. 授業実習 6. 生徒会活動への参加 7. 学級経営への参加 8. クラブ活動への参加 9. 教師の職務の理解 10. 教育実習の自己評価と今後の課題の検討 11. 学校と社会の関係の理解。なお、実習期間は原則として6月または9月とする。		
成績評価の方法	実習校からの評価、「教育実習の記録」(教育実習ノート)等の教育実習に関わる提出物をもとに総合的に評価する。実習校からの評価が良好であること、教育実習期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、教育実習に関わる提出物を提出すること、が単位認定の必要条件である。		
テキスト	宮崎猛・小泉博明著 「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」 小学館 2015		
参考文献	「教育実習指導」の第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習指導と同時に受講すること。教育実習Ⅰ及びⅡの履修については学生便覧の関係箇所を参照すること。実習において必要となる費用(食費、交通費等)は、原則として学生の個人負担とする。		

授業科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科，経営学科，経営情報学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修		
キーワード	中学校・高等学校，教育実習，教員としての資質能力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	当演習を履修する者の教科に関する科目および教職に関する科目の履修状況を踏まえ、 教員として最小限必要な資質能力を習得させる。具体的には、①使命感や責任感、教育的 愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等 に関する事項、④教科等の指導力に関する事項をテーマとする。		
授業の内容	教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、教員としての 使命感や責任感、教育的愛情を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導 等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を習得させる。そのために 、役割演技（ロールプレイング）、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬 授業等を取り入れる。また、現職の教員又は教員勤務経験者を講師とした授業も行う。		
成績評価の方法	授業参加30%（2%×15回）、レポート70%（当日レポート45%、期末レポ ート25%）の割合で評価する。実技指導、グループ討論、補完指導、試験の結果等を踏 まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、評価を行う。		
テキスト	第1回の授業において提示する。		
参考文献	第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、教職実践演習を除く1年次から4年次前期相当の 科目での必要単位を4年次前期終了までにすべて修得しておくこと。教育実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得するのと同じ年度の後期に 受講すること。履修希望者は9月の第1回の授業に必ず出席すること。また、正当な理由なく、履修の途中での放棄、欠席・ 遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加が義務づけられる。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に 対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学にお いて規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	介護等体験		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	事前学習及び事後学習は対面授業で、講義及び演習形式で実施する。実習は原則として、特別支援学校及び社会福祉施設で、実習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (50時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(全教科)必修, 高一種免(全教科)選択		
キーワード	特別支援教育、障害者・高齢者等、多様な生き方の理解、交流・介護・介助体験		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、介護等体験特例法の規定に基づき、中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる。これらの体験を通して、教職志望学生が自他の価値観の相違を認め、人の心の痛みがわかるようになるなどの目的をもって行われる。		
授業の内容	事前学習及び事後学習は、13回分を、主に講義形式及び演習形式で実施する。事前指導では、介護等体験の意義や各施設での体験に関する知識や心構えなどについて学習させる。事後指導では、体験終了後に、体験について学生間で交流を行うとともに、体験の反省・総括を行わせる。体験は原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間にわたって行う。体験は一定の期間に全員が一斉に行うのではなく、体験期間は体験先等の事情により、体験学生ごとに異なる。体験先は、特別支援学校については広島県教育委員会、社会福祉施設については広島県社会福祉協議会において決定される。		
成績評価の方法	授業参加39%(3%×13回)、体験状況・体験先からの評価21%(3%×7日)、提出物15%、期末レポート25%の割合で評価する。課題等については第1回の授業において提示する。事前事後指導のレポート、介護等体験に関わる提出物を提出すること、事前事後指導の授業の欠席が4回以下であること、事前事後指導の授業の無断欠席がないこと、介護等体験先からの評価が良好であること、体験期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、が単位認定の必要条件である。		
テキスト	現代教師養成研究会 編 「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック(四訂版)」 大修館書店 2014		
参考文献	第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修希望者は4月の第1回の授業に必ず出席すること。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前指導、体験、事後指導での欠席・遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加と7日間の体験が義務づけられる。授業に関する連絡は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。体験において必要となる費用(食費、交通費等)は、原則として学生の個人負担とする。教職課程履修者以外の履修には担当教員の許可が必要。		

授業科目名	道徳教育論																		
担当教員氏名(助手氏名)	宮里 智恵 (非常勤講師)																		
研究室の場所																			
オフィスアワー																			
授業の形式・方式	主に講義形式で行う。必要に応じてグループ学習や討論、学習指導案の作成、模擬授業を取り入れる。																		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択																
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象																		
免許等指定科目	中一種免(全教科)必須, 高一種免(全教科)選択, 栄養一種免必須																		
キーワード	道徳教育, 道徳授業, 学校教育																		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解を深める。特に「道徳の時間」を中心にして実際の道徳授業を検討しながら、発達段階に応じた道徳教育のあり方についての理解を深める。																		
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td>9 プログラムタイプの道徳授業</td> </tr> <tr> <td>2 道徳教育と道徳の時間</td> <td>10 板書構成の仕方</td> </tr> <tr> <td>3 子どもの道徳性の発達的特徴</td> <td>11 学習指導案の作成①</td> </tr> <tr> <td>4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業</td> <td>12 学習指導案の作成②</td> </tr> <tr> <td>5 道徳教材の読み方</td> <td>13 模擬授業</td> </tr> <tr> <td>6 心情ジレンマタイプの道徳授業</td> <td>14 道徳授業の評価</td> </tr> <tr> <td>7 発問構成の工夫</td> <td>15 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)</td> <td></td> </tr> </table>			1 オリエンテーション	9 プログラムタイプの道徳授業	2 道徳教育と道徳の時間	10 板書構成の仕方	3 子どもの道徳性の発達的特徴	11 学習指導案の作成①	4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業	12 学習指導案の作成②	5 道徳教材の読み方	13 模擬授業	6 心情ジレンマタイプの道徳授業	14 道徳授業の評価	7 発問構成の工夫	15 まとめ	8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)	
1 オリエンテーション	9 プログラムタイプの道徳授業																		
2 道徳教育と道徳の時間	10 板書構成の仕方																		
3 子どもの道徳性の発達的特徴	11 学習指導案の作成①																		
4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業	12 学習指導案の作成②																		
5 道徳教材の読み方	13 模擬授業																		
6 心情ジレンマタイプの道徳授業	14 道徳授業の評価																		
7 発問構成の工夫	15 まとめ																		
8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)																			
成績評価の方法	出席(10%)、レポート(30%)、期末試験(60%)で評価する。																		
テキスト	心をひらく道徳授業実践講座【1】「やさしい道徳授業のつくり方」鈴木由美子、宮里智恵 溪水社 2012																		
参考文献	「子どもが変わる道徳授業—小中学校タイプ別授業事例集—」(鈴木由美子・宮里智恵・森川敦子編著 溪水社)																		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)																			

授業科目名	大学基礎セミナー		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山伸隆		
研究室の場所	1924		
オフィスアワー	在室時はいつでも対応する。		
授業の形式・方式	<p>学生は、最初の授業で提示された少人数グループに分かれて受講する。グループごとに設定された授業日程に従い、教科書その他の素材をもとにして、演習形式の授業を実施する。</p> <p>開講時(初回)は対象学生全員が出席しての合同授業とするが、課題やレポートに関する指示は各担当教員が行う。</p>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	大学生生活、学習方法、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、情報収集		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この科目の目標は、大学生生活を始める新入生が主体的に学習するために必要な基本的態度や方法を身につけることである。国際文化学科で開設されるさまざまな講義や演習を効果的に履修していくことができるよう、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、情報収集の各要素を、全グループに共通して盛り込むべき内容とする。</p>		
授業の内容	<p>大学生生活の基礎知識及び大学生としての学習方法の修得、県立広島大学についての理解などをもとに、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。10名程度の少人数クラスで、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館及びインターネットによる情報収集などについて、実践的な指導を行う。特にレポートのまとめ方や筋道をたてた話し方など、大学生生活・人間関係に欠かせない基本的なマナーの修得を図る。</p>		
成績評価の方法	<p>次の四点を評価基準とし、学習態度50%、レポート50%で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 能動的学修の技能修得の状況 ② 課題を通じた学修による能動的学習態度 ③ 学修時間の状況 ④ 学修過程の状況 		
テキスト	担当教員が指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、担当教員が別途呈示するシラバスに基づき、授業に出席するとともに、与えられた課題について積極的に対応すること。		

授業科目名	フレッシュマンセミナー「基礎ゼミ」Ⅰ		
担当教員氏名(助手氏名)	学科教員		
研究室の場所	担当教員が指示する。		
オフィスアワー	担当教員が指示する。		
授業の形式・方式	<p>学生は、最初の授業で提示された少人数グループに分かれて受講する。グループごとに設定された授業日程に従い、教科書その他の素材をもとにして、演習形式の授業を実施する。</p> <p>開講時(初回)は対象学生全員が出席しての合同授業とするが、課題やレポートに関する指示は各担当教員が行う。</p>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	大学生生活、学習方法、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、情報収集		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この科目の目標は、大学生生活を始める新入生が主体的に学習するために必要な基本的態度や方法を身につけることである。国際文化学科で開設されるさまざまな講義や演習を効果的に履修していくことができるよう、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、情報収集の各要素を、全グループに共通して盛り込むべき内容とする。</p>		
授業の内容	<p>大学生生活の基礎知識及び大学生としての学習方法の修得、県立広島大学についての理解などをもとに、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。10名程度の少人数クラスで、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館及びインターネットによる情報収集などについて、実践的な指導を行う。特にレポートのまとめ方や筋道をたてた話し方など、大学生生活・人間関係に欠かせない基本的なマナーの修得を図る。</p>		
成績評価の方法	<p>次の四点を評価基準とし、学習態度50%、レポート50%で評価する。</p> <p>① 能動的学修の技能修得の状況 ② 課題を通じた学修による能動的学習態度 ③ 学修時間の状況 ④ 学修過程の状況</p>		
テキスト	担当教員が指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、担当教員が別途呈示するシラバスに基づき、授業に出席するとともに、与えられた課題について積極的に対応すること。		

授業科目名	情報リテラシー		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度以降入学生】国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/		

授業科目名	情報処理入門		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【26年度以前入学生】国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/		

授業科目名	情報リテラシー演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度以降入学生】国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/		

授業科目名	体育実技 I		
担当教員氏名(助手氏名)	黒坂 志穂 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	実技授業。授業日程に従って、主にラケットスポーツを実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高齢化社会が進む中で、人生をより豊かで充実したものにするために、スポーツは非常に重要な役割を果たす。特に運動習慣と生活習慣病の関係性については、運動習慣の有無は病気の発症に大きく影響を及ぼしている。本授業ではバドミントンおよび卓球の理論と実践を通して健康のためにスポーツに取り組む習慣の必要性を理解すること、ルールとゲームの進め方の理解や楽しくゲームをすることができる技術の習得をすることにより、ラケットスポーツを大学卒業後も継続し、生涯スポーツとするための動機付けを行うことを目的とする。		
授業の内容	毎回実技に加え、バドミントンおよび卓球のルールや歴史についても講義を行う。 尚、評価は以下の観点から行う。 ① スポーツに取り組む必要性を理解する(レポート) ② 積極的に種目へ参加するためのルールの理解と技術の習得をする ③ コミュニケーション能力の向上と自分の役割の理解と行動ができるようになる		
成績評価の方法	授業態度60%、ルールの理解と技術習得度20%、レポート20%		
テキスト	*教科書、参考書については購入の必要はない。必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	『バドミントン教本 基本編』飯野 佳孝(著), 廣田 彰(著), 日本バドミントン協会(編集)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	体育実技		
担当教員氏名(助手氏名)	黒坂 志穂 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	実技授業。授業日程に従って、主にラケットスポーツを実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高齢化社会が進む中で、人生をより豊かで充実したものにするために、スポーツは非常に重要な役割を果たす。特に運動習慣と生活習慣病の関係性については、運動習慣の有無は病気の発症に大きく影響を及ぼしている。本授業ではバドミントンおよび卓球の理論と実践を通して健康のためにスポーツに取り組む習慣の必要性を理解すること、ルールとゲームの進め方の理解や楽しくゲームをすることができる技術の習得をすることにより、ラケットスポーツを大学卒業後も継続し、生涯スポーツとするための動機付けを行うことを目的とする。		
授業の内容	<p>毎回実技に加え、バドミントンおよび卓球のルールや歴史についても講義を行う。 尚、評価は以下の観点から行う。</p> <p>① スポーツに取り組む必要性を理解する(レポート) ② 積極的に種目へ参加するためのルールの理解と技術の習得をする ③ コミュニケーション能力の向上と自分の役割の理解と行動ができるようになる</p>		
成績評価の方法	授業態度60%、ルールの理解と技術習得度20%、レポート20%		
テキスト	*教科書、参考書については購入の必要はない。必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	『バドミントン教本 基本編』飯野 佳孝(著), 廣田 彰(著), 日本バドミントン協会(編集)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	海外研修		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山浩明、吉本和弘		
研究室の場所	1712, 1824		
オフィスアワー	それぞれの教員に事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	海外研修、単位認定		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚, 1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修(最低2週間以上のプログラム)は対象となります。正規の長期留学には適用されません。課外プログラム(相手方のカリキュラム等)を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	海外研修		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山浩明、吉本和弘		
研究室の場所	1712, 1824		
オフィスアワー	それぞれの教員に事前に連絡してから面談してください。		
授業の形式・方式	単位の認定のみであり授業は行わない。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して、文化の多様性を知り、共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。 本科目は、全学共通教育科目に位置付けられる。 履修登録は必要ない。キャップ制度の対象外科目である。		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し、その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合、この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で、語学研修やその他の活動に自主的に参加した後、所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1~2枚, 1200字以上)を提出し、所属学部の教授会で、その内容が、90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば、単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については、各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。 春季夏季休業中の協定校等での語学研修(最低2週間以上のプログラム)は対象となります。正規の長期留学には適用されません。課外プログラム(相手方のカリキュラム等)を利用する点および自主的選定・参加に基づく点から、引率等固定した対応はしません。また、海外においてあるいはその往復を含む研修期間における事故等については、基本的に学生本人が責任を負うものとします。		

授業科目名	英語 I (Global Communication I)		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビット・モーシャール (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	By Appointment		
授業の形式・方式	Communicative, pair & small group centered		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必須		
キーワード	Speaking, communication strategies, pragmatic awareness		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence. The content of the textbook may appear too easy at first, but the goal is to practice AND expand on the material until you can use it in conversations with your classmates and teacher almost automatically and without thinking.		
授業の内容	In this English speaking course, you will practice talking about a variety of everyday topics, such as where you are from, university life, travel and foreign countries, and your future plans and dreams. Throughout there will be a focus on explaining Japanese culture. You will also learn and practice communication strategies that will help you to sound more fluent and natural in English. As a part of this training, we will discuss typical pragmatic differences in Japanese and English communication styles and learn three Golden Rules for bridging these differences. To assess your progress, there will be frequent individual and small group speaking tests of one to five minutes in length. The final exam will be a group-speaking test.		
成績評価の方法	Attendance & participation (10%); class preparation (20%); regular speaking tests (50%); final speaking test (20%).		
テキスト	Conversations in Class by Alma Publishing, 3rd Edition		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is more about practicing English than on learning lots of "new" English knowledge. Improving your English speaking ability is a lot like learning to play a musical instrument or master a sport. It requires lots of practice and a well thought out training menu.		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビット・モーシャー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	By Appointment		
授業の形式・方式	Communicative, pair & small group centered		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必須		
キーワード	Speaking, communication strategies, pragmatic awareness		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence. The content of the textbook may appear too easy at first, but the goal is to practice AND expand on the material until you can use it in conversations with your classmates and teacher almost automatically and without thinking.		
授業の内容	In this English speaking course, you will practice talking about a variety of everyday topics, such as where you are from, university life, travel and foreign countries, and your future plans and dreams. Throughout there will be a focus on explaining Japanese culture. You will also learn and practice communication strategies that will help you to sound more fluent and natural in English. As a part of this training, we will discuss typical pragmatic differences in Japanese and English communication styles and learn three Golden Rules for bridging these differences. To assess your progress, there will be frequent individual and small group speaking tests of one to five minutes in length. The final exam will be a group-speaking test.		
成績評価の方法	Attendance & participation (10%); class preparation (20%); regular speaking tests (50%); final speaking test (20%).		
テキスト	Conversations in Class by Alma Publishing, 3rd Edition		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is more about practicing English than on learning lots of "new" English knowledge. Improving your English speaking ability is a lot like learning to play a musical instrument or master a sport. It requires lots of practice and a well thought out training menu.		

授業科目名	英語 I (Global Communication I)		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	This class is very active! You will speak lots of English EVERY WEEK! There will be pairwork, role playing and sometimes you will speak IN FRONT of the class, so do not be shy! It is ok to make mistakes! Active Learning will help you become A GOOD ENGLISH SPEAKER!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免 (全教科) 選択必修		
キーワード	English, Conversation, Communication, Pair Work, Active English		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence.		
授業の内容	Each week we will discuss a different topic! For example, jobs, people, Japanese events, the past, present and future, city life, etc. You will talk about YOUR life EVERY class! The schedule goes like this --- Weeks 1-7: Discussion Topics 1-6; Week 8: Midterm Exam; Weeks 9-15: Discussion Topics 7-12; then a Final Exam		
成績評価の方法	Your grade comes from: 1) a Midterm Exam; 2) a Final Exam; 3) Quizzes, and 4) Attendance		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is very active! You MUST speak English EVERY week with a partner, or in a small group. DO NOT BE SHY! It is OK to make mistakes, that is how you learn! The topics in this class are about YOU and YOUR LIFE in Japan! So enjoy talking about you and your culture! Speak up!		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	This class is very active! You will speak lots of English EVERY WEEK! There will be pairwork, role playing and sometimes you will speak IN FRONT of the class, so do not be shy! It is ok to make mistakes! Active Learning will help you become A GOOD ENGLISH SPEAKER!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免 (全教科) 選択必修		
キーワード	English, Conversation, Communication, Pair Work, Active English		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence.		
授業の内容	Each week we will discuss a different topic! For example, jobs, people, Japanese events, the past, present and future, city life, etc. You will talk about YOUR life EVERY class! The schedule goes like this --- Weeks 1-7: Discussion Topics 1-6; Week 8: Midterm Exam; Weeks 9-15: Discussion Topics 7-12; then a Final Exam		
成績評価の方法	Your grade comes from: 1) a Midterm Exam; 2) a Final Exam; 3) Quizzes, and 4) Attendance		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is very active! You MUST speak English EVERY week with a partner, or in a small group. DO NOT BE SHY! It is OK to make mistakes, that is how you learn! The topics in this class are about YOU and YOUR LIFE in Japan! So enjoy talking about you and your culture! Speak up!		

授業科目名	英語 I (Global Communication I)		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	By the end of this course students should have increased confidence in their ability to use English both fluently and accurately without any fear, to comprehend quickly simple conversations, to read longer texts and answer the questions to check the comprehension. Grammar problems will be explained in an uncomplicated way but vocabulary should be checked by students in an English-English dictionary. Four language skills will be developed systematically. After each unit we will have a test. Headphones and microphones will be used to overcome shyness in speaking.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in speaking English loudly. Writing to express your opinions and remembering grammar. Reading to extend vocabulary. Listening only in English.		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence.		
授業の内容	Integrated skills work where all four skills are developed in context. Universal topics selected from a wide variety of materials. In-depth treatment of grammar with clear presentation, self-check exercises and detailed explanations. Systematic vocabulary syllabus. Everyday English section which practices common expressions in everyday situations.		
成績評価の方法	Activity during each class (sleeping is not allowed!!), regular attendance, grammar tests after each unit, midterm test, final written test. Checking on homework if assigned.		
テキスト	"American Headway 2A", Second Edition by John and Liz Soars, Oxford University Press, ISBN 978-0-19-472775-4		
参考文献	Oxford or Longman English- English Dictionary		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	As extra references and homework copies of "New Headway" Workbook will be provided by the teacher		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	By the end of this course students should have increased confidence in their ability to use English both fluently and accurately without any fear, to comprehend quickly simple conversations, to read longer texts and answer the questions to check the comprehension. Grammar problems will be explained in an uncomplicated way but vocabulary should be checked by students in an English-English dictionary. Four language skills will be developed systematically. After each unit we will have a test. Headphones and microphones will be used to overcome shyness in speaking.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in speaking English loudly. Writing to express your opinions and remembering grammar. Reading to extend vocabulary. Listening only in English.		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence.		
授業の内容	Integrated skills work where all four skills are developed in context. Universal topics selected from a wide variety of materials. In-depth treatment of grammar with clear presentation, self-check exercises and detailed explanations. Systematic vocabulary syllabus. Everyday English section which practices common expressions in everyday situations.		
成績評価の方法	Activity during each class (sleeping is not allowed!!), regular attendance, grammar tests after each unit, midterm test, final written test. Checking on homework if assigned.		
テキスト	"American Headway 2A", Second Edition by John and Liz Soars, Oxford University Press, ISBN 978-0-19-472775-4		
参考文献	Oxford or Longman English- English Dictionary		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	As extra references and homework copies of "New Headway" Workbook will be provided by the teacher		

授業科目名	英語Ⅱ (Critical Reading I)		
担当教員氏名(助手氏名)	住田 光子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	主に、①対面授業：テキストの演習と②自宅課題(教材：オンライン、IELTSリーディング、映画のリスニング)の学習の2つの形式で進める。達成度確認のための小テストを取り入れる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	IELTS, 語学テスト問題演習, スキミングとスキヤニング, 精読, 映画の音声		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などである。		
授業の内容	英語読解力の向上を目的とし、実践問題としてのIELTSの総合問題集(バンドスコア4.5-6.00)を解いてゆく。特にリーディング問題を中心に扱い、短い時間で必要な情報を読み取る練習をする。演習のなかで解き方や語彙知識を習得するだけでなく、個別に〈自宅課題〉を設定し、期日までの消化状況やその理解度を確認する。また、さまざまな抑揚の外国語に触れる機会として、映画で話される英語を聴く機会をつくり、ナチュラル・スピードの英語にも触れてゆく。		
成績評価の方法	授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業のなかで説明を行う。 *履修者は本科目の学期中に英語検定試験(TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ)を必ず1回受験すること。		
テキスト	① Sam McCarter and Norman Whitby. Improve Your Skills for IELTS4.5-6.0: Reading for IELTS. Macmillan Education. 2014. (ISBN: 978-0-2304-6217-5) 2,700円(税別)② 配布プリントと音声(MP3形式)		
参考文献	[文法書] 綿貫陽, M. ピーターセン 『表現のための実践ロイヤル英文法』 旺文社, 2011. (ISBN: 978-4-01-03-1299-5)[映画:参考までに] DVD『マイ・インターン』(2015) 121分Meyers, Nancy, dir. The Intern. Screenplay by Meyers. Perf. Robert De Nero, and Anne Hathaway. Waverly Films, 2015. DVD. Warner Brothers Home Entertainment, 2016. (日本語字幕版 EAN: 4548967239287)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	三分の二以上の出席が必須。演習形式で解説を加えるので、各自テキストを予習し参加すること。		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	住田 光子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	主に、①対面授業：テキストの演習と②自宅課題（教材：オンライン、IELTSリーディング、映画のリスニング）の学習の2つの形式で進める。達成度確認のための小テストを取り入れる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	IELTS, 語学テスト問題演習, スキミングとスキヤニング, 精読, 映画の音声		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などである。		
授業の内容	英語読解力の向上を目的とし、実践問題としてのIELTSの総合問題集（バンドスコア4.5-6.00）を解いてゆく。特にリーディング問題を中心に扱い、短い時間で必要な情報を読み取る練習をする。演習のなかで解き方や語彙知識を習得するだけでなく、個別に〈自宅課題〉を設定し、期日までの消化状況やその理解度を確認する。また、さまざまな抑揚の外国語に触れる機会として、映画で話される英語を聴く機会をつくり、ナチュラル・スピードの英語にも触れてゆく。		
成績評価の方法	授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業のなかで説明を行う。 *履修者は本科目の学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。		
テキスト	① Sam McCarter and Norman Whitby. Improve Your Skills for IELTS4.5-6.0: Reading for IELTS. Macmillan Education. 2014. (ISBN: 978-0-2304-6217-5) 2,700円(税別)② 配布プリントと音声 (MP3形式)		
参考文献	[文法書] 綿貫陽, M. ピーターセン 『表現のための実践ロイヤル英文法』 旺文社, 2011. (ISBN: 978-4-0103-1299-5) [映画:参考までに] DVD『マイ・インターン』 (2015) 121分Meyers, Nancy, dir. The Intern. Screenplay by Meyers. Perf. Robert De Nero, and Anne Hathaway. Waverly Films, 2015. DVD. Warner Brothers Home Entertainment, 2016. (日本語字幕版 EAN: 4548967239287)		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	三分の二以上の出席が必須。演習形式で解説を加えるので、各自テキストを予習し参加すること。		

授業科目名	英語Ⅱ (Critical Reading I)		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。 読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていく。 1回の授業のために学生は少なくとも2時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	paragraph reading, e-learning		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などである。 カリキュラム上の位置づけ：学科専門科目外国語の選択科目。		
授業の内容	授業の目標にそって、テキストを読み進む。毎回読む分量は授業中に指示する。学期中に数回マルチメディアラボでの演習を行い、コンピュータを利用した学習ソフトも用いる。毎週、このソフトを利用して自主学習を行う。 履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業の成績評価は、毎回の授業に対する取り組み状況 (授業外の課題を含む) 30%、期末試験70%の割合で行う。 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。		
テキスト	Eds., R. Carpenter et al., Delightful Topics for Reading & Writing (松柏社) 最初の授業の時に教室で購入してください。		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』 . 旺文社 (本書もテキストとして使用する)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	[e-learning課題] ネットアカデミーを各自の英語レベルに応じて学習してください。学習方法と利用方法は授業などで説明します。[リーディング課題] 下記の3冊を予定しています。読み方等については授業中に指示します。授業のテキストと合わせて、3冊まとめて最初に購入して下さい。これら書籍講読と共に、ネットアカデミーのリーディング課題を課します。学習方法は授業で説明します。・Oscar Wilde, The Happy Prince and Other Tales (南雲堂) ・Roald Dahl, Charlie and the Chocolate Factory (Puffin Books) ・Tenshin Okakura, The Book of Tea (講談社インターナショナル)。英語検定試験を積極的に受験しましょう。毎時間、必ず辞書を持参してください。		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。 読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていく。 1回の授業のために学生は少なくとも2時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	paragraph reading, e-learning		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などである。 カリキュラム上の位置づけ：学科専門科目外国語の選択科目。		
授業の内容	授業の目標にそって、テキストを読み進む。毎回読む分量は授業中に指示する。学期中に数回マルチメディアラボでの演習を行い、コンピュータを利用した学習ソフトも用いる。毎週、このソフトを利用して自主学習を行う。 履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業の成績評価は、毎回の授業に対する取り組み状況（授業外の課題を含む）30%、期末試験70%の割合で行う。 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。		
テキスト	Eds., R. Carpenter et al., Delightful Topics for Reading & Writing (松柏社) 最初の授業の時に教室で購入してください。		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』 . 旺文社 (本書もテキストとして使用する)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	[e-learning課題] ネットアカデミーを各自の英語レベルに応じて学習してください。学習方法と利用方法は授業などで説明します。[リーディング課題] 下記の3冊を予定しています。読み方等については授業中に指示します。授業のテキストと合わせて、3冊まとめて最初に購入して下さい。これら書籍講読と共に、ネットアカデミーのリーディング課題を課します。学習方法は授業で説明します。・Oscar Wilde, The Happy Prince and Other Tales (南雲堂) ・Roald Dahl, Charlie and the Chocolate Factory (Puffin Books) ・Tenshin Okakura, The Book of Tea (講談社インターナショナル)。英語検定試験を積極的に受験しましょう。毎時間、必ず辞書を持参してください。		

授業科目名	英語Ⅱ (Critical Reading I)		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	広島キャンパス 1823研究室		
オフィスアワー	随時 (授業時、またはメール等で、事前にアポを取ってください)		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基礎的英語力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行います。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とします。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などです。		
授業の内容	テキストを用い、段落ごとの意味の内容を理解しながら英語を読む訓練をします。並行して様々なジャンルの英文を読み、語彙力、文法力の増強を目指します。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業参加度 (課題、アクティビティその他) 40%、授業内テスト60%で成績評価を行います。授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	Cultural Portraits: Japan and the US. Justin Charlebois, Atsushi Sakuma. 金星堂		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	広島キャンパス 1823研究室		
オフィスアワー	随時（授業時、またはメール等で、事前にアポを取ってください）		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基礎的英語力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行います。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とします。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などです。		
授業の内容	テキストを用い、段落ごとの意味の内容を理解しながら英語を読む訓練をします。並行して様々なジャンルの英文を読み、語彙力、文法力の増強を目指します。 なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業参加度（課題、アクティビティその他）40%、授業内テスト60%で成績評価を行います。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	Cultural Portraits: Japan and the US. Justin Charlebois, Atsushi Sakuma. 金星堂		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語Ⅱ (Critical Reading I)		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。 読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていく。 1回の授業のために学生は少なくとも2時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	paragraph reading, e-learning		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などである。 カリキュラム上の位置づけ：学科専門科目外国語の選択科目。		
授業の内容	少人数による advanced class。詳細はオリエンテーションで説明を行う。 授業の目標にそって、テキストを読み進む。毎回読む分量は授業中に指示する。定期的にマルチメディアラボでの演習を行い、コンピュータを利用した学習ソフトも用いる。毎週、このソフトを利用して自主学習を行う。 履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業の成績評価は、毎回の授業に対する取り組み状況 (授業外の課題を含む) 30%、期末試験70%の割合で行う。 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。		
テキスト	授業の際に指示します。		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』 . 旺文社 (本書もテキストとして使用する)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	[e-learning課題] ネットアカデミーを各自の英語レベルに応じて学習してください。学習方法と利用方法は授業などで説明します。[リーディング課題] 下記の3冊を予定しています。読み方等については授業中に指示します。授業のテキストと合わせて、3冊まとめて最初に購入して下さい。これら書籍講読と共に、ネットアカデミーのリーディング課題を課します。学習方法は授業で説明します。・Oscar Wilde, The Happy Prince and Other Tales (南雲堂) ・Roald Dahl, Charlie and the Chocolate Factory (Puffin Books) ・Tenshin Okakura, The Book of Tea (講談社インターナショナル)。英語検定試験を積極的に受験しましょう。毎時間、必ず辞書を持参してください。		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。 読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていく。 1回の授業のために学生は少なくとも2時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	paragraph reading, e-learning		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などである。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：学科専門科目外国語の選択科目。</p>		
授業の内容	<p>少人数による advanced class。詳細はオリエンテーションで説明を行う。</p> <p>授業の目標にそって、テキストを読み進む。毎回読む分量は授業中に指示する。定期的にマルチメディアラボでの演習を行い、コンピュータを利用した学習ソフトも用いる。毎週、このソフトを利用して自主学習を行う。</p> <p>履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。</p>		
成績評価の方法	<p>授業の成績評価は、毎回の授業に対する取り組み状況（授業外の課題を含む）30%、期末試験70%の割合で行う。</p> <p>期末試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。</p>		
テキスト	Eds., R. Carpenter et al., Delightful Topics for Reading & Writing (松柏社) 最初の授業の時に教室で購入してください。		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』 . 旺文社 (本書もテキストとして使用する)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	[e-learning課題] ネットアカデミーを各自の英語レベルに応じて学習してください。学習方法と利用方法は授業などで説明します。[リーディング課題] 下記の3冊を予定しています。読み方等については授業中に指示します。授業のテキストと合わせて、3冊まとめて最初に購入して下さい。これら書籍講読と共に、ネットアカデミーのリーディング課題を課します。学習方法は授業で説明します。・Oscar Wilde, The Happy Prince and Other Tales (南雲堂) ・Roald Dahl, Charlie and the Chocolate Factory (Puffin Books) ・Tenshin Okakura, The Book of Tea (講談社インターナショナル)。英語検定試験を積極的に受験しましょう。毎時間、必ず辞書を持参してください。		

授業科目名	英語Ⅲ (Global Communication II)		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビット・モーシャー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	By Appointment		
授業の形式・方式	Communicative, pair & small group centered		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必須		
キーワード	Speaking, communication strategies, pragmatic awareness		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence. The content of the textbook may appear too easy at first, but the goal is to practice AND expand on the material until you can use it in conversations with your classmates and teacher almost automatically and without thinking.		
授業の内容	In this English speaking course, you will practice talking about a variety of everyday topics, such as where you are from, university life, travel and foreign countries, and your hometown customs and traditions. Throughout there will be a focus on explaining Japanese culture. You will also learn and practice communication strategies that will help you to sound more fluent and natural in English. As a part of this training, we will discuss typical pragmatic differences in Japanese and English communication styles and learn three Golden Rules for bridging these differences. To assess your progress, there will be frequent individual and small group speaking tests of one to five minutes in length. The final exam will be a group-speaking test.		
成績評価の方法	Attendance & participation (10%); class preparation (20%); regular speaking tests (50%); final speaking test (20%).		
テキスト	Conversations in Class by Alma Publishing, 3rd Edition		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is more about practicing English than on learning lots of "new" English knowledge. Improving your English speaking ability is a lot like learning to play a musical instrument or master a sport. It requires lots of practice and a well thought out training menu.		

授業科目名	英語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビット・モーシャー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	By Appointment		
授業の形式・方式	Communicative, pair & small group centered		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必須		
キーワード	Speaking, communication strategies, pragmatic awareness		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effective skills for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while developing the four main areas of language competence. The content of the textbook may appear too easy at first, but the goal is to practice AND expand on the material until you can use it in conversations with your classmates and teacher almost automatically and without thinking.		
授業の内容	In this English speaking course, you will practice talking about a variety of everyday topics, such as where you are from, university life, travel and foreign countries, and your hometown customs and traditions. Throughout there will be a focus on explaining Japanese culture. You will also learn and practice communication strategies that will help you to sound more fluent and natural in English. As a part of this training, we will discuss typical pragmatic differences in Japanese and English communication styles and learn three Golden Rules for bridging these differences. To assess your progress, there will be frequent individual and small group speaking tests of one to five minutes in length. The final exam will be a group-speaking test.		
成績評価の方法	Attendance & participation (10%); class preparation (20%); regular speaking tests (50%); final speaking test (20%).		
テキスト	Conversations in Class by Alma Publishing, 3rd Edition		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is more about practicing English than on learning lots of "new" English knowledge. Improving your English speaking ability is a lot like learning to play a musical instrument or master a sport. It requires lots of practice and a well thought out training menu.		

授業科目名	英語Ⅲ (Global Communication Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	(This continues from 英語 I in the spring semester). This class is very active ! You will speak lots of English EVERY WEEK! There will be pairwork, role playing and sometimes you will speak IN FRONT of the class, so do not be shy! It is ok to make mistakes! Active Learning will help you become A GOOD ENGLISH SPEAKER!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免 (全教科) 選択必修		
キーワード	English, Conversation, Communication, Pair Work, Active English		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills at a higher level so as to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effectiveness for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while further developing various areas of language competence.		
授業の内容	(This continues from 英語 I in the spring semester). Each week we will discuss a different topic! For example, social problems, people, Japanese events, world cultures and other countries, etc. You will talk about YOUR life EVERY class ! The schedule goes like this --- Weeks 1-8: Discussion Topics 13-19; Week 9: Midterm Exam; Weeks 10-15: Discussion Topics 20-24; then a Final Exam		
成績評価の方法	Your grade comes from: 1) a Midterm Exam; 2) a Final Exam; 3) Quizzes, and 4) Attendance		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is very active! You MUST speak English EVERY week with a partner, or in a small group. DO NOT BE SHY ! It is OK to make mistakes, that is how you learn! The topics in this class are about YOU and YOUR LIFE in Japan! So enjoy talking about you and your culture ! Speak up!		

授業科目名	英語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	(This continues from 英語 I in the spring semester). This class is very active ! You will speak lots of English EVERY WEEK! There will be pairwork, role playing and sometimes you will speak IN FRONT of the class, so do not be shy! It is ok to make mistakes! Active Learning will help you become A GOOD ENGLISH SPEAKER!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免 (全教科) 選択必修		
キーワード	English, Conversation, Communication, Pair Work, Active English		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills at a higher level so as to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effectiveness for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while further developing various areas of language competence.		
授業の内容	(This continues from 英語 I in the spring semester). Each week we will discuss a different topic! For example, social problems, people, Japanese events, world cultures and other countries, etc. You will talk about YOUR life EVERY class ! The schedule goes like this --- Weeks 1-8: Discussion Topics 13-19; Week 9: Midterm Exam; Weeks 10-15: Discussion Topics 20-24; then a Final Exam		
成績評価の方法	Your grade comes from: 1) a Midterm Exam; 2) a Final Exam; 3) Quizzes, and 4) Attendance		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	This class is very active! You MUST speak English EVERY week with a partner, or in a small group. DO NOT BE SHY ! It is OK to make mistakes, that is how you learn! The topics in this class are about YOU and YOUR LIFE in Japan! So enjoy talking about you and your culture ! Speak up!		

授業科目名	英語Ⅲ (Global Communication II)		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・スティチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	By the end of this course students should have increased confidence in their ability to use English both fluently and accurately without any fear, to comprehend quickly simple conversations, to read longer texts and answer the questions to check the comprehension. Grammar problems will be explained in an uncomplicated way but vocabulary should be checked by students in an English-English dictionary. Four languages skills will be developed systematically. After each unit we will have a test. Headphones and microphones will be used to overcome shyness in speaking.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in speaking English loudly. Writing to express your opinions and remembering grammar. Reading to extend vocabulary. Listening only in English.		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills at a higher level so as to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effectiveness for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while further developing various areas of language competence.		
授業の内容	Integrated skills work where all four skills are developed in context. Universal topics selected from a wide variety of materials. In-depth treatment of grammar with clear presentation, self-check exercises and detailed explanations. Systematic vocabulary syllabus. Everyday English section which practices common expressions in everyday situations.		
成績評価の方法	Activity during each class (sleeping is not allowed!!), regular attendance, grammar tests after each unit, midterm test, final written test. Checking on homework if assigned.		
テキスト	"American Headway 2B", Second Edition by John and Liz Soars, Oxford University Press, ISBN 978-0-19-472776-1		
参考文献	Oxford or Longman English- English Dictionary		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	As extra references and homework copies of "New Headway" Workbook will be provided by the teacher		

授業科目名	英語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	By the end of this course students should have increased confidence in their ability to use English both fluently and accurately without any fear, to comprehend quickly simple conversations, to read longer texts and answer the questions to check the comprehension. Grammar problems will be explained in an uncomplicated way but vocabulary should be checked by students in an English-English dictionary. Four language skills will be developed systematically. After each unit we will have a test. Headphones and microphones will be used to overcome shyness in speaking.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in speaking English loudly. Writing to express your opinions and remembering grammar. Reading to extend vocabulary. Listening only in English.		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills at a higher level so as to be able to discuss topics concerning one's own culture and other world cultures, focusing on effectiveness for expressing one's own ideas in English. This class will prepare students for international communication, while further developing various areas of language competence.		
授業の内容	Integrated skills work where all four skills are developed in context. Universal topics selected from a wide variety of materials. In-depth treatment of grammar with clear presentation, self-check exercises and detailed explanations. Systematic vocabulary syllabus. Everyday English section which practices common expressions in everyday situations.		
成績評価の方法	Activity during each class (sleeping is not allowed!!), regular attendance, grammar tests after each unit, midterm test, final written test. Checking on homework if assigned.		
テキスト	"American Headway 2B", Second Edition by John and Liz Soars, Oxford University Press, ISBN 978-0-19-472776-1		
参考文献	Oxford or Longman English-English Dictionary		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	As extra references and homework copies of "New Headway" Workbook will be provided by the teacher		

授業科目名	英語Ⅳ (Critical Reading Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	随時 (授業時、またはメール等で、事前に面会許可を取ってください)		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語の読解力、語彙力、聴解力、発信力の養成		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語Ⅱ (Critical Reading Ⅰ)に引き続いて、より高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行います。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とします。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などです。		
授業の内容	世界の様々な国についての英語の説明を、テキストの文章およびDVDの映像資料で視聴して理解してゆく。様々な国で使われる英語の発音やイントネーションにふれる。テキストの文章を理解し、暗唱してネイティブと同じように発声できるように練習する。必要な語彙力を身につけて、異文化について情報を収集し、それをまとめて皆の前で、英語で発表する。テキスト全部を十分に復習して、筆記試験にも備える。 なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業参加度 (課題、アクティビティその他) 約40%、中間と期末の筆記テスト約60%授業の成績評価を行います。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	On Board for More World Adventure, Scott Berlin, Megumi Kobayashi 著、金星堂2300円		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語IV		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1823研究室		
オフィスアワー	随時(授業時、またはメール等で、事前にアポを取ってください)		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語の読解力、語彙力、聴解力、発信力を鍛える。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語II (Critical Reading I)に引き続いて、より高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行います。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とします。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などです。		
授業の内容	テキストを用い、段落ごとの意味の内容を理解しながら英語を読む訓練をします。並行して様々なジャンルの英文を読み、語彙力、文法力の増強を目指します。 なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業参加度(課題、アクティビティその他)40%、授業内テスト60%で成績評価を行います。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	On Board for More World Adventure, Scott Berlin, Megumi Kobayashi著、金星堂 2300円		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語Ⅳ (Critical Reading Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	船津晶代		
研究室の場所	1813		
オフィスアワー	随時受け付ける (事前に面談日時の予約をすることが望ましい)。		
授業の形式・方式	テキストを用いて演習形式で行う。 適宜、ペアやグループディスカッション、およびeラーニングを取り入れる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	パラグラフフリーディング, クリティカルリーディング, シャドーイング, eラーニング, リスニング, プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語Ⅱ (Critical Reading I)に引き続いて、より高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主としてアジア諸国の英語事情について書かれたエッセイとする。アジアの諸言語を母語とする話者の英語を聞き取りながら、その特徴を掴み、理解を深める。また、日本の英語事情などに関する情報を英語で発信する力を涵養する。		
授業の内容	授業の目的にそって、テキストを読み進める。授業中適宜、リーディング内容に関してディスカッションを行う。学期中に英語によるグループプレゼンテーションを行う。また、授業中にコンピュータを利用した学習ソフトを用いて学習する。履修者は、学期中にeラーニングの自主学習課題を行うことが求められる(備考を参照のこと)。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検, 国連英検のうちのいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	学期末試験60%, プレゼンテーション10%, 授業外の自主学習課題と提出物 (学期中に行う小テスト等を含める) 30%の割合で評価する。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。		
テキスト	Understanding Asia (センゲージラーニング)		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』. 旺文社.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、必ず辞書を持参してください。 [リーディング課題] 下記の3冊です。読み方等については授業中に指示します。学期初めに3冊まとめて本学の教科書販売場所で購入してください。・Oscar Wild, The Happy Prince ・Roald Dahl, Charlie and the Chocolate Factory (Puffin Book) ・Tenshin Okakura, The Book of Tea (講談社インターナショナル) [e-learning課題] 授業中に説明します。		

授業科目名	英語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時受け付ける（事前に面談日時の予約をすることが望ましい）。		
授業の形式・方式	テキストを用いて演習形式で行う。 適宜、ペアやグループディスカッション、およびeラーニングを取り入れる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	パラグラフフリーディング, クリティカルリーディング, シャドーイング, eラーニング, リスニング, プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語II (Critical Reading I)に引き続いて、より高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行う。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とする。教材は主としてアジア諸国の英語事情について書かれたエッセイとする。アジアの諸言語を母語とする話者の英語を聞き取りながら、その特徴を掴み、理解を深める。また、日本の英語事情などに関する情報を英語で発信する力を涵養する。 カリキュラム上の位置づけ： 国際文化学科共通専門科目外国語		
授業の内容	授業の目的にそって、テキストを読み進める。授業中適宜、リーディング内容に関してディスカッションを行う。学期中に英語によるグループプレゼンテーションを行う。また、授業中にコンピュータを利用した学習ソフトを用いて学習する。履修者は、学期中にeラーニングの自主学習課題を行うことが求められる（備考を参照のこと）。 なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	学期末試験60%、プレゼンテーション10%、授業外の自主学習課題と提出物（学期中に行う小テスト等を含める）30%の割合で評価する。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。		
テキスト	Understanding Asia (セングージラーニング)		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』. 旺文社.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、必ず辞書を持参してください。 [リーディング課題] 下記の3冊です。読み方等については授業中に指示します。 学期初めに3冊まとめて本学の教科書販売場所で購入して下さい。 ・Oscar Wilde, The Happy Prince ・R oald Dahl, Charlie and the Chocolate Factory (Puffin Book) ・Tenshin Okakura, The Book of Tea (講 談社インターナショナル) [e-learning課題] 授業中に説明します。		

授業科目名	英語Ⅳ (Critical Reading Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 朝子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	短編小説のコンプリヘンション, 読解ストラテジー, 文体		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し, 多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して, 文化や社会問題等についての理解を深める。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力, 英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態度、等により総合評価する。		
テキスト	E. Hemingway, L. Hearn, K. Mansfield, J. Steinbeck他著 安永義夫編注 "Breakfast and Other Stories" 金星堂, 2013		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和辞典を持って授業に臨んでください。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。		

授業科目名	英語IV		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 朝子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	短編小説のコンプリヘンション, 読解ストラテジー, 文体		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し, 多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して, 文化や社会問題等についての理解を深める。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力, 英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態度、等により総合評価する。		
テキスト	E. Hemingway, L. Hearn, K. Mansfield, J. Steinbeck他著 安永義夫編注 "Breakfast and Other Stories" 金星堂, 2013		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和辞典を持って授業に臨んでください。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。		

授業科目名	英語Ⅳ (Critical Reading Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	随時 (授業時、またはメール等で、事前に了解を取ってください)		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	高度な英語力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語Ⅱ (Critical Reading Ⅰ)に引き続いて、より高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行います。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とします。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などです。		
授業の内容	テキストを用い、段落ごとの意味の内容を理解しながら英語を読む訓練をします。並行して様々なジャンルの英文を読み、語彙力、文法力の増強を目指します。 なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業参加度 (課題、アクティビティその他) 40%、授業内テスト60%で成績評価を行います。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	授業開始前に指示します		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	随時（授業時、またはメール等で、事前に了解を取ってください）		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象（履修には英語力の条件があります）		
免許等指定科目			
キーワード	精密な読解力、語彙力、英語表現力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語II (Critical Reading I)に引き続いて、より高度な内容を持つ英文を精読し、文法構造や文脈を理解しながら正しく読めるようになるための、あるいは英語による情報収集ができるようになるための訓練を行います。語彙力と読解力を養う事を重視しつつ、人文学の多様な知識を深める事を目標とします。教材は主として文学作品や新聞・雑誌の記事、エッセイ、研究論文などです。		
授業の内容	テキストを用い、段落ごとの意味の内容を理解しながら英語を読む訓練をします。並行して様々なジャンルの英文を読み、語彙力、文法力の増強を目指します。 なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	授業参加度（課題、アクティビティその他）40%、授業内テスト60%で成績評価を行います。 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	授業開始前に指示する		
参考文献	適宜授業内で配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語V (Presentation I)		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective presentations on various topics, especially concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Students will have the opportunity to learn and develop the skill of talking about topics to an audience. In this course the focus will be on everyday experiences.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation on class activities, two in-class presentations and a final examination.		
テキスト	Present Yourself 1 Experiences, 2nd edition by Steven Gershon. Published by Cambridge University Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語V		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective presentations on various topics, especially concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Students will have the opportunity to learn and develop the skill of talking about topics to an audience. In this course the focus will be on everyday experiences.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation on class activities, two in-class presentations and a final examination.		
テキスト	Present Yourself 1 Experiences, 2nd edition by Steven Gershon. Published by Cambridge University Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語V (Presentation I)		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	This class will give you many chances to SPEAK IN FRONT OF PEOPLE! It is a Presentation class, so you should TRY your best to communicate with your words, your voice and your body IN FRONT OF PEOPLE! You will give 3-5 presentations in this class! Enjoy!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Presentation, English, Public Speaking, Active Communication, Speaking Skills		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective presentations on various topics, especially concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	This is a Presentation class, so you will give 3-5 different presentations! The first presentations are short and easy: vacation reports, self-introductions and then introducing another person. Then we will discuss Informative Speaking (and then Persuasive Speaking and possibly Debate in the fall semester). It can be a GREAT experience to speak in front of people. This class will help you with the English words you need, the voice you need and the body language you need!		
成績評価の方法	Your grade will come from your 3-5 presentations (public speeches). There is NO test in this class! But your grade includes the WRITTEN SPEECH and the PRESENTATIONS! So let's practice presentations together!		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	For some people, making a speech is difficult. It is not easy, but IF you practice and prepare, you can be a GREAT public speaker. Speaking in front of people is VERY important for your future job, so let's work hard together!		

授業科目名	英語V		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	This class will give you many chances to SPEAK IN FRONT OF PEOPLE! It is a Presentation class, so you should TRY your best to communicate with your words, your voice and your body IN FRONT OF PEOPLE! You will give 3-5 presentations in this class! Enjoy!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Presentation, English, Public Speaking, Active Communication, Speaking Skills		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective presentations on various topics, especially concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	This is a Presentation class, so you will give 3-5 different presentations! The first presentations are short and easy: vacation reports, self-introductions and then introducing another person. Then we will discuss Informative Speaking (and then Persuasive Speaking and possibly Debate in the fall semester). It can be a GREAT experience to speak in front of people. This class will help you with the English words you need, the voice you need and the body language you need!		
成績評価の方法	Your grade will come from your 3-5 presentations (public speeches). There is NO test in this class! But your grade includes the WRITTEN SPEECH and the PRESENTATIONS! So let's practice presentations together!		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	For some people, making a speech is difficult. It is not easy, but IF you practice and prepare, you can be a GREAT public speaker. Speaking in front of people is VERY important for your future job, so let's work hard together!		

授業科目名	英語V (Presentation I)		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Reading provided texts and materials, searching for more information in the Internet. Gathering necessary vocabulary. Presenting in small groups or for the whole class.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in expressing and presenting your own opinions, interests, global problems		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective presentations on various topics, especially concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Introduction to the class and giving the main points about proper presentations. At the beginning of each class we will gather the necessary vocabulary according to the topic of each presentation. The presentation will be about personal matters, local issues, country issues, Asian issues, finally about the global issues.		
成績評価の方法	Full attendance, full activity, successful presentations evaluated by the others, written assignments to be evaluated by the teacher.		
テキスト	None. Will be provided by the teacher.		
参考文献	"Speaking of Speech- Basic Presentation Skills for Beginners" by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan 2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語V		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Reading provided texts and materials, searching for more information in the Internet. Gathering necessary vocabulary. Presenting in small groups or for the whole class.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in expressing and presenting your own opinions, interests, global problems		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective presentations on various topics, especially concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Introduction to the class and giving the main points about proper presentations. At the beginning of each class we will gather the necessary vocabulary according to the topic of each presentation. The presentation will be about personal matters, local issues, country issues, Asian issues, finally about the global issues.		
成績評価の方法	Full attendance, full activity, successful presentations evaluated by the others, written assignments to be evaluated by the teacher.		
テキスト	None. Will be provided by the teacher.		
参考文献	"Speaking of Speech- Basic Presentation Skills for Beginners" by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan 2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語V (Presentation I)		
担当教員氏名(助手氏名)	ステーブン・ローゼン		
研究室の場所	1817		
オフィスアワー	by Appointment		
授業の形式・方式	Intensive English/English Discussion and Presentation		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	This class is for advanced English students. It aims to cultivate the ability to do research, discuss and write clearly on a variety of academic subjects, especially related to society and culture.		
授業の内容	Students will be given a choice of subjects to research and discuss in class, with one large research project. There will be shorter discussions and mini-presentations on various topics of interest to the students.		
成績評価の方法	Attendance & participation (10%); homework (20%), presentations (30%), Final report (40%)		
テキスト	materials to be available for free from instructor's website		
参考文献	High motivation and ability for English discussion and research; Internet access needed and PC with PowerPoint software.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Knowledge of basic Microsoft Word and PowerPoint, familiarity with library research		

授業科目名	英語V		
担当教員氏名(助手氏名)	ステーブン・ローゼン		
研究室の場所	1817		
オフィスアワー	by Appointment		
授業の形式・方式	Intensive English/English Discussion and Presentation		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	research and presentations in English		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	This class is for advanced English students. It aims to cultivate the ability to discuss and write clearly on an academic subjects.		
授業の内容	Short discussions and presentations and one large research project and presentation		
成績評価の方法	Attendance & participation (10%); homework (20%), presentations (30%), Final report (40%)		
テキスト	materials to be provided by instructor		
参考文献	High motivation and ability for English discussion and research; Internet access needed and PC with PowerPoint software		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Knowledge of basic Microsoft Word and PowerPoint, and library research ability		

授業科目名	英語VI (Cross-Cultural Studies)		
担当教員氏名(助手氏名)	波多野 五三 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。英語文献の読解ならびに聴解を行う際に、ペアまたはグループに分かれてディスカッションを行うことがある。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英国、UK、Great Britain、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解や、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。		
授業の内容	以下の内容に関する英語文献の読解を行うとともに、内容の理解を深めるための語彙ならびに文法の練習問題を解く。特に、政治、経済、福祉、芸術、教育、スポーツ、文学、音楽、交通、郵便、食生活などにおけるイギリスと日本の差異に関する500語前後の英語の文章を読み解く。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	期末試験70%、授業中の発表及び参加態度30%。授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で具体的に説明を行う。		
テキスト	Bent, R. 他. 2014. 『比較文化で考えるイギリスと日本(Cross-Cultural Views on Britain)』東京: 南雲堂.		
参考文献	櫻庭信之(編). 1992. 『KEEP—写真で見る英語百科』研究社. 樋口稔. 2003. 『イギリス文化事典』大修館書店.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教科書の本文は中級以上の学習者を対象としている。予習として、各パラグラフの要点を把握するとともに全文を和訳し練習問題を解いておくこと。また、内容理解ののちに本文を3回以上朗読しておくこと。特に、無生物主語、関係代名詞/関係副詞、分詞構文、倒置、強調、省略などに注意する。未知語は、Longman Dictionary of Contemporary EnglishやOxford Advanced Learner's Dictionaryなどで語義を調べたのちに英和辞典で日本語訳を確認すること。		

授業科目名	英語VI		
担当教員氏名(助手氏名)	波多野 五三 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。英語文献の読解ならびに聴解を行う際に、ペアまたはグループに分かれてディスカッションを行うことがある。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英国、UK、Great Britain、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解や、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。		
授業の内容	以下の内容に関する英語文献の読解を行うとともに、内容の理解を深めるための語彙ならびに文法の練習問題を解く。特に、政治、経済、福祉、芸術、教育、スポーツ、文学、音楽、交通、郵便、食生活などにおけるイギリスと日本の差異に関する500語前後の英語の文章を読み解く。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	期末試験70%、授業中の発表及び参加態度30%。授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で具体的に説明を行う。		
テキスト	Bent, R. 他. 2014. 『比較文化で考えるイギリスと日本(Cross-Cultural Views on Britain)』東京: 南雲堂.		
参考文献	櫻庭信之(編). 1992. 『KEEP—写真で見る英語百科』研究社. 樋口稔. 2003. 『イギリス文化事典』大修館書店.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教科書の本文は中級以上の学習者を対象としている。予習として、各パラグラフの要点を把握するとともに全文を和訳し練習問題を解いておくこと。また、内容理解ののちに本文を3回以上朗読しておくこと。特に、無生物主語、関係代名詞/関係副詞、分詞構文、倒置、強調、省略などに注意する。未知語は、Longman Dictionary of Contemporary EnglishやOxford Advanced Learner's Dictionaryなどで語義を調べたのちに英和辞典で日本語訳を確認すること。		

授業科目名	英語VI (Cross-Cultural Studies)		
担当教員氏名(助手氏名)	川尻 武信 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。またグループワークなどを適宜行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語リーディング力、文化、異文化理解、異文化コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解や、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。		
授業の内容	このクラスでは異文化コミュニケーションの諸問題を扱った物語を読み、英文読解能力の向上を目指すとともに異文化コミュニケーションにおける重要な概念について考える。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験(TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS, 国連英検のうちいずれか1つ)を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	期末試験70%、小テスト20%、授業への取り組み10%。授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法については授業の中で具体的に説明を行う。		
テキスト	Joseph Shaules and Juri Abe 『Different Realities(異文化間コミュニケーション)』南雲堂, 2007		
参考文献	石井 敏 他 (2013) 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習を行い、授業には積極的に参加してください。辞書は必ず持参してください。		

授業科目名	英語VI		
担当教員氏名(助手氏名)	川尻 武信 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。またグループワークなどを適宜行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語リーディング力、文化、異文化理解、異文化コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解や、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。		
授業の内容	このクラスでは異文化コミュニケーションの諸問題を扱った物語を読み、英文読解能力の向上を目指すとともに異文化コミュニケーションにおける重要な概念について考える。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験(TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS, 国連英検のうちいずれか1つ)を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。		
成績評価の方法	期末試験70%、小テスト20%、授業への取り組み10%。授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法については授業の中で具体的に説明を行う。		
テキスト	Joseph Shaules and Juri Abe 『Different Realities(異文化間コミュニケーション)』南雲堂, 2007		
参考文献	石井 敏 他 (2013) 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習を行い、授業には積極的に参加してください。辞書は必ず持参してください。		

授業科目名	英語VI (Cross-Cultural Studies)		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	映画『いまを生きる(Dead Poets Society)』の内容をテキストに沿って学習し、様々な表現を学びます。その上でグループを作り、映画の幾つかの場面を演じて再現する英語劇を上演します。映画を見本にして、ネイティブ・スピーカーのナチュラルな発音や体、表情の作り方等、細かい部分も再現出来るように練習します。(または、演じた場面をビデオ撮影して編集し映画の再現映像を作るという形を取る事もあります)		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	映画『いまを生きる』(Dead Poets Society)、イギリス文化とアメリカ文化、英語劇、リスニング、スピーキング、パフォーマンス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解や、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。		
授業の内容	<p>映画『Dead Poets Society (今を生きる)』を観て、内容をテキストを使って深く理解し、イギリス文化とアメリカ文化について学んだ上で、グループ活動で幾つかの場面を演じて再現します。前半はテキストや表現、ボキャブラリーの理解に努め、後半はスピーキング、そしてパフォーマンスの練習が主になります。</p> <p>なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。</p>		
成績評価の方法	テキスト内容の理解度を見る筆記テスト30%、授業参加度(課題、アクティビティその他)30%、最後の英語劇での演技の合計40%で授業そのものの成績評価を行います。授業の成績と英語検定試験のスコアを併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	映画総合教材『いまを生きる』田中長子、本多浩子、他著、音羽書房鶴見書店、2,000円		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』. 旺文社		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語VI		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	映画『いまを生きる(Dead Poets Society)』の内容をテキストに沿って十分に理解した上で、グループを作り、映画の幾つかの場面を演じて再現する英語劇を上演します。映画を見本にして、ネイティブ・スピーカーのナチュラルな発音や体、表情の作り方等、細かい部分も再現出来るように練習します。(または、演じた場面をビデオ撮影して編集し映画の再現映像を作るという形を取る事もあります)		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	映画『いまを生きる(Dead Poets Society)』、イギリス文化とアメリカ文化、英語劇、リスニング、スピーキング、パフォーマンス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解や、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。		
授業の内容	<p>映画『いまを生きる(Dead Poets Society)』を観て内容をテキストを使って深く理解し、イギリス文化とアメリカ文化について学んだ上で、グループ活動で幾つかの場面を演じて再現します。最終的に、英語劇として上演します。前半はテキストや表現、ボキャブラリーの理解に努め、後半はスピーキング、そしてパフォーマンスの練習が主になります。</p> <p>なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。</p>		
成績評価の方法	テキスト内容の理解度を見る筆記テスト30%、授業参加度（課題、アクティビティその他）30%、最後の英語劇での演技の合計40%で授業そのものの成績評価を行います。授業の成績と英語検定試験のスコアを併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	映画総合教材『いまを生きる』田中長子、本多浩子、他著、音羽書房鶴見書店、2,000円		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン（2011）．『表現のための実践ロイヤル英文法』．旺文社		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	オリエンテーションで説明します。		

授業科目名	英語VI (Cross-Cultural Studies)		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	演習形式の対面授業を基本とする。また、小テストを毎回行い、コミュニケーション活動や日本文化発信練習なども定期的に行う。家庭学習として、授業の予習と復習に加えてALC NetAcademyによる自己学習とTOEIC演習を課す。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象、前年度にTOEICで600点以上の到達者のみ履修可		
免許等指定科目			
キーワード	英語リーディング力、英語文学作品読解方略、英単語学習、英文法学習、異文化理解、日本文化発信、コミュニケーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。 《カリキュラム上の位置づけ》：学科共通専門科目外国語の選択科目		
授業の内容	このクラスではテキストを使って毎回英語の文学作品を読み、その演習を通して英語文学作品読解技能の向上を目指します。小テストは毎回実施し、英単語や英文法の定着を目指します。また、授業内で英語スピーキング力や日本文化発信力を向上させる練習も行います。また、ALC NetAcademyやTOEIC演習を通して英語力一般の向上も目指してもらいます。この授業を通して定期的に英語を学習する習慣を身に付けてください。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験することが義務付けられます。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のもので構いません。英語検定試験の結果は当該期の他の科目と併用できます。		
成績評価の方法	1. 授業参画10%（授業参画が思わしくない場合は単位は取得できません） 2. 小テスト30%（スコアが一定の基準を下回りますと単位を取得できません） 3. 課題30%（取り組みが一定の基準を下回りますと単位を取得できません） 4. 定期試験30%（受験しないと単位を取得できません） 5. 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する（受験しないと単位を取得できません）。詳しくは授業の中で説明します。 ※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。		
テキスト	Iwamoto, I. (Eds.). (1996). Stories for better understanding. Tokyo: Kinseido.		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』. 旺文社.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	【履修上のアドバイス】この授業では、特に英語文学作品の読解を通して英文読解力を高めます。加えて、毎回英単語の小テストを行います。これまでに培ってきた英語力をもう一段高め、英語知識に更なる広がりを持たせるために、積極的に授業に参加してください。授業の予習と復習もしっかりと行なってください。辞書は必ず持参してください。 【禁止事項】1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2) 教科書などを忘れたときは、始業までに各自の責任で当日の授業範囲のコピーを取っておいてください。		

授業科目名	英語VI		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	演習形式の対面授業を基本とする。また、小テストを毎回行い、コミュニケーション活動や日本文化発信練習なども定期的に行う。家庭学習として、授業の予習と復習に加えてALC NetAcademyによる自己学習とTOEIC演習を課す。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象、前年度にTOEICで600点以上の到達者のみ履修可		
免許等指定科目			
キーワード	英語リーディング力、英語文学作品読解方略、英単語学習、英文法学習、異文化理解、日本文化発信、コミュニケーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語圏の国々の文学・文化の理解、または日本文化の英語圏への紹介および発信、つまり異文化理解を主なテーマとし、文化のさまざまな問題を扱う文献を読み、それを材料に発信する練習をする事で英語力を総合的に高めることを目標とする。 《カリキュラム上の位置づけ》：学科共通専門科目外国語の選択科目		
授業の内容	このクラスではテキストを使って毎回英語の文学作品を読み、その演習を通して英語文学作品読解技能の向上を目指します。小テストは毎回実施し、英単語や英文法の定着を目指します。また、授業内で英語スピーキング力や日本文化発信力を向上させる練習も行います。また、ALC NetAcademyやTOEIC演習を通して英語力一般の向上も目指してもらいます。この授業を通して定期的に英語を学習する習慣を身に付けてください。なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験することが義務付けられます。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のもので構いません。英語検定試験の結果は当該期の他の科目と併用できます。		
成績評価の方法	1. 授業参画10%（授業参画が思わしくない場合は単位は取得できません） 2. 小テスト30%（スコアが一定の基準を下回りますと単位を取得できません） 3. 課題30%（取り組みが一定の基準を下回りますと単位を取得できません） 4. 定期試験30%（受験しないと単位を取得できません） 5. 授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する（受験しないと単位を取得できません）。詳しくは授業の中で説明します。 ※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。		
テキスト	Iwamoto, I. (Eds.). (1996). Stories for better understanding. Tokyo: Kinseido.		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』. 旺文社.		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	【履修上のアドバイス】この授業では、特に英語文学作品の読解を通して英文読解力を高めます。加えて、毎回英単語の小テストを行います。これまでに培ってきた英語力をもう一段高め、英語知識に更なる広がりを持たせるために、積極的に授業に参加してください。授業の予習と復習もしっかりと行なってください。辞書は必ず持参してください。 【禁止事項】1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2) 教科書などを忘れたときは、始業までに各自の責任で当日の授業範囲のコピーを取っておいてください。		

授業科目名	英語Ⅶ (Presentation II)		
担当教員氏名(助手氏名)	ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture/discussion, groupwork and presentations		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	This class will use a textbook to provide a framework and various topics for presentation. The topics include expressing a personal identity, cross-cultural communication, social change, globalization, politeness and more. Students will be taught useful presentation strategies and will practice these each week.		
成績評価の方法	Assessment will be based on students' ability to make presentations clearly and effectively in English and also on overall attendance and participation.		
テキスト	Identity (Oxford University Press), by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅶ		
担当教員氏名(助手氏名)	ケイヴォーン・ディビッド・カゼミ (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture/discussion, groupwork and presentations		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	This class will use a textbook to provide a framework and various topics for presentation. The topics include expressing a personal identity, cross-cultural communication, social change, globalization, politeness and more. Students will be taught useful presentation strategies and will practice these each week.		
成績評価の方法	Assessment will be based on students' ability to make presentations clearly and effectively in English and also on overall attendance and participation.		
テキスト	Identity (Oxford University Press), by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅶ (Presentation Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	(This continues from 英語 V in the spring semester). This class will give you many chances to SPEAK IN FRONT OF PEOPLE! It is a Presentation class, so you should TRY your best to communicate with your words, your voice and your body IN FRONT OF PEOPLE! You will give 3-5 presentations in this class! Enjoy!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Presentation, English, Public Speaking, Active Communication, Speaking Skills		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	(This continues from 英語 V in the spring semester). This is a Presentation class, so you will give 3-5 different presentations! The first presentations are short and easy: vacation reports. Then in this second semester, we will discuss Persuasive Speaking, and possibly Debate. It can be a GREAT experience to speak in front of people. This class will help you with the English words you need, the voice you need and the body language you need!		
成績評価の方法	Your grade will come from your 3-5 presentations (public speeches). There is NO test in this class! But your grade includes the WRITTEN SPEECH and the PRESENTATIONS! So let's practice presentations together!		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	For some people, making a speech is difficult. It is not easy, but IF you practice and prepare, you can be a GREAT public speaker. Speaking in front of people is VERY important for your future job, so let's work hard together!		

授業科目名	英語Ⅶ		
担当教員氏名(助手氏名)	デーモン・E・チャップマン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	None		
授業の形式・方式	(This continues from 英語 V in the spring semester). This class will give you many chances to SPEAK IN FRONT OF PEOPLE! It is a Presentation class, so you should TRY your best to communicate with your words, your voice and your body IN FRONT OF PEOPLE! You will give 3-5 presentations in this class! Enjoy!		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Presentation, English, Public Speaking, Active Communication, Speaking Skills		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	(This continues from 英語 V in the spring semester). This is a Presentation class, so you will give 3-5 different presentations! The first presentations are short and easy: vacation reports. Then in this second semester, we will discuss Persuasive Speaking, and possibly Debate. It can be a GREAT experience to speak in front of people. This class will help you with the English words you need, the voice you need and the body language you need!		
成績評価の方法	Your grade will come from your 3-5 presentations (public speeches). There is NO test in this class! But your grade includes the WRITTEN SPEECH and the PRESENTATIONS! So let's practice presentations together!		
テキスト	No text. All ORIGINAL prints from the teacher!		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	For some people, making a speech is difficult. It is not easy, but IF you practice and prepare, you can be a GREAT public speaker. Speaking in front of people is VERY important for your future job, so let's work hard together!		

授業科目名	英語Ⅶ (Presentation Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Reading provided texts and materials, searching for more information in the Internet. Gathering necessary vocabulary. Presenting in small groups or for the whole class.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in expressing and presenting your own opinions, interests, global problems		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Introduction to the class and giving the main points about proper presentations. At the beginning of each class we will gather the necessary vocabulary according to the topic of each presentation. The presentation will be about personal matters, local issues, country issues, Asian issues, finally about the global issues.		
成績評価の方法	Full attendance, full activity, successful presentations evaluated by the others, written assignments to be evaluated by the teacher.		
テキスト	None. Will be provided by the teacher.		
参考文献	"Speaking of Speech- Basic Presentation Skills for Beginners" by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan 2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅶ		
担当教員氏名(助手氏名)	ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Reading provided texts and materials, searching for more information in the Internet. Gathering necessary vocabulary. Presenting in small groups or for the whole class.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Courage in expressing and presenting your own opinions, interests, global problems		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Introduction to the class and giving the main points about proper presentations. At the beginning of each class we will gather the necessary vocabulary according to the topic of each presentation. The presentation will be about personal matters, local issues, country issues, Asian issues, finally about the global issues.		
成績評価の方法	Full attendance, full activity, successful presentations evaluated by the others, written assignments to be evaluated by the teacher.		
テキスト	None. Will be provided by the teacher.		
参考文献	"Speaking of Speech- Basic Presentation Skills for Beginners" by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan 2009		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅶ (Presentation Ⅱ)		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Students will have the opportunity to continue to learn and develop the skill of talking about topics to an audience. In this course the focus will be on expressing opinions or points of view.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation on class activities, two in-class presentations and a final examination.		
テキスト	Present Yourself 2 Viewpoints, 2nd edition by Steven Gershon. Published by Cambridge University Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅶ		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Goal: To learn how to develop the necessary skills so as to be able to make effective English presentations at a higher level on various topics, concerning cultural, academic and business situational themes, in English. Students will be required to make actual presentations in English individually or as a part of a group project.		
授業の内容	Students will have the opportunity to continue to learn and develop the skill of talking about topics to an audience. In this course the focus will be on expressing opinions or points of view.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation on class activities, two in-class presentations and a final examination.		
テキスト	Present Yourself 2 Viewpoints, 2nd edition by Steven Gershon. Published by Cambridge University Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅷ (Seminar)		
担当教員氏名(助手氏名)	ステーブン・ローゼン		
研究室の場所	1817		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Lectures/ group discussion/ films/ business case studies		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	English for Business and Economics		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Students will have the challenge of trying to understand basic business and economics topics and dicussing them in English.		
授業の内容	Lectures on basic areas of business and economics, concepts and vocabulary. St udents will choose and research topic and prepare a presentation, either on bu siness of economics (history or policy)		
成績評価の方法	Attendance- 40%, Participation- 30%, presentation- 30%		
テキスト	The instructor will provide some materials and the students can get materials online or at the library		
参考文献	Students should be following economic and business news on a regular basis		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Motivation and intellectual curiosity- students should have an interst in tryi ng to understand how business and economic markets work in our global society.		

授業科目名	英語Ⅷ		
担当教員氏名(助手氏名)	スティーブン・ローゼン		
研究室の場所	1817		
オフィスアワー	By appointment		
授業の形式・方式	Lectures/ group discussion/ films/ business case studies		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	English for Business and Economics		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Students will have the challenge of trying to understand basic business and economics topics and dicussing them in English.		
授業の内容	Students will choose and research topic and prepare a presentation, either on business of economics. There will be extensive study and practice of basic Business English		
成績評価の方法	Attendance- 40%, Participation- 30%, presentation- 30%		
テキスト	The instructor will provide some materials and the students can get materials online or at the library		
参考文献	Students should be following economic and business news on a regular basis		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Motivation and intellectual curiosity- students should have an interst in trying to understand how business and economic markets work in our global society.		

授業科目名	英語Ⅷ (Seminar)		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室 (1822) ドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。毎回、訳文を用意し、発表・提出してもらう。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	翻訳		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択する。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れる。		
授業の内容	この授業では「翻訳」能力を育成する。文学を初めとする英文の抜粋をテキストとし、毎回訳文を書いてきて、発表してもらう。英語を正確に読むと同時に、それを如何に日本語で表現するかを学ぶ。		
成績評価の方法	授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。 また、出席・普段の授業態度・提出された訳文も評価の対象とする。		
テキスト	授業中に配布する。		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』 . 旺文社. I SBN:9784010312995		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅷ		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)ドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。毎回、訳文を用意し、発表・提出してもらう。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	翻訳		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択する。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れる。		
授業の内容	この授業では「翻訳」能力を育成する。文学を初めとする英文の抜粋をテキストとし、毎回訳文を書いてきて、発表してもらう。英語を正確に読むと同時に、それを如何に日本語で表現するかを学ぶ。		
成績評価の方法	授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。 また、出席・普段の授業態度・提出された訳文も評価の対象とする。		
テキスト	授業中に配布する。		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン (2011) . 『表現のための実践ロイヤル英文法』 . 旺文社 . I SBN:9784010312995		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語Ⅷ (Seminar)		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813		
オフィスアワー	随時受け付ける (事前に面談日時の予約をすることが望ましい)。		
授業の形式・方式	演習を中心とした対面形式の授業。適宜、ペアまたはグループディスカッションを行う。留学生との英語による交流を行う (フィールドトリップ含む)。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	世界の英語, 国際共通語としての英語, リスニング, スピーキング, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択する。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れる。</p> <p>カリキュラム上の位置付け： 国際文化学科共通専門科目外国語</p>		
授業の内容	<p>グローバル社会においては、英語母語話者間の英語コミュニケーションよりも非英語母語話者間の英語コミュニケーションの方が多いとされている。世界のさまざまな英語、特に非英語母語話者の英語の特徴を理解するとともに、実際にノンネイティブスピーカと英語でコミュニケーションを行い、国際共通語としての英語を实践する。履修者は学期中に複数回、広島市内の留学生との交流会に参加することが求められる。</p> <p>なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験 (TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ) を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。</p>		
成績評価の方法	<p>学期末試験60%、プレゼンテーション10%、授業外自主学習課題と提出物30%の割合で評価する。</p> <p>授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。</p>		
テキスト	追って指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>毎回の授業には英語の辞書を必ず持参してください。</p> <p>英語ネイティブ、ノンネイティブの区別なく、英語で積極的にコミュニケーションを行う態度が求められます。履修にあたり、世界のさまざまな国の文化や人々について興味・関心を持つopen-mindedな姿勢が必要とされます。</p>		

授業科目名	英語Ⅷ		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813		
オフィスアワー	随時受け付ける（事前に面談日時の予約をすることが望ましい）。		
授業の形式・方式	講義及び演習を中心とした対面形式の授業。適宜、ペアまたはグループディスカッションを行う。留学生との英語による交流を行う（フィールドトリップ含む）。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	世界の英語，国際共通語としての英語，リスニング，スピーキング，プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択する。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れる。</p> <p>カリキュラム上の位置付け： 国際文化学科共通専門科目外国語</p>		
授業の内容	<p>グローバル社会においては、英語母語話者間の英語コミュニケーションよりも非英語母語話者間の英語コミュニケーションの方が多いといわれている。世界のさまざまな英語、特に非英語母語話者の英語の特徴を理解するとともに、実際にノンネイティブスピーカと英語でコミュニケーションを行い、国際共通語としての英語を実践する。履修者は学期中に複数回、広島市内の留学生との交流会に参加することが求められる。</p> <p>なお、履修者は本科目が開かれる学期中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を必ず1回受験すること。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものを受験してもよい。</p>		
成績評価の方法	<p>学期末試験60%，プレゼンテーション10%，授業外自主学習課題と提出物30%の割合で評価する。</p> <p>授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定する。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行う。</p>		
テキスト	追って指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>毎回の授業には英語の辞書を必ず持参してください。</p> <p>英語ネイティブ、ノンネイティブの区別なく、英語で積極的にコミュニケーションを行う態度が求められます。履修にあたり、世界のさまざまな国の文化や人々について興味・関心を持つopen-mindedな姿勢が必要です。</p>		

授業科目名	英語Ⅷ (Seminar)		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。 読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていくが、かなりの分量を読むことが要求される。 1回の授業のために学生は少なくとも2時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	パラグラフリーディング、小説の技法と読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択する。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ： 国際文化学科専門科目 外国語</p>		
授業の内容	<p>小説を楽しみながら、小説の読解に必要な能力と自分の意見を表現する力を養う。</p> <p>精読と速読を並行して行う。</p> <p>学期中に少なくとも一冊は自分が選んだ作品を読み、紹介する。</p>		
成績評価の方法	<p>授業の成績評価は、毎回の授業に対する取り組み状況（授業外の課題を含む）30%、期末試験70%の割合で行う。</p> <p>試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。</p>		
テキスト	K. Mansfield et al., British and American Love Stories (松柏社) 最初の授業の際に教室で購入してください。		
参考文献	図書館に設置してある英語リーディングの棚にある図書から好きなものを選んで、積極的に読みましょう。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、必ず辞書を持参してください。		

授業科目名	英語Ⅷ		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。 読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていくが、かなりの分量を読むことが要求される。 1回の授業のために学生は少なくとも2時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	パラグラフリーディング、小説の技法と読解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択する。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ： 国際文化学科専門科目 外国語</p>		
授業の内容	<p>小説を楽しみながら、小説の読解に必要な能力と自分の意見を表現する力を養う。</p> <p>精読と速読を並行して行う。</p> <p>学期中に少なくとも一冊は自分が選んだ作品を読み、紹介する。</p>		
成績評価の方法	<p>授業の成績評価は、毎回の授業に対する取り組み状況（授業外の課題を含む）30%、期末試験70%の割合で行う。</p> <p>試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。</p>		
テキスト	K. Mansfield et al., British and American Love Stories (松柏社) 最初の授業の際に教室で購入してください。		
参考文献	図書館に設置してある英語リーディングの棚にある図書から好きなものを選んで、積極的に読みましょう。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、必ず辞書を持参してください。		

授業科目名	英語Ⅷ (Seminar)		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	広島キャンパス 1823研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語リーディング力、リスニング力、時事英語、異文化理解		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業です。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択します。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れます。		
授業の内容	このクラスではポピュラーカルチャーの代表格である映画について英語で考え、発表する能力を身につけるとともに、さまざまな媒体の映画批評を読むことで、文化批評用語に親しみます。3年次以降の文化研究において必要となる英語でのリサーチ・発表のための基礎的英語力を涵養します。		
成績評価の方法	授業参加度(課題、アクティビティその他)20%、授業内テスト80%で成績評価を行います。授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	授業内で適宜配布。		
参考文献	授業内で適宜配布。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業内で映画についてのディスカッションを行うため、授業外で課題作品を鑑賞する必要があります。課題を消化せずにディスカッションに参加することは認められません。また、映画批評のテキストにはかなり高度な英語が用いられており、読みこなすには相当の努力が必要です。前向きに英語に取り組める学生に履修をお勧めします。		

授業科目名	英語Ⅷ		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	広島キャンパス 1823研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を組み合わせる授業を進めます。またグループワークなどを適宜取り入れることもあります。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語リーディング力、リスニング力、時事英語、異文化理解		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	少人数のゼミナール形式で、高度な内容の英語文献や資料、あるいは音声や映像等の教材を用いながら総合的な英語力の強化を目指す授業です。担当者によって扱うテーマは異なるので学生は自分の関心に基づいてクラスを選択します。自主研究や発表を必要とする活動を取り入れます。		
授業の内容	このクラスではポピュラーカルチャーの代表格である映画について英語で考え、発表する能力を身につけるとともに、さまざまな媒体の映画批評を読むことで、文化批評用語に親しみます。3年次以降の文化研究において必要となる英語でのリサーチ・発表のための基礎的英語力を涵養します。		
成績評価の方法	授業参加度(課題、アクティビティその他)20%、授業内テスト80%で成績評価を行います。授業の成績と英語検定試験の結果を併用して最終的な成績を決定します。具体的な方法についてはオリエンテーション及び授業の中で説明を行います。		
テキスト	授業内で適宜配布。		
参考文献	授業内で適宜配布。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業内で映画についてのディスカッションを行うため、授業外で課題作品を鑑賞する必要があります。課題を消化せずにディスカッションに参加することは認められません。映画批評のテキストではかなり高度な英語が用いられており、読みこなすには相当の努力が必要です。前向きに英語学習に取り組める学生に履修をお勧めします。		

授業科目名	中国語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順に2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必修		
キーワード	中国語の基礎初歩、発音表記と漢字表記、「聞く」「話す」「読む」「書く」の融合		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第一言語8単位、または所謂第二言語4単位の履修において、もっとも基礎となる授業である。これまでほとんど中国語を学習していない学生を対象として、言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置く。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく融合して習得できるよう練習を繰り返し、自己紹介程度の会話ができるようにする。		
授業の内容	中国語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて、発音の習得から始める。続いて、発音表記や漢字表記の特徴を踏まえながら、単語の音(読み)と意味と漢字表記とがそれぞれ結びつくように練習する。さらに簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。		
成績評価の方法	試験、平常点を総合的に判断して評価する。期末試験等70%、発表30%を基本とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書等「持ち込み不可」で実施する。		
テキスト	テキスト：『系統的に学ぼう 中国語 I (会話コース)』(顧明耀 丸山浩明 等編、白帝社) 辞書等は授業中に紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、所謂第一言語8単位として履修する場合も、第二言語4単位として履修する場合も、すべてこの「中国語 I」を受講しなければならない。ただし、高等学校等ですでに学習しており、さらに履修を希望する場合は、相談を要す。また、2クラスを設定しているため人数調整する場合がある。第一言語8単位としての履修を希望する学生は丸山クラスの登録を優先する。		

授業科目名	中国語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	津坂 貢政 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるように進める。受講学生は、授業に主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必修		
キーワード	中国語の基礎初歩、ローマ字による発音表記(音 [ピンイン]) と漢字(簡体字) 表記、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第一言語8単位、または第二言語4単位の履修において、最も基礎となる授業である。これまでほとんど中国語を学習していない学生を対象として、言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置く。		
授業の内容	中国語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて、発音の習得から始める。それに続いて、発音表記や漢字表記の特徴を踏まえながら、単語の読みと意味と漢字表記とがそれぞれ結びつくように練習する。さらに簡単な会話文によって、楽しみながら語彙・文法の基礎知識の習得ができるよう目指す。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に習得できるよう、練習を繰り返し、日常的なあいさつや自己紹介程度の会話ができるようにする。		
成績評価の方法	出席状況、中間テスト、期末試験などを総合的に判断して評価する。小テスト、期末試験等70%、毎回の授業における発表30%を目安とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書など「持ち込み不可」で実施する。		
テキスト	顧明耀・丸山浩明ほか『系統的に学ぼう 中国語 I 会話コース』白帝社、2001年。		
参考文献	基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、所謂第一外国語8単位として履修する場合も、第二外国語4単位として履修する場合も、すべてこの「中国語 I」を受講しなければならない。ただし、高等学校などですでに学習しており、さらに履修を希望する場合は相談を要す。また2クラスを設定しているため人数調整する場合がある。第一言語8単位としての履修を希望する学生は丸山クラスの登録を優先する。		

授業科目名	中国語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	袁 葉 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順に2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎会話、オリジナル作文の発表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂8単位修得の言語を選択履修する場合において、もっとも基礎となる授業である。これまでほとんど中国語を学習していない学生を対象として、漢字表記に注意し、文法面での基礎を身につけることに重点を置く。		
授業の内容	中国語の基礎の習得を目指す。言語を文字表記として理解する初歩的段階に重点を置いて、音声と表記法との習得から始める。漢字表記による同義語の異義などに注意しながら、漢字と音と意味とがそれぞれ結びつくように練習する。さらに、簡単な文章を用いることにより、中国語の基本的な語彙の習得と、文の基本的な構造(文型)の理解を目指す。動詞述語文、形容詞述語文などを中心に、文法面での基礎を身につけるように練習を繰り返す。 授業の合間には、中国の社会事情や、日中文化の違いなどについても紹介する。		
成績評価の方法	期末試験、小テスト、作文の提出、及び出席状況を総合的に判断して評価する。		
テキスト	『中国語の玉手箱』中島吾妻 著、白帝社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合、8単位言語として履修する場合は、必ず受講しなければならない。よって「中国語Ⅰ」に同時並行して、週2回形式の中国語学習が実現される。また、内容的に「中国語Ⅰ」と相互に関連して、初歩入門段階での理解を促進させる。		

授業科目名	中国語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順におよそ2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必修		
キーワード	中国語の基礎、簡単な日常会話、「聞く」「話す」「読む」「書く」の融合		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第一言語8単位、または所謂第二言語4単位の履修において、もっとも基礎となる授業である。「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象として、基本的な語彙・語法の習得を目指し、簡単な日常会話ができるよう、実用に堪える言語習得を目標とする。		
授業の内容	中国語の基本的な語彙・語法の習得を目指す。簡単な会話文を用いて、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく総合的に習得できるよう練習する。各課の文法事項を修得したあと、必要な表現を繰り返し練習し、さらに聞き取りや役割発表、練習問題などを通して、簡単な日常会話ができるよう、実用に堪える言語習得を目標に鍛錬する。同時に、中国語の発想を考えながら、異文化を理解し、よりスムーズなコミュニケーションを取るための方法を身につける。Ⅰに続けて1年間学習すると、中国語検定4級程度の実力となる。		
成績評価の方法	試験、平常点を総合的に判断して評価する。期末試験等70%、発表30%を基本とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書等「持ち込み不可」で実施する。		
テキスト	テキスト：『系統的に学ぼう 中国語Ⅰ(会話コース)』(顧明耀 丸山浩明 等編、白帝社) 前期配当の外国語専門科目「中国語Ⅰ」に続けて使用する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、所謂第一言語8単位として履修する場合も、第二言語4単位として履修する場合も、「中国語Ⅰ」に続けて、この「中国語Ⅲ」を受講しなければならない。また、2クラスを設定しているため人数調整する場合がある。第一言語8単位の履修を希望する学生は、「中国語Ⅰ」に引き続いて丸山クラスの登録を優先する。		

授業科目名	中国語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	津坂 貢政 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるように進める。受講学生は、授業に主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必修		
キーワード	中国語の基礎、簡単な日常会話、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第一言語8単位、または第二言語4単位の履修において、最も基礎となる授業である。「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象として、簡単な日常会話、自己紹介ができるよう、実用に堪える言語能力の習得を目標とする。		
授業の内容	中国語の基本的な語彙・文法の知識の習得を目指す。簡単な会話文を用いて、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に習得できるよう、楽しみながら練習を繰り返す。各課の基礎的な文法知識を習得したのち、様々な会話の場面を想定しながら表現の多様性を研鑽する。加えて聞き取りや・発表・練習問題を繰り返しこなしてゆくことを通じて、簡単な日常会話や自己紹介ができるよう、実用に堪える言語習得を目標に学習する。それと同時に、中国語の発想を考えつつ、中国文化に関する色々な知識を理解し、実践の場でのよりスムーズなコミュニケーションを取るための方法を身につける。Ⅰに続けて1年間学習すると、中国語検定4級程度の実力を養うことができる。		
成績評価の方法	出席状況、中間テスト、期末試験などを総合的に判断して評価する。小テスト、期末試験等70%、毎回の授業における発表30%を目安とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書など「持ち込み不可」で実施する。		
テキスト	顧明耀・丸山浩明ほか『系統的に学ぼう 中国語Ⅰ 会話コース』白帝社、2001年。		
参考文献	基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、所謂第一外国語8単位として履修する場合も、第二外国語4単位として履修する場合も、「中国語Ⅰ」に続けて、この「中国語Ⅲ」を受講しなければならない。また2クラスを設定しているので人数調整する場合がある。第一言語8単位としての履修を希望する学生は、「中国語Ⅰ」に引き続いて丸山クラスの登録を優先する。		

授業科目名	中国語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	袁 葉 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順に2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎固め, オリジナル作文の作成		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂8単位修得の言語を選択履修する場合において、基礎固めに必要不可欠な授業である。直接には「中国語Ⅱ」を承けて展開されるが、「中国語Ⅲ」に同時並行して、週2回形式の中国語学習を保証する。		
授業の内容	中国語の基礎を固める。簡単でしかもまとまった内容を有する文章を用いて、中国語の基本的な語彙・語法・構造を理解できるよう練習する。最も基本となる実用的でかつ多彩な文例を読解し、豊かな表現ができるように、音声表現とともに鍛錬する。 授業の合間には、日中文化の違いなどについても紹介する。		
成績評価の方法	期末試験, 小テスト, 作文の提出, 及び出席状況を総合的に判断して評価する。		
テキスト	『中国語の玉手箱』中島吾妻 著, 白帝社 「中国語Ⅱ」に引き続いて使用。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合、8単位言語として履修する場合は、必ず受講しなければならない。ただし、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」を単位未修得の場合は、履修できない。		

授業科目名	中国語Ⅴ		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、演習形式で実施する。テキストの各課について、新出単語・文法解説・本文・練習を学習する。小テスト、発表が義務つけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級中国語 実用会話 コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうち、いわゆる第一外国語8単位の履修において、またはいわゆる第二言語4単位の履修に置いて、必要不可欠な授業である。最低限「中国語Ⅰ・Ⅲ」2単位を単位修得した学生を対象として、文法・文型の理解と「聞く」「話す」の訓練に重点を置き、実用に堪える言語習得を目標とする。		
授業の内容	①きれいに発音できる。 ②新しい単語の中国語の漢字とピンインが書ける。 ③ロールプレーでその課のトピックについて話せる。 ④その課のトピックに必要な表現を身につけることによって、コミュニケーションができる。		
成績評価の方法	期末試験(70%)、小テスト(発表、朗読、小テスト)(30%)を基として、中国語検定4級合格を以て総合的に評価する。		
テキスト	『中国語の玉手箱』(中島吾妻 白帝社)第11-20課		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語科目のうち最低限「中国語Ⅰ・Ⅲ」2単位を履修単位修得した学生を対象とする。 ・外国語科目のうち「中国語」を選択する場合、第一言語8単位として履修する場合も、第二言語4単位として履修する場合も、この「中国語Ⅴ」を受講しなければならない。 ・2クラスを設定しているので人数調整する場合がある。 		

授業科目名	中国語Ⅴ		
担当教員氏名(助手氏名)	袁 葉 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、演習形式で実施する。テキストの各課について、新出単語・文法解説・本文・練習の順序で復習・予習・小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級中国語 会話 文型 リスニング 発表 コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちのいわゆる第一言語8単位の履修において、またはいわゆる第二言語4単位の履修において、必要不可欠な授業である。最低限[中国語Ⅰ・Ⅲ]2単位を履修単位習得した学生を対象として、文法・文型の理解と「聞く」「話す」の訓練に重点を置き、実用に堪える言語習得を目標とする。		
授業の内容	基本的な初級入門段階の中国語を土台として、より多彩で高度な語彙・文法・表現様式の習得を目指す。日常生活のさまざまな場面を想定した会話文や短文を利用して、「聞く」「話す」「書く」「訳す」という技能の向上を目標に、コミュニケーションとしての適切な応答が出来るレベルに達するよう鍛錬する。 授業の合間には中国の社会事情や日中文化の違いについても紹介する。		
成績評価の方法	小テスト、作文の提出、期末試験、及び出席状況を総合的に判断して評価する。		
テキスト	『中国語の玉手箱』中島吾妻 著、白帝社 「中国語Ⅳ」に引き続いて使用		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、第一言語8単位として履修する場合も、第二言語4単位として履修する場合も、この「中国語Ⅴ」を受講しなければならない。2クラスを設定しているので人数調整する場合がある。		

授業科目名	中国語VI		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・朗読の練習と指導を中心に、シャドーイングをする。 ・ヒントを提示し、自力で中文和訳に挑戦する。 ・課外で宿題をして、授業で演習の形式で発表する。 		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級中国語 朗読 書き取り 文型習得 内容理解 中文和訳		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ①四声が定着できる。 ②本文がピンインなしにきれいに朗読できる。 ③新しい単語の中国語の漢字、ピンインが書ける。 ④その課の表現を身につけ、内容を理解することによって、「リーディング力」を伸ばすことができる。 ⑤この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうち、いわゆる第一外国語8単位の履修において、必要不可欠な授業である。 		
授業の内容	<p>教材：『2冊めの中国語 講読クラス』</p> <p>内容：</p> <p>第1課 自我?／自己紹介</p> <p>第2課 我的家庭／私の家族</p> <p>第3課 互?网／インターネット</p> <p>第4課 ?会／約束</p> <p>第5課 温泉旅行／温泉旅行</p> <p>第6課 我的?好／趣味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語検定試験準4級の過去問題の練習 ・定期試験 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の小テスト (15%) ・出席率や授業への取り組み (15%) ・期末試験 (単語の書き取り、ピンインなしの形で本文の朗読) (70%) ・この3点により、総合的に評価する。 		
テキスト	『2冊めの中国語 講読クラス』 劉穎 柴森 小澤正人著 白水社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限「中国語Ⅰ・Ⅱ」2単位を履修単位修得した学生を対象とする。 ・外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、いわゆる第一外国語8単位として履修する場合、この「中国語VI」を必ず受講すること。 ・「中国語Ⅴ」と同時並行するため、週に2回中国語受講が可能である。 		

授業科目名	中国語Ⅶ		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	広島キャンパス 1716研究室		
オフィスアワー	月曜3限 (事前にメール等でアポをとってください)		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業 ・ 朗読の練習と指導を中心に、ロールプレイをする ・ 課外で宿題をして、授業で演習をする。 		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級中国語 実用的な会話 ロールプレイ 書き取り		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ①きれいに発音し朗読できる。 ②新しい単語の中国語の漢字とピンインが書ける。 ③ロールプレイでその課のトピックについて話せる。 ④その課のトピックに必要な表現を身につけることによって、「スピーキング力」「リスニング力」を伸ばすことができる。 ⑤この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうち、いわゆる第一外国語8単位の履修において、必要不可欠な授業である。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材 『2年生のコミュニケーション中国語』 ・ 第8課 友達に電話をする ・ 第9課 郵便局 ・ 第10課 医者に行く ・ 第11課 家庭訪問 ・ 第12課 謝恩会 ・ 第13課 中国語検定試験4級の模擬試験と試験対策(1) ・ 第14課 中国語検定試験4級の模擬試験と試験対策(2) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の小テスト (15%) ・ 出席率や授業への取り組み (15%) ・ 期末試験(単語の書き取り、本文の朗読) (70%) ・ この3点により、総合的に評価する。 		
テキスト	陳浩・梁月軍『中国語会話ステップアップ』郁文堂、2010年。		
参考文献	顧明躍・王志英・青木五郎『系統的に学ぼう 中国語Ⅱ [中級会話コース]』白帝社、2006年。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語科目のうち「中国語」を選択する場合、第一言語8単位として履修する場合も第二言語4単位として履修する場合も、この「中国語Ⅶ」を受講しなければならない。 ・ 2クラスを設定するため、人数を調整する場合がある。 		

授業科目名	中国語Ⅶ		
担当教員氏名(助手氏名)	袁 葉 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、演習形式で実施する。テキストの各課について、新出単語・文法解説・本文・練習の順序で復習・予習・小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級中国語 会話 リスニング オリジナル作文の発表 コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちのいわゆる第一言語8単位の履修において、またはいわゆる第二言語4単位の履修において、必要不可欠な授業である。最低限[中国語Ⅰ・Ⅲ]2単位を履修単位習得した学生を対象として、「中国語Ⅴ」に続けて、文法・文型の理解と「聞く」「話す」の訓練に重点を置き、実用に堪える言語習得を目標とする。		
授業の内容	「中国語Ⅴ・Ⅵ」を土台にして、さらに多彩で高度な語彙・文法・表現様式を習得し、基本的な中国語の知識を定着化させることを目指す。日常生活のさまざまな場面を想定した会話文や短文を利用して、特に「聞く」「話す」「書く」「訳す」という技能の向上を目標に、割合に円滑なコミュニケーションが出来るレベルに達するよう鍛錬する。 授業の合間には中国の社会事情や日中文化の違いについても紹介する。		
成績評価の方法	小テスト、作文の提出、期末試験、及び出席状況を総合的に判断して評価する。		
テキスト	『中国語の玉手箱』中島吾妻 著、白帝社 「中国語Ⅴ」に引き続いて使用 「中国語会話ーステップアップ」陳浩 梁月軍 著、郁文堂		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、第一言語8単位として履修する場合も、第二言語4単位として履修する場合も、この「中国語Ⅶ」を受講しなければならない。2クラスを設定しているので人数調整する場合がある。		

授業科目名	中国語Ⅷ		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・朗読の練習と指導を中心に、シャドーイングをする。 ・ヒントを提示し、自力で中文和訳に挑戦する。 ・課外で宿題をして、授業で演習をする。 		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級中国語 朗読 書き取り 文型習得 内容理解 中文和訳		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ①四声が定着できる。 ②本文がピンインなしできれいにかつ流暢に朗読できる。 ③新しい単語の中国語の漢字、ピンインが書ける。 ④その課の表現を身につけ、内容を理解することによって、「リーディング力」を伸ばすことができる。 ⑤この科目は、国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうち、いわゆる第一外国語8単位の履修において、必要不可欠な授業である。 		
授業の内容	<p>教材：『2冊めの中国語 講読クラス』</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 第7課 交朋友/友だちを作る 第8課 聚餐/会食 第9課 ??/目覚まし時計 第10課 打工/アルバイト 第11課 寒假/冬休み 第12課 留学/留学 <ul style="list-style-type: none"> ・中国語検定試験4級過去問題の練習と試験対策 ・定期試験 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の小テスト (15%) ・出席率や授業への取り組み (15%) ・期末試験(単語の書き取り、ピンインなしの形で本文の朗読) (70%) ・この3点により、総合的に評価する。 		
テキスト	『2冊めの中国語 講読クラス』 劉穎 柴森 小澤 正人著 白水社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語科目のうち「中国語」を選択する場合は、いわゆる第一外国語8単位として履修する場合、この「中国語Ⅷ」を必ず受講すること。 ・「中国語Ⅶ」に同時並行するため、週に2回中国語受講が可能である。 		

授業科目名	韓国・朝鮮語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、演習形式で実施する。発音の基礎から、基本的な文法構造などを学習することに重点を置く。また、視聴覚教材を活用して、韓国の社会や文化についての理解を深める。学生は授業に出席し、期末試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語の基礎初歩、「聞く」「話す」「読む」「書く」の基本言語能力。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	これまでほとんど韓国語を学習していない学生を対象として、ハングル(韓国語の文字体系の名称)の読み書き、挨拶の言葉、自己紹介程度の会話ができるようにする。外国語科目のうち「韓国・朝鮮語」を選択する場合は、所謂第一言語8単位として履修する場合も、第二言語4単位として履修する場合も、この「韓国・朝鮮語 I」を必ず受講しなければならない。また、2クラスを設定しているので人数調整する場合がある。		
授業の内容	韓国語の基礎を身につける。1. 言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて発音の習得から始める。続いて、単語の音(読み)と意味と表記とがそれぞれ結びつくように、ハングル(文字)の学習と練習を行う。2. さらに、簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく融合して習得できるように、練習を繰り返し、自己紹介程度の会話ができるようにする。3. 特に、視聴覚教材を活用し、韓国の社会や文化についての理解も深める。		
成績評価の方法	試験(口頭と筆記) (50%)、課題やreport (30%)、出席 (20%) で評価する。受講生の都合のよって課題の割合が増えることもある。		
テキスト	1. 基本教材: テキストは学期初めに配布する。 2. その他補助テキストは授業中に配る。 3. 辞書は自分で準備する(電子辞書か一般紙辞書)。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1. 韓国語を4単位以上取る予定の受講生は辞書を持参するのを勧奨する。		

授業科目名	韓国・朝鮮語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	金 根五 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、演習形式で実施する。発音の基礎から、基本的な文法構造などを学習することに重点を置く。また視聴覚教材を活用して、韓国の社会や文化についての理解を深める。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や課題提出が義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必修		
キーワード	韓国・朝鮮語の基礎、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の融合		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第一言語8単位、または所謂第二言語4単位の履修において、最も基礎となる授業である。これまでほとんど韓国・朝鮮語を学習していない学生を対象として、自己紹介程度の会話ができるようにする。		
授業の内容	韓国・朝鮮語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて、発音の習得から始める。続いて、単語の音(読み)と意味と表記とがそれぞれ結びつくように、ハングル(文字)の学習と練習を行う。さらに、簡単な会話文を用いて、基礎的な語彙・語法の習得を目指す。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく融合して習得できるように練習を繰り返し、自己紹介程度の会話ができるようにする。特に、視聴覚教材を活用し、韓国の社会や文化についての理解も深める。		
成績評価の方法	出席(10%)、小テスト及び課題(30%)、期末試験(60%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	木内 明著『基礎から学ぶ韓国語講座・初級』(改訂版) 国書刊行会		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の私語に対しては厳しく対処するので注意すること。		

授業科目名	韓国・朝鮮語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 銀志		
研究室の場所	1717		
オフィスアワー	水曜日16:00-18:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に演習形式で行う。学生は授業に出席し、小テストや期末試験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語入門、基礎文法、「聞く」「話す」「読む」「書く」の融合		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>はじめて韓国語を学ぶ学生を対象として、基礎文法の習得に重点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」ための基礎力を養うことを目標とする。</p> <p>外国語科目のうち「韓国・朝鮮語」を選択する場合、第一言語8単位として履修する場合と、第二言語4単位として履修する場合も、「韓国・朝鮮語Ⅱ」を受講することを勧める。</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ハングル能力検定試験」の5級に含まれる語彙や表現を使い基礎文法を修得する。 2. 簡単な会話文で音読や書く練習を行ない、聞く・読む・話す・書くための基礎力を養う。 3. 言語を通して、韓国社会や文化に対する理解を深めていく。 4. 韓国文化関連DVDや視聴覚教材を取り入れながら、授業を進めていく。 		
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)、小テスト(30%)、期末試験(50%)で評価する。		
テキスト	『改定版・韓国語の世界へ』(入門編)ーコツコツ学び、カジュアルに話そうー、朝日出版社 (ISBN:978-4-255-55621-5) テキストは各自でご用意下さい。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	韓国・朝鮮語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、演習形式で実施する。語彙、基本的な文法構造などを学習することに重点を置く。また、視聴覚教材を活用して、韓国の社会や文化についての理解を深める。学生は授業に出席し、試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語の基礎、簡単な日常会話、「聞く」「話す」「読む」「書く」の融合		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「韓国・朝鮮語Ⅰ」を履修単位で習得した学生を対象として、簡単な日常会話ができるよう、実用に堪える言語習得を目標とする。外国語科目のうち「韓国・朝鮮語」を選択する場合は、所謂第一言語8単位として履修する場合も、第二言語4単位として履修する場合も、「韓国・朝鮮語Ⅰ」に続けて、この「韓国・朝鮮語Ⅲ」を受講しなければならない。また、2クラスを設定しているので人数調整する場合がある。		
授業の内容	韓国語の基本的な語彙・語法の習得を目指す。 1. 簡単な会話文を用いることにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく融合して習得できるようにする。 2. すでに習得した単語や文法知識を利用することにより、簡単な日常会話ができるような様々な場面を設定して練習を繰り返し、実用に堪える言語習得を目標とする。 3. 特に、言語を通して韓国の文化や韓国語の考え方を理解する能力を高める。		
成績評価の方法	試験(50%、口頭と筆記)、課題やreport(30%)、出席(20%)で評価する。受講生の都合によって課題の割合が増えることもある。		
テキスト	1. 基本教材：韓国語1(ソウル大学校 言語教育院 刊行) 2. その他プリントとテキストは配布 3. 辞書は自分で準備する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1. 韓国語を4単位以上取る場合、辞書を準備、持参すること。		

授業科目名	韓国・朝鮮語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	金 根五 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、演習形式で実施する。発音の基礎から、基本的な文法構造などを学習することに重点を置く。また視聴覚教材を活用して、韓国の社会や文化についての理解を深める。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や課題提出が義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科) 選択必修		
キーワード	韓国・朝鮮語の基礎、簡単な日常会話、「聞く」「話す」「読む」「書く」の融合		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第一言語8単位、または所謂第二言語4単位の履修において、最も基礎となる授業である。「韓国・朝鮮語Ⅰ」を履修し単位修得した学生を対象として、簡単な日常会話ができるよう、実用に堪える言語習得を目標とする。		
授業の内容	韓国・朝鮮語の基礎的な語彙・語法の習得を目指す。簡単な会話文を用いることにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく融合して習得できるようにする。すでに習得した単語や文法知識を利用することにより、簡単な日常会話ができるように色々な場面を設定して練習を繰り返し、実用に堪える言語習得を目標とする。特に、言語を通して韓国の文化や韓国・朝鮮語の考え方を理解する能力を高める。		
成績評価の方法	出席(10%)、小テスト及び課題(30%)、期末試験(60%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	木内 明著『基礎から学ぶ韓国語講座・初級』(改訂版) 国書刊行会		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の私語に対しては厳しく対処するので注意すること。		

授業科目名	韓国・朝鮮語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 銀志		
研究室の場所	広島キャンパス 1717研究室		
オフィスアワー	水曜日16:00-18:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、演習形式で実施する。学生は毎回出席し、小テストや期末試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国・朝鮮語の基礎の固め、文法の理解、聞き取り、作文の練習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この授業では中級レベルに行くまでの韓国・朝鮮語の基礎的な語彙や文型、文法知識を固めると同時に、「ハングル能力検定試験」の5級のレベルに至る言語習得を目標とする。</p> <p>この科目は国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂8単位修得の言語を選択履修する場合において、基礎固めに必要不可欠な科目である。</p>		
授業の内容	<p>韓国・朝鮮語Ⅱで学んだ「ハングル能力検定試験」の5級に含まれる語彙や文法表現などを踏まえながら、中級レベルに行くまでの韓国・朝鮮語の基礎を固める。また、日常生活における様々なテーマを取り上げ、書く練習を行い文法力の培養を目指す。なお、学習者が楽しく学び、韓国について理解を高めることができるように、韓国文化関連DVDや視聴覚教材などを取り入れながら、授業を進めていく。</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み(20%)、小テスト(30%)、期末試験(50%)で評価する。		
テキスト	『改定版・韓国語の世界へ』(入門編)ーコツコツ学び、カジュアルに話そうー、朝日出版社 (ISBN:978-4-255-55621-5) テキストは各自で用意して下さい。		
参考文献	参考図書は授業時に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、前期で習ったところを復習しておくこと。 外国語科目のうち「韓国・朝鮮語」を選択する場合、8単位言語として履修する場合は、必ず受講しなければならぬ。ただし、「韓国・朝鮮語Ⅰ」「韓国・朝鮮語Ⅱ」の単位未取得の場合は、履修できない。		

授業科目名	韓国・朝鮮語V		
担当教員氏名(助手氏名)	金 根五 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、演習形式で実施する。生徒は授業に出席し、小テストを含む試験や課題提出が義務つけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級韓国・朝鮮語、日常会話、リスニング、社会と文化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>韓国・朝鮮語初級を受講した生徒を対象として、次のようなことができるようになるのが目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中級程度の韓国・朝鮮語の文法を駆使して会話、作文ができること。 2) 韓国・朝鮮語の新聞記事やドラマの内容がある程度理解できること。 3) 韓国社会・文化に対する理解と興味が増すこと。 		
授業の内容	<p>韓国・朝鮮語初級の内容を復習しながら、中級程度の韓国・朝鮮語の文法、会話能力を発展させる。また、日常会話でよく使われるような表現などを繰り返し練習していく。さらに、韓国の音楽を聴き、韓国ドラマや映画を観て、より多様な表現方法の習得とリスニング能力も高めると同時に、韓国社会・文化に対する理解を深めていく。</p>		
成績評価の方法	出席(10%)、小テスト及び課題(30%)、期末試験(60%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	金 順玉・阪堂 千津子・崔 栄美 著『ちょこっとチャレンジ!韓国語』白水社		
参考文献	授業で紹介する。必要に応じてプリントも配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	語学授業なので、授業に積極的に参加してほしい。ただし、授業中の私語に対しては厳しく対処していく。		

授業科目名	韓国・朝鮮語VI		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、演習形式で実施する。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級韓国語、語法・文型の理解、「読む」「書く」の練習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「韓国・朝鮮語 I-IV」の2講座以上を履修単位習得した学生を対象として、実用会話、語法・文型の理解と作文の練習に重点を置き、実用に堪える言語習得を目標とする。外国語科目のうち「韓国・朝鮮語」を選択する場合は、所謂第一言語8単位として履修する場合は必ず受講しなければならない。		
授業の内容	<p>基本的な初級入門段階の韓国語を土台として、より多彩で高度な文章の読解を通して文法知識の獲得定着と作文能力の向上とを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なsituationに於いて会話を練習する。 2. 日常生活の様々な場面や韓国の現状を紹介した文章を用いて、語法・文型の理解を深め、基本的な語彙・語法を利用して作文し、意見を交換する能力を高める。 3. あるテーマに即した発表を実践することにより、相手の考えを理解したり、自分の見方をより適切に伝えるための作文の能力の伸長を図る。 		
成績評価の方法	試験(50%、口頭と筆記)、課題やreport(30%)、出席(20%)で評価する。受講生の都合によって課題の割合が増えることもある。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本教材：韓国語教材(学期初配布) 2. その他プリントと教材は配布する。 3. 辞書は自分で準備する。 		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国語辞書を準備、持参すること。 2. 韓国語能力試験(TOPIK)の受験の成績によって、科目成績評価に加算する。韓国語能力試験1級から成績評価に1gradeずつ加算・反映する。 		

授業科目名	韓国・朝鮮語Ⅶ		
担当教員氏名(助手氏名)	金 根五 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、演習形式で実施する。生徒は授業に出席し、小テストを含む試験や課題提出が義務つけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級韓国・朝鮮語、日常会話、リスニング、社会と文化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>韓国・朝鮮語初級、韓国・朝鮮語Ⅴを受講した生徒を対象として、次のようなことができ、それをさらに向上させることが目標である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中級程度の韓国・朝鮮語の文法を駆使して会話、作文ができること。 2) 韓国・朝鮮語の新聞記事やドラマの内容がある程度理解できること。 3) 韓国社会・文化に対する理解と興味が増すこと。 		
授業の内容	<p>韓国・朝鮮語Ⅴの内容を復習しながら、続いて中級程度の韓国・朝鮮語の文法、会話能力を発展させる。また、日常会話でよく使われるような表現などを繰り返し練習していく。さらに、韓国の音楽を聴き、韓国ドラマや映画を観て、より多様な表方法の習得とリスニング能力も高めると同時に、韓国社会・文化に対する理解を深めていく。そして実際の場面を想定した会話練習を通じて、実際に韓国人と接しても、臆することなく堂々と会話ができるようにする。</p>		
成績評価の方法	出席(10%)、小テスト及び課題(30%)、期末試験(60%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	金 順玉・阪堂 千津子・崔 栄美 著『ちょこっとチャレンジ!韓国語』白水社		
参考文献	授業で紹介する。必要に応じてプリントも配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	語学授業なので、授業に積極的に参加してほしい。ただし、授業中の私語に対しては厳しく対処していく。		

授業科目名	韓国・朝鮮語Ⅷ		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、演習形式で実施する。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中級韓国語、実用会話、語法・文型の定着、総合的練習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅵ」の3講座以上を履修単位習得した学生を対象として、実用会話、語法・文型の理解と作文の練習に重点を置き、実用に堪える言語習得を目標とする。外国語科目のうち「韓国・朝鮮語」を選択する場合は、所謂第一言語8単位として履修する場合は必ず受講しなければならない。		
授業の内容	韓国語Ⅰ～Ⅵを土台として、さらに多彩で高度な文章の読解を通して、文法知識の定着と、作文能力の向上とを目指す。 1. 様々な場面に於いて会話を練習する。 2. 日常生活の様々な場面や韓国の文化を題材とした文章を用いて、語法・文型の基礎的理解を整理定着させ、韓国語で考える能力を高めるとともに、いろいろな表現様式を利用して、意志を適切に伝える能力を高める。 3. 発表練習を繰り返すことにより、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能が総合的に習得できるように鍛錬する。		
成績評価の方法	試験(50%、口頭と筆記)、課題やreport(30%)、出席(20%)で評価する。受講生の都合によって課題の割合が増えることもある。		
テキスト	1. 基本教材：韓国語教材(学期初配布) 2. その他プリントと教材は配布する。 3. 辞書は自分で準備する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1. 韓国語辞書を準備、持参すること。 2. 韓国語能力試験(TOPIK)の受験の成績によって、科目成績評価に加算する。韓国語能力試験1級から成績評価に1gradeずつ加算・反映する。		

授業科目名	ドイツ語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小田 智敏 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第二言語4単位の履修において「ドイツ語」を選択する場合、最初に履修しなければならない科目です。ドイツ語の基本的な表現様式の修得に重点を置きます。(国際文化学科)		
授業の内容	日常的なあいさつ表現や基本的文法の修得を通じてドイツ語の全体像に触れ、教養とすることを目指します。動詞の人称変化と名詞の格変化を中心に、最も基本的な表現様式を反復練習しますので、受講者の皆さんは実技課目のつもりで参加してください。言葉は、それを話す人々の基本的な世界了解の仕方でもありますから、ヨーロッパの言語の特徴を英語よりも濃厚に維持しているドイツ語を学ぶことによって、ヨーロッパ文化をより広い視野から理解することも、この授業の目標の一つです。		
成績評価の方法	期末試験の成績(9割)に、普段の授業への参加度を加味して(1割)評価します。		
テキスト	『ベルリンに夢中』(同学社)		
参考文献	同学社『新アポロン独和辞典』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「ドイツ語」を選択する場合は、所謂第二言語4単位の1単位分として、この「ドイツ語 I」を受講しなければなりません。		

授業科目名	ドイツ語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小田 智敏 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。発音練習・文法問題練習への積極的な参加を期待します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は国際文化学科共通専門科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第二言語4単位の履修において「ドイツ語」を選択する場合、「ドイツ語Ⅰ」に続いて履修しなければならない科目です。ドイツ語表現の特徴の理解に重点を置きます。(国際文化学科)		
授業の内容	「ドイツ語Ⅰ」に続いて、動詞の3基本形、完了などの時制、再帰動詞、分離動詞、関係代名詞、受動態、接続法などを、練習を通じて理解し修得します。英文法との共通点、英語とドイツ語に共通ないし類似する語彙を発見することで、言語の系統を意識するとともに、ドイツ語の特徴を通して、ドイツ語圏の人々のものものとりえ方・表現様式を理解し、広くヨーロッパ文化の理解を目指します。		
成績評価の方法	期末試験の成績(9割)に、普段の授業への参加度を加味して(1割)評価します。		
テキスト	『ベルリンに夢中』(同学社)		
参考文献	同学社『新アポロン独和辞典』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「ドイツ語」を選択する場合は、所謂第二言語4単位の1単位分として、「ドイツ語Ⅰ」に続けて、この「ドイツ語Ⅱ」を受講しなければなりません。		

授業科目名	ドイツ語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	小田 智敏 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。発音練習・ドイツ語読解・独作文への積極的な参加を期待します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	ドイツ語文法の修得者を対象に、実際にテキストを読みながら文法的知識の応用力を身に付ける訓練を行います。さまざまな文章を読む練習をしながら、基本的な文章が書け、話し、聞くことができるような練習も織り込みます。語学力を増しながら、ドイツ語をとおしてドイツ語圏の人々の物の考え方、世界観を学び、ドイツ文化を経験し、同時に日本文化をより深く理解することを期待します。		
成績評価の方法	期末試験の成績（7割）に、普段の授業への参加度を加味して（3割）評価します。		
テキスト	『名作イージーリーダー』（朝日出版社）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」の履修者が基本的対象です。授業には独和辞典を持参の上で参加してください。		

授業科目名	ドイツ語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	小田 智敏 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。発音練習・ドイツ語読解・独作文への積極的な参加を期待します。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	ドイツ語Ⅲで獲得した技能を発展させることを目指します。さらに進んだテキストを使い応用力を培って、読み、書き、話し、聴く4技能を修練します。この授業を通じてドイツ語圏の人々の世界観・文化をさらに深く理解し、同系統の言語である英語と英語を母語とする英語圏の人々の世界観・文化を異なった視角から見る力を養います。この経験によって、ドイツ文化とヨーロッパ文化の比較で日本文化の特徴をより深く考え経験することを、参加者の皆さんに期待します。		
成績評価の方法	期末試験の成績(7割)に、普段の授業への参加度を加味して(3割)評価します。		
テキスト	『名作イージーリーダー』(朝日出版社)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」「ドイツ語Ⅲ」の履修者が基本的対象です。授業には独和辞典を持参の上で参加してください。		

授業科目名	フランス語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	林田 浩見 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って演習形式で実施する。学生は授業への出席、期末試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	入門フランス語、コミュニケーションと文化、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第二言語4単位の履修において、もっとも基礎となる授業である。これまでほとんどフランス語を学習していない学生を対象とし、言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置く。		
授業の内容	フランス語の発音の基礎、表記と発音のルール、簡単な日常会話を身に付けながら基礎文法を学ぶ。「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく修得することを目標とし、言語を通じてフランスの文化の諸相に触れ、日仏文化の違いを考察しながら異文化理解を深める。CD・DVDなど視聴覚教材を取り入れる。		
成績評価の方法	期末試験・課題 (70%)、積極的授業参加度(30%)の割合で評価		
テキスト	『場面で学ぶフランス語』(改訂版) CD&ワークブック付/ 高橋百代・Nicolas J?gonday著/三修社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「フランス語」を選択する場合は所謂第二言語4単位の1単位分として、すべてこの「フランス語 I」を受講しなければならない。聴講も可。		

授業科目名	フランス語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	林田 浩見 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って演習形式で実施する。学生は授業への出席、期末試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基礎フランス語、コミュニケーションと文化、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科共通科目の外国語科目に位置し、2言語履修のうちの所謂第二言語4単位の履修において、「フランス語Ⅰ」に続いて基礎となる授業である。聴解、会話練習、読解に必要な基礎文法に重点を置く。		
授業の内容	「フランス語Ⅰ」の履修を前提とし、前期に続き同様の方針で行なう。聴解、読解に必要な基礎文法の仕上げをし、「フランス語Ⅰ」に続き、正確な発音を身に付けながら、トピック・シチュエーションごとの会話練習を行い、短い文章の読解も行う。最終的に仏検5級・4級合格レベルに達することを目標とする。言語を通じてフランスの文化の諸相に触れ、日仏文化の違いを考察しながら異文化理解を深める。CD・DVDなど視聴覚教材を取り入れる。		
成績評価の方法	期末試験・課題 (70%)、積極的授業参加度(30%)の割合で評価		
テキスト	『場面で学ぶフランス語』(改訂版) CD&ワークブック付/ 高橋百代・Nicolas J?gonday著/三修社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「フランス語」を選択する場合は、所謂第二言語4単位の1単位分として、「フランス語Ⅰ」に続けてこの「フランス語Ⅱ」を受講しなければならない。「フランス語Ⅰ」が単位未修得の場合は履修できない。ただし聴講は可。		

授業科目名	フランス語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	林田 浩見 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	毎週1回		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科2年次以降対象。「フランス語Ⅰ,Ⅱ」を履修済みであること。		
免許等指定科目			
キーワード	外国語、フランス語、フランス文化、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	フランス語Ⅰ・Ⅱを修得した学生を対象とする。フランス語Ⅰ・Ⅱに続き、異文化理解を深め、フランス語圏で通じるコミュニケーションのための4技能、「聞く、話す、読む、書く」能力を高めること、特に日常会話会話力をつけることを目標とする。(仏検4級3級の合格を視野に)		
授業の内容	旅行、日常生活の場面に即したコミュニケーションを想定したテキストおよびCD・DVDなどの視聴覚教材を活用し、運用能力を見につけるとともに、フランスの歴史的背景、フランスの今、首都パリと地方、映画・音楽・美術などのフランス文化と日仏の交流についても紹介していく。		
成績評価の方法	期末試験・課題(70%)、積極的授業参加度(30%)の割合で評価		
テキスト	『場面で学ぶフランス語2』CD&ワークブック付／高橋百代・Brigitte Moser Hori著／三修社		
参考文献	『場面で学ぶフランス語1(改訂版)』CD&ワークブック付／高橋百代・Brigitte Moser Hori著／三修社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「フランス語」を選択する場合は、所謂第二言語4単位の1単位分として、「フランス語Ⅰ・Ⅱ」に続けて、この「フランス語Ⅲ」を受講しなければならない。ただし聴講も可。		

授業科目名	フランス語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	林田 浩見 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	毎週1回		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科2年次以降対象。「フランス語Ⅰ,Ⅱ」「フランス語Ⅲ」を履修済みであること。		
免許等指定科目			
キーワード	外国語、フランス語、フランス文化、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	フランス語Ⅰ・Ⅱおよびフランス語Ⅲを修得した学生を対象とする。フランス語Ⅲに続き、異文化理解を深め、フランス語圏で通じるコミュニケーションのための4技能、「聞く、話す、読む、書く」能力を高めること、特に日常会話会話力をつけることを目標とする。(仏検4級3級の合格を視野に)		
授業の内容	旅行、日常生活の場面に即したコミュニケーションを想定したテキストおよびCD・DVDなどの視聴覚教材を活用し、運用能力を見につけるとともに、フランスの歴史的背景、フランスの今、首都パリと地方、映画・音楽・美術などのフランス文化と日仏の交流についても紹介していく。		
成績評価の方法	期末試験・課題(70%)、積極的授業参加度(30%)の割合で評価		
テキスト	『場面で学ぶフランス語2』CD&ワークブック付/高橋百代・Brigitte Moser Hori著/三修社		
参考文献	『場面で学ぶフランス語1(改訂版)』CD&ワークブック付/高橋百代・Brigitte Moser Hori著/三修社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	外国語科目のうち「フランス語」を選択する場合は、所謂第二言語4単位の1単位分として、「フランス語Ⅰ・Ⅱ」「フランス語Ⅲ」に続けて、この「フランス語Ⅳ」を受講しなければならない。ただし聴講も可。		

授業科目名	国際文化学概説		
担当教員氏名(助手氏名)	学科教員		
研究室の場所	担当教員が指示する。		
オフィスアワー	担当教員が指示する。		
授業の形式・方式	対面授業。基本的には講義形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国際文化学、文化の多様性、異文化理解、各専門領域の関連性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>学科専門科目・学科基礎。 国際文化学科における学びの具体的なイメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。</p>		
授業の内容	<p>「異文化との接触」という共通テーマに対して、複数の地域・学問領域からアプローチしてゆくオムニバス授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、国際文化学科専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。</p>		
成績評価の方法	毎回のミニレポート（10点×14）と、期末レポート（60点）により評価する。		
テキスト	資料は前の週に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	フレッシュマンセミナー「基礎ゼミ」Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	学科教員		
研究室の場所	担当教員が指示する。		
オフィスアワー	担当教員が指示する。		
授業の形式・方式	対面授業。基本的には講義形式。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国際文化学、文化の多様性、異文化理解、各専門領域の関連性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目・学科基礎。 国際文化学科における学びの具体的なイメージを把握する。個々の専門領域についての基本的な前提と、専門領域相互の関連性について理解する。それらの理解を通じて、自らの適性と問題関心について自覚し、今後の履修方針と専門領域の適切な選択を行う能力を身につける。		
授業の内容	「異文化との接触」という共通テーマに対して、複数の地域・学問領域からアプローチしてゆくオムニバス授業である。様々な視点からの講義を受講しながら、国際文化学科専門科目の多様性と、それらの相互の関連性を理解し、自身の興味や関心の方向性を探る手がかりとする。		
成績評価の方法	毎回のミニレポート (10点×14) と、期末レポート (60点) により評価する。		
テキスト	資料は前の週に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	国際理解入門		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 ローゼン 富田(和) 植村		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	国際理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際化時代にあつて、グローバルな視野から現代社会の関係を考える「国際理解」の領域について、専門的に学ぶとはどういうことか、前提知識や研究手法等の学習を通じて、理解を深める。「国際理解」の専門科目を履修する際に必要な基礎学力を養う。		
授業の内容	担当教員が「国際理解」の領域についてそれぞれの専門から知識や研究手法について講義する。		
成績評価の方法	レポート100%：レポート4本(各25点)の合計点で採点。単位認定には三分の二以上の出席が必要。レポート課題・締切・字数・提出先などは各担当者が決定。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	文化研究入門		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木康之、吉本和弘、高橋渡、天野みゆき、小川吉昭、鄭銀志、丸山浩明、柳川順子、西本寮子、高松亮太、		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室 (鈴木)		
オフィスアワー	研究室にいるときはいつでも対応可。事前にメール等で連絡するのが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業、グループワーク、プレゼンテーション		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件			
免許等指定科目			
キーワード	文化研究、英米文化、東アジア文化、日本文化、思想文化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間文化を相対的に探求したり、英米・東アジア・日本それぞれの地域の文化を相互に比較したりする「文化研究」について、専門的に学んでいく際に必要な知識や研究手法等の学修を通じて、研究領域への理解を深めるとともに、「文化研究」の専門科目を履修する際に必要な基礎学力を養う。		
授業の内容	「英米文化」「東アジア文化」「日本文化」「思想文化」各分野の担当教員が、それぞれの学問領域の体系や方法論について論じる。 初回の授業時に5～6名程度のグループに別れ、グループワークを重視した授業を進める。 各教員は講義の内容をもとにレポートのテーマ、提出期限、提出場所等を指示する。 学生はグループごとに授業内容を参考にした研究テーマを決定し、最終回(第15回)にその成果を発表する。 第11回はワールド・カフェとして、「国際理解入門」「コミュニケーション入門」の履修生と学修成果の交流を行う。		
成績評価の方法	「英米文化」「思想文化」「東アジア文化」「日本文化」の4分野に対して各1本、計4本のレポートを提出する。4本のレポートの採点の平均値によって評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	コミュニケーション入門		
担当教員氏名(助手氏名)	小川俊、栗原、侯		
研究室の場所	広島キャンパス 1913 (小川)、1823 (栗原)、1926 (侯)		
オフィスアワー	時間割が確定次第 (4月上旬頃)、各教員より連絡します。		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式および演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	国際理解入門、文化研究入門、コミュニケーション入門のいずれかを履修(選択必修)
履修要件	特になし		
免許等指定科目	該当しない		
キーワード	コミュニケーション、異文化、言語、外国語、映画、演習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「コミュニケーション」分野では、価値観を尊重しあい、相互理解の為に必要な能力を養成します。この科目は、当該分野の導入・入門科目として設定されています。当該分野において基盤となる知識や研究手法等の学修を通じ、専門科目を履修・学修する際に必要な基礎学力を養います。		
授業の内容	①国際文化学科における「コミュニケーション」分野の開設科目について。 ②多義性を持って使用・理解されている「コミュニケーション」という用語の複層的・重層的実態について。 ③中国語から中国文化、アメリカ映画からアメリカ文化を見つめます。また、異文化研究の視点を獲得するために、日本語・日本文化を学びます。		
成績評価の方法	担当教員(3名)がそれぞれ100点満点で評価し、その平均値をとります。 受講生は3本以上のレポートを書き、提出します。		
テキスト	授業の際に適宜紹介します。 受講生が教科書を購入する必要はありません。		
参考文献	授業の際に適宜紹介します。 受講生が教科書を購入する必要はありません。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	6回以上欠席した場合、成績評価の対象外(0点)となります。 卒業論文中間報告会への参加を義務とします。		

授業科目名	政治学		
担当教員氏名(助手氏名)	原 理		
研究室の場所	広島キャンパス 1916研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示します。		
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード	政治、民主主義、英語、スピーチ、議論、討論、批評		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語で政治(特に民主主義)に関して議論する力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	この授業は英語で行う。現在の政治哲学において、民主主義は人類普遍の価値観(自由・人権・平等等)を基にした政治体制であり、一般的にこれ以上の政治体制はないとされている。そこで、このクラスでは民主主義とは何であるのかを学び、発表し、議論する。また、世界共通の価値観であることを前提に、日本および諸外国の政治問題等を民主主義の観点から議論する。		
成績評価の方法	出席と授業への貢献度。貢献度とは、授業での積極性や他の学生の発表に対する建設的な評価・批判のことである。		
テキスト	未定		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業は講義も学生の発言・発表もすべて英語で行う。学生の数により、授業内容を変更する可能性がある。		

授業科目名	国際関係史論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択, 高一種免(地歴)選択		
キーワード	東ユーラシア 東アジア 中央ユーラシア 冊封 朝貢 互市 条約		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	今日の「東アジア」の国際関係の歴史的背景を、前近代「東ユーラシア」地域における国際関係の変遷の中で理解する。「朝貢」「冊封」「互市」など、国際関係史にかかわる中国由来の概念を、それぞれの地域の立場に配慮しつつ説明できる。		
授業の内容	今日の「東アジア」(日本、韓国、北朝鮮、中国、台湾など)をめぐる動きはますます活発化している。この状況を的確に理解するには、この地域の国際関係史に対する理解が不可欠である。しかしながら、歴史世界としての「東アジア」に対する認識はこの数十年で大きく変化し、その理解のためには必ずしも「中国文化圏」には含まれない隣接地域も含めた「東ユーラシア」地域を視野に入れる必要がある。この授業では中国の諸王朝を軸にした「冊封」「朝貢」「互市」といった国際関係の論理を踏まえつつ、それらの論理には必ずしも包摂されない各地域独特の論理や実情にも目を配り、「東ユーラシア」地域における近二千年の国際関係史の変遷を概観して、近代欧米的な国際体制の枠組みを相対化する。		
成績評価の方法	(毎回のリアクションペーパー50%、期末試験50%)		
テキスト	授業内において、随時指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	イントロダクションの第1回を除き、一つのテーマを2回で履修する方式をとる。前半の回では講義形式中心でテーマにかかわる内容を解説し、後半の回ではその内容を踏まえてグループワークでテーマについての考察を深める。特に後半の回においては、前回の講義内容を踏まえておく必要があるため、復習をきちんとしておくこと。		

授業科目名	宗教学		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本貞雄（非常勤講師） 山本貴裕（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、講義形式で実施する。授業実施期間中にレポート課題を課す。学生は、授業に出席し、レポートを作成・提出し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日本、アメリカ、仏教、神道、儒教、キリスト教、プロテスタント、カトリック、福音派		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、日米の宗教的伝統のいくつかについて、その宗教思想そのものの論理や、それが特定の時代に特定の社会に与えてきた影響を概観する。本科目の目標は日米両社会の理解において不可欠である、それぞれの宗教的伝統についての基礎知識を獲得し、両社会の様々な事象を深いレベルにおいて理解できるようになることである。そのことは「自国と他国の文化に対する理解を深め、現代社会で活躍できる人材を育てる」という教育理念を掲げる国際文化学科のカリキュラムの重要な構成要素である。		
授業の内容	日本もアメリカも非常に宗教的な社会である。本科目では日本については仏教を、アメリカについてはキリスト教を中心的に取り上げ、それぞれの宗教思想の特徴と、その歴史・文化的な表現について学ぶ。日本の仏教とは？世界の宗教地図を見ると、日本は仏教国に位置づけられているが、他の仏教国と比べると、特異な存在であると言われている。古代インドで誕生した仏教が日本ではどのように受容され、根付き現代に伝わっているのかを見ることによって、日本の宗教についての理解を深めていきたい。アメリカのキリスト教については、とりわけプロテスタンティズム、さらにはそのもっとも運動的な表現である福音主義に焦点を当て、それが生まれた背景、そしてその論理、またそれがアメリカ社会の生成に与えた影響について考えてみたい。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポート30%の割合で評価する。試験は指定された教室内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。レポートの課題は授業実施期間内に指定します。記載分量は指定用紙の最下段まで埋まる程度とする。		
テキスト	複写資料教材を授業開始時に適宜配布する。		
参考文献	末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006年、森孝一『宗教から読む「アメリカ」』講談社1996年、宗教的な生き方について考える際に、福井ふみ子『小寺の灯』大東出版社、2004年が参考になると思います。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、日米文化を最も深い部分で規定するそれぞれの宗教的伝統の理解の大切さを学ぶことを求めらる。		

授業科目名	地誌学		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。必要に応じて、簡単な図表やコメントの作成，データ収集と集計を含む演習形式を併用し，その結果をレポートとして求める。各レポートの提出期限は通常，次回授業の終了時とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)必修，高一種免(地歴)必修		
キーワード	生活様式，風土，日本，インド，英国		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科共通専門科目のひとつとして，学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として位置づけられる。 高校で地理を履修していない場合でも「地域性」が理解できるよう，具体的事例をもとに，地域固有の生活様式とその形成に関与した自然環境と人文・社会環境を考察していく。		
授業の内容	長年にわたって地表面に住み続けてきた人々は，気候風土に適合した生活様式を築き上げた。また，経済・政治・社会・文化等の人文社会的条件のあり方とその変化にも対応してきた。よりよい生活を求めて，この過程は常に反復される。 一連の過程を理解し地域や環境を自分のものとして考えることができるよう，日本・インド・英国を中心に関連諸地域を事例に挙げ，最近の各国情勢と国際関係を提示することにより，地誌学的視点に立った地域の見方を理解してゆく。		
成績評価の方法	期末試験70%，課題レポート(宿題)20%，授業への参加度10%の割合で評価する。 試験は指定された教室(試験室)において，持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。 言うまでもないが，「学生便覧」の「試験(定期試験)」に記されているとおり，「授業に3分の2以上出席していること」を適用し，出席回数が規程に満たない学生は試験を受けられないので，注意すること。		
テキスト	『データブック オブ ザ ワールド 2016年版』二宮書店。		
参考文献	酒川 茂(1997)「英国における成人教育システムの立地と利用ーロンドンのカムデン区とキングストン区を事例としてー」新地理45(2)，1～19。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は，常にニュース等によって現在の社会情勢を把握しておくことが望ましい。 授業中，携帯電話等の使用は厳禁する。また，正当な理由のない遅刻は出席とみなさない。		

授業科目名	人文地理学		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。 必要に応じて、簡単な図表やコメントの作成、データ収集と集計を含む演習形式を併用し、その結果をレポートとして求める。 各レポートの提出期限は通常、次回授業の終了時とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)必修、高一種免(地歴)必修		
キーワード	地域区分、地域構造、機能地域、ネットワーク、人口移動、立地論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科共通専門科目のひとつとして、学科専門科目を履修していく上で基礎的な視点を提供する科目として位置づけられる。 高校で地理を履修していない場合でも理解できるように、人文地理学の各領域を網羅する形で分析事例を検討することによって、系統地理学的な視点と方法を身につけていく。 担当教員の学科専門科目「日本地域論」「日本地域論基礎演習」「日本地域論演習」の履修を想定している場合、本科目を受講しておくことが望ましい。		
授業の内容	人間の諸活動が営力となって、地表面には一定の地域構造が形づくられる。 地域性は地誌学的概念として理解されるが、その検討において地域区分は重要な意味をもつ。区分された地域単位を等質地域ととらえるか、機能地域ととらえるかによっても地域に対する見方は大きく異なってくる。機能論に立脚すれば、ネットワーク・人口移動・機能的地域分化・立地論等は有効な分析枠組みとなる。 これらの基礎的概念を具体的事例とともに提示することにより、人文地理学の視点に立った地域の見方を理解してゆく。		
成績評価の方法	期末試験60%、課題レポート(宿題)30%、授業への参加度10%の割合で評価する。 試験は指定された教室(試験室)において、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。 言うまでもないが、「学生便覧」の「試験(定期試験)」に記されているとおり、「授業に3分の2以上出席していること」を適用し、出席回数が規程に満たない学生は試験を受けられないので、注意すること。		
テキスト	テキストは使用せず、プリントを適宜配布する。		
参考文献	酒川 茂(2001)「横浜市の学校施設活用型コミュニティハウスにおける生涯学習活動の展開」地理学評論Ser. A 74(2), 83~99.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、現実の経済・社会・文化的諸活動がいかなる地域(または地域間)で展開されているか、ニュース等によって把握しておくことが望ましい。 授業中、携帯電話等の使用は厳禁する。また、正当な理由のない遅刻は出席とみなさない。		

授業科目名	自然地理学		
担当教員氏名(助手氏名)	澤田 結基 (非常勤講師)		
研究室の場所	福山市立大学 (広島県福山市港町2-19-1)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義を中心にするが、必要に応じて実験・野外巡検も行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1・2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)必修, 高一種免(地歴)必修		
キーワード	プレートテクトニクス、地震、火山、地形、気候変動、第四紀		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義では、日本国内に展開する自然環境の特性を、地理学的な視点から整理して学習する。受講生が自然環境に関する文献を検索し、理解する上で必要なキーワードの意味を理解すること、すなわち自習を進めるための基礎知識を身につけることが、本講義の最大の目的である。		
授業の内容	講義の前半では、プレートテクトニクス理論から日本列島の成り立ちと地震・火山活動のしくみを学び、活断層・火山がつくる地形について理解する。後半では、気候変動によって生じた自然環境、特に地形や植生の変化を学ぶ。休日を利用して宮島へ行き、地質と地形、土石流災害の跡を見学する巡検を実施する。		
成績評価の方法	授業への姿勢(20%)、中間レポート課題(20%)と、期末試験(60%)を合わせて評価する。		
テキスト	内容が広範囲にわたるのでテキストは指定せず、配布資料を用いる。		
参考文献	青木正博・目代邦康「地層の見方がわかるフィールド図鑑」、誠文堂新光社 青木正博・目代邦康・澤田結基「地形がわかるフィールド図鑑」誠文堂新光社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回の講義で、リアクションペーパーの提出を求める。授業中に解決できなかった疑問などを書いて欲しい。疑問への解答・補足説明は、次回講義の冒頭で行う。		

授業科目名	比較文学論		
担当教員氏名(助手氏名)	遠藤伸治、高橋渡、柳川順子		
研究室の場所	庄原キャンパス2406研究室、広島キャンパス1822、1713研究室		
オフィスアワー	初回の授業で提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。教員の講義を挟みながら、基本的には学生によるグループ発表と、教員を含めての全員によるディスカッションにより授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	比較文学、比較文化、夏目漱石、日本近代文学、英文学、中国文学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際文化学科の学科共通専門科目。 ひとつの作品を、複数の地域文化の視点から読み解くことを通して、複眼的視点と柔軟な思考力を身につけることを目指す。		
授業の内容	日本近代文学の代表的作家、夏目漱石の「三四郎」を精読する。漢学的素養を持ち、イギリスに留学して西洋の新しい文学や思想を学んだ夏目漱石は、日本が近代国家へと変貌してゆく明治時代に位置して、どのような思いからこの小説を世に送り出したのだろうか。本作品が表象する近代日本社会の問題を理解し、処々に認められる英文学や中国古典文学の影響に目を留めながら、漱石「三四郎」が提示する文学表象の世界を探究する。		
成績評価の方法	研究発表・質疑応答(40%)、毎時の活動(30%)、最終レポート(30%)により、総合的に評価する。		
テキスト	夏目漱石『三四郎』(新潮文庫)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者全員、次回に扱う章を熟読し、質疑応答を活発に行うこと。発表担当者は十分に分析・調査し、プリント資料を十分に用意すること。		

授業科目名	地域文化学（宮島学）		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山伸隆，天野みゆき，西本寮子，柳川順子，鈴木康之，大知徳子		
研究室の場所	宮島学センター（2219）		
オフィスアワー	宮島学センターに大知が在室するときは、いつでも可。メールで事前に予約することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式で行うが、宮島を訪れるフィールドワークや、学生がグループをつくり、課題について調査をおこなうグループワークもおこなう。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	宮島，廿日市市，厳島神社，平清盛，毛利氏，石見銀山，舞楽，文化財保存，芸能，厳島八景，祭，外国人観光客，土器，国産陶器，輸入陶磁器，瀬戸内海流通		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	世界文化遺産 厳島神社を有する宮島について、歴史、文学、芸能などの多様な視点から総合的・学際的に明らかにするとともに、特別授業やフィールドワークを通じて、地域の現状と課題を認識する。		
授業の内容	日本史，考古学，日本文化史，日本文学，英文学，中国文学を専攻する教員が，オムニバス方式で多様な視点とそれぞれの方法論で「宮島」の歴史と文化に迫る。		
成績評価の方法	授業への取り組みとレポート（2回）で評価する。レポート課題は，個人で取り組む課題とグループで取り組む課題の2種類を提示する。期末試験は実施しない。		
テキスト	テキストは使用しない。毎時間，プリントを配布する。		
参考文献	参考文献 宮島学センター編『宮島学』（溪水社，平成26年）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	土・日曜日や夏期休暇中に，厳島神社の神事・祭礼や文化財・史跡の見学などのフィールドワークを実施する。また，この授業で得た知識を活用して，後期に観光客を案内する宮島観光ボランティアガイド講座も開講するので，あわせて受講してほしい。		

授業科目名	言語学		
担当教員氏名(助手氏名)	今田 良信 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務づけられる。講義形式なのでノートを取ることが必要になる。また、学生には授業中の積極的な質問を要望したい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	言語, 言語学, 音韻論, 形態論, 統語論, 意味論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	言語学の射程とその基本的枠組み・基本的概念を把握した上で、言語を研究対象とする学問を進める際の基盤を確立することを目標とする。		
授業の内容	言語学は、過去・現在の人間のあらゆる言語を対象とし、その姿や働き、メカニズムを科学的に分析・研究する広範な学問である。本講義は、初めて言語学を学ぶ学生を対象として、言語学の対象・目的・研究領域（音韻論・形態論・統語論・意味論など）、言語研究の方法、言語の定義、動物のコミュニケーションと人間の言語の特徴、世界の言語の系統と分布、言語の類型、世界の文字などについて、いろいろな言語の具体的な事例を通じて概説する。		
成績評価の方法	講義形式なので、出席が重視される。期末試験70%、出席点30%の割合で評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、配布プリントおよび自筆ノートは持ち込み可で実施する。（他の人のノートのコピーは持ち込み不可）。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施する。		
テキスト	特定のテキストは使わず、プリントを適宜（無料）配布する。		
参考文献	参考文献リストを配布するほか、授業中にも適宜紹介するので、活用してもらいたい。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語学は、研究分野の射程が広く、様々な理論や仮説も多くあり、必然的に授業では選択的に取り扱わざるを得ない。授業で取り扱った事柄に関しての疑問点や興味が湧いた点については、授業中に質問したり、配布資料などを手掛かりとして図書館や研究室に所蔵されている図書・辞典類を利用して自分で調べ、自発的に言語学の理解に努めてもらいたい。		

授業科目名	マスコミ・ジャーナリズム論		
担当教員氏名(助手氏名)	部谷 修 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。必要に応じてパワーポイントを使う。授業時間は2時間(1回)。各講義では初めに、当日配布する新聞を題材に、社会の動きとマスコミ・ジャーナリズムの役割を確認、併せて新聞を読む習慣、情報を読み解くを身につける。学生は自習(4時間)で新聞やテレビ、ネットなどのマスコミに接し、感想や意見を話す。学生は毎回の授業後、コミュニケーションカードを提出するほか、課題に応じてレポートを作成・提出すること、試験を受けることを義務付ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	マスコミ、ジャーナリズム、メディア、新聞、テレビ、雑誌、広告、ウェブサイト、情報産業、情報リテラシー、記事、時事問題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	人々の価値観が多様になっている現代社会。国際化は進み、社会の仕組みがより複雑になるなかで、社会の出来事を伝えるジャーナリズムの役割は大きくなっている。一方で、インターネットなど「伝える手段」は進化を続け、だれでもが伝える立場にもなれる時代になってきた。悪意があったり、真偽の定かでない情報から、必要な情報を選び取るメディアリテラシーは欠かせない。マスメディアの主軸である新聞を素材にジャーナリズムを考える。		
授業の内容	人は社会で生き、社会に生かされる存在です。社会には人間の活動を円滑にするさまざまな情報が交錯しています。社会生活は、情報を発信するマスメディア、ジャーナリズムと無縁では成り立たないのが現状です。マスメディア、ジャーナリズムとどのように向き合うかを、一緒に考えます。そのため、マスメディアの代表格である新聞を知り、必要な情報がどのように集められ、送り出されているかを知ることから始めます。新聞記者の取材の方法、記事の書き方、編集について学びます。突発事件や事故では、時間の制約の中、優先順位を考えながら「5W1H」を盛り込み、大切なことから書く「逆三角形」の記事で伝えます。社会事象の解説機能も欠かせません。また、メディアを資金面で支える広告は社会を映す鏡であり、人々の感性に訴えて「時代」を作ります。現場で活躍する広告マンに話してもらいます。マスメディアは新聞から雑誌、映画、ラジオ、テレビを経てインターネットへと伝える手段が拡大しています。情報の受け手だけだった人々は、情報を自ら発信する、送り手にもなれる時代になってきました。社会人になって、必要な情報をどう選択するか、同時にどう発信すれば正確に伝わるのか、についても学びます。		
成績評価の方法	各講義後に提出するコミュニケーションカードによる講義の理解度と、中間で実施するレポート、学期末テスト(小論文)で評価する。割合は学期末テスト50%、コミュニケーションカード30%、レポート20%。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で指定された教室(試験室)で行う。試験は、受講ノート持込み可。レポートの課題は授業で提示する。		
テキスト	記者ハンドブック—新聞用字用語集第12版(共同通信社、1200円)、講義当日の中国新聞配布(1部30円)。		
参考文献	「池上彰の新聞勉強術」(ダイヤモンド社)、山本直人著「電通とリクルート」(新潮選書)、桂敬一著「現代の新聞」(岩波新書)、原寿雄著「ジャーナリズムの可能性」(同)、藤田博司著「アメリカのジャーナリズム」(同)、福井健策著「著作権とは何か」(集英社新書)、今野信雄著「広告世相史」(中公新書)、木村和寛著「メディアは戦争にどうかかわってきたか」(朝日新聞社)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は毎日、新聞に目を通して社会の動き、情報の伝え方に関心を持ってください。学習を基に新聞などマスメディアに接することで、必要な情報を選択する力であるリテラシーが身につきます。また、伝えたいことを簡潔に伝える力を養うことにつながります。試験、レポートは借り物ではない、自分の考えを表現してください。記者ハンドブックは全国の新聞記者が記事を書く際に使っている指針です。多くの人に分かりやすく正確に伝える工夫が盛り込まれています。社会人になっても役立ちます。しっかり読み込んでください。		

授業科目名	人間関係論		
担当教員氏名(助手氏名)	植田 智 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、各テーマごとにレジュメを配布し、その内容について主に講義形式で授業を行う。また、各テーマの冒頭では、そのテーマにかかわる自分自身のこれまでの経験や意見を書かせる時間を設け、テーマ理解のための補助とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	人間関係, 自己, 対人コミュニケーション, 対人魅力, エゴグラム, 交流分析, 対人行動, リーダーシップ, ストレス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学科共通専門科目コミュニケーションの選択科目。 コミュニケーションは、その背景となる人間関係を抜きには考えられない。より豊かなコミュニケーションをめざして、人間関係の中で起こるさまざまな心理的な動きを理解することを目標とする。		
授業の内容	コミュニケーションとは単に言語的な内容のやりとりだけで成立するものではなく、そこに存在している人間関係に影響を受ける。また、コミュニケーションにおける理解とは、客観と主観とが重なり合う中で成り立つものであると言えよう。したがって、そうした心の機能について理解しておくことは、コミュニケーションについて考える場合にも重要である。そこで、おもに社会心理学の知見を中心に、発達心理学、認知心理学、精神分析学などの知見も交えながら、学生自身の経験も手がかりにして、人間関係の成り立ちについて考えていきたい。		
成績評価の方法	期末試験90%、授業態度10%で評価する。試験は授業に即した課題を指定期日までにレポートにまとめて提出する形で行う。単なる授業内容の要約や理論の解説ではなく、実生活に即して考察することを求めるものとする。授業態度は、毎回の出欠表に書き込まれる感想や質問事項の内容で判断する。		
テキスト			
参考文献	深田博己著 『インターパーソナル・コミュニケーションー対人コミュニケーションの心理学』 北大路書房, 1998。 杉田峰康著 『講座サイコセラピー8 交流分析』 日本文化科学社, 1985。 その他は、授業の中で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	社会心理学は人間関係の心理学であり、日常生活と密接にかかわりを持つ領域です。それだけに、興味・関心も抱きやすいのではないかと思います。人間関係の中で生じる「なぜ? どうして?」を、よりよい人間関係のために必要なものは何かを、一緒に考えてみませんか?		

授業科目名	国際法		
担当教員氏名(助手氏名)	西谷 元 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。国際法の基本的概念(条約など)を説明した後、国連、領土問題、国際紛争の解決、国際司法裁判所などが関連する具体的事例を数件程度あつかう。国際法資料集に掲載の判例、条約、統計などを熟読して授業に参加していることを前提として講義を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け			
授業の内容	国際社会において適用されている法が、いかに現代の日本社会、また個人に関係しているかを、具体例を中心に講義する。国際法について基本的な説明をしたあと、国際法における重要な問題点、近年問題となっている法的論点を追うことにより、国際法の中心的な問題をカバーする。具体的事例の検討を行い、一次資料(判例、条約、新聞資料、インターネット)などを参照することにより、これらの事例を多角的視点より明らかにする。扱う具体例としては、領土問題、北朝鮮の核実験の合法性、国連による制裁、PKO、戦後補償、子どもの権利条約などの条約に基づいて裁判所で権利を主張できるか、などがあげられる。		
成績評価の方法	期末試験100%。語句説明、空欄記入など知識を問う問題が40%。論述問題が60%。		
テキスト	国際法資料集 日本評論社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	国際経済論		
担当教員氏名(助手氏名)	川本 明人 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面講義として学生の皆さんとコミュニケーションをとりながら進めます。毎回のテーマの基本的な事項や概念を下記教科書を用いながらわかりやすく説明していきます。さらに公表されているデータや文献、新聞などから資料も用意して授業を構成します。また本授業の後半ではグループに分かれてテーマごとに発表をしてもらう予定です。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード	グローバリゼーション 貿易 外国為替 国際金融 海外投資 国際収支 円相場 多国籍企業 ユーロ 国際通貨		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	これから国際的な素養を身につけようとしている学生の皆さんが、世界経済の現状や国際的な経済金融関係について基礎的なポイントを理解することを目標にします。国際文化や国際社会を形成するのは人の営みであり、その営みはやはり人の経済活動によって支えられています。人々や国の経済活動は外国との様々な関わりの中で達成されており、孤立しては生きていけません。さまざまな国際活動を形成していく基盤となる経済取引や企業活動の国際的仕組みの概略を理解しながら、現代世界を見る目を養ってほしいと考えています。1年生を対象にした前期履修科目であり、とくに国際文化学科で国際的視野を涵養するための専門的入門科目として位置づけられています。		
授業の内容	国際経済ないしグローバル経済はますます深化しており、人々の生活や企業活動、そして国の政策は世界の動きと無縁ではありません。この授業では、まずグローバル化の現状と功罪について考えていきます。ついで国際経済の基礎的な知識を順を追って学習していきます。国際経済論は大きく貿易・投資分野と国際マクロ・金融分野から構成されます。本授業では、そのなかから日本および海外の貿易構造、外国為替、国際金融問題といった現代国際経済の課題に焦点を当てて進めていきます。関連して、国際収支、円相場、国際企業、EUとユーロ、途上国経済など、現代経済の諸問題に触れることで、これから国際文化や社会を学ぶ上での経済学的素養が身につけられるようになります。		
成績評価の方法	期末試験60%、授業中の課題およびレポート(宿題)提出40%で評題する。授業での発表内容に加え、積極的な授業参加も評価の対象とする。		
テキスト	川本明人著『外国為替・国際金融入門』中央経済社、2012年		
参考文献	リチャードE. ケイブズ『国際経済学入門』日本経済新聞社、2003年、多和田眞『コンパクト国際経済学』新世社、2010年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	世界や日本の経済に関心を持つようにしましょう。そのため、新聞の経済記事は積極的に読む習慣を身につけてほしいと思います。		

授業科目名	比較社会論		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業（学生参加型の各種アクティビティを実施）。授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。模擬国連では、履修者一人一人が世界各国の代表となり、特定のテーマについて話し合う。学生はテーマについてリサーチし、種々のペーパーを作成・提出、スピーチすることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択、高一種免（公民）選択		
キーワード	模擬国連 国際理解 持続可能な社会 コミュニケーション能力 対立管理 ファシリテーション ミディエイション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>（授業の目標）知識・理解の観点：1模擬国連のアジェンダについて説明できる思考・判断の観点：情報や知識を複眼的、論理的に分析できる。関心・意欲の観点：1模擬国連のアジェンダについて討議ができ、関心をもて、問題解決の為に行動する意欲が持てる。技能・表現の観点：1合意形成に向けて努力できる。2自分の意見を伝える能力が分かる3諸外国の基本状況や政策について基本的なリサーチができる。態度の観点：1自らを律して行動できる必要性がわかる。2他者と協調・協働して行動のための努力ができる。3他者に方向性を示し目標の実現のために動員しようとチャレンジできる。</p> <p>（カリキュラム上の位置付け）学科専門共通科目の比較文化分野に位置付けられている</p>		
授業の内容	諸社会の相互関係についての理解を深めるために、グループ・ディスカッションやディベート形式の国際理解教育・開発教育アクティビティ（模擬国連等）を数多く実施する。		
成績評価の方法	<p>毎時間の小テスト（60%）+10本のレポート（40%） 授業回数数の三分の二以上の出席がないと単位は認められない。</p> <p>レポートのWEB提出の指示があった場合は以下のサイトから入力すること https://mis-rs.pu-hiroshima.ac.jp/IRS/servlet/IRSReceive?MID=tomita&PID=18</p>		
テキスト			
参考文献	随時紹介		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>座席指定がある。正当な理由なき遅刻・早退は出席と認めない。授業中の私語、携帯電話は厳禁。集団討論、発表が多くある。</p> <p>小テストは毎時間課する。レポートを提出する際は、剽窃（不正引用）が明らかになった場合、評価対象とならない場合がある。メー切を過ぎて提出されたレポートは原則として評価の対象にならない。</p> <p>事前レポートは必ず授業にも持参すること。事後レポートも指示ある場合には授業に持参すること。</p> <p>学生参加型授業なので、積極的な参加なしに単位の修得は困難である。できるだけ全回出席を求める。</p>		

授業科目名	国際政治論		
担当教員氏名(助手氏名)	原 理		
研究室の場所	広島キャンパス 1916研究室		
オフィスアワー	ドアに掲示してあります		
授業の形式・方式	対面および学生による発表		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択, 高一種免(公民)選択必修		
キーワード	東アジア、政治体制、経済体制、国際関係、安全保障、反日、発表、批評		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際問題を英語で議論する態度と能力と養う。		
授業の内容	欧米のシンクタンクから情報を得る方法を学び、それをクラスで発表し、それをもとに質疑応答と議論を行う。		
成績評価の方法	授業への積極的貢献度によって評価する。		
テキスト	未定		
参考文献	以下のシンクタンクのホームページ Heritage Foundation, Freedom House, Transparency International, Amnesty International, Reporters without borders, Nationmaster.com等		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	国際政治論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	原 理		
研究室の場所	広島キャンパス 1916研究室		
オフィスアワー	ドアに掲示します。		
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	情報検索、政治、英語、東アジア、国際関係		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業では政治学や国際関係論等の研究に必要な情報の検索・収集・集約・分析等の方法を学び、演習や特論のための基礎力をつけることを目標とする。		
授業の内容	刻々と変化する国際政治を理解するため、主にインターネットを使って最新の情報を検索・収集する方法を習得する。日本語と英語の情報を検索し、その情報の信憑性についても検討する。ニュースメディア、雑誌・学術誌の記事・論文、書籍、ホームページの4種類を情報源として利用するが、音声と画像と動画も必要に応じて利用する。		
成績評価の方法	出席、期末試験の成績、授業への貢献度(議論や質問をすること)		
テキスト	未定		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	国際政治論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	原 理		
研究室の場所	広島キャンパス 1916研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示します。		
授業の形式・方式	対面および学生によるプレゼン		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	国際関係論、東アジア、グループディスカッション、発表、		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際政治に関するトピックを英語でまとめ、発表し、議論する。また、同様のトピック に関し英語でディベートを行う。		
授業の内容	基礎演習で学んだ情報検索を活用し、レポート執筆と発表と質疑応答とディベートを行 う。なお、授業中の言語は英語のみとする。		
成績評価の方法	出席と授業への貢献度によって評価する。貢献度とは、授業での積極性や他の学生の発 表に対する建設的な評価・批判のことである。		
テキスト	未定		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	国際政治論基礎演習でB以上の成績を取っていること。		

授業科目名	国際政治論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	原 理		
研究室の場所	広島キャンパス 1916研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示します。		
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	国際関係、平和、戦争、宗教、民主主義、独裁、経済体制		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際政治に関する主な理論を学ぶ。また、英語の論文や評論から情報を収集し、英語で議論する能力を習得することを目的とする。		
授業の内容	国家間・民族間・宗教(宗派)間の関係を経済と安全保障問題を中心に議論する。講義を中心に授業を行うが、グループディスカッションや質疑応答も重視する。授業は、テキストも講義も質疑応答も全て英語のみとする。		
成績評価の方法	出席と授業への貢献度。貢献度とは、授業での積極性や他の学生の発表に対する建設的な評価・批判のことである。		
テキスト	未定		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英語を使うので、英語が嫌いな学生には辛いかも知れないが、授業は学生のレベルに合わせて行うつもりである。参考資料は教官が適時配布するが、その資料をもとに講義・議論を行うので、必ず読んでおくこと。		

授業科目名	国際協力論		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	広島キャンパス1716研究室		
オフィスアワー	月曜3限 (事前にメール等でアポをとってください)		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象 (平成22年度以前入学生, 平成24年度入学生対象)		
免許等指定科目			
キーワード	発展途上国、貧困、環境、人口、教育開発、ジェンダー、エンパワーメント、国際協力、多文化共生、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	発展途上国にみられる貧困、人口、環境、教育、ジェンダー等の諸課題について学んだ上で、国際協力のあり方について考える。翻って、わが国におけるグローバル化がもたらす諸問題についても考える。		
授業の内容	地球次元での貧困、環境、人口、人権、開発、平和など、たくさんの問題が私たちの目の前にある。地球上にあるこのようなさまざまな問題は、相互に深く関わりあっており、物事の相互の繋がりをホリスティックに見ることが問題解決の必要条件となっている。そこで、地球規模の諸問題がどのように繋がりがあ、どのような視点で捉えていけばよいのかを具体的な例から学ぶ。その上で、発展途上国に対する国際協力のあり方について考え、先進国としての我が国の役割についても考える。		
成績評価の方法	ミニッツ・ペーパー：20点 (5点満点×4報=20点) レポート：30点 (10点満点×3報=30点) 学期末試験：50点 計100点満点で評価する		
テキスト	適宜、関係資料を配布する		
参考文献	斎藤文彦『国際開発論 ミレニアム開発目標による貧困削減』日本評論社、2008年。 他、授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	国際協力論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	1716研究室		
オフィスアワー	月曜3限 (事前にメール等でアポをとってください)		
授業の形式・方式	対面授業、プロジェクト方式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	社会調査、量的分析、質的分析、複眼的な思考、情報を正確に読み解く、ものごとの筋道を追う		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	卒論に向けて、研究の方法論として量的分析法(統計分析)、質的分析法(グラウンテッド・セオリー・アプローチ)を習得する。また、単なる調査報告書ではなく、得られたデータを学術論文として仕上げる技能を習得する。		
授業の内容	具体的な授業計画については、シラバスを参照		
成績評価の方法	グループによるプレゼンテーション①(質問紙調査票の検討) : 30点(原則、出席が必須) グループによるプレゼンテーション②(質問紙調査票の集計) : 30点(原則、出席が必須) 学術論文としてのまとめ(個人によるレポート作成) : 40点 計100点満点として評価します		
テキスト	授業中に適宜、紹介します		
参考文献	授業中に適宜、紹介します		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この授業は、内容として後期開講の「国際協力論演習」とセットになっており、1年間をかけてグループで共同研究を実施する形式になります。履修する際は通年で出席してください。		

授業科目名	国際協力論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	広島キャンパス 1716研究室		
オフィスアワー	水曜3限 (事前にメール等でアポをとってください)		
授業の形式・方式	対面授業+プロジェクト方式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会) 選択、高一種免(公民) 選択		
キーワード	社会調査法、東アジア、現代中国、公教育、国際協力、教育開発		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学術論文を作成する際の基本的な方法論を習得することを目的とする		
授業の内容	前半は前期で収集した量的データを用いて、引き続き統計解析を行う。後半は新たにインタビュー調査を実施した上で質的データを収集し、M-GTA(修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチ)を用いた分析を行う。その上で、第14回、第15回に実施する研究報告会では、グループ単位によるプレゼンテーションを実施する。なお、学期末レポートは個人により作成、提出する		
成績評価の方法	研究報告会におけるグループによる研究発表：30点(ここでの評価はオーディエンスの採点による) 学期末レポート：70点 計100点満点として評価する		
テキスト	適宜、関係資料を配布する		
参考文献	適宜、参考文献を紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この授業は、内容として前期開講の「国際協力論基礎演習」とセットになっており、1年間をかけてグループで共同研究を実施する形式になります。履修する際は通年で出席してください		

授業科目名	国際協力論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	広島キャンパス1716研究室		
オフィスアワー	水曜3限 (事前にメール等でアポをとってください)		
授業の形式・方式	対面授業、学生の発表による演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択		
キーワード	国際協力、発展途上国、公教育、教育開発、貧困、人口、ジェンダー、エンパワーメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「国際協力論」において発展途上国にみられる貧困、人口、環境、教育、ジェンダー等の諸課題について学んだ上で、本授業では教育問題に焦点を当てた考察を行う。具体的には、発展途上国における教育問題、グローバル化する教育、ひいては「公教育とは何か」といった教育の本質的課題を検討することを目的としている。その際、1. 「万人のための教育(EFA)」と援助、2. 教育のグローバル化と国際競争、3. 選抜と教育：メリトクラシー、4. 「銀行型学校(banking concept education)」、5. 「脱学校(deschooling)」の社会、といった5つのテーマを取り上げた考察を行う。</p>		
授業の内容	<p>授業の進め方としては、(1)担当の学生による先行研究の要旨の発表、(2)関連文献の輪読、(3)テーマのまとめとして個々がレポートを作成する手順で進めていく。レポートの提出期限としては、「教育のグローバル化と国際競争」、「選抜と教育：メリトクラシー」は12月末日まで、「銀行型学校(banking concept education)」、「脱学校(deschooling)の社会」は1月末日までに、メールにて添付する形で提出することとする。</p>		
成績評価の方法	<p>先行研究の要旨の発表：20点 レポート(テーマの要旨(1500字程度)+外国語文献の全訳)×4編：80点 計100点満点として評価する</p>		
テキスト	適宜、関係資料を配布する		
参考文献	授業中に適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「国際協力論」を履修した上で受けてください。授業で用いる文献、資料等の多くは英語になります。		

授業科目名	英米地域論		
担当教員氏名(助手氏名)	スティーブン・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	PowerPoint Lectures, films, class discussion		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)必修, 高一種免(英語)必修		
キーワード	American business, business history, business ethics, innovative companies		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The purpose of this course is to help students understand the nature of large American business, with special emphasis on their social impact. Also we will try to appreciate the role of ethics in business and the need for more humanistic and green business.		
授業の内容	First we will begin by trying to understand the nature of dominant institution of our time: the limited liability stock holding corporation. We look at it's historical roots in America in the late 19th and early 20th centuries. Then we move on to focus on the petroleum industry and then the automobile industry to study the rise of American industrial capitalism. Then we will look at the tobacco industry and the health care industry. Finally we will look at the financial industry in the context of the economic crisis of 2008.		
成績評価の方法	attendance (25%), report (25%), Final Exam (50%)		
テキスト	to be available at author's website, free, to be announced in class		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	スティーブン・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture style class in the beginning, followed by student oral presentations with commentary and critique by the teacher		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	American business and economics, U.S. socio-economics		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The purpose of this course is to give the students a basic understanding of American business and U.S. Economic policy and how these relate to society.		
授業の内容	First we will get an overview of the U.S. economy today with a special emphasis on business. We will see how social life in America in terms of the U.S. economic situation and the role of business in society.		
成績評価の方法	Oral PowerPoint presentations (50%), class attendance and participation (15%), Final Exam (35%)		
テキスト	Short text: "American Economy and Society", available online for free on line.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	スティーブ・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Instructor's lectures followed by student oral presentations		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	Globalization, America in the Global Marketplace, Economic Globalization, U.S. Trade Policy		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The purpose of this course is to understand America in the global marketplace both in the past and in the ever-changing global economy.		
授業の内容	<p>We will study American economic history in the context of globalization. We will see how globalization went through a number of phases in the 19th, 20th and 21st centuries, and try to understand the underlying pattern of each phase.</p> <p>Then we will look at America's role in the ever-changing global market place today with special attention to the growth of finance capitalism.</p>		
成績評価の方法	Attendance (30%), Oral presentations (40%), Final Exam (30%)		
テキスト	America in the Global Marketplace, by Steven L. Rosen; will be available free online, URL to be announced		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	英米地域論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	スティーブン・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817 研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lectures, reports, presentations and films		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	American economic and social history, American culture		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The aim of the course is to give the students an overview of American economic and social development since the start of British colonial America.		
授業の内容	We we begin our study with the discovery of North America by Columbus and discuss the Europeanization of America (and the rest of the world). We will study the economic context of colonialization and the rise of America in this context. Then we will focus intensively on British colonial America with special attention to the economic relationships. Then we will add to our focus the legal and political background which led to the American Revolution. Finally we move on to the 19th century which will focus especially on economic history and the industrial revolution. In the time left, we will try to summarize 20th century American history to get a broad overview of the transformation of America into an industrial superpower.		
成績評価の方法	Attendance and Q&A (40%), report (30%), Final Exam (30%)		
テキスト	An Outline of American History, by Steven L. Rosen (free for student online): http://pu-hiroshima.academia.edu/StevenRosen		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域史論（西洋史）		
担当教員氏名(助手氏名)	小平 直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業（講義）		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）必修、高一種免（地歴）必修		
キーワード	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神、世界資本主義（近代世界システム）		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	受講生が、西洋近代の諸問題について基礎的理解ができるようになることを目標とする。		
授業の内容	西洋近代史について、主に16世紀から19世紀にいたる西ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカを対象として、K・マルクスの資本論、M・ウェーバーの資本主義経済生成論、E・ウィリアムズの世界資本主義論、I・ウォーラスティンの世界システム論などを取り上げて、封建社会から資本主義社会への移行、工業化の諸前提と展開、世界資本主義の歴史的趨勢・構造について論じる。これを通して、近代の世界資本主義に内在する生産と消費の諸問題、経済発展と南北問題などについて考察する。		
成績評価の方法	期末試験による。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	英米地域史論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小平 直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業(演習)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	受講生の史料の読解力の向上を目標とする。		
授業の内容	アメリカとイギリスの近・現代史について、主に工業化にともなう両国の政治的・経済的変容、および国際関係におけるヘゲモニーの上昇・掌握・喪失という国際的位置の変化を対象とする英文史料を教材として取り扱うことによって、受講生の英文史料の読解能力の向上をめざすとともに、アメリカ・イギリス両国の国内的・国際的諸問題とその歴史的背景について、受講生が自ら主体的に学び理解できるように、演習を通じて指導する。		
成績評価の方法	授業への積極的な取り組み・態度による。		
テキスト	受講生の関心に応じてテキストを決定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域史論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小平 直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業(演習)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	受講生の史料の読解力の向上を目標とする。		
授業の内容	英米地域史論演習は、アメリカとイギリスの近・現代史に関わる重要な研究テーマを受講生各人の問題意識に応じて自ら主体的に設定させ、そのテーマに関する知識・研究状況・さらなる研究の深化のための課題・論点・方向性を学ぶことを目標として行う。受講生に各テーマについての選考研究書・論文を調べさせ、受講生相互で議論させる形式で授業を進める。これを通して、受講生が自ら主体的に学び理解できるように、指導する。		
成績評価の方法	授業への積極的な取り組み・態度による。		
テキスト	受講生の関心に応じてテキストを決定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域史論特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	小平 直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業（講義）		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象（平成21年度以降の入学生）		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択、高一種免（地歴）選択		
キーワード	大不況、帝国主義、革新主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	受講生が西洋近現代史の重要問題について理解できるようになることを目標とする。		
授業の内容	<p>米国近現代史について、主に19世紀末から20世紀後半にいたる、米国国内の工業化にともなう政治的・社会的・経済的変容および国際関係におけるヘゲモニーへの上昇・掌握という国際位置の変化などについて、工業化と独占資本主義の成立、アメリカ帝国主義の成立と展開、革新主義体制とニューディール体制などを中心的論点として、検討・考察する。これを通して、今日の米国が直面している国内的・国際的諸問題のその歴史的背景を考察する。</p>		
成績評価の方法	期末試験による。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域史論特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	井内 太郎 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義形式で、パワーポイントを用いて授業を進める。適宜資料を配付する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象(平成21年度以降の入学生)		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード	近代イギリス、ヴィクトリア時代、フェミニズム、ジェントルマン、レディ 家庭の天使、ガヴァネス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	テーマ「19世紀ヴィクトリア時代のあるべき女性像～ガヴァネス問題を中心として～」 19世紀ヴィクトリア時代の工業化の展開の中で台頭してきた新興の中産階級は、自分たちのライフスタイルや価値観を構築していくことになる。		
授業の内容	本講義では、以下のテーマについて論じていくことにする。 はじめに 1. 家庭の天使像 2. 女性の使命と存在 3. 「家庭の天使」のイデオロギーの両面性 4. ガヴァネス普及の背景 5. ガヴァネス普及の背景 6. ガヴァネスの教授法 7. 気の毒な先生 8. ガヴァネス問題への対策 おわりに		
成績評価の方法	期末試験70%、出席率30%の割合で評価する。期末試験の記載分量は指定要旨の最下段まで埋まる程度とし、裏面の使用も可。毎回、出席確認もかねて授業の感想・質問を書いてもらう。		
テキスト			
参考文献	授業の中で、適宜紹介していく。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域論		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山浩明、柳川順子、富田和広、候仁鋒、岡本弘道、植村広美		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	グローバリゼーション、教育、社会制度、人口、家族、宗教、公共性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業では、現代中国社会の諸問題やそこに住む人間のあり方について、歴史的、文化的、言語的、制度的(法規に加えて慣習も含む)な方面から多角的に理解することを目的とする		
授業の内容	テーマとしては、「グローバリゼーション(①②候仁鋒)」、「教育(①富田和広・②植村広美・③柳川順子)」、「人口(①植村広美・②岡本弘道)」、「家族(①富田和広・②岡本弘道)」、「宗教(丸山浩明)」、「公共性(丸山浩明)」の6つを取り上げ、それぞれ個別具体的な事例に基づき理解を深めていく		
成績評価の方法	◎小テスト:30点(2点×15回) ☞ミニレポート(2点×12回)+第12回・15回プレゼンテーションへの感想(3点×2回)=30点 ◎グループによるプレゼンテーション:10点 ◎学期末試験:60点(持ち込み可。各テーマに関するテクニカル・タームを用いた論述形式) 計100点満点として評価する		
テキスト	適宜、関係資料を配布する		
参考文献	適宜、授業中に紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域史論（東洋史）		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）必修、高一種免（地歴）必修		
キーワード	東南アジア史 「東アジア」 島嶼部と大陸部 国家形成 外交と交易 社会構造 文化変容 植民地化 国民国家の建設		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	狭義の東アジア史を相対化し、新しい「東アジア」史を理解するための鍵となる東南アジア史を学び、その歴史的な文脈を説明するための基礎的な知識を身につける。東南アジア史への理解を通じて、狭義の東アジア史や世界史と関連づけつつ、新しい「東アジア」への地域的理解を深める。		
授業の内容	「東アジア」という地域概念は、これまで往々にして中国を中心に据え、中国との歴史的関係の中で中国文化を共有することになった地域を指してきた。しかし、今日の「東アジア」において中国由来の文化的要素による結びつきは必ずしも強くなく、むしろ今後の経済発展と文化交流を前提にしたより広い地域概念としての「東アジア」が再定義されようとしている。この授業では、そのような視点から東南アジア史を講義の中心に据え、それとの対比を通じて「東アジア」の歴史を再評価すると同時に、アジア史を超えた世界の歴史の捉え方について問い直してみたい。		
成績評価の方法	(毎回のリアクションペーパー50%、期末試験50%)		
テキスト	授業内において、随時指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域史論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード	海域アジア史 日本 中国 朝鮮 琉球 東南アジア 世界史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業では、「海域アジア史」をめぐる研究状況を踏まえた上で、研究論文や史料文献など資料の収集と分析など、卒論を作成するために必要な基礎的な技能を養う。		
授業の内容	本授業では、近年研究が進展している前近代海域アジアに関する研究を題材に、東アジア地域の歴史を扱うために必要な基礎的知識を身につける。前近代海域アジアの歴史の流れを理解することを通じて、現在を生きる私たちの文化・社会と「海」「アジア」とのつながりを考え、ヨーロッパ中心の、あるいは日本中心のものを見方を相対化し、複眼的な思考・分析の手法を体感する。		
成績評価の方法	(授業への参加度50%、授業内での口頭報告50%)		
テキスト			
参考文献	桃木至朗(編)『海域アジア史研究入門』(岩波書店、2008年) その他の文献については、授業内において随時指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域史論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード	海城アジア史 日本 中国 朝鮮 琉球 東南アジア 世界史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業では、文献講読・口頭報告を通じて、海城アジア史研究に対する理解を深めた上で、その成果として動画教材コンテンツを制作する。 自らテーマを選んで「歴史を語る」ことを実践し、歴史の持つ社会的意義について自分の言葉で説明できることを目指す。		
授業の内容	本授業では、前期の基礎演習に引き続いて、前近代海城アジアに関する研究を題材に、5分間の動画教材コンテンツを作成し、インターネット上に公開する作業を行う。前近代海城アジアの歴史に関する専門書、研究論文、及び各種史料を読み込みつつ、現代に生きる我々にとって重要なテーマや歴史的知見を見つけ出し、「教材」として価値を持つ動画コンテンツを作成する。現在を生きる私たちの文化・社会と「海」「アジア」とのつながりを考え、ヨーロッパ中心の、あるいは日本中心のもの見方を相対化し、複眼的な思考・分析の手法を体感することを目指す。		
成績評価の方法	(授業への参加度、授業内での口頭報告、作成した動画教材コンテンツなどを総合的に勘案して評価を行う。)		
テキスト			
参考文献	桃木至朗(編)『海城アジア史研究入門』(岩波書店、2008年) その他の文献については、授業内において随時指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	前期に開講される「東アジア地域史論基礎演習」と、必ずセットで受講すること。「基礎演習」を未履修の学生による本授業の履修は、原則として認めない。		

授業科目名	東アジア地域史論特論A		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象(平成21年度以上の入学生)		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード	海域アジア 琉球弧 琉球王国 海上交易 東アジア 東南アジア 文化交流		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現在の沖縄県および鹿児島県西南部に相当する“琉球弧”を、東アジアおよび海域アジアの中の一地域としての観点から説明しうるだけの基礎的知識を身につける。また、“琉球弧”の歴史を東アジア史および海域アジア史の流れと関連づけて理解する。		
授業の内容	日本列島の南西に弧状に連なる島々“琉球弧”は、古くから隣接する海域・陸域との交流が活発な地域であり、そのような交流を通じて独特の社会・文化を形成してきた地域である。このような琉球弧の特性を理解するための前提として、琉球弧が歩んできた歴史を辿りつつ、その歴史的文脈を東アジア史および海域アジア史の流れの中で把握することが、本講義の目的である。特に15世紀から19世紀にかけての“琉球王国”の歴史を中心に検討し、現在の琉球・沖縄文化とのつながりについて考えてみたい。また、かつては独立した国家を形成していたという観点から、中国・日本・韓国等との比較についても考えてみたい。		
成績評価の方法	(毎回のリアクションペーパー50%、期末試験50%)		
テキスト	授業内において、随時指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア社会文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー	火曜日の昼休み(前期)		
授業の形式・方式	対面授業(学生参加型のアクティビティを実施)。グループ・ディスカッション、ディベート形式の授業。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位(30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	異文化 社会問題 コミュニケーション グローバル化 コミュニケーション能力 対立管理 ファシリテーション ミディエイション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>(授業の目標) 知識・理解の観点: 1授業で取り上げる複数のアジェンダについて説明できる。思考・判断の観点: 情報や知識を複眼的、論理的に分析できる。関心・意欲の観点: 1関心・意欲の観点: 1授業で取り上げる複数のアジェンダについて討議ができ、関心をもって、問題解決の為に行動する意欲が持てる。技能・表現の観点: 1合意形成に向けて努力できる。2自分の意見を伝える能力が分かる3基本的な統計のリサーチができる。態度の観点: 1自らを律して行動できる必要性がわかる。2他者と協調・協働して行動のための努力ができる。3他者に方向性を示し目標の実現のために動員しようとチャレンジできる。(カリキュラム上の位置付け) 学科専門科目</p>		
授業の内容	<p>集団討論の中でアジア的な互酬性について学び、異文化適応方法に関するディベートを通して、異文化適応のあり方について考える。また、身近な事例を用いたアクティビティを通して、民族、人種について考える。授業には、グループワーク、ディベート、プレゼンテーションが多く組み込まれている。</p>		
成績評価の方法	<p>毎時間の小テスト(45%) + 10回のレポート(50%) + 期末試験(5%) 授業回数の三分の二以上の出席がないと単位は認められない。</p>		
テキスト	なし		
参考文献	随時紹介		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>座席指定がある。正当な理由なき遅刻・早退は出席と認めない。授業中の私語、携帯電話は厳禁。集団討論、発表が多くある。小テストは毎時間課する。レポートを提出する際は、剽窃(不正引用)が明らかになった場合、評価対象とならない場合がある。メチを過ぎて提出されたレポートは原則として評価の対象にならない。学生参加型授業なので、積極的な参加なしに単位の修得は困難である。全回出席を求める。レポートのweb提出の指示があった場合は以下から入力すること(東アジア社会文化論専用) https://mis-rs.pu-hiroshima.ac.jp/IRS/servlet/IRSReceive?MID=tomita&PID=21</p>		

授業科目名	東アジア社会文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー	木曜日昼休み		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	国際理解 持続可能な社会 コミュニケーション能力 対立管理 ファシリテーション ミディエイション 多文化共生		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>(授業の目標) 知識・理解の観点: 1授業で取り上げる複数のアジェンダについて説明できる。思考・判断の観点: 情報や知識を複眼的、論理的に分析できる。関心・意欲の観点: 1関心・意欲の観点: 1授業で取り上げる複数のアジェンダについて討議ができ、関心をもって、問題解決の為に行動する意欲が持てる。技能・表現の観点: 1合意形成に向けて努力できる。2自分の意見を伝える能力が分かる3基本的な統計のリサーチができる。態度の観点: 1自らを律して行動できる必要性がわかる。2他者と協調・協働して行動のための努力ができる。3他者に方向性を示し目標の実現のために動員しようとチャレンジできる。(カリキュラム上の位置付け) 学科専門共通科目に位置付けられている</p>		
授業の内容	<p>グローバル化の進展により、日本は東アジアの国々と、そして世界の国々とどのようにつながっているのか、また、日本の中でアジアを中心に、世界の国々の人とどう共生していくべきかについて、複数のアクティビティを行う中で考えていく。</p>		
成績評価の方法	<p>毎時間の小テスト(45%) + 10回のレポート(40%) + 期末試験(5%) 授業回数の三分の二以上の出席がないと単位は認められない。</p> <p>レポートのweb提出を指示された場合は以下のサイトから入力すること(東アジア社会文化論基礎演習専用) https://mis-rs.pu-hiroshima.ac.jp/IRS/servlet/IRSReceive?MID=tomita&PID=22</p>		
テキスト	テキストなし		
参考文献	随時紹介		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>座席指定がある。正当な理由なき遅刻・早退は出席と認めない。授業中の私語、携帯電話は厳禁。集団討論、発表が多くある。小テストは毎時間課する。レポートを提出する際は、剽窃(不正引用)が明らかになった場合、評価対象とならない場合がある。ノ切を過ぎて提出されたレポートは原則として評価の対象にならない。学生参加型授業なので、積極的な参加なしに単位の修得は困難である。全回出席を前提とした授業を行う。</p>		

授業科目名	東アジア社会文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	開発教育 ゲーミング シミュレーション 国際理解 教材作成 国際理解 持続可能な社会 コミュニケーション能力 対立管理 ファシリテーション ミディエーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>(授業の目標) 知識・理解の観点：1作成する教材のアジェンダについて説明できる。思考・判断の観点：情報や知識を複眼的、論理的に分析できる。関心・意欲の観点：1関心・意欲の観点：1作成する教材のアジェンダについて討議ができ、関心をもって、問題解決の為に行動する意欲が持てる。技能・表現の観点：1合意形成に向けて努力できる。2自分の意見を伝える能力が分かる3基本的な統計のリサーチができる。態度の観点：1自らを律して行動できる必要性がわかる。2他者と協調・協働して行動のための努力ができる。3他者に方向性を示し目標の実現のために動員しようとチャレンジできる。(カリキュラム上の位置付け) 学科専門共通科目に位置付けられている</p>		
授業の内容	<p>東アジア社会文化を学ぶための教材、特に学生参加型の教材を作成する。教えることがもっとも学習効果が高いとも言われる。そこで本授業は、学習教材を作成することを通して、東アジアの社会文化を学ぶという目標を達成しようとするものである。授業の後半には、作成した教材の公開体験会の企画・実施を行う。学外者向けの教材公開会「アースカレッジ in 県大」の企画・運営への参加が前提となっている。</p>		
成績評価の方法	<p>毎時間の小テスト(60%) + 作成した教材(35%) + 期末レポート(5%) 授業回数の三分の二以上の出席がないと単位は認められない。 教材はグループ毎で、JICAグローバル教育コンクール「グローバル教育取り組み部門様式」に従って作成し、富田宛に電子メールで送付すること</p>		
テキスト			
参考文献	<p>『教室から地球へ：開発教育・国際理解教育虎の巻：人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ』名古屋 国際協力機構中部国際センター ISBN：4887137044『参加型ワークショップ入門』明石書店 ISBN：4750319112</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>座席指定がある。正当な理由なき遅刻・早退は出席と認めない。授業中の私語、携帯電話は厳禁。集団討論、発表が多くある。小テストは毎時間課する。レポートを提出する際は、剽窃(不正引用)が明らかになった場合、評価対象としない場合がある。ノ切を過ぎて提出されたレポートは原則として評価の対象にならない。学生参加型授業なので、積極的な参加なしに単位の修得は困難である。全回出席を前提とした授業を行う。</p>		

授業科目名	東アジア社会文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー	研究室の扉に掲示		
授業の形式・方式	対面授業。集団討論、ディベートを多数回実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	家族、婚姻、教育、相続、中国、日本、ディベート コミュニケーション能力 対立管理 ファシリテーション ミディエイション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>(授業の目標) 知識・理解の観点：1家族の基本的機能について説明できる。思考・判断の観点：情報や知識を複眼的、論理的に分析できる。関心・意欲の観点：1関心・意欲の観点：1家族問題について討議ができ、関心がもて、問題解決の為に行動する意欲が持てる。技能・表現の観点：1自分の意見を伝える能力が分かる 2基本的な統計のリサーチができる。態度の観点：1自らを律して行動できる必要性がわかる。2他者と協調・協働して行動のための努力ができる。3他者に方向性を示し目標の実現のために動員しようとチャレンジできる。(カリキュラム上の位置付け) 学科専門共通科目に位置付けられている。</p>		
授業の内容	<p>東アジアの社会や文化にアプローチする上で、社会類型の一つとしての家族についての理解は必須である。その客観的な構造を知るだけではなく、婚姻・教育・相続といった日常生活の局面で、何を目的としてこれらの行為を選択しているのかについて考察することによって、その生活と意識の全側面にわたる特徴も明らかにされる。この授業では、日本と中国を中心的に取り上げ、婚姻・教育・相続などに見られる戦略からその目的を明らかにし、他の東アジア諸社会との相対比を試みる。</p> <p>特に、家族の機能、夫婦別姓、少子化をテーマとして集団討論やディベートを行うことによって理解を深め、有名ブランド子供服や育児雑誌などに関する日中の資料を比較する中で、子供観の変化、家族観の変化について学ぶ。</p>		
成績評価の方法	<p>毎時間の小テスト(45%) + 10回のレポート(50%) + 期末試験(5%) 授業回数数の三分の二以上の出席がないと単位は認められない。</p> <p>レポートは以下のサイトから入力すること https://mis-rs.pu-hiroshima.ac.jp/IRS/servlet/IRSReceive?MID=tomita&PID=20</p>		
テキスト			
参考文献	随時紹介		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>全回出席を前提とした授業を行う。 座席指定がある。正当な理由なき遅刻・早退は出席と認めない。授業中の私語、携帯電話は厳禁。 集団討論、発表が多くある。 小テストは毎時間課する。 レポートを提出する際は、剽窃(不正引用)が明らかになった場合、評価対象とならない場合がある。〆切を過ぎて提出されたレポートは原則として評価の対象にならない。 学生参加型授業なので、積極的な参加なしに単位の修得は困難である。</p>		

授業科目名	日本地域論		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。必要に応じて、簡単な図表やコメントを作成する演習形式を併用し、その結果をレポートとして求める。各レポートの提出期限は通常、次回授業の終了時とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード	地誌学, 現代日本, 生活様式, 文化景観, 食文化, 産業構造		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高校で地理を履修していない場合でも理解できるよう、具体的事例をもとに、地域固有の生活様式が形成された過程に關与した自然条件と人文社会条件を考察し、基本的な地誌学的視点と方法を身につけていく。 「日本地域論基礎演習」「日本地域論演習」の受講に際しては、本科目を履修済みであることが前提となる。		
授業の内容	国際間、ならびに国内諸地域間で展開されている地域的關係を視野に入れながら、主に地誌学的視点から日本の地域的性格を探求する。現代日本における生活様式を成立させる上で重要な文化景観、食文化、産業構造、土地利用、集落立地、人口構成、人口移動等からなる諸要素を見出し、それらが相互に補完しあって形成された人文環境の全体像を理解するため、自然環境との關連や時系列的な發展過程を含む複数の具体的事例を提示・検討し、考察してゆく。		
成績評価の方法	期末試験60%、課題レポート(宿題)30%、授業への参加度10%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)において、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。 言うまでもないが、「学生便覧」の「試験(定期試験)」に記されているとおり、「授業に3分の2以上出席していること。」を適用し、出席回数が規程に満たない学生は試験を受けられないので、注意すること。		
テキスト	テキストは使用せず、プリントを適宜配布する。		
参考文献	酒川 茂(1988)「広島県豊町大長における水組の構造と変容—生活用水供給の水利集団—」広島女子大学文学部紀要23, 135~154.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、常に、ニュース等によって現在の日本情勢を把握しておくことが望ましい。 授業中、携帯電話等の使用は厳禁する。また、正当な理由のない遅刻は出席とみなさない。		

授業科目名	日本地域論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	演習。初回に提示する授業の目標・構成に基づき、受講者全員が課題報告し、検討を積み重ねてゆく形式をとる。 また、学外授業（巡検：プレゼンテーションを伴うフィールドワーク）は、調査対象者の日程に従う必要があるため、ほとんどの場合、授業時間外で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択、高一種免（地歴）選択		
キーワード	現代日本、生活様式、文化景観、食文化、産業構造		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「日本地域論」を基礎に、地誌学的調査のための視点と、資料収集からテーマ設定、分析に至る能力を身につけることができるよう、受講生が実践的学習活動を行う科目として位置づけられる。</p> <p>受講に際しては「日本地域論」を履修済みであることが前提となる。</p> <p>また、学科共通専門科目「人文地理学」と学科専門科目「日本地域論特論」を履修済みであるか、あわせて受講することが望ましい。</p>		
授業の内容	<p>日本を事例として、現代社会における生活様式を成立させている諸要素を見出し、人文環境の全体像を自ら描くことができるよう、分析対象を酒造・酒販にしぼり、対象地域に向いての学外授業（巡検：プレゼンテーションを伴うフィールドワーク）や、文献（先行研究）講読を行うことによって、地誌学的な視点に基づいた問題意識の明確化を目指す。</p> <p>地表面における人間の活動が対象であるから、自然環境の影響や地域の時系列的発展に対する理解にも留意して演習を進める。</p> <p>ほぼ毎週、全員に課題報告を求めて相互に検討し、学外授業（巡検）の準備・実施・レポート作成を重ねていくため、「学生便覧」の「単位制度（単位の基準）」に記載されているとおり、「授業時間外の自主的学修時間」（授業時間の2倍）が必要である。</p>		
成績評価の方法	<p>レポート40%、課題の達成度40%、巡検への対応20%の割合で評価する。</p> <p>「学生便覧」の「試験（定期試験）」に記載されているとおり、「授業に3分の2以上出席していること」は必須である。</p>		
テキスト	テキストは使用しない。収集すべき資料の内容や分析枠組みは適宜指示する。		
参考文献	酒川 茂 (2012) 「大学地理教育における地域性探求能力の獲得に向けて－日本酒の消費と生産からみたプロジェクト学習の実践－」新地理60 (2) , 32-44.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>受講生の課題報告・検討を前提に授業を進めるので、教室外での学習を行うことが必須となる。授業に欠席した場合、次回以降必ず課題報告を行わなければならない。</p> <p>通常、この対応を授業時間内に確保することは不可能なので、追加レポートの対象とする。</p>		

授業科目名	日本地域論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	演習。初回に提示する授業の目標・構成に基づき、受講者全員が課題報告し、検討を積み重ねてゆく形式をとる。 また、学外授業（巡検：プレゼンテーションを伴うフィールドワーク）は調査対象者の日程に従う必要があるため、ほとんどの場合、授業時間外で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択、高一種免（地歴）選択		
キーワード	現代日本、生活様式、文化景観、食文化、産業構造		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「日本地域論」を基礎に、地誌学的調査のための視点と、資料収集からテーマ設定、分析に至る能力を身につけることができるよう、受講生が実践的学習活動を行う科目として位置づけられる。</p> <p>受講に際しては「日本地域論」「日本地域論基礎演習」を履修済みであることが前提となる。</p> <p>また、学科共通専門科目「人文地理学」と学科専門科目「日本地域論特論」を履修済みであるか、あわせて受講することが望ましい。</p>		
授業の内容	<p>日本を事例として、現代社会における生活様式を成立させている諸要素を見出し、人文環境の全体像を自ら描くことができるよう、分析対象を酒造・酒販にしぼり、対象地域に出向いての学外授業（巡検：プレゼンテーションを伴うフィールドワーク）や、文献（先行研究）講読を行うことによって、地誌学的調査方法の習得を目指す。</p> <p>各段階で必要な資料の収集や調査項目の検討に際しては、人文地理学的視点も取り入れて演習を展開する。</p> <p>ほぼ毎週、全員に課題報告を求めて相互に検討し、学外授業（巡検）の準備・実施・レポート作成を重ねていくため、「学生便覧」の「単位制度（単位の基準）」に記載されているとおり、「授業時間外の自主的学修時間」（授業時間の2倍）が必要である。</p>		
成績評価の方法	<p>レポート40%，課題の達成度40%，フィールドワークへの対応20%の割合で評価する。</p> <p>「学生便覧」の「試験（定期試験）」に記載されているとおり、「授業に3分の2以上出席していること」は必須である。</p>		
テキスト	テキストは使用しない。収集すべき資料の内容や分析枠組みは適宜指示する。		
参考文献	酒川 茂 (2012) 「大学地理教育における地域性探求能力の獲得に向けてー日本酒の消費と生産からみたプロジェクト学習の実践ー」新地理60 (2) , 32-44.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>受講生の課題報告・検討を前提に授業を進めるので、教室外での学習を行うことが必須となる。授業に欠席した場合は、次回以降必ず課題報告を行わなければならない。</p> <p>通常、この対応を授業時間内に確保することは不可能なので、追加レポートの対象とする。</p>		

授業科目名	日本地域論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。必要に応じて、簡単な図表やコメントを作成する演習形式を併用し、その結果をレポートとして求める。 各レポートの提出期限は通常、次回授業の終了時とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択		
キーワード	日本, 生活様式, 文化景観, 食文化, 産業構造		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科共通専門科目「人文地理学」を基礎に、先行研究の事例を検討することによって、現代日本の生活様式、文化景観、食文化が形成された必然性を考察し、人文地理学の視点と方法を身につけていく。 「日本地域論基礎演習」「日本地域論演習」の履修を想定している場合、本科目を受講しておくことが望ましい。		
授業の内容	現代日本においてみられる生活様式は、人々が常に自然環境に働きかけ、人文環境を形成・変化させてきた営為の帰結として存在する。これらの営為はさまざまな要素からなっているが、特に文化的事象の分布とその形成過程に注目し、人文地理学的な分析枠組みを提示することにより、地域性と地域構造に関する理解を深める。主として文化の形成と継承・伝播についての理解を深める。 また、地域社会における行事・組織・活動にみられる住民の相互関係等の具体例を挙げ文化の継承システムとしての学校と地域社会の関係にも言及する。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポート(宿題)20%、授業への参加度10%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)において、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。 「学生便覧」の「試験(定期試験)」に記載されているとおり、「授業に3分の2以上出席していること。」を適用し、出席回数が規程に満たない学生は試験を受けられないので、注意すること。		
テキスト	テキストは使用せず、プリントを適宜配布する。		
参考文献	酒川 茂(2004)『地域社会における学校の拠点性』, 古今書院。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「日本地域論基礎演習」「日本地域論演習」を受講する(想定している)場合、本科目を受講しておくことが望ましい。 授業中、携帯電話等の使用は厳禁する。また、正当な理由のない遅刻は出席とみなさない。		

授業科目名	日本地域史論（日本史）		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	特に設定していないが、在室時はいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）必修、高一種免（地歴）必修、学芸員資格に係る選択必修		
キーワード	東アジア，瀬戸内海，中国地域，地域史，中央権力，地域権力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域の視座から、瀬戸内海・中国地域の歴史的展開を概観し、この地域が持つ歴史的な性格を理解することを目標とする。また、日本史の概論に相当する内容も含み、日本地域史特論・日本地域史基礎演習・日本地域史演習へと続く一連の授業の出発点ともなる。		
授業の内容	中世から近世に至る瀬戸内・中国地域の歴史的展開を概観し、日本列島全体の歴史のなかで、この地域が持つ歴史的な性格と特徴を理解させる。とくに「中国」という地域呼称が南北朝時代に登場することの意義を解明し、中世における中央政権と地域権力の相互既定的な関係を明らかにする。また、海上交通路が、東アジア世界と日本列島および日本国内の中央と地方の政治的・経済的・文化的交流の大動脈であったことを明らかにし、地域史の視点から地域と国家の歴史を再検討する。		
成績評価の方法	期末試験およびレポートで評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	出席カードを毎週配布するので積極的に質問・感想を記して欲しい。		

授業科目名	日本地域史論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択、学芸員資格に係る選択必修		
キーワード	古記録, 古文書, 文献史料, 地域史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	古記録・古文書等の解読のための基礎的知識と地域史研究の視点と方法を修得することを目的とする。日本地域史論演習、さらには卒業論文作成へと続く。		
授業の内容	日本地域史研究のための基本史料である古記録・古文書等の読解のための基礎的知識を習得させることを目的として、『御成敗式目』を講読する。 前半は一条の内容を徹底的に読む作業、後半はあるテーマについて史料を収集して報告する形式で進める。		
成績評価の方法	毎週の報告の内容、質疑応答の内容などにより評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本地域史論および日本地域史論特論を履修していることが望ましい。		

授業科目名	日本地域史論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択、学芸員資格に係る選択必修		
キーワード	戦国大名毛利氏, 武家文書,		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日本地域史基礎演習での学習を前提として, 原文書の解読能力, 史料批判能力, 史料の分析能力を身に付けさせることを目的とする。卒業論文作成へと続く。		
授業の内容	日本地域史基礎演習で修得した古記録・古文書等の読解のための基礎的知識を土台として, 史料批判と史実の確定, 歴史叙述のための専門的な知識と分析能力を身に付けさせることを目的とする。全国的に見ても質量ともに第一級の史料である戦国大名毛利氏関係の原文書の写真版を利用し, 史料の読解と分析結果を報告させ, 史料の正確な読解の重要性を理解させ, 4年次の卒業論文作成に発展させる。今年度は毛利隆元家臣関係文書を取り上げる。		
成績評価の方法	毎週の報告の内容、質疑応答の内容などにより評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本地域史論基礎演習を履修していることが条件となる。		

授業科目名	日本地域史論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択、学芸員資格に係る選択必修		
キーワード	戦国大名, 毛利氏, 郡山合戦, 厳島合戦, 兵糧, 鉄砲		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	戦国合戦論をテーマとする。具体的には、戦国大名毛利氏を素材として、日本中世における戦争の歴史の中に戦国合戦を位置付けることを目標とする。日本地域史基礎演習・日本地域史演習の受講するものは、日本地域史論と特論を受講することが望ましい。		
授業の内容	日本中世の戦争の最終的な到達点が戦国合戦である。戦国合戦の実態、戦国大名の軍事編成の特質、城郭をめぐる攻防の特徴、鉄砲の果たした役割、兵站の重要性、合戦と民衆、合戦の遂行を可能にする戦国大名の経済的な基盤、などについて明らかにする。郡山合戦、厳島合戦に関する史跡を見学するフィールドワークを土曜日又は日曜日に実施する。		
成績評価の方法	期末試験で評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	授業の進行にあわせて適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米社会文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本 和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	掲示によって指示します		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式と演習形式の併用。『不思議の国のアリス』の原文の精読と作品分析。 イギリスのノンセンスの伝統についての解説。 英国の伝承童謡マザー・グースの歌の歌唱指導。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択, 高一種免(英語)選択		
キーワード	英語圏の伝承童謡、英米児童文学、ヴィクトリア朝時代の英国とその大衆文化や社会思潮、ノンセンス文学と言語学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英米児童文学の黄金時代と言われるヴィクトリア朝後期から20世紀初頭にかけての英国の文化や社会思潮を、作品の鑑賞と、作者や関係者の生活の記録などから考え、英国文化研究の基本的知識を身につけます。同時に、英語圏の伝承童謡Nursery Rhyme (Mother Gooseの唄)の歌唱練習により英語のリズムとライム、英語圏の共通文化知識について学びます。 英米社会文化論基礎演習、英米社会文化論演習を履修する上でも基礎的な知識と情報を提供します。また、児童文学作品とその映画化の問題についても考察します。		
授業の内容	ヴィクトリア朝期の児童文学の重要作品としてのLewis Carroll, Alice's Adventures in WonderlandおよびThrough the Looking-Glass and What Alice Found Thereの原文を精読して、内容について議論します。作品に関する研究論文も読む訓練を行い、論文執筆の基礎も養います。同時に作者Carrollの生きた時代とその諸問題について多面的に概説し、児童文学と社会の関係についても考察します。並行して、英国伝承童謡のナーサリーライムについて学びます。一回に2?3曲実際に歌う練習をします。これは各自反復練習して歌えるようになってもらいたいと思います。 作品の内容に関する質問票に答えてくるなどの課題を課しますので、それを着実に提出してください。		
成績評価の方法	毎回の課題の提出(20%)、マザーグースの歌唱テスト(20%)、筆記試験(60%)によります。		
テキスト	The Annotated Alice, Penguin Books		
参考文献	最初の授業で指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米社会文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本 和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	掲示により指示します		
授業の形式・方式	シェイクスピアのロマンス劇『テンペスト』をクラス全員で舞台公演します。シェイクスピア最後の作品とされ、許しをテーマとするこの作品は現代の世界を理解する上でも重要な視点を与えてくれるでしょう。台本はシェイクスピアの原作ではなく、現代語訳されたものを使います。作品とセリフの意味を理解した上で、演技の練習、台詞の発声の練習、演出の検討など多面的な活動を行います。最後の舞台公演は、観客を入れて上演します。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語劇の実演、シェイクスピア、『テンペスト』		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	配役を決め、登場人物の心理について考えながら演じる練習を重ねます。この経験を通じて、英語の知識を自己表現のツールとして捉えつつ、言語を越えた、効果的なコミュニケーションの方法についても身につけてゆく事が出来るでしょう。観客を前にして舞台公演をやり遂げれば、自分の英語力にも自信が付き、人前で大声を出すことに抵抗がなくなるでしょう。		
授業の内容	今年シェイクスピア作品のテーマについて考え、その大きなテーマの中でそれぞれの登場人物が担う役割について考えます。そして、この作品を履修者全員で演じて舞台公演するために、配役を決めて演技の練習を重ねてゆきます。テキストの読み、配役の決定、台詞の練習、衣装や背景などの制作等の活動を行います。皆で稽古するまでに、自分のセリフを十分に練習してることが求められます。		
成績評価の方法	練習段階での参加度、チームワークへの貢献度、役者としての完成度、演技の出来、練習期間における貢献度、終了時の反省レポートなど多面的に評価します。		
テキスト	配布資料(台本)によっておこないます。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英語で役を演じるという事は、非常に総合的な、長時間の訓練を要する活動です。チームで協力して作品を完成させるために、あらゆる努力が必要になります。協調性とチャレンジ精神が求められます。他のメンバーに迷惑をかけないよう、時間外であっても練習に極力参加する事が求められます。演劇の経験は必要ありませんが、新たな自分を発見したい人の参加を求めます。授業時間外の長時間の練習、準備が必要になること、また、授業時間、あるいは授業期間外に公演を行う事を十分に了解した上で履修してください。		

授業科目名	英米社会文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本 和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	掲示により指示します		
授業の形式・方式	対面授業と演習形式授業の併用。 教員の概説を聴き、重要作品のテキストに触れた上で、各自の研究テーマを設定し、研究発表を行います。最終的に英文エッセイを書きます。 授業内では、解説やディスカッションにおいてなるべく英語を多用するようにします。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	オリエンタリズム、ポストコロニアリズム、ハイブリディティ、文化と帝国主義、ジェンダー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現代世界における重要概念であるポストコロニアリズム（植民地主義と帝国主義以後の世界における文化批評）の理解を深めるため、植民地主義と関係の深い冒険物語の系譜とその問題点について扱った英語文献および日本語文献を読んで、ヨーロッパにとって「冒険物語」が植民地活動とどう関わったのかを考え、現代の世界状況が植民地時代とどうつながっているのか、また現代世界の文化帝国主義の状況はいかなるものか、帝国主義とジェンダーの問題についても考察し、議論します。文化研究の重要概念について理解し、アカデミックな議論が出来るようになる事を目指します。		
授業の内容	「オリエンタリズム」「ポストコロニアリズム」「ハイブリッド」「文化帝国主義」などの重要概念についてテキストを読みながら学びます。これらの概念を学んだ上で、大衆文学や児童文学、ポピュラーカルチャーに現れた文化の問題に関して、英文エッセイを書きますので、そのための指導もします。 また冒険物語の系譜と植民地主義の関係について解説します。デフォーの『ロビンソン・クルーソー』とその変形譚、ライダー・ハガードの『ソロモン王の洞窟』、J. M. バリーの『ピーター・パン』、キプリングの『ジャングル・ブック』などの作品の一部を読みます。意見発表においてはなるべく英語で行ってもらいます。		
成績評価の方法	研究発表と英文エッセイの内容によって評価します。		
テキスト	『Beginning Postcolonialism英語で読む現代世界の文化・社会・言語』 John McLeod著、英宝社、1900円 これに加えて配布資料を使います。		
参考文献	エドワード・サイード『オリエンタリズム』、『文化と帝国主義』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	輪読をする場合、担当箇所は責任を持って準備してくる事が求められます。担当でなくても自分の意見をまとめた上で授業に臨んでください。 英米社会文化論基礎演習からの継続した履修が望ましい。		

授業科目名	英米社会文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本 和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	4月以降に掲示します		
授業の形式・方式	講義形式と演習形式を併用します。プレゼンテーション、ディスカッション活動を用います。 授業中の解説や議論において英語を使用する部分を出来るだけ多くします。 授業時間前の指定された時間に、題材とする映画を観ておく事が必要です。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	映画と文化、メディアと文化、イギリス文化、アメリカ文化、オーストラリア文化、ジェンダー、階級、人種、教育、宗教、帝国主義、植民地主義、ポストコロニアリズム、異文化理解、映画化による原作あるいは事実の変更について		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	イギリス、アメリカ、アイルランド、オーストラリアそして日本を描いた映画13本を題材にしてイギリスを中心とする英語圏の文化、英語圏における日本文化の表象、あるいは異文化理解の諸問題について議論し、文化研究の基礎知識を身につけます。 イギリスを中心とした英語圏の文化的つながりや、英語文化と異文化の関わりを考え、英米社会文化論基礎演習、演習につながる知識を習得します。 映画に描かれている時代背景や各国の文化的要素について、和文だけでなく、英文の資料を書籍やインターネットで調査し、それをまとめてクラスに対してプレゼンテーションすることによって論理的思考と効果的な発表が出来るようになることを目標とします。		
授業の内容	映画に描かれたイギリス、アメリカ、アイルランド、オーストラリア社会文化について多面的に考察します。ほぼ毎回1本、計13本の映画を取り上げます。授業時間前にそれぞれの映画を観ておいて、文化に関する重要テーマについて考えておくことが求められます。 1. 担当した映画を、あるテーマについて分析し、プレゼンテーションをします。人数が多い場合はグループを作って発表を行います。プレゼンの際はハンドアウトを作成し配布します。 2. プレゼンテーションの内容に基づいて、担当した映画についての論文を執筆します。 3. それぞれの映画の英語の台詞の内容やその翻訳等についても考察します。 (扱う映画については、変更する事もあります)		
成績評価の方法	すべての映画について視聴後に感想や批評、気づきを書き込んだノートを提出する。これには、授業で扱わなかったが自分で観た映画についてのコメントも書き込む。このノートと、プレゼンテーションと最終レポートの総合評価。		
テキスト	『映画でわかるイギリス文化入門』板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子著、松柏社、2500円		
参考文献	最初の授業で指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業で取り上げる映画は、その映画を扱う授業時間前に必ず視聴しておく事を求めます。場所と時間を設定しますので、必ず映画を観てから授業に臨むようにしてください。図書館で見る事も出来ます。またテキストで取り上げられていて授業では扱わない映画、あるいは最近の英語圏文化に関する映画もできるだけ多く視聴することを推奨します。 グループまたは個人による発表を行ってまいりますので、そのための資料収集や作品研究に十分な時間を取って下さい。		

授業科目名	英米文化史論		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義形式と演習形式を併用する。 毎時間2、3人にテキストに関連した興味ある事柄について発表してもらう。 テキスト以外に英文の資料を配布するので、1回の授業のために学生は少なくとも1時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択、学芸員に係る選択必修(平成24年度以降入学生)		
キーワード	イギリス文化、文学、絵画		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標： (1) イギリス文化の特徴を理解する。 (2) 歴史・社会・芸術の関連性を考察する。 (3) 英語の読解力を向上させるとともに、自分で考え、それを表現する力を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ： 国際文化学科専門科目 文化研究</p>		
授業の内容	<p>まず、イギリス文化を形成する四つの文化圏の特徴を概観し、複合多民族国家としてのイギリスのありようを概観する。そして、イギリスを代表する絵画や文学の変遷をたどりながら、ヨーロッパ全体の文芸潮流との関りや、階級社会の問題、生活様式との関係などを探る。英米的とはいかなる特徴を有し、その文化に通底する見方、考え方とはどのようなものなのか。主に18世紀から19世紀の小説や絵画を材料に、歴史・社会・芸術の関連性を広い視野から考察する。</p> <p>毎週、授業でとりあげる範囲のテキスト(約10ページ)を読み、疑問点や興味あるトピックについて考えるという課題がなされていることを前提に授業を進める。</p> <p>学期中に2回程度、フィールドワークとして美術館等の展覧会を鑑賞し、レポートを書く。</p>		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み状況(レポートを含む)70%、定期試験30%の割合で評価する。		
テキスト	①佐久間康夫他『概説 イギリス文化史』(ミネルヴァ書房) ②ウィリアム・シェイクスピア『テンペスト』松岡和子訳(ちくま文庫)。		
参考文献	高橋裕子他『ヴィクトリア朝万華鏡』(新潮社) 谷田博幸『ヴィクトリア朝百貨事典』(河出書房新社)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分が興味をもった事柄について、英語でも日本語でもできる限り多くの本を読んでもください。その成果を授業で積極的に発表してもらうのを期待しています。また、授業でとりあげてほしいテーマがあれば申し出てください。できるだけ希望にそうようにします。		

授業科目名	英米文化史論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。学生の発表と議論を中心とする演習形式でテキストを講読する。 1回に読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていくが、1回の授業のために少なくとも2時間の予習が必要である		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	イギリス文化、文学、絵画		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <p>(1) 一次資料を読むことを通して、文化に内在する問題を見つけ出し、考察する</p> <p>(2) 歴史・社会・芸術の関連性を考察する。</p> <p>(3) 自分の研究テーマを見つける。</p> <p>(4) 英語の読解力を向上させるとともに、自分の考えを表現する力を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科専門科目 文化研究</p>		
授業の内容	<p>19世紀の小説と絵画を用いた演習を通して、「文化」とは同時代の多くの問いや異なる価値観がぶつかり合う場として、それ自体が矛盾し衝突する様々な語りの場として問題化されるべきものであることを学ぶ。</p> <p>取り上げた作品の歴史的、社会的、文化的文脈を明らかにしつつ、そこに見出される問題をできるだけ多く取り出して議論することで、研究に必要な英語力と各自の問題意識を高める。</p> <p>テキストと映画の比較も行い、それぞれの特徴を考察する。</p>		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み（レポートを含む70%、定期試験30%の割合で評価する。		
テキスト	Charlotte Bronte, Jane Eyre (Oxford World's Classics).		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>英語および日本語で多くの資料を読み、毎回課題をこなすことが要求される授業ですので覚悟して履修してください。自分が深めていきたいテーマを見つけ、積極的に取り組んでください。その成果を授業で発表してもらおうのを期待しています。</p> <p>毎時間、必ず英語の辞書を持参してください。</p>		

授業科目名	英米文化史論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。学生の発表と議論を中心とする演習形式でテキストを講読する。 1回に読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていくが、1回の授業のために少なくとも2時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	イギリス文化、文学、絵画、ジェンダー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <p>(1) 一次資料を読むことを通して、文化に内在する問題を見つけ出し、考察する。 (2) 歴史・社会・芸術の関連性を考察する。 (3) 自分の研究テーマと研究方法を見つける。 (4) 英語の読解力を向上させるとともに、自分の考えを表現する力を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科専門科目 文化研究</p>		
授業の内容	<p>特にジェンダー構築の問題に焦点を当て、19世紀イギリス小説と絵画にこめられた意味を読み取っていく。作品が提示する「女」のイメージは誰が、何の目的で、誰に照準を合わせて作り出した虚構なのか。こうしたイメージの創造を通して、伝統的、支配的なジェンダー規範がいかに強化されるのか、あるいはジェンダー規範の転換の可能性が模索されているのか、人々のジェンダー・アイデンティティはどのように構築されていくのかについて考察する。</p> <p>各自が自らの問題と、それを解明するのに適切な手法を見出し、卒業論文につなげていくことを目指す。</p> <p>テキストと映画の比較も行い、それぞれの特徴を考察する。</p>		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み状況（レポートを含む）70%、定期試験30%の割合で評価する。		
テキスト	Charlotte Bronte, Jane Eyre (Oxford World Classics).		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英語および日本語で多くの資料を読み、毎回課題をこなすことが要求される授業ですので覚悟して履修してください。自分が深めていきたいテーマを見つけ、積極的に取り組んでください。その成果を授業で発表してもらおうのを期待しています。 毎時間、必ず英語の辞書を持参してください。		

授業科目名	英米文化史論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	<p>対面授業。講義形式と演習形式を併用する。毎時間2、3人にテキストに関連した興味ある事柄について発表してもらう。</p> <p>テキスト以外に英文の資料を配布するので、1回の授業のために学生は少なくとも1時間の予習が必要である。</p>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	イギリス文化、文学、文化研究理論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：(1)各世紀のパラダイムの変遷を理解する。(2)19世紀イギリス文化の形成・矛盾・変化について考察する。(3)文化研究の基礎的な理論を学ぶ。(4)英語の読解力を向上させるとともに、自分で考え、それを表現する力を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科専門科目 文化研究</p>		
授業の内容	<p>主に文学との関連で、各世紀の根底に存在すると思われる準拠枠としてのパラダイムの変遷(＜存在の鎖＞から、＜崇高＞＜進化論＞＜モダニズム/ポストモダニズム＞まで)を概観する。そして、二つの革命(農業革命、産業革命)、ジャーナリズムの発展、教育、子供と女性をめぐる問題等の観点から、19世紀イギリス文化の形成・矛盾・変化について考察する。</p> <p>毎週、授業でとりあげる範囲のテキスト(約10ページ)を読み、疑問点や興味を持ったトピックについて考えるという課題がなされていることを前提に授業を進める。</p>		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み状況(レポートを含む)70%、期末レポート30%の割合で評価する。		
テキスト	佐久間康夫他『概説 イギリス文化史』(ミネルヴァ書房)		
参考文献	高橋裕子他『ヴィクトリア朝万華鏡』(新潮社) 谷田博幸『ヴィクトリア朝百貨事典』(河出書房新社)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分が興味をもった事柄について、英語でも日本語でもできる限り多くの本を読んでもください。その成果を授業で積極的に発表してもらうのを期待しています。また、授業でとりあげてほしいテーマがあれば申し出てください。できるだけ希望にそうようにします。		

授業科目名	英米文学論		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822 研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式。授業で扱う範囲を前もって読み、概要を押さえておくこと。簡単なレポートを3回提出してもらう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)必修、高一種免(英語)必修		
キーワード	英文学史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・英文で書かれた英文学史のテキストを読みながら、ルネッサンス以降を中心に英文学史全体の概要の流れに沿って解説して行く。 ・それぞれの時代の主要な文学作品からの抜粋を原文で読み、具体的にその作品全体の概要を示す。 ・歴史・社会・文化などの時代背景を考慮に入れながら、文体や主題などについて解説し、個々の作家、及び、その時代の文学の特徴を考察する。 ・英文学についての有機的な知識と理解を深める。 		
授業の内容	The Penguin Guide to Literature in English を読みながら、英文学史を概観する。		
成績評価の方法	基本的には、レポート3回 60%、期末試験、40%。授業態度も参考にする。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：The Penguin Guide to Literature in English (南雲堂) ・毎回テキストの概要を纏めた資料を配付する。 		
参考文献	参考文献はそれぞれの授業の際にリストを配布する。 また、参考文献は高橋研究室のホームページからダウンロード出来る。 URL: http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~takahasi/seminar/index.html		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822 研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式。授業で扱う範囲を前もって読み、概要を押さえておくこと。簡単なレポートを3回提出してもらう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)必修、高一種免(英語)必修		
キーワード	英文学史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・英文で書かれた英文学史のテキストを読みながら、ルネッサンス以降を中心に英文学史全体の概要の流れに沿って解説して行く。 ・それぞれの時代の主要な文学作品からの抜粋を原文で読み、具体的にその作品全体の概要を示す。 ・歴史・社会・文化などの時代背景を考慮に入れながら、文体や主題などについて解説し、個々の作家、及び、その時代の文学の特徴を考察する。 ・英文学についての有機的な知識と理解を深める。 		
授業の内容	The Penguin Guide to Literature in English を読みながら、英文学史を概観する。		
成績評価の方法	基本的には、レポート3回 60%、期末試験、40%。授業態度も参考にする。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト: The Penguin Guide to Literature in English (南雲堂) ・毎回テキストの概要を纏めた資料を配付する。 		
参考文献	参考文献はそれぞれの授業の際にリストを配布する。 また、参考文献は高橋研究室のホームページからダウンロード出来る。 URL: http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~takahasi/seminar/index.html		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	現代英文学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	20世紀英国(アイルランドを含む)の主要な作家の作品を演習形式で読み、文学作品を原文で正確に読みこなす力を養うとともに、英文学研究の基礎を習得させる。具体的には、20世紀英国の代表的な作家の作品を取り上げ、テキストを精読しながら分析・解釈を行い、その作品の意味を探っていく。また、その過程で、文献の検索や利用の方法、研究の方法論、レポートや論文のまとめ方など、英文学研究に必要な基本的知識を習得させることとする。		
授業の内容	今年度は、Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills を読む。著者は、長崎に生まれるが、父親の仕事の関係で幼い頃に英国に渡り、そのまま英国に止まり英国の大学を卒業し作家として活躍している。この作品は、長崎で被曝し、英国に渡った主人公の女性が、長崎時代を回想する形式をとっている。語りの構造などに注目しながら、テキストを読み、現代文学の特徴とその解釈の方法を学ぶ。		
成績評価の方法	レポートと発表を基礎とし、出席・授業態度を参考にする。		
テキスト	Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills (Faber & Faber)		
参考文献	参考文献等は授業中に適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学論基礎演習 A		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	現代英文学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	20世紀英国(アイルランドを含む)の主要な作家の作品を演習形式で読み、文学作品を原文で正確に読みこなす力を養うとともに、英文学研究の基礎を習得させる。具体的には、20世紀英国の代表的な作家の作品を取り上げ、テキストを精読しながら分析・解釈を行い、その作品の意味を探っていく。また、その過程で、文献の検索や利用の方法、研究の方法論、レポートや論文のまとめ方など、英文学研究に必要な基本的知識を習得させることとする。		
授業の内容	今年度は、Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills を読む。著者は、長崎に生まれるが、父親の仕事の関係で幼い頃に英国に渡り、そのまま英国に止まり英国の大学を卒業し作家として活躍している。この作品は、長崎で被曝し、英国に渡った主人公の女性が、長崎時代を回想する形式をとっている。語りの構造などに注目しながら、テキストを読み、現代文学の特徴とその解釈の方法を学ぶ。		
成績評価の方法	レポートと発表を基礎とし、出席・授業態度を参考にする。		
テキスト	Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills (Faber & Faber)		
参考文献	参考文献等は授業中に適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	現代英文学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	基礎演習Iで学んだことを基礎に、20世紀英国(アイルランドを含む)の主要な作家の作品を演習形式で精読しながら、現代英文学の分析・解釈の方法を習得させる。具体的には、20世紀英国の代表的な作家の作品を取り上げ、学生に日本語訳と文学的解釈を発表させ、それについてクラス全体でディスカッションを行い、その後、先行研究で問題にされている点などを概説した上で、具体的なテキストの分析・解釈を示して理解を深めて行くこととする。		
授業の内容	前期に引き続き、Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills を読む。		
成績評価の方法	レポートと発表を基礎とし、出席・授業態度を参考にする。		
テキスト	Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills (Faber & Faber)		
参考文献	参考文献等は授業中に適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学論演習 A		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	現代英文学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	基礎演習 I で学んだことを基礎に、20世紀英国(アイルランドを含む)の主要な作家の作品を演習形式で精読しながら、現代英文学の分析・解釈の方法を習得させる。具体的には、20世紀英国の代表的な作家の作品を取り上げ、学生に日本語訳と文学的解釈を発表させ、それについてクラス全体でディスカッションを行い、その後、先行研究で問題にされている点などを概説した上で、具体的なテキストの分析・解釈を示して理解を深めて行くこととする。		
授業の内容	前期に引き続き、Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills を読む。		
成績評価の方法	レポートと発表を基礎とし、出席・授業態度を参考にする。		
テキスト	Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills (Faber & Faber)		
参考文献	参考文献等は授業中に適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学論特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式・講義形式を併用する。配布する資料を前もって読んでおくこと。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化科 2・3・4年次対象(平成21年度以降の入学生)		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	現代英文学, 批評, 映画		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	20世紀初頭の新しい文学であるモダニズムの代表的な作家, D. H. ロレンス, ヴァージニア・ウルフ, ジェイムズ・ジョイスなどを取り上げ、その概要を紹介するとともに、手法や主題の分析、時代背景の考察を通して、20世紀英文学の特徴と諸問題を考察する。 また、授業の一部で20世紀の新しいメディアとしての映画について、その表象・技法などについて考察する。		
授業の内容	英国モダニズム文学を中心に、20世紀英文学について学ぶ。代表的な作品の抜粋を読むと同時に、時代背景も考慮に入れながら、その時代の文学の特徴について考察する。サブテキストとして、David Lodge の The Art of Fiction を読み、批評の方法を学ぶ。15回の授業のうち2回は映画(1作品)を鑑賞し、それについてのディスカッション、及び解説を行う。		
成績評価の方法	レポートを基礎とし、出席・学習態度を参考にする。		
テキスト	David Lodge, The Art of Fiction (英宝社) 資料は授業中に適宜配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学論特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	城戸 光世 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	配布資料を用いた演習形式の授業です。授業日程に沿って、各回様々な文学テキストを読みながら、一緒に内容や技法について議論していきたいと思ひます。学生は授業に出席し、毎回の授業内容を配布資料などを用いながら予習・復習し、最後に授業内で取り上げた作品についてのレポートを提出することが求められます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象 (平成25年度以降入学生)		
免許等指定科目	中一種免 (英語) 選択、高一種免 (英語) 選択		
キーワード	アメリカ文学、アメリカ文学史、アメリカ文化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	19～20世紀の英米文学の作品をいくつか実際に読み、内容についてディスカッションすることを通して、文学作品の解釈の仕方を学ぶとともに、様々な英語表現や翻訳の技法などについて学習します。さらにはアメリカとイギリスの文化的・社会的・歴史的背景の違いなどについても理解を深めることも目指します。今年度は、短編小説が隆盛した19世紀アメリカの古典作家から人気のある現代の若手イギリス作家まで、さまざまな英米の短編を鑑賞し、その解釈の仕方から作品背景となる英米文化についても学びたいと思ひます。		
授業の内容	授業の目標にあわせ、以下のような英米文学作品を多様な視点から取り上げ、一緒に内容を読解し、ディスカッションしていきながら、作品とその背景の理解を深め、短編の分析の仕方を学びたいと思ひます。第1回：イントロダクション～文学作品の読み方・語り方と短編小説の歴史について学ぶ、第2回：短編小説の技法について学ぶ (登場人物・場面設定・視点・語り) ～グレース・ペーリー「マザー」「サミュエル」ほか、第3回：短編小説の技法について学ぶ (プロット・テーマ・象徴・メタファー) ～アーネスト・ヘミングウェイ「雨の中の猫」ほか、第4回：行間を読む、第5回：エイミー・ベンダー (Aimee Bender) "The Rememberer" ～作品のリアリティについて考える、第6回：カート・ヴォネガット (Kurt Vonnegut, Jr.) "Long Walk To Forever" ～象徴と寓話について学ぶ、第7回～9回：Granta 81: The Best of Young British Novelists 2003 より現代イギリス若手作家の短編読解～現代イギリス社会について考える、第10回～12回：ナサニエル・ホーソーン (Nathaniel Hawthorne) 「ラバチーニの娘」読解～ジェンダーの視点から読む、第13回～15回：アリス・ウォーカー (Alice Walker) "Everyday Use"～作品と作家のエスニシティや文化的伝統について考える		
成績評価の方法	授業参加度 (50%) と最終レポート (50%) によって総合的に評価します。		
テキスト	配布資料		
参考文献	「はじめて学ぶアメリカ文学史」「たのしく読めるアメリカ文学」(ミネルヴァ書房) / 「アメリカ文学入門」(三修社) / ディキンソン著『文学の学び方——論文・レポートの書き方』(南雲堂) / 『論文・レポートを書くためのアメリカ文学ガイド』(荒地出版社) など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回の授業の前に、次の回で取り上げる作品をしっかりと読み、参考図書などで文学史的な情報を確認すると、授業の理解が深まり、議論に積極的に取り組みます。授業などに関する連絡方法は、教務課の掲示や、授業内での連絡などによって行います。		

授業科目名	東アジア文化史論		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。授業日程に従って講義し、学生のグループ発表等も交えながら実施する。学生は授業にレポートや発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る選択必修(平成24年度以降入学生)		
キーワード	印刷出版文化、発信と受信、中国・韓国・日本の文化史交流		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語・社会や文化を理解するために設定された授業である。東アジアを総体として理解したい学生を主たる対象に、地域史における文化交流に重点を置く。印刷出版文化史の学習を通して、文化の伝達の制約や消滅の要因を究明する。		
授業の内容	中国・韓国さらに日本を含めて東アジアの交流を支えてきた文化の共通基盤や相互の独自性を、情報伝播の方面から探求する。特に、印刷出版による文化情報の平準化は、書誌学文献学的な考察もさることながら、発信者側受信者側ともに特徴を有し、且つ現在のメディア媒体による通信交流にまで研究の視野を広げることが可能である(例えば電子書籍の問題など)。そこで、日本や中国における印刷出版文化の展開を講述し、書写媒体としてのペーパーロードや書物の移動としてのブックロードという視点から東アジア地域の特性を物的交流による文化変遷として研究する。同時に文化の伝播と比較の観点から、西洋の印刷出版文化などの要点にも触れる。		
成績評価の方法	レポート(70%)、授業での発表(30%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	プリント 参考文献は随時紹介		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語・社会を通して文化を理解しようとする学生の履修を歓迎する。また、3年次開設の「文化史論基礎演習」「文化史論演習」に接続し、3科目を1組とする内容の一つとなる。さらに、「英米文化史論」「日本文化史論」「東アジア文学論」「比較文化論」などとも関連して、文化史や東アジア理解の立体的な研究を可能にする。隣接分野として「東アジア社会文化論」などの履修が望ましい。 学芸員資格の選択科目として、伝達媒体や印刷技術、書籍の成り立ちやブックロードなど、基本的な考え方を習得する内容を提供する。		

授業科目名	東アジア文化史論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式。授業日程に従ってテーマを設定し、学生のグループ発表・個人発表等を中心に実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	発信と受信、中国・韓国・日本の文化史交流、東アジア文化比較		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語・社会や文化を理解するために設定された授業である。東アジアを総体として理解したい学生を主たる対象に、地域史における文化交流に重点を置く。「東アジア文化史論」、後期開講の「東アジア文化史論演習」とともに3科目を1組とする内容のうちの一つとなる。文化史研究の方法と方向性を理解修得することを目標とする。		
授業の内容	1, シルクロードの物流を多角的に考える。受講生の話し合いに基づき共通テーマを設定し、文献検索・情報収集の方法の確認、レジュメ資料の作成方法の確認、レポート作成方法の確認、発表の練習などを行う。 2, 研究の方法や方向性を理解するため、先行研究・新研究の書評(ブックレビュー)作成の練習をする。		
成績評価の方法	レポートや授業への取り組みを総合的に判断して評価する。		
テキスト	プリント		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語・社会を通して文化を理解しようとする学生の履修を歓迎する。アジアや日本の文化基層を主体に研究する場合は、「東アジア地域史論」「東アジア社会文化論」「東アジア文学論」などの基礎演習・演習科目を、総合横断的な文化研究を志望する場合は、「日本文化史論」「日本社会文化論」「英米文化史論」「比較文化論」などの基礎演習・演習科目を履修すると方法論や内容の理解に際して好ましい。		

授業科目名	東アジア文化史論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式。授業日程に従ってテーマを設定し、学生の個人発表を中心に実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	発信と受信、中国・韓国・日本の文化史交流、比較文化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語・社会や文化を理解するために設定された授業である。東アジアを総体として理解したい学生を主たる対象に、文化交流の研究に重点を置く。「東アジア文化史論」、前期開講の「東アジア文化史論基礎演習」とともに3科目を1組とする内容の一つとなる。受講生の自主的な課題設定と研究の方向性・方法論とを確認しながら、レポートのまとめ方を練習する。		
授業の内容	「東アジア文化史論基礎演習」で学んだ内容を基にして、情報の伝達のされ方、受信受容のあり方を考察する。発信者側が求めた伝達の対象、あるいは受信者側の要求や制限など、時代とともに変化し、且つ多様化した人々の意識とその反映としての技術・様式の拡がりあるいは変容消滅、周辺諸地域への影響や交流を検討する。これにより、物的・人的交流を文化史の変遷として理解する視点を養う。また、特定の地域の特徴や共通性・相違点などを考える。		
成績評価の方法	レポートや授業への取り組みを総合的に判断して評価する。		
テキスト	プリント		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語・社会を通して文化を理解しようとする学生の履修を歓迎する。アジアや日本の文化基層を研究したい場合は、「東アジア地域史論」「東アジア社会文化論」「東アジア文学論」などの基礎演習・演習科目を、総合的横断的文化研究を志望する場合は、「日本文化史論」「英米文化史論」「比較文化論」などの基礎演習・演習科目を履修すると、方法論や内容の理解に際して好ましい。		

授業科目名	東アジア文化史論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。授業日程に従って講義し、学生のグループ発表等も交えながら実施する。学生は授業に出席し、レポートを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	文化と現代、改革と男女		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語・社会や文化を理解するために設定された授業である。現在では、東アジア特に中国や韓国の問題が話題に上らない日はない。日本との関連も深い隣国中国の現代の変化に焦点をあて、映像が伝える問題を理解する。		
授業の内容	2000年以降に製作放映された中国の映画を題材に、改革開放の変化に飲み込まれる男女、家族の関係を考察する。現代社会における文化大革命に対する理解を確認する。		
成績評価の方法	レポート(1回、60%)、授業での発表と毎回の感想シート等(40%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	プリント		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語・社会を通して文化を理解しようとする学生の履修を歓迎する。「東アジア文化史論」や同「基礎演習」「演習」などとは特に関連させない。見る機会の少ない中国映画(または中国を題材とした映像)を通して、文化と時代や男女の生き方を考えてみたい学生の履修を歓迎する。		

授業科目名	東アジア文学論（中国文学）		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713 研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義を中心に、ほぼ毎回、ディスカッションや発表の機会を設ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（国語）必修、高一種免（国語）必修		
キーワード	漢字・漢語の特質とその美しさ、話し言葉（白話）と書き言葉（文言）、時代と文学、個人と社会、現実と幻想、現実参加の志と隠逸思想、近代西洋文明と中国古典		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目・文化研究の枠に位置づけられる。 日本を含む東アジア一帯の文化を知る上で、一つの重要な基礎となる中国古典のエッセンスを学ぶ。現代日本人とは異なる状況を生きていた人々の存在を知り、彼らが残した言葉を読み解くことを通して、論理的で柔軟な思考力の体得を目指す。		
授業の内容	近代以前、日本を含む東アジア一帯の知的共通基盤であった中国古典文学の骨格を把握した上で、いくつかの作品を取り上げて、古代・中世の中国人が持つ世界観や人間観、美意識の特質を探ってゆく。私たちは、この半ば見知らぬ世界を知ることにより、自らの価値観を相対化し、異文化を理解することの面白さに出会うだろう。一方、遠い過去の人々の言葉の中に、人として変わることのない普遍性を見出すことにもなるだろう。		
成績評価の方法	授業に対する取り組み状況（30%）、発表（20%）、期末筆記試験（50%）により評価する。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国の古典文学、及びこれに隣接する分野（日本の文学・文化・言語・歴史、中国の文化・言語・歴史）に興味のある学生には特に受講を勧める。		

授業科目名	東アジア文学論A（中国文学）		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義を中心に、ほぼ毎回、ディスカッションや発表の機会を設ける。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（国語）必修、高一種免（国語）必修		
キーワード	漢字・漢語の特質とその美しさ、話し言葉（白話）と書き言葉（文言）、時代と文学、個人と社会、現実と幻想、現実参加の志と隠逸思想、近代西洋文明と中国古典		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目・文化研究の枠に位置づけられる。 日本を含む東アジア一帯の文化を知る上で、一つの重要な基礎となる中国古典のエッセンスを学ぶ。現代日本人とは異なる状況を生きていた人々の存在を知り、彼らが残した言葉を読み解くことを通して、論理的で柔軟な思考力の体得を目指す。		
授業の内容	近代以前、日本を含む東アジア一帯の知的共通基盤であった中国古典文学の骨格を把握した上で、いくつかの作品を取り上げて、古代・中世の中国人が持つ世界観や人間観、美意識の特質を探ってゆく。私たちは、この半ば見知らぬ世界を知ることにより、自らの価値観を相対化し、異文化を理解することの面白さに出会うだろう。一方、遠い過去の人々の言葉の中に、人として変わることのない普遍性を見出すことにもなるだろう。		
成績評価の方法	授業に対する取り組み状況（30%）、発表（20%）、期末筆記試験（50%）により評価する。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国の古典文学、及びこれに隣接する分野（日本の文学・文化・言語・歴史、中国の文化・言語・歴史）に興味のある学生には特に受講を勧める。		

授業科目名	東アジア文学論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713 研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。担当者が準備してきた資料に基づき、受講者全員で検討を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語) 選択、高一種免(国語) 選択		
キーワード	白居易、『白氏文集』、諷諭詩、「新樂府」		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目・文化研究。 中国古典語で記された文献を読むための基礎を学ぶ。		
授業の内容	中国古典語で記された文献を読み解く基礎を学ぶため、本年度は、唐代の代表的詩人、白居易の諷諭詩「新樂府」を取り上げて読む。いくつかのテキストを比較検討して最良の本文を定め、これに基づいて、訓み下し、語句の解釈、本文の読解を行っていく。親しみやすい内容と平易な言葉で世相を風刺したこの作品群を精読しながら、あわせて、日本文学における摂取状況についても調査する。		
成績評価の方法	授業への参加姿勢(50%)、発表課題に対する取り組み状況(50%)によって評価する。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国の古典文学、及びこれに隣接する分野(日本の文学・文化・言語・歴史、中国の文化・言語・歴史)に興味のある学生には特に受講を勧める。		

授業科目名	東アジア文学論基礎演習 A		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713 研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。担当者が準備してきた資料に基づき、受講者全員で検討を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	白居易、『白氏文集』、諷諭詩、「新樂府」		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目・文化研究。 中国古典語で記された文献を読むための基礎を学ぶ。		
授業の内容	中国古典語で記された文献を読み解く基礎を学ぶため、本年度は、唐代の代表的詩人、白居易の諷諭詩「新樂府」を取り上げて読む。いくつかのテキストを比較検討して最良の本文を定め、これに基づいて、訓み下し、語句の解釈、本文の読解を行っていく。親しみやすい内容と平易な言葉で世相を風刺したこの作品群を精読しながら、あわせて、日本文学における摂取状況についても調査する。		
成績評価の方法	授業への参加姿勢(50%)、発表課題に対する取り組み状況(50%)によって評価する。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国の古典文学、及びこれに隣接する分野(日本の文学・文化・言語・歴史、中国の文化・言語・歴史)に興味のある学生には特に受講を勧める。		

授業科目名	東アジア文学論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713 研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。担当者が準備してきた資料に基づき、受講者全員で検討を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語) 選択、高一種免(国語) 選択		
キーワード	元二(禾+真)、「新楽府」、白居易、『白氏文集』、諷諭詩		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目・文化研究。 基礎演習で学んだことを土台として、中国古典語で記された文献に対する読解力を更に高める。		
授業の内容	東アジア文学論基礎演習で学んだことを土台として、引き続き白居易の諷諭詩「新楽府」を読む。日本文学における撰取状況についても前期と同様に調査する。後期の演習では更に、白居易の友人である元稹の「新楽府」をも白詩と比較対照させながら読み、両詩人の質的な違いについても考察を広げる。		
成績評価の方法	授業への参加姿勢(50%)、発表課題に対する取り組み状況(50%)によって評価する。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国の古典文学、及びこれに隣接する分野(日本の文学・文化・言語・歴史、中国の文化・言語・歴史)に興味のある学生には特に受講を勧める。		

授業科目名	東アジア文学論演習 A		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713 研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。担当者が準備してきた資料に基づき、受講者全員で検討を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語) 選択、高一種免(国語) 選択		
キーワード	元二(禾+真)、「新楽府」、白居易、『白氏文集』、諷諭詩		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目・文化研究。 基礎演習で学んだことを土台として、中国古典語で記された文献に対する読解力を更に高める。		
授業の内容	東アジア文学論基礎演習で学んだことを土台として、引き続き白居易の諷諭詩「新楽府」を読む。日本文学における撰取状況についても前期と同様に調査する。後期の演習では更に、白居易の友人である元稹の「新楽府」をも白詩と比較対照させながら読み、両詩人の質的な違いについても考察を広げる。		
成績評価の方法	授業への参加姿勢(50%)、発表課題に対する取り組み状況(50%)によって評価する。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国の古典文学、及びこれに隣接する分野(日本の文学・文化・言語・歴史、中国の文化・言語・歴史)に興味のある学生には特に受講を勧める。		

授業科目名	東アジア文学論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713 研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義を中心としながら、随時、ディスカッションや発表の機会を設ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語) 選択、高一種免(国語) 選択		
キーワード	『三国志』、曹操、曹丕、曹植、楽府詩、五言詩、建安文壇、漢代の宴席文芸		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>学科専門科目・文化研究の枠に位置づけられる。 東アジア文学論に連なる科目として、この分野のある特定の問題について考察する。 現代日本からは遠く離れた時代の中国の人々について、彼らの生の軌跡を当時の座標において正しく把握した上で、彼らの言葉の中に自分たちにも通じる普遍性を読み取ることを目指す。</p>		
授業の内容	<p>中国古典文学に関する諸問題の中から、本年度は『三国志』の時代(西暦2~3世紀)の文学を取り上げて考察する。漢王朝の瓦解という乱世を治めた曹操と、その息子である曹丕・曹植の詩歌作品を通して、彼らをめぐるこの時代特有の人間模様、及びいつの世にもあるとも言える骨肉の緊張関係を読み解いてゆく。あわせて、曹氏父子やその周辺に集った文人集団の活動と作品を、それに先立つ漢代の宴席文芸との継承関係という文脈で捉え直す。</p>		
成績評価の方法	授業に対する取り組み状況(30%)、レポート(20%)、期末筆記試験(50%)による総合評価。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア文学論特論A		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義を中心としながら、随時、ディスカッションや発表の機会を設ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	『三国志』、曹操、曹丕、曹植、楽府詩、五言詩、建安文壇、漢代の宴席文芸		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>学科専門科目・文化研究の枠に位置づけられる。 東アジア文学論に連なる科目として、この分野のある特定の問題について考察する。 現代日本からは遠く離れた時代の中国の人々について、彼らの生の軌跡を当時の座標において正しく把握した上で、彼らの言葉の中に自分たちにも通じる普遍性を読み取ることを目指す。</p>		
授業の内容	<p>中国古典文学に関する諸問題の中から、本年度は『三国志』の時代(西暦2~3世紀)の文学を取り上げて考察する。漢王朝の瓦解という乱世を治めた曹操と、その息子である曹丕・曹植の詩歌作品を通して、彼らをめぐるこの時代特有の人間模様、及びいつの世にもあるとも言える骨肉の緊張関係を読み解いてゆく。あわせて、曹氏父子やその周辺に集った文人集団の活動と作品を、それに先立つ漢代の宴席文芸との継承関係という文脈で捉え直す。</p>		
成績評価の方法	授業に対する取り組み状況(30%)、レポート(20%)、期末筆記試験(50%)による総合評価。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	比較文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 銀志		
研究室の場所	広島キャンパス 1717研究室		
オフィスアワー	水曜日16:00-18:00		
授業の形式・方式	対面授業。パワーポイントや視聴覚資料・実物の服飾資料を使い、講義と発表形式で行う。 学生は授業に出席し、小テスト・レポート・発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	比較文化、生活文化、民族服飾、朝鮮通信使、東アジア、文化変容、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「学習教育目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アジア各国の服飾文化に関する基礎知識を身につけることができる。 2. 服飾という切り口から文化の普遍性と特殊性を理解することができる。 3. 日・中・韓の生活文化全般を幅広く理解することができる。 <p>本科目は、学科専門共通科目の一つとして位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>異文化と異文化の間には、相互の特徴を写し出す文化的な構成要素が存在する。服飾はその構成要素の一つであり、端的に文化的な特徴を表現する。この授業では、日本や朝鮮、中国における服飾の歴史をたどりながら、お互いの異なる服飾文化の中で、服飾がどのように位置づけられ、どのような役割を果たしてきたのかについて幅広く理解する。また、服飾は生活文化の一端であることから、あわせて食と住まいについても東アジアの全般を見渡し理解を広める。</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み方 (20%)、発表 (20%)、小テスト (20%)、レポート (40%) で総合評価する。		
テキスト	特に指定しない。毎回プリントなどを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	アジア諸国の民族服飾や生活文化に興味を持つ学生の積極的な参加を期待する。 受講希望者は初回の講義に必ず出席すること。		

授業科目名	比較文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 銀志		
研究室の場所	広島キャンパス 1717 研究室		
オフィスアワー	水曜日16:00-18:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に演習形式で行なう。 学生は授業に出席し、レポートや発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	比較文化、東アジア、服飾文化、生活文化、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「学習教育目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 比較文化の研究において、基礎となる知識を幅広く習得することができる。 2. 先行研究に示された研究内容をまとめ、論理的に説明することができる。 3. ディベートの力を育むことができる。 <p>本科目は、学科専門科目の一つとして位置づけられる。</p>		
授業の内容	比較文化に関する先行研究論文を用い、研究の方法を学習する。一つの論文を、参加者全員が個別的な視点で分析・考察し、発表や討議を行なう。第6回目の授業からは、各自論文1編を選別し、その内容について批判的な視点から考察・発表する。授業の進度に応じて視聴覚資料を活用し、理解を図るようにする。		
成績評価の方法	発表（40％）、レポート（40％）、発言状況（20％）で総合評価する。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	韓国語または中国語を4単位以上履修した者が受講できる。 比較文化論演習を引き続き受講するのを勧める。		

授業科目名	比較文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 銀志		
研究室の場所	広島キャンパス 1717研究室		
オフィスアワー	水曜日16:00-18:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に演習形式で行なう。学生は授業に出席し、レポートや発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	比較文化、東アジア、服飾文化、生活文化、異文化理解		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「学習教育目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら研究発表のテーマを設定し、研究方法を確立することができる。 2. 研究を進めるにあたって、資料の検索や活用の方法等を身に付けることができる。 3. 自らの研究成果を論理的にプレゼンテーションすることができる。 4. ディベートの力を育むことができる。 <p>本科目は、学科専門科目の一つとして位置づけられる。</p>		
授業の内容	基礎演習で培った比較文化研究に関する知識を踏まえた上、一つの研究テーマを設定し比較文化的な視点から調査・発表する。自ら設定したテーマを、構想・資料の収集・整理・分析・発表することで、卒論を書く論旨の組み立て方を学ぶ。		
成績評価の方法	発表（40％）、レポート（40％）、発言状況（20％）で総合評価する。		
テキスト	プリント資料を配布する。		
参考文献	参考文献は授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	韓国語または中国語を4単位以上履修した者が受講できる。 発表者だけではなく受講者全員が質疑応答に積極的に取り組むことを期待する。		

授業科目名	比較文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 銀志		
研究室の場所	広島キャンパス 1717研究室		
オフィスアワー	水曜日16:00-18:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義と発表形式で行なう。学生は授業に出席し、発表やレポートの提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	東アジア、文化受容、異文化理解、比較文化、服飾文化、西洋服飾、文様、色彩文化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>「学習教育目標」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋からみた東アジアの服飾や文様、色彩文化などについて理解を深めることができる。 2. 東洋と西洋の衣文化の特質を、比較文化的な視点から幅広く理解することができる。 3. プレゼンテーションの力を育むことができる。 <p>本科目は、学科専門科目の一つとして位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>本講義では服飾という切口からから外国人が認識した日本と韓国の衣文化について考えていく。また、西洋服飾の変遷(古代エジプトから現代まで)を辿りながら、東洋と西洋の衣文化について比較考察する。なお、東西における女装と男装の文化、文様と文化、祭りと衣文化、企業の衣文化などについて取り上げる。</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み方20%、発表30%、レポート50%で総合評価する。		
テキスト	毎回、プリント資料を配布する。		
参考文献	参考文献は授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	異文化理解、東アジアと西洋の服飾文化に興味を持つ学生の積極的な参加を期待する。		

授業科目名	日本社会文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	高松 亮太		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業計画に従い、毎回プリントを配布し、主として講義形式で実施する。学生は、事前に配布されたくずし字のプリントを解読してから授業に臨み、次回授業ではその解答・解説と、扱った作品やジャンルに関する説明を行う。また、学期中盤に1度小テスト、期末に試験を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る選択必修(平成23年度以前入学生)		
キーワード	日本文化、日本文学、江戸文化、変体仮名、くずし字、仮名草子、浮世草子、洒落本、読本、黄表紙、滑稽本、画賛、書簡、解読		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	江戸時代の文芸資料を原文で読解することを通して、江戸時代の文学史や豊饒な江戸文化の一端を理解するとともに、くずし字解読能力の向上を図る。また、江戸時代の文献や資料の内容を読み解くためのアプローチも同時に学ぶ。		
授業の内容	くずし字解読能力は、古典文学や古記録を読む際に身に付けておかなければならない能力である。本科目では、まず原資料に触れることの意義やくずし字・書誌学に関する基礎的な事柄について解説し、簡単な練習問題を経たうえで、江戸時代に生み出された代表的な文学作品や書簡文例集を、版本の影印(写真に撮り印刷したもの)を用いて読み解くことで、くずし字の判読に慣れるとともに、多様な江戸文化への理解を深める。また、画賛や書簡などの肉筆も取り上げ、遺墨を通じて江戸時代の人々の文雅の世界を鑑賞したい。展覧会などで原典を自力で味わいたい人にもオススメ。		
成績評価の方法	小テスト40%、期末試験60%の割合で評価する。		
テキスト	笠間影印叢刊行会編 『字典かな一写本をよむ楽しみ〔新装版〕』(笠間書院 2003)ほか毎回資料を配付する。		
参考文献	『くずし字用例辞典』普及版(東京堂出版、1993)、『くずし字解読辞典』増補版(近藤出版社、1975)ほか授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜DVDやパワーポイントを使用する。 ・くずし字解読能力の向上には反復学習が不可欠である。授業時間外の自主的かつ積極的な取り組みを期待する。 		

授業科目名	日本社会文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	高松 亮太		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。主として演習形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る選択必修(平成23年度以前入学生)		
キーワード	日本文化、日本文学、江戸文化、俳諧、松尾芭蕉、奥のほそ道、曾良		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	『奥の細道』の注釈作業を通して、読解力や分析力を養うとともに、作品の文化的背景・社会的背景・言語的背景・歴史的背景・思想的背景などを理解し、考察する力を身に付けることを目標とする。		
授業の内容	松尾芭蕉『奥の細道』の諸本のうち、自筆本と目されている中尾本に注釈を施しながら読み進める。初回の授業時に発表の分担を決め、発表者は自身の担当箇所について諸本対校、注釈、現代語訳、鑑賞などをまとめた資料を作成し発表を行い、受講者全員で討議を行う。以上の作業を通して、芭蕉や『奥の細道』についての理解を深めるとともに、調査する力、先行研究を整理する力、問題点を提示する力、物事を考える力、意見交換をする力などを養う。		
成績評価の方法	作成資料および発表内容60%、討議への参加状況20%、コメントペーパーへの記入20%の割合で評価する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	楠本六男・深沢眞二編『おくのほそ道大全』（笠間書院、2009）、堀切実編『『おくのほそ道』解釈事典―諸説一覧』（東京堂出版、2003）、尾形侑『おくのほそ道評釈』（角川書店、2001）ほか授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	『奥のほそ道』を1度通読しておくことが望ましい。		

授業科目名	日本社会文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	高松 亮太		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。主として演習形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る選択必修(平成23年度以前入学生)		
キーワード	日本文化、日本文学、江戸文化、浮世草子、井原西鶴、町人物		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	『日本永代蔵』の注釈作業を通して、読解力や分析力を養うとともに、作品の文化的背景・社会的背景・言語的背景・歴史的背景・思想的背景などを理解し、考察する力を身に付けることを目標とする。		
授業の内容	日本初の経済小説として知られる、井原西鶴『日本永代蔵』に注釈を施しながら読み進める。初回の授業時に発表の分担を決め、発表者は自身の担当箇所について注釈、現代語訳、鑑賞などをまとめた資料を作成し発表を行い、受講者全員で討議を行う。以上の作業を通して、西鶴や『日本永代蔵』についての理解を深めるとともに、調査する力、先行研究を整理する力、問題点を提示する力、物事を考える力、意見交換をする力などを養う。		
成績評価の方法	作成資料および発表内容60%、討議への参加状況20%、コメントペーパーへの記入20%の割合で評価する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	堀切実編『日本永代蔵』新版(角川ソフィア文庫、2009)、谷脇理史『経済小説の原点『日本永代蔵』』(清文堂書店、2004)ほか授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	現代語訳で良いので、『日本永代蔵』を1度読んでおくことが望ましい。		

授業科目名	日本社会文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	高松 亮太		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業計画に従い、毎回プリントを配布し、講義形式で実施する。学生は、毎回コメントペーパーを記入し提出すること、および期末レポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る選択必修(平成23年度以前入学生)		
キーワード	日本文化、日本文学、江戸文化、上田秋成、蕪村、和歌、俳諧、狂歌、和学、浮世草子、読本、雨月物語、怪談、本居宣長、春雨物語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目では、江戸時代中期に活躍した文人上田秋成の生涯を、当代の文化・社会と関連付けながら辿ることで、怪異小説『雨月物語』の作家としてだけではない秋成の実像を理解するとともに、和歌・俳諧・狂歌・和学・煎茶道といった様々な江戸文化の一面を把握することを目標とする。		
授業の内容	十八世紀に多く現われる「文人」とは、文学・学問・芸術といった学芸を職業とせず、余技としてそれらに関わる人を指すが、その活動は和学・俳諧・狂歌・和歌・小説・絵画など多岐にわたっている。上田秋成はその文人の典型であり、したがって秋成の文業を検討することは、そのまま当時の学問、文化、思想などを検討することにも繋がる。本科目では、怪異小説『雨月物語』の作者として名高い上田秋成の生涯について概観したうえで、彼の様々な活動を追い、また作品を味わうことで、彼の実像や学芸の実態に迫る。また、それらを形作る背景となっている当代の社会や文化といった周縁環境との関連についても触れることとする。		
成績評価の方法	毎回のコメントペーパー30%、期末レポート70%の割合で評価する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	上田秋成研究会編『上田秋成研究事典』(笠間書院、2016)、池澤夏樹・長島弘明編『新潮古典文学アルバム20 上田秋成』(新潮社、1991)ほか授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本文化史論（日本文化史）		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室時は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（社会）選択、高一種免（地歴）選択、学芸員資格に係る選択必修		
キーワード	物質文化、考古学、民具学、道具、技術、生産、流通、消費		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本列島に暮らす人々の生活を支えてきたさまざまな用具・道具類が、歴史的過程を経て形成されたものであることに気付き、その背後にある生産・流通・消費などの要因を、多様な歴史資料を通して読み解くための思考力を身につける。		
授業の内容	日本列島において使用されてきた前近代の生活用具をいくつか取り上げ、その変遷過程を明らかにするとともに、変遷の背景にあるさまざまな要因について考察することにより、過去の社会・文化を物質資料から復元していくための方法を示す。		
成績評価の方法	期末試験によって、授業内容を理解できているかどうか、それをふまえて批判的かつ独創的な思考が展開できているかどうかを評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布するとともに、適宜参考文献を紹介する。		
参考文献	小泉和子編『生活文化史』山川出版社、『ものと人間の文化史』法政大学出版局		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回、授業を終えたあと、A5の用紙に、感想・疑問を書いて提出を求める。受講者の様々な感想や疑問にできるだけ答え、次の課題に移ることにしたいと考えている。受講者は授業を批判的な態度で受けるようにし、毎回自らの考えや意見を積極的に述べるようにしてほしい。		

授業科目名	日本文化史論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業であるが、演習形式で授業を進める。毎回、課題に対する参考資料を配付するので、担当の受講生はその内容に調査・検討を加えた結果を発表する。それに対する質疑応答を相互に交わすなかから、議論を深めていく。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	2単位 (30時間) 選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択、学芸員資格に係る選択必修		
キーワード	考古学、遺跡、遺物、発掘調査、埋蔵文化財、地域史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	自らが暮らす地域に人間集団の活動の痕跡である遺跡が数多く残されていること、また開発との調整のなかで多くの遺跡が消滅していることに気付く。さらに、それぞれの遺跡の立地や検出遺構、出土遺物などの特徴を調べ、そこから地域の歩みがどのように復元できるのかを理解し、遺跡・遺物によって地域の特徴を発信できる。		
授業の内容	広島県内の原始・古代・中世・近世の代表的な遺跡を取り上げ、それらの発掘調査や研究の成果を提示するなかから、個別の遺跡が地域社会の歴史をどのように明らかにしているのかを探る。		
成績評価の方法	演習での発表内容と討議への参加度、期末レポートによって評価する。資料的根拠にもとづき批判的かつ独創的な思考ができるかを重視する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回、素材とする資料を配付するとともに、参考文献を適宜紹介する。		
参考文献	脇坂光彦・小都隆編『考古学から見た地域文化—瀬戸内の歴史復元—』溪水社、脇坂光彦・小都隆編著『百聞よりも一見 探訪・広島 of 考古学』、『広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書』広島県埋蔵文化財調査センター、『広島県教育事業団発掘調査報告書』広島県教育事業団		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本文化史論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室時は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業であるが、演習形式で授業を進める。毎回、課題に対する参考資料を配付するので、担当の受講生はその内容に調査・検討を加えた結果を発表する。それに対する質疑応答を相互に交わすなかから、議論を深めていく。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(地歴)選択、学芸員資格に係る選択必修		
キーワード	中世考古学、遺跡、遺物、戦国時代、城館、都市、生産技術、流通、		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	歴史資料としての文字資料・考古資料がそれぞれ異なる特質を持つことに気付き、それぞれの特質に応じた資料解釈の方法を身に付けるとともに、グループで討議するなかから多面的な社会像を復元していく能力を身に付ける。		
授業の内容	従来の中世史研究は文字資料を中心に研究が進められてきたが、近年、日本列島の各地で中世遺跡の発掘調査が進展したことにより、中世社会に対するイメージは大きく描き替えられつつある。この授業では、各地の遺跡の調査成果が、具体的にどのような歴史像を構築してきたのかを、鎌倉時代から戦国時代にかけての代表的な遺跡を取り上げながら探っていく。とくに戦国時代の社会の変化に注目し、それが現代の社会や日常生活にどのように結びついているのかを考える。		
成績評価の方法	授業における発表内容、期末レポート、討議への参加度によって評価する。資料的根拠にもとづく理論的かつ独創的な思考ができるかを重視する。		
テキスト	特定のテキストは利用しない。参考資料を配布する。		
参考文献	高橋慎一郎編『史跡で読む日本の歴史6 鎌倉の世界』吉川弘文館、小嶋道裕編『史跡で読む日本の歴史7 戦国の時代』吉川弘文館、『シリーズ「遺跡を学ぶ」』新泉社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本文化史論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室時は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	港湾、船舶、港町、瀬戸内海、流通、交流、尾道、鞆、草戸千軒町遺跡		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	考古資料・文献資料を総合的に読み解くなかから、現在の瀬戸内海沿岸の景観が、過去の人々の多様な活動の結果として形成されてきたことに気付くとともに、それぞれの時代に展開された人・モノ・情報の交流の実態を解明するための学問的方法を身に付ける。		
授業の内容	中世の港湾集落の代表例として広島県福山市の草戸千軒町遺跡を取り上げ、発掘調査の成果から当時の人・モノ・情報の動きがどのように復元できるのかを明らかにする。また、周辺の港湾との比較によって、瀬戸内海の港湾が相互に役割分担していたことを示す。		
成績評価の方法	レポートによって評価する。レポートでは授業内容の基本的な理解度と、それをふまえて理論的かつ独創的な思考が展開できているかを評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	鈴木康之『中世集落における消費活動の研究』真陽社、鈴木康之『中世瀬戸内の港町草戸千軒町遺跡』新泉社、柴垣勇夫編『中世瀬戸内の流通と交流』塙書房、藤原良章他編『中世の宿と町』高志書院、その他適宜授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回、授業のあと、A5の用紙に感想・疑問を書いて提出を求める。受講者の様々な感想や疑問にできるだけ答え、次の課題に移ることにしたいと考えている。受講者は授業を批判的に受けるようにし、毎回自らの考えや意見を積極的に述べるようにしてほしい。		

授業科目名	日本文学論（国文学）		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	1914		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。 またはメールで連絡してください。面談日時を調整します。		
授業の形式・方式	対面方式。講義を中心とする。ただし、必要に応じてペアワーク、グループワークなどを交える。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（国語）必修、高一種免（国語）必修		
キーワード	日本文学、古典文学、物語文学史、源氏物語、竹取物語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際文化学科の専門科目（文化研究）。 代表的な日本の古典文学作品である『源氏物語』を原文で読み、物語文学についての基礎知識を学び、読解力、鑑賞力、分析力を身につけるとともに、古典文学の享受の様相を『源氏物語』を例として概観し、『源氏物語』が後代の文学作品や文化に与えた影響について考える。これにより、日本文学の特質の一端を理解することを目指す。 教員免許状（中学国語・高校国語）取得のための必修科目である。		
授業の内容	『源氏物語』のうち、主として桐壺巻から明石巻までを取り上げ、代表的な場面、関連する名場面を可能な限り原文で読み、読解力、鑑賞力、分析力など文学作品を読む際に必要となる基礎力を養うとともに、「ことばの力」について考える。 また、「源氏文化」という語が示すように、一文学作品であることを越えて広く日本を代表する古典として受け入れられていることに留意し、以下の諸点について理解を深める。 1) 物語文学誕生と隆盛の背景としての平仮名の発生と展開 2) 白氏文集をはじめとする中国文学の摂取 3) 物語の背景としての歴史的事実との接触 4) その後の文学への影響 など 5) 世界文学としての『源氏物語』の魅力と文学史上の位置づけ 6) 読解および研究するうえでの課題		
成績評価の方法	授業への取り組みの姿勢および毎回課すコメントカードへの記入（15%）、受講生の理解度に応じて随時提出する課題への取り組み状況（受講生の理解度に応じて提示する課題の提出状況30%）、期末に課すレポート（55%）により評価する。		
テキスト	テキスト：玉上琢弥校注『源氏物語』（角川文庫ソフィア文庫）第1巻・2巻。その他、適宜プリントを配付する。		
参考文献	参考文献については開講時及び必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	まずは文法に自信がなくても辞書さえあれば自分の力で物語文学をある程度読めるようになることをめざしましょう。限られた時間で、感性をとぎすまして文学作品を読む機会を大切にし、読解訓練を積み重ねることで、原文でなければ理解できない文学の世界と「ことばの力」を理解してほしいと思います。		

授業科目名	日本文学論A (国文学)		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	1914		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。 またはメールで連絡してください。面談日時を調整します。		
授業の形式・方式	対面方式。講義を中心とする。ただし、必要に応じてペアワーク、グループワークなどを交える。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修、高一種免(国語)必修		
キーワード	日本文学、古典文学、物語文学史、源氏物語、竹取物語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際文化学科の専門科目(文化研究)。 代表的な日本の古典文学作品である『源氏物語』を原文で読み、物語文学についての基礎知識を学び、読解力、鑑賞力、分析力を身につけるとともに、古典文学の享受の様相を『源氏物語』を例として概観し、『源氏物語』が後代の文学作品や文化に与えた影響について考える。これにより、日本文学の特質の一端を理解することを目指す。 教員免許状(中学国語・高校国語)取得のための必修科目である。		
授業の内容	『源氏物語』のうち、主として桐壺巻から明石巻までを取り上げ、代表的な場面、関連する名場面を可能な限り原文で読み、読解力、鑑賞力、分析力など文学作品を読む際に必要となる基礎力を養うとともに、「ことばの力」について考える。 また、「源氏文化」という語が示すように、一文学作品であることを越えて広く日本を代表する古典として受け入れられていることに留意し、以下の諸点について理解を深める。 1) 物語文学誕生と隆盛の背景としての平仮名の発生と展開 2) 白氏文集をはじめとする中国文学の摂取 3) 物語の背景としての歴史的事実との接触 4) その後の文学への影響 など 5) 世界文学としての『源氏物語』の魅力と文学史上の位置づけ 6) 読解および研究するうえでの課題		
成績評価の方法	授業への取り組みの姿勢および毎回課すコメントカードへの記入(15%)、受講生の理解度に応じて随時提出する課題への取り組み状況(受講生の理解度に応じて提示する課題の提出状況30%)、期末に課すレポート(55%)により評価する。		
テキスト	テキスト：玉上琢弥校注『源氏物語』(角川文庫ソフィア文庫)第1巻・2巻。その他、適宜プリントを配付する。		
参考文献	参考文献については開講時及び必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	まずは文法に自信がなくても辞書さえあれば自分の力で物語文学をある程度読めるようになることをめざしましょう。限られた時間で、感性をとぎすまして文学作品を読む機会を大切にし、読解訓練を積み重ねることで、原文でなければ理解できない文学の世界と「ことばの力」を理解してほしいと思います。		

授業科目名	日本文学論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	広島キャンパス 1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。不在時はメールで連絡してください。面会日時を調整します。		
授業の形式・方式	対面方式、演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	王朝物語、源氏物語、狭衣物語、和歌、物語二百番歌合、風葉和歌集		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	授業の目標：物語和歌の読解作業を通じて、和歌の読み方、物語文学の読解力、作品研究のための基本的な分析方法を身につける。また、変体ひらがなの基本を知る。 カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科の専門科目		
授業の内容	『物語二百番歌合』を取り上げる。前半百番は『源氏物語』と『狭衣物語』から和歌をそれぞれ百首ずつ選び、歌合わせ形式で左右に結番したもの。 注釈を加えながら読解を行い、詞書を物語本文とつきあわせてどのようにまとめたかを考察する。読解、注釈、考察を中心とする演習を行うことにより、読む力・調べる力・考える力の基礎力を養成する。 物語研究、和歌研究のための基本的な方法を理解した上で、調査の手順、諸資料の扱い方、先行文献の参照の仕方など具体的な方法について学び、注釈、読解、現代語訳、考察を行う。 提示された課題について一人または数人で調べ、資料を作成し、報告、それをもとに受講生全員で討議することを繰り返す。 受講生数によって進め方を決定する。		
成績評価の方法	作成した演習資料40%、学修態度(取り組みの姿勢、討議への参加状況、評価票への記入状況を含む)60%をもとに評価する。受講生の取り組み方と理解度によっては、期末にまとめたレポートを課し、学修態度の評価項目に含める。		
テキスト	テキスト：岩波文庫『王朝物語秀歌選』(上)およびプリント配付 開講時に指示するので、初回は必ず出席すること。		
参考文献	開講時に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講生数によって進め方を決定するが、原則として少人数のグループまたは個人で作業を進めることになる。東アジア文学論A、日本社会文化論、日本文化史論、日本語表象論、比較文学論、日本語文化論など関連する分野、近接領域の講義や演習のうちいくつかを併せて履修することをすすめた(開講時に説明する)。		

授業科目名	日本文学論基礎演習 A		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	広島キャンパス 1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。不在時はメールで連絡してください。面会日時を調整します。		
授業の形式・方式	対面方式、演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	王朝物語、源氏物語、狭衣物語、和歌、物語二百番歌合、風葉和歌集		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	授業の目標：物語和歌の読解作業を通じて、和歌の読み方、物語文学の読解力、作品研究のための基本的な分析方法を身につける。また、変体ひらがなの基本を知る。 カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科の専門科目		
授業の内容	『物語二百番歌合』を取り上げる。前半百番は『源氏物語』と『狭衣物語』から和歌をそれぞれ百首ずつ選び、歌合わせ形式で左右に結番したもの。 注釈を加えながら読解を行い、詞書を物語本文とつきあわせてどのようにまとめたかを考察する。読解、注釈、考察を中心とする演習を行うことにより、読む力・調べる力・考える力の基礎力を養成する。 物語研究、和歌研究のための基本的な方法を理解した上で、調査の手順、諸資料の扱い方、先行文献の参照の仕方など具体的な方法について学び、注釈、読解、現代語訳、考察を行う。 提示された課題について一人または数人で調べ、資料を作成し、報告、それをもとに受講生全員で討議することを繰り返す。 受講生数によって進め方を決定する。		
成績評価の方法	作成した演習資料40%、学修態度(取り組みの姿勢、討議への参加状況、評価票への記入状況を含む)60%をもとに評価する。受講生の取り組み方と理解度によっては、期末にまとめたレポートを課し、学修態度の評価項目に含める。		
テキスト	テキスト：岩波文庫『王朝物語秀歌選』(上)およびプリント配付 開講時に指示するので、初回は必ず出席すること。		
参考文献	開講時に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講生数によって進め方を決定するが、原則として少人数のグループまたは個人で作業を進めることになる。東アジア文学論A、日本社会文化論、日本文化史論、日本語表象論、比較文学論、日本語文化論など関連する分野、近接領域の講義や演習のうちいくつかを併せて履修することをすすめたい(開講時に説明する)。		

授業科目名	日本文学論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	広島キャンパス 1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。またはメールでの事前連絡により日時を調整します。		
授業の形式・方式	対面方式。基礎演習に引き続き演習を行う。受講生の数によって進め方は異なるが、原則として、担当箇所について、少人数のグループまたは一人で演習を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	王朝物語、源氏物語、狭衣物語、物語二百番歌合、風葉和歌集		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：日本文学論基礎演習Aで体得した基本的な研究方法をもとに、注釈作業と現代語訳、考察を行う作業を進める。自ら設定した課題について対象を分析し、追究する力と応用力を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科の専門科目</p>		
授業の内容	<p>平安時代から鎌倉時代に成立した古典文学作品、特に物語文学とその周辺作品を素材として取りあげて演習を行うことにより、基礎演習で身につけた、読む力・調べる力・考える力を応用する力を養う。日本の古典文学、特に物語文学を読解する力をさらに伸ばし、テーマを主体的に捉え、自らが探り当てた問題意識に基づいて分析を加える力、また分析、検討した結果について、先行研究との関係をみながら説得力を持って伝える力の修得を目指す。日本文学論基礎演習Aにつづいて『物語二百番歌合』を読む。各自、独自の判詞をつけ、公表する。</p>		
成績評価の方法	日本文学論基礎演習Aに準じて評価する。		
テキスト	日本文学論基礎演習Aに同じ。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本文学基礎演習Aに同じ。 演習を面白くするのは課題への取り組み方次第。積極的、意欲的に臨んでほしい。		

授業科目名	日本文学論演習 A		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	広島キャンパス 1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。またはメールでの事前連絡により日時を調整します。		
授業の形式・方式	対面方式。基礎演習に引き続き演習を行う。受講生の数によって進め方は異なるが、原則として、担当箇所について、少人数のグループまたは一人で演習を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	王朝物語、源氏物語、狭衣物語、物語二百番歌合、風葉和歌集		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：日本文学論基礎演習Aで体得した基本的な研究方法をもとに、注釈作業と現代語訳、考察を行う作業を進める。自ら設定した課題について対象を分析し、追究する力と応用力を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科の専門科目</p>		
授業の内容	<p>平安時代から鎌倉時代に成立した古典文学作品、特に物語文学とその周辺作品を素材として取りあげて演習を行うことにより、基礎演習で身につけた、読む力・調べる力・考える力を応用する力を養う。日本の古典文学、特に物語文学を読解する力をさらに伸ばし、テーマを主体的に捉え、自らが探り当てた問題意識に基づいて分析を加える力、また分析、検討した結果について、先行研究との関係をみながら説得力を持って伝える力の修得を目指す。日本文学論基礎演習Aにつづいて『物語二百番歌合』を読む。各自、独自の判詞をつけ、公表する。</p>		
成績評価の方法	日本文学論基礎演習Aに準じて評価する。		
テキスト	日本文学論基礎演習Aに同じ。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本文学基礎演習Aに同じ。 演習を面白くするのは課題への取り組み方次第。積極的、意欲的に臨んでほしい。		

授業科目名	日本文学論特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。不在時はメールで連絡してください。日時を調整します。		
授業の形式・方式	対面方式。講義を中心とする。ただし、受講生数、受講者の理解度と受講姿勢によっては、課題を提示して報告を求め、それに基づいて討議を行うことがある。また、それに伴い、読み解くの章段の順序、グループワークを行う時間の割合を変えることがある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年		
免許等指定科目	中一種免(国語)、高一種免(国語) 選択		
キーワード	枕草子、清少納言、源氏物語、一条朝、後宮、文化サロン、藤原道長、藤原道隆、コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際文化学科の専門科目(文化研究)。 清少納言の『枕草子』を読む。文学作品としての独自性とおもしろさを味わいながら、コミュニケーションを成り立たせている要素について考える。古典文学作品を分析するための基礎力を養い、研究的視点を持って章段を読むことを学ぶ。研究の方法の具体例に触れることにより、自ら課題を発見し、追究する力を蓄えることをめざす。		
授業の内容	作品が成立した背景、作者が置かれた環境、研究史などについて概観したうえで、日記的回想的章段を中心に取り上げて読み進める。『枕草子』を宮廷女房の記録ととらえ、宮廷社会を生き抜く際に活用された知識と能力について考える。 各章段の読解にあたっては、以下に示すような作品へのアプローチの方法や研究方法、視点を具体的に提示する。 (1) 背景としての史実との関係に着目して虚構化の方法 (2) 中国文学や和歌の素養・知識の活用と応用力、それによりもたらされた効果 (3) コミュニケーションの手段としての問いと答えの仕組みの分析 など 事前学修の内容、課題は前の時間に提示する。		
成績評価の方法	期末に課すレポート50%、毎時の取り組みの状況(コメントカードへの記入、必要に応じて提示する課題への取り組み状況)50%によって評価する。		
テキスト	テキスト: 石田穰二『枕草子』上下(角川ソフィア文庫)		
参考文献	開講時また必要に応じて紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	『枕草子』に対する一般的な理解や清少納言のイメージが、後代の読者によって「作られた」ものであることに気づいてほしい。短時間で複数の章段を読み込むので、取り上げる章段についてはあらかじめ読んでおくこと。日本文学についての知識を広く得るため、研究方法を学ぶため、作品を味わうためなど、受講の目的はさまざまにいいが、積極的に取り組んでほしい。		

授業科目名	日本文学論特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	遠藤 伸治		
研究室の場所	庄原キャンパス 2406研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日14時から16時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修、高一種免(国語)必修		
キーワード	写実主義、浪漫主義、自然主義、芸術至上主義、私小説、象徴主義、マルクス主義、モダニズム、実存主義、シュール・レアリスム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日本近代文学を代表する具体的な作品と、それぞれの作品の、歴史的・社会的・文化的・理論的背景とを俯瞰し、日本近代文学についての歴史観、文学観を習得する。		
授業の内容	日本の近代文学作品の中から、歴史的に新しいテーマを切り開いた作品を取り上げ、それぞれの内容だけでなく、周辺資料の取り扱いを通して、作品の背景となった諸相について理解を深める。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポート30%の割合で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業中に提示する。課題レポートの用紙(A4・罫線有り)は授業時に配布する。		
テキスト	プリントを使用する。		
参考文献	参考文献については授業時に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	日本文学論B		
担当教員氏名(助手氏名)	遠藤 伸治		
研究室の場所	庄原キャンパス 2406研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日14時から16時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修、高一種免(国語)必修		
キーワード	写実主義、浪漫主義、自然主義、芸術至上主義、私小説、象徴主義、マルクス主義、モダニズム、実存主義、シュール・レアリスム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日本近代文学を代表する具体的な作品と、それぞれの作品の、歴史的・社会的・文化的・理論的背景とを俯瞰し、日本近代文学についての歴史観、文学観を習得する。		
授業の内容	日本の近代文学作品の中から、歴史的に新しいテーマを切り開いた作品を取り上げ、それぞれの内容だけでなく、周辺資料の取り扱いを通して、作品の背景となった諸相について理解を深める。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポート30%の割合で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業中に提示する。課題レポートの用紙(A4・罫線有り)は授業時に配布する。		
テキスト	プリントを使用する。		
参考文献	参考文献については授業時に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	思想文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	哲学、根拠、ドイツ語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科共通専門科目。		
授業の内容	<p>ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱ履修済みの学生を対象に、ドイツ語の文献を自力で読める力を養う。 Jostein Gaarder "Sofies Welt -- Roman ueber die Geschichte der Philosophie --" をテキストとすることで、哲学に接する機会を提供する。 ドイツ語文法の不足分は随時補いながら講義を進める。</p> <p>ただし、ドイツ語未修の受講者がいる場合には、内容を変更することがある。</p>		
成績評価の方法	期末レポート(4割)と平常点(6割)による。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱを履修済みであることが条件。 全学共通教育科目の「哲学」を履修し、哲学に興味を持っていると好都合。		

授業科目名	思想文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	ジレンマ、存在、決定論、認識		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目。 哲学の専門書を読み、何が問題となっているのか、なぜ問題となるのか、いかなる解決策が提起されているのかを、考える。		
授業の内容	野矢茂樹著『ウイットゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む』をてがかりに、 『ウイットゲンシュタイン『論理哲学論考』について考える。		
成績評価の方法	レポート(5割)と平常点(5割)による。		
テキスト	野矢茂樹著『ウイットゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む』(ちくま学芸文庫) ウイットゲンシュタイン『論理哲学論考』(岩波文庫)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	思想文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	存在、意味、記述、分析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目。 思想文化論基礎演習に続いて、哲学の専門書を読み、何が問題となっているのか、なぜ問題となるのか、いかなる解決策が提起されているのかを、考える。		
授業の内容	W. V. O. Quine "From a Logical Point of View"の中から次の章を取り上げる。 I On what there is II Two dogmas of empiricism III Meaning in linguistics 英語で書かれた論文を素材とすることで、論理的・抽象的な文章の読解力を向上させ、論理的思考力を鍛える。予習が必要。		
成績評価の方法	レポート(5割)と平常点(5割)による。		
テキスト	W. V. O. Quine "From a Logical Point of View" (適宜配布する)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	思想文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択、高一種免(公民)選択		
キーワード	哲学、ドイツ語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科専門科目		
授業の内容	<p>思想文化論に引き続き、 Jostein Gaarder "Sofies Welt -- Roman ueber die Geschichte der Philosophie -- を取り上げ、ドイツ語と哲学の実力を養成する。</p> <p>ただし、ドイツ語未修の受講生がいる場合には、内容を変更することがある。</p>		
成績評価の方法	期末レポート(4割)と平常点(6割)による。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ドイツ語Ⅰ・ドイツ語Ⅱを履修していることが条件。 今年度の「思想文化論」に引き続き履修するのが望ましい。		

授業科目名	対照言語学		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	①対面で授業を行う。 ②講義と演習を並行する。 ③実践的な能力をマスターするために、調査発表をしてもらう。 ④中国人留学生とディスカッションをする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	対照言語学 中国語学 日本語学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①世界言語の多様性 ②中国語はどんな言葉か ③日本語への再認識 ④中国語の学習の補強と促進 ⑤対照言語学の視点と比較法の学習 ⑥中日言語の違い という6点を目標として勉強できる。		
授業の内容	1. 対照言語学とは 2. 世界の言語における中国語と日本語 3. 中国語と日本語の共通点と相違点の概説 4. 中国語と日本語の発音の相違 5. 中国語の漢字と日本語の漢字 6. 中国語と日本語の語彙に見られる相違(中国語と日本語における同形語を中心に) 7. 中国語と日本語の構文の相違 8. 中国語と日本語の慣用表現の相違 9. 中国人と日本人における言語観のと発想の相違		
成績評価の方法	・出席率(15%) ・授業・発表への取り組み方と小テスト(15%) ・修了レポート(70%) この3点で総合的に評価する。		
テキスト	・プリント資料を事前か授業で配布する。 ・参考文献は授業中随時に紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国語を少なくとも1学年履修したことが前提で、必要である。		

授業科目名	英語コミュニケーション		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	演習形式の対面授業を基本とする。毎回小テストを行う。Eメール英語と英語の丁寧表現についての講義も交える。また、英語で丁寧話す練習、携帯電話等で即興で英語のメッセージを作成する練習、LINEでのメッセージ交換の練習も行う。家庭学習として、授業の予習と復習に加えて、テーマに沿って毎回英語でEメールを書いて提出することを課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(英語)必修		
キーワード	英語eコミュニケーション、Eメール・ライティング、適切な言語使用、丁寧表現、英語ケータイメール(テキストング)、LINE		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】1. 英語Eメールで使う表現を習得する、2. 英語の丁寧表現を習得する</p> <p>【思考・判断】1. 英語コミュニケーションで相手に失礼となる場合を指摘できる</p> <p>【関心・意欲】1. 英語と日本語で言語上の丁寧さの違いについて討議できる</p> <p>【技能・表現】1. 英語で様々な目的のEメールを書くことができる、2. 英語コミュニケーションの中で、相手との人間関係に応じて適切な表現を選択できる</p> <p>【態度】1. 様々な言語を母語とする人たちとのコミュニケーションの手段として、英語でEメールが書けることの意義を理解する</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：学科共通専門科目コミュニケーションの選択科目</p>		
授業の内容	英語でのeコミュニケーション能力向上を目指して、テキストを使った演習と講義により、様々な目的の英語Eメールの書き方及びその際に使用する英語表現について学習します。また、英語丁寧表現に関する一般的な知識も身に付けるとともに、実際に英語で丁寧に話す練習も行います。また、携帯電話を使って、即興で英語でメッセージを作成する練習も行います。更に、LINEでのメッセージ交換を模した活動も行います。家庭学習として、授業の予習と復習に加えて、その週に学習した英語Eメール表現の習得と英語Eメールの作成を課します。なお、受講者には全員授業期間中に英語検定試験(TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ)を1回受験することを義務として課します。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものでも構いません。英語検定試験の結果は当該期の他の科目と併用できます。		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参画10% (欠席が6回以上となったり、授業参画が思わしくない場合は単位は取得できません) 2. 小テスト20% (スコアが一定の基準を下回りますと単位を取得できません) 3. 課題20% (提出状況が一定の基準を下回りますと単位を取得できません) 4. 英語検定試験受験のスコア20% (授業期間中に受験しないと単位を取得できません) 5. 定期試験30% (受験しないと単位を取得できません) <p>※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。</p>		
テキスト	Naruoka, K., Hayano, K., & Hackett, S. M. (2013). Write me back soon!: Communicating through email. Kinseido.		
参考文献	東昭二 (1994). 『丁寧な英語・失礼な英語 英語のポライトネス・ストラテジー』. 研究社.		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】この授業では、英語でのeコミュニケーションを中心に「適切に書く」能力と「即興で書く」能力の向上を目指します。授業の取り組みがその向上に直結しますので、積極的に授業に参加してください。また、授業の予習と復習もしっかりと行なってください。辞書は必ず持参してください。</p> <p>【禁止事項】1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2) 教科書などを忘れたときは、始業までに各自の責任で当日の授業範囲のコピーを取っておいください。</p>		

授業科目名	日本語コミュニケーション		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。各時間学生2名が発表を行い、その内容について教員も含めて受講生全員で討議する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	日本語リテラシー、日本語コミュニケーション、文芸創作		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本語の多様な表現方法の実際を知り、より豊かな読解能力を養う。また、発表・討議・創作活動を通じて、他者と豊かなコミュニケーションを行い得る言語発信能力・創造力・思考力を身につける。国際文化学科の学科専門科目。		
授業の内容	各時間の担当者は、テキストである日本近代の小説の内容を語彙・文脈・時代背景を踏まえた上で精密に読み取る。その上で、本文から不明な点を抽出し、問題提起を行う。その問題提起を受けて、受講者全員で討議。意見交換のなかで、登場人物の心境や小説表現の実現するテーマや世界観について解明、追究していく。		
成績評価の方法	発表(30%)、最終課題(20%)、質疑応答など毎時の活動(50%)により総合的に評価する。		
テキスト	夏目漱石『文鳥・夢十夜』(新潮文庫)		
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ディベート・プレゼンテーション（日本語）		
担当教員氏名(助手氏名)	家村 伸子（非常勤講師）		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義及び演習。学生は、授業に出席し、各自に与えられた課題に積極的に取り組むこと。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	確かな論拠 立論と反論 立証と攻撃 論理性 説得力 質疑応答		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この授業の目標は次の通りである。</p> <p><ディベート> 確かな論拠に基づいた、筋道だった論理を展開し、説得力のある主張が組み立てられるようになること。また、相手の主張を聞き、その主張に至るまでの論理の展開を正確に把握し、論拠の不備や論理の矛盾が指摘できるようになること。</p> <p><プレゼンテーション> プレゼンテーション用ソフト等の視覚機器を効果的に使用し、聞き手に正確に分かりやすく説明できるようになること。また、相手の主張を聞き、不明な点や疑問点を的確に指摘できるようになること。</p>		
授業の内容	<p>人間関係の維持発展や豊かなコミュニケーション能力を獲得するため、相手の立場にたって物事を考えたり、自分の意見をどのように説明すればより効果的になるかを練習検討したりする。</p> <p>一つの論題に対するグループ討論（ディスカッション）を通して賛成反対・肯定否定の立場の相違による説得性を論理的に理解し、さらに話題の展開や立場を踏まえた思考力構成力とレトリックとしての弁論術を把握する。これにより、より適切に自分の意見を提示演出する方法を修得することを目指す。</p>		
成績評価の方法	<p>ディベート（資料収集、資料分析、立論、実際の討論、審判としての態度等、及び、レポート）50%。</p> <p>プレゼンテーション（資料収集、資料分析、発表、発表を聞く態度等、及び、レポート）50%</p>		
テキスト	授業時にプリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ディベート・プレゼンテーション		
担当教員氏名(助手氏名)	家村 伸子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義及び演習。学生は、授業に出席し、各自に与えられた課題に積極的に取り組むこと。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	確かな論拠 立論と反論 立証と攻撃 論理性 説得力 質疑応答		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この授業の目標は次の通りである。</p> <p><ディベート> 確かな論拠に基づいた、筋道だった論理を展開し、説得力のある主張が組み立てられるようになること。また、相手の主張を聞き、その主張に至るまでの論理の展開を正確に把握し、論拠の不備や論理の矛盾が指摘できるようになること。</p> <p><プレゼンテーション> プレゼンテーション用ソフト等の視覚機器を効果的に使用し、聞き手に正確に分かりやすく説明できるようになること。また、相手の主張を聞き、不明な点や疑問点を的確に指摘できるようになること。</p>		
授業の内容	<p>人間関係の維持発展や豊かなコミュニケーション能力を獲得するため、相手の立場にたって物事を考えたり、自分の意見をどのように説明すればより効果的になるかを練習検討したりする。</p> <p>一つの論題に対するグループ討論(ディスカッション)を通して賛成反対・肯定否定の立場の相違による説得性を論理的に理解し、さらに話題の展開や立場を踏まえた思考力構成力とレトリックとしての弁論術を把握する。これにより、より適切に自分の意見を提示演出する方法を修得することを目指す。</p>		
成績評価の方法	<p>ディベート(資料収集、資料分析、立論、実際の討論、審判としての態度等、及び、レポート)50%。</p> <p>プレゼンテーション(資料収集、資料分析、発表、発表を聞く態度等、及び、レポート)50%</p>		
テキスト	授業時にプリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ディベート・プレゼンテーション (英語)		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	1823		
オフィスアワー	随時 (事前にアポを取ってください)		
授業の形式・方式	対面、講義と演習を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語ディスカッション・プレゼンテーション技術、時事英語、英作文		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現代社会における様々な社会・文化的問題について議論し、英語でのディスカッション・プレゼンテーション技術を身につける。相手を説得するための論理的思考と英語表現力・語彙力を向上させる。		
授業の内容	テキストを用い、インプット面では様々な社会・文化的問題についての基本的な知識を身につける。アウトプット面では自分の意見を的確に表現するための英作文の能力とスピーキング力を身につける。インプット・アウトプットともに高度な英語表現を学ぶので、それ相応の英語基礎力と自身の英語向上のための努力が必要となる。毎週の授業で行うクラス内ディスカッション・ディベートに加え、最低2回はパワーポイントのスライドを用いた本格的なプレゼンテーションが求められる。		
成績評価の方法	授業内活動と個人発表の内容を総合的に評価する。		
テキスト	Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues. Ichizo Ueda. Cengage Learning.		
参考文献	適宜授業内で配布・提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	時事的な内容を扱うので、英語新聞レベルの英文を理解できる程度の英語能力と、社会的・政治的・文化的背景知識を持っていることが望ましい。具体的には、2年次以降に開設されている「時事英語」を履修していることが望ましい。また、毎週かなりの量の英作文 (A4用紙1枚) とスピーチの暗記が課題となるので、基礎的な英文法と語彙力、正確な発音のための技術を持っていないければ授業についていくのは難しいと思われる。ただ、英語能力を向上させたい学生には必ず役に立つ内容なので、ぜひチャレンジしてもらいたい。		

授業科目名	時事英語		
担当教員氏名(助手氏名)	福元 広二 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面・演習方式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	英字新聞、英語ニュース、インターネット		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国内外の英字新聞を読み、時事英語に特有な表現形式、文体、語彙などを学び、英字新聞を正確に読み取ることができるようになることを目標とする。また、現在、日本だけでなく世界で起きていることに関心を持ち、自分の視野を広げるようにする。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 英字新聞を読み進めながら、時事英語に特有な形式、文体、語彙などを学ぶ。 2 英字新聞に書かれている記事の概要をつかみ、記事の背景についても理解する。 		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み状況50%、期末考査50%で総合的に評価する。		
テキスト	『Open your Eyes through News in English』三修社 1,800円 ISBN 9784384334517		
参考文献	授業中に適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回、辞書を持参して下さい。		

授業科目名	CALL演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	パソコンを使用して個人でリスニング課題等をこなしていく演習形式を基本とする。また、毎回小テストとコミュニケーション活動を行う。家庭学習として、授業の予習と復習に加えて、文法問題演習とリーディング課題提出を課す。さらに、英語数表現の自学自習も課す。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次対象(平成24年度以降入学生)		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択, 高一種免(英語)選択		
キーワード	英語コマーシャル、TOEIC、オンライン英語学習サイト、eラーニング、英語顔文字、リーディング、リスニング、英単語、英文法、英語数表現		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】1. TOEICで求められる語彙と文法の知識を習得する、2. 英語学習サイトの知識を習得する、3. 英語顔文字の知識を習得する、4. 基本的な英語数表現の知識を習得する</p> <p>【関心・意欲】1. 英語コマーシャルの意味を討議できる</p> <p>【技能・表現】1. 英語のTVコマーシャルを聴解するための基礎的能力を身につける、2. TOEICのスコアをアップする、3. 即興で英語を話す能力を向上させる</p> <p>【態度】1. 自律的に英語を学習する習慣を身につける</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：学科共通専門科目コミュニケーションの選択科目</p>		
授業の内容	<p>この授業では、英語コマーシャルを通して英語リスニング力の向上を目指します。授業では、毎回小テストを行うことに加えて、オンライン上英語学習サイトと英語顔文字を紹介し、これらについての知識も身に付けてもらいます。家庭学習では、授業の予習と復習に加えて、テキストを使用した文法演習、TOEICで出題される語彙の学習、TOEIC形式のリーディング問題の課題提出を課します。また、英語数表現について学習してもらいます。</p> <p>なお、受講者には全員授業期間中に英語検定試験(TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ)を1回受験することを義務として課します。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものでも構いません。英語検定試験の結果は当該期の他の科目と併用できます。</p>		
成績評価の方法	<p>1. 授業参画10%(欠席が6回以上となったり、授業参画が思わしくない場合は単位は取得できません)</p> <p>2. 小テスト20%(スコアが一定の基準を下回りますと単位を取得できません)</p> <p>3. 課題20%(取り組みが一定の基準を下回りますと単位を取得できません)</p> <p>4. 定期試験30%(受験しないと単位を取得できません)</p> <p>5. 英語検定試験受験のスコア20%(授業期間中に受験しないと単位を取得できません)</p> <p>※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。</p>		
テキスト	井戸垣隆(2001). 『英語演習手帳続文法編』. 大阪教育図書.		
参考文献	綿貫陽・M. ピーターセン(2011). 『表現のための実践ロイヤル英文法』. 旺文社.		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】この授業は、英語検定試験のスコアアップを目的として開設されています。英語CMの視聴などを通して総合的な英語力の向上を目指します。毎回小テストを実施し、課題の提出もしてもらいます。授業の予習と復習もしっかりと行ってください。辞書は必ず持参してください。この授業を通して、日ごろから英語を学習する習慣を身に付けてください。人数によっては履修者の抽選を行う場合があります。</p> <p>【禁止事項】1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2) 教科書などを忘れたときは始業までに各自の責任で当日の授業範囲のコピーを取っておいってください。</p>		

授業科目名	検定英語演習		
担当教員氏名(助手氏名)	福元 広二 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	テキストを用いて毎回1つのUnitを演習形式で進める。またグループ活動を行うこともある。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC、ビジネス英語		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙、文法、リスニング、リーディングの能力を総合的に向上させ、TOEICのスコアをアップさせることを目標とする。		
授業の内容	TOEICの問題に即したテキストに沿って授業を進める。リスニングセクションのPart1 写真描写問題、Part 2 応答問題、Part 3 会話問題、Part 4 説明文問題から始め、その後リーディングセクションのPart 5 短文穴埋め問題、Part 6 長文穴埋め問題、Part 7 読解問題を解いていき、解説を行う。また重要事項の説明はプリントを用いて行う。		
成績評価の方法	小テスト20%、授業への取り組み30%、期末テスト50%で総合的に評価する。		
テキスト	『Level Up Trainer for the TOEIC Test』 (センゲージ)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	外国語検定 I		
担当教員氏名(助手氏名)	外国語担当者		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	外国語運用能力を公的に測る資格を用いて単位認定する。(平成25年度生より適用)対象とする言語は外国語8単位言語の実用性を向上させる意味から、英語、中国語、韓国朝鮮語の3言語とする。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次以上対象 (平成25年度以降入学生)		
免許等指定科目	外国語運用能力 英語 中国語 韓国朝鮮語		
キーワード	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、外国語科目をさらに充実発展させる目的で、公的な検定試験資格の取得を以て履修とみなし、単位を認定する。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語については、TOEIC:550点以上、TOEFL PBT:450点以上、iBT:45点以上、CBT:133点以上、IELTS:4.5以上、国連英検:C級合格、(なお、TOEICとTOEFLについては、学内実施分でも可とする)、中国語については、中国語検定:4級合格、韓国朝鮮語については、韓国語能力検定:初級合格を以て1単位を認定する。ただし、同一言語による複数カウントや複数言語による重複カウントは認めない。また、この科目はCAP制の制限には含まれない。		
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この科目を単位認定に履修する場合は、受験した語学検定試験から基本的に半年以内の直近の各学期末に成績表等の結果を以て申請する。期日を経た内容や条件に当てはまらない場合は認定されない。		

授業科目名	外国語検定Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	外国語担当者		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	外国語運用能力を公的に測る資格を用いて単位認定する。(平成25年度生より適用) 対象とする言語は外国語8単位言語の実用性を向上させる意味から、英語、中国語、韓国朝鮮語の3言語とする。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次以上対象 (平成25年度以降入学生)		
免許等指定科目	外国語運用能力 英語 中国語 韓国朝鮮語		
キーワード	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、外国語科目をさらに充実発展させる目的で、公的な検定試験資格の取得を以て履修とみなし、単位を認定する。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語については、TOEIC:700点以上、TOEFL PBT:500点以上、iBT:61点以上、CBT:173点以上、実用英語技能検定(英検):準1級合格、IELTS:5.5以上、国連英検:B級合格、(なお、TOEICとTOEFLについては、学内実施分でも可とする)、中国語については、中国語検定:3級合格、韓国朝鮮語については、韓国語能力検定:中級合格を以て1単位を認定する。ただし、同一言語による複数カウントや複数言語による重複カウントは認めない。また、この科目はCAP制の制限には含まれない。		
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この科目を単位認定に履修する場合は、受験した語学検定試験から基本的に半年以内の直近の各学期末に成績表等の結果を以て申請する。期日を経た内容や条件に当てはまらない場合は認定されない。		

授業科目名	外国語検定Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	外国語担当者		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	外国語運用能力を公的に測る資格を用いて単位認定する。(平成25年度生より適用) 対象とする言語は外国語8単位言語の実用性を向上させる意味から、英語、中国語、韓国朝鮮語の3言語とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 1年次以上対象 (平成25年度以降入学生)		
免許等指定科目	外国語運用能力 英語 中国語 韓国朝鮮語		
キーワード	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、外国語科目をさらに充実発展させる目的で、公的な検定試験資格の取得を以て履修とみなし、単位を認定する。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語については、TOEIC:800点以上、TOEFL PBT:550点以上、iBT:79点以上、CBT:213点以上、実用英語技能検定(英検):1級合格、IELTS:6以上、国連英検:A級合格(なお、TOEICとTOEFLについては、学内実施分でも可とする)、中国語については、中国語検定:2級合格、HSK漢語水平試験:6級合格、韓国朝鮮語については、韓国語能力検定:上級合格を以て2単位を認定する。ただし、同一言語による複数カウントや複数言語による重複カウントは認めない。また、この科目はCAP制の制限には含まれない。		
授業の内容			
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この科目を単位認定に履修する場合は、受験した語学検定試験から基本的に半年以内の直近の各学期末に成績表等の結果を以て申請する。期日を経た内容や条件に当てはまらない場合は認定されない。		

授業科目名	上級日本語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	西本寮子		
研究室の場所	1914		
オフィスアワー	授業のある日の在室時。不在時はメールにて連絡の上、日程を調整する。		
授業の形式・方式	対面方式。演習。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	国際文化学科選択、開放科目
履修要件	日本語 I～IVをりしゅうしていること。また日本語能力試験N1 相当の能力があること。		
免許等指定科目	なし		
キーワード	日本語、読む、聞く、書く、話す、議論する		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国際文化学科の専門科目（コミュニケーション） 一定の日本語運用能力が身につけている（日本語能力試験N1相当）ことを前提として、 日本語運用能力をさらに高めることを目標とする。		
授業の内容	日常生活のさまざまな場面で使われる日本語について、やや複雑な内容、構成の文章（ 論説文や評論、新聞記事など）を読み、内容を正確に理解するとともに、適切な日本語 でまとめ、表現できるよう（書く、話す）、また、日常的なスピードの会話やニュース 、講演などを聞き、内容をまとめ、的確な日本語で自分の意見を述べられるよう（話す 、書く、議論する）、演習を繰り返す。		
成績評価の方法	毎回の授業への取り組み（30%）、適宜課す課題の提出状況（20%）、最終回の課題へ の取り組み状況（50%）により評価する。		
テキスト	適宜資料を配付する。また、必要に応じて資料を貸与する。		
参考文献	適宜提示する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	原則として日本語 I～IVを履修していること。また、日本語能力試験N1程度の日本語運 用能力があること（開講時に説明する）。 交換留学生にあっては、来日時に本学で実施する日本語能力テストの結果により受講の 可否を決定する。		

授業科目名	上級日本語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	家村 伸子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式。原則として演習形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習時間を想定した授業を行う。ほぼ毎回課題を与え、提出、報告を求める。提出物にもとづいて、次週の授業を行うことがあるので注意すること。受講生は毎回の課題に的確に応えるとともに、最終的にはレポート作成を行うものとする。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	研究活動のための日本語、口頭表現力、レポートの書き方、調査研究		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	国際文化学科共通科目外国語に位置づけられている。日本語Ⅰ～Ⅲで身につけた確かな表現力、読解力、聴解力を前提として、目的に応じて表現や文体を使い分け、的確で豊かな日本語表現力、運用能力を身につけることを目標とする。ただし、受講生の日本語レベルによっては変更する。		
授業の内容	<p>フォーマルな場面で自己の意見を述べる練習として、スピーチとプレゼンテーションを取り上げる。原稿を準備、推敲することで場にふさわしい表現を磨き、原稿読みの練習を繰り返すことで日本語の発音を意識し、大勢の人の前で自己の考えを分かりやすく伝えるための技術を獲得する。</p> <p>大学生活に必要な研究能力の基礎を築くために、自己の興味に沿ったテーマで調査計画を立て、調査、分析、考察を行う。調査研究で判明したことについてプレゼンテーションを行い、質疑応答を経て、さらに再考し、最終的にはレポートにまとめるという一連の活動を行う。ただし、受講生の習熟度によっては、より基本的な口頭表現、文章表現の方法、日本語で文章を書くにあたっての基礎的知識の習得に力を注ぐこともある。</p>		
成績評価の方法	課題・毎回の授業への取り組み状況80%、レポート20% で評価する。		
テキスト	授業時にプリントを配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	異文化コミュニケーション論		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	広島キャンパス 1823研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面。講義、討議形式を組み合わせます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	国際文化学科 選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択, 高一種免(英語)選択		
キーワード	コミュニケーション、多文化主義、現代アメリカ文学・文化、文化批評		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①多文化主義の基礎を学ぶ ②さまざまな批評理論にふれ、多角的に社会現象をとらえる訓練を行う ③クラスメートとの討議をとおして、自分の意見を客観的にとらえつつ発表する訓練を行う</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：学科共通専門科目コミュニケーションの選択科目</p>		
授業の内容	現代アメリカ文学に描かれる人種・階級・ジェンダーの分析・理解を通して、自己/他者の概念と多文化主義の基礎を学びます。並行して基礎的な文化批評諸理論にふれ、社会事象を複眼的にとらえる訓練をします。2週間に1冊のペースで代表的な現代アメリカ文学作品を読み、その文化的、社会的背景をまなび、学生間のディスカッションへとつなげていきます。		
成績評価の方法	ディスカッションでの発表を含めたクラス内活動50%、最終週での考査と討議50%で成績評価を行います。		
テキスト	オリエンテーションでリーディングリストを配布します。		
参考文献	適宜指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	文学作品を含め、かなりの読書量が求められます。リーディングリストを消化し、しっかりとした意見をもってディスカッションに参加できない学生には単位は与えられません。また、ディスカッションでは毎週発言が求められます。他人任せの受講では自分の学びの強度が小さくなるだけでなく、グループ全体に悪影響を及ぼしますので、毎週責任感を持って主体的に授業に参加することが求められます。		

授業科目名	異文化コミュニケーション論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	広島キャンパス 1823		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	演習。英文講読にあたって、担当者を決めて発表を行い、クラス全体のディスカッションにつなげます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	文化批評理論、アメリカ文化、現代アメリカ文学、政治哲学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①原文で現代アメリカ文学作品・批評を読み、自分なりの文化批評の手法を確立する</p> <p>②対象作品と社会・文化との関連を理解する</p> <p>③さまざまな批評理論にふれ、社会事象を複眼的にとらえる</p>		
授業の内容	<p>現代アメリカの代表的な短編作家であるRaymond Carverの作品を読み、主にジェンダーと階級に着目しながらアメリカ社会のひとつの側面を分析します。毎週の授業ではあらかじめ決めておいた担当学生に作品の音読、和訳をしてもらい、作品の内容についてコメントを求めます。そのうえで、クラス全体のディスカッションを行います。並行してリーディングリストにある文学作品3～4冊を読み、学生各々が作品を批評し、その発表を行います。リーディングリストの作品は翻訳でも認めることとします。</p>		
成績評価の方法	授業参加度(課題、発表、授業内での発言等)50%、レポート50%の合計100%で成績評価をおこないます。		
テキスト	Raymond Carver, Where I'm Calling from: Selected Stories (Vintage) ペーパーバック版		
参考文献	適宜論文等を配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>文学作品、批評論文を原文で精読するため、高度な英語力が求められます。また必要とされる読書量がかなり多くなりますので注意。</p> <p>この授業では個人あるいはグループによる発表が求められます。担当する学生は責任をもって準備をするように心がけましょう。</p> <p>また、ディスカッションでは、積極的に発言し、自分たちで授業を進めることも必要です。予習せずに出席することは自らの学びの強度を下げるのみならず、クラス全体に悪影響を及ぼしますので、学生の皆さんがそれぞれの責任を自覚して授業に参加してくれることを望みます。</p>		

授業科目名	異文化コミュニケーション論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	栗原 武士		
研究室の場所	広島キャンパス 1823		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	演習。英文講読にあたって、担当者を決めて発表を行い、クラス全体のディスカッションにつなげます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択、高一種免(英語)選択		
キーワード	文化批評理論、アメリカ文化、現代アメリカ文学、政治哲学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①原文で現代アメリカ文学作品・批評を読み、自分なりの文化批評の手法を確立する ②対象作品と社会・文化との関連を理解する ③さまざまな批評理論にふれ、社会事象を複眼的にとらえる		
授業の内容	前期に引き続き現代アメリカの代表的な短編作家であるRaymond Carverの作品を読み、主にジェンダーと階級に着目しながらアメリカ社会のひとつの側面を分析します。毎週の授業ではあらかじめ決めておいた担当学生に作品の音読、和訳をしてもらい、作品の内容についてコメントを求めます。そのうえで、クラス全体のディスカッションを行います。並行してリーディングリストにある文学作品3～4冊を読み、学生各々が作品を批評し、その発表を行います。		
成績評価の方法	授業参加度(課題、発表、授業内での発言等)50%、レポート50%の合計100%で成績評価をおこないます。		
テキスト	Raymond Carver, Where I'm Calling from: Selected Stories (Vintage) ペーパーバック版		
参考文献	適宜論文等を配布		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	文学作品、批評論文を原文で精読するため、高度な英語力が求められます。また必要とされる読書量がかなり多くなりますので注意。 この授業では個人あるいはグループによる発表が求められます。担当する学生は責任をもって準備をするように心がけましょう。 また、ディスカッションでは、積極的に発言し、自分たちで授業を進めることも必要です。予習せずに出席することは自らの学びの強度を下げるのみならず、クラス全体に悪影響を及ぼしますので、学生の皆さんがそれぞれの責任を自覚して授業に参加してくれることを望みます。		

授業科目名	英語文化論（英語学概論）		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面形式。講義形式で授業を行う。学生は、授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習を行うこと、レポート課題を提出し、試験を受けることが課せられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（英語）必修、高一種免（英語）必修		
キーワード	英語史, 英語音声学・音韻論, 語彙・形態論, 統語論, 語源, 社会言語学, 日英対照言語学, 英語の変種, 世界諸英語		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語を通時的, 及び共時的に概観, 分析しながら, その言語的特徴を把握し, 英語という言語についての理解を深めることを目的とする。 本科目は国際文化学科専門科目（コミュニケーション）として, また, 英語科教免必修科目として位置づけられている。		
授業の内容	(1) 英語の歴史について, 古英語期, 中英語期, 近代英語期それぞれの特徴を講じながら, 現代英語成立の過程を概観する。また, 現代英語について, その構造を音声, 形態, 統語法を中心に説明する。 (2) 英語の語源や語彙の意味の変遷について, Oxford English Dictionary (OED)を実際に引きながら学習する。 (3) 現代グローバル社会における国際共通語としての英語の諸相について, 英語母語話者の英語の地域的, 社会的アクセントの違いや, 非英語母語話者の英語の特徴について講じる。 (4) 日英語における性差, 日英語の文化的背景の違いによる表現や語彙の相違など, 日英語対照による両言語の特徴を講じる。		
成績評価の方法	定期試験70%, レポート課題30%で評価する。単位認定は、出席回数が全回数の3分の2以上であることが前提である。		
テキスト	新 えいご・エイゴ・英語学（松柏社）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	英語文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時受け付ける（事前に面談日時の予約をすることが望ましい）。		
授業の形式・方式	対面授業。下記のテキストを中心に使用して、演習形式で授業を行う。学生は、授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習を行うこと、定められた課題を提出し、プレゼンテーションを行い、定期試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免（英語）選択、高一種免（英語）選択		
キーワード	日英対照音声学，音響音声学，調音音声学，母音，子音，分節素		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語音声の分節素（母音，子音）に焦点をあて、日英語の違いを理解するとともに、英語の母音・子音の発音を向上させることを目標とする。 本科目は、国際文化学科専門科目（コミュニケーション）として位置付けられている。		
授業の内容	英語の母音・子音の各音声に関する調音、及び音響上の知識を深め、英語音声を正しく識別し、発音する方法を体得するとともに、国際音声字母に基づいて表記された発音記号を正しく読んで発音するための演習を行う。音声分析ソフトを使用して自己の英語の発音を音響的に分析することによって、自己の発音を客観的に捉え、モデルと比較しながら自己発音矯正を行う。また、実践的な発音練習を行いながら、日本語話者が英語コミュニケーションを行う場合に支障を生じ易い音とその原因、及び解決法について、日英語の母音・子音の体系や調音の違いを基に探る。		
成績評価の方法	期末試験60%，指定課題とプレゼンテーション40%の割合で評価する。 期末試験は指定された日時，教室内で，90分内で実施する。定期試験受験には単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。		
テキスト	英語音声学の基礎—音変化とプロソディーを中心に—（研究社出版）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「英語文化論特論（英語音声学）」を履修していることが望ましい。 英語教員を目指す学生には特に履修を勧めます。		

授業科目名	英語文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時受け付ける（事前に面談日時の予約をすることが望ましい）。		
授業の形式・方式	対面授業。下記のテキストを中心に使用して、演習形式で授業を行う。学生は、授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習を行うこと、定められた課題を提出し、試験を受けることが課せられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免（英語）選択、高一種免（英語）選択		
キーワード	日英対照音声学、音響音声学、調音音声学、プロソディー（アクセント、リズム、ストレス、イントネーション）、音変化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日英語音声の違いや特徴に関する基礎的知識を基に、英語のプロソディーと音変化を中心に発音練習を行いながら、自己の発音を向上させることを目標とする。本科目は、国際文化学科専門科目（コミュニケーション）として位置付けられている。		
授業の内容	英語のプロソディー（ストレス、リズム、アクセント、イントネーションなど）、および音の脱落、同化、連結など、発話における音変化に関する知識を深め、英語コミュニケーションにおけるこれらの機能の重要性について理解するとともに、正しく使用するための演習を行う。実際の英語において、どのようにこれらの音声現象が現われ、使用されているか分析するとともに、自己の発音を音響分析によって客観的に把握し、発音矯正を行う。さらに、実践的発音練習を行いながら、英語コミュニケーションに支障が生ずる場合の日本人の発音上の問題点と解決法を探る。		
成績評価の方法	期末試験60%、指定課題とプレゼンテーション40%の割合で評価する。期末試験は指定された日時、教室内で、90分内で実施する。定期試験受験には、単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。		
テキスト	英語音声学の基礎—音変化とプロソディーを中心に—（研究社出版）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「英語文化論特論（英語音声学）」、「英語文化論基礎演習」を履修していることが望ましいです。英語教員志望者には特に履修を勧めます。		

授業科目名	英語文化論特論（英語音声学）		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時受け付ける（事前に面談日時の予約をすることが望ましい）。		
授業の形式・方式	対面形式。講義が主体だが、適宜演習も取り入れて授業を行う。学生は授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習を行うこと、及び授業で指定した課題を提出し、定期試験を受けることが課せられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象（平成21年度以降の入学生）		
免許等指定科目	中一種免（英語）選択、高一種免（英語）選択		
キーワード	日英対照音声学、音響音声学、調音音声学、英語音声教育、子音、母音、プロソディー、音変化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語コミュニケーション能力の基礎となる英語音声についての知識を深め、日英語音声の違いを把握しながら、英語音声の特徴を理解し、より良い発音の実践に役立てることを目標とする。 本科目は、国際文化学科専門科目（コミュニケーション）として位置付けられている。		
授業の内容	調音及び音響的側面から日英語音声の対照を行い、英語音声の特徴を把握する。適宜、実践的な発音練習を行う。日英語音声の対照分析によって、日本人学習者の英語の発音の特徴及び日本人にとって発音が困難な点を明らかにするとともに、その原因を探り、発音向上にむけての解決方法について考察する。母音・子音のみならず、コミュニケーション上重要な機能を持つリズム、イントネーション、アクセント、ストレスや音の弱化、同化、脱落など、発話における音変化も網羅する。適宜、イギリス英語とアメリカ英語の発音の違いについて言及する。		
成績評価の方法	期末試験70％，課題30％の割合で評価する。期末試験は指定された日時，教室内で，90分内で実施する。試験範囲は最後の授業時間中に指定する。成績評価は，単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが条件である。		
テキスト	『英語音声学の基礎—音変化とプロソディーを中心に—』（研究社出版）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英語教員を目指す学生には特に履修を勧めます。		

授業科目名	英語文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時受け付ける（事前に面談日時の予約をすることが望ましい）。		
授業の形式・方式	対面形式。講義が主体だが、適宜演習も取り入れて授業を行う。学生は授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習を行うこと、及び授業で指定した課題を提出し、定期試験を受けることが課せられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象（平成21年度以降の入学生）		
免許等指定科目	中一種免（英語）選択、高一種免（英語）選択		
キーワード	日英対照音声学、音響音声学、調音音声学、英語音声教育、子音、母音、プロソディー、音変化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	英語コミュニケーション能力の基礎となる英語音声についての知識を深め、日英語音声の違いを把握しながら、英語音声の特徴を理解し、より良い発音の実践に役立てることを目標とする。 本科目は、国際文化学科専門科目（コミュニケーション）として位置付けられている。		
授業の内容	調音及び音響的側面から日英語音声の対照を行い、英語音声の特徴を把握する。適宜、実践的な発音練習を行う。日英語音声の対照分析によって、日本人学習者の英語の発音の特徴及び日本人にとって発音が困難な点を明らかにするとともに、その原因を探り、発音向上にむけての解決方法について考察する。母音・子音のみならず、コミュニケーション上重要な機能を持つリズム、イントネーション、アクセント、ストレスや音の弱化、同化、脱落など、発話における音変化も網羅する。適宜、イギリス英語とアメリカ英語の発音の違いについて言及する。		
成績評価の方法	期末試験70％、課題30％の割合で評価する。期末試験は指定された日時、教室内で、90分内で実施する。試験範囲は最後の授業時間中に指定する。成績評価は、単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが条件である。		
テキスト	『英語音声学の基礎—音変化とプロソディーを中心に—』（研究社出版）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	英語教員を目指す学生には特に履修を勧めます。		

授業科目名	英語表現論		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	DVDの視聴やディスカッションを交えながらの講義形式を基本とする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択, 高一種免(英語)選択		
キーワード	英語教育学、第2言語習得論、応用言語学、心理言語学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】1. 英語コミュニケーション能力の養成を目指す学問である英語教育学の専門知識を身につける、2. 英語の習得に関する専門知識を身につける</p> <p>【思考・判断】1. 日本の英語教育や英語学習に関する問題点を指摘できる</p> <p>【関心・意欲】1. 英語教育や英語学習の様々な問題に関して討議できる</p> <p>【技能・表現】1. 英語教育や英語学習について学術的な議論ができる</p> <p>【態度】1. 自らの英語学習について客観的に考えることができる、2. 日本国内外での英語教育や英語学習について客観的かつ論理的に思考できる</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：学科共通専門科目コミュニケーションの選択科目</p>		
授業の内容	この授業では、英語教育学、第2言語習得論、応用言語学、心理言語学について、講義、DVD視聴、ディスカッションを通して学び、英語教育、英語学習、英語コミュニケーションについて客観的に考えられる視点を身に付けることを目指します。一部、英語科教育法と内容が重複する部分がありますが、この授業は教員免許取得の必修科目ではないため、英語を学習したことのある人であれば誰でもあてはまるような一般的な内容を扱います(したがって、授業指導案の作成や模擬授業といった英語教員を目指す学生のみの特化した内容は扱いません)。		
成績評価の方法	<p>1. 授業参画20% (授業参加が思わしくない場合は単位を取得できません)</p> <p>2. レポート20% (指示に従った上ですべてのレポートを提出しないと単位を取得できません)</p> <p>3. 定期試験60% (受験しないと単位を取得できません)</p> <p>※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。</p>		
テキスト	なし。授業で毎回ハンドアウトを配布する。		
参考文献	白井恭弘(2008). 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』. 岩波書店.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】この授業では、英語教育・英語学習という営みそのものについて学習します。英語教育や英語学習について客観的かつ論理的に考えるための視点を身につけます。授業で行うディスカッションへの参加が重視されます。英語表現論基礎演習、英語表現論演習、英語表現論特論(英文法)と合わせて履修することが望ましいです。英語以外の言語に興味のある方も歓迎します。</p> <p>【禁止事項】1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2) 前回の授業で配布したプリントは必ず次の授業に持参してください。</p>		

授業科目名	英語表現論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	ディスカッションを交えながらの講義形式を基本とする		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語) 選択、高一種免(英語) 選択		
キーワード	言語の起源、社会言語学、神経言語学、心理言語学、コーパス言語学、言語哲学、レトリック(修辞学)、非言語的コミュニケーション、記号論、言葉遊び、言語人類学、文学理論、文体論		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】 1. 言語学と他分野の接点で発達した言語研究分野の知識を身につける 2. 英語に関する知識を広く習得する</p> <p>【思考・判断】 1. 英語に潜む様々な特徴を指摘できる</p> <p>【関心・意欲】 1. 英語について多角的に討議できる</p> <p>【技能・表現】 1. 英語の様々な側面について学術的な議論ができる</p> <p>【態度】 1. 英語の持つ多様な側面について論理的かつ学術的に思考できる</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：学科専門科目の選択科目</p>		
授業の内容	この授業では、言語学(英語学)と他分野(生物学、社会学、脳科学、心理学、コンピュータ科学、哲学、人類学、など)の接点で発達した様々な研究分野について学習します。この授業を通して、英語及び言語一般に関する広い知識と多角的な視野を習得することを目指します。		
成績評価の方法	<p>1. 授業参画20% (授業参加が思わしくない場合は単位を取得できません)</p> <p>2. レポート20% (指示に従った上ですべてのレポートを提出しないと単位を取得できません)</p> <p>3. 定期試験60% (受験しないと単位を取得できません)</p> <p>※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。</p>		
テキスト	なし。授業で毎回ハンドアウトを配布する。		
参考文献	山梨正明・有馬道子(編)。(2003)。『現代言語学の潮流』。勁草書房。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】英語学(言語学)とその他の分野の接点で発達した研究分野について、その基本的な考え方や研究成果などを学習します。英語学や言語学の基本的な知識は前提とはしません。また、英語以外の言語に興味のある方も歓迎します。授業で行うディスカッションへの参加が重視されます。英語表現論を履修していること、英語表現論演習と英語表現論特論(英文法)を合わせて履修することが望ましいです。</p> <p>【禁止事項】 1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。 2) 前回の授業で配布したプリントは必ず次の授業に持参してください。</p>		

授業科目名	英語表現論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	ディスカッションを交えながらの講義形式を基本とする		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択, 高一種免(英語)選択		
キーワード	音声学、音韻論、文字論、形態論、統語論、意味論、語用論、談話分析、英語史、言語学史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】1. 英語の構造や機能、変化に関する言語学的知識を身につける、2. 英語コミュニケーションに関する言語学的知識を身につける</p> <p>【思考・判断】1. 様々な言語学的レベルでの英語の特徴を指摘できる</p> <p>【関心・意欲】1. 様々な言語学的レベルでの英語の特徴を討議できる</p> <p>【技能・表現】1. 英語の構造や機能、変化について言語学に基づいた議論ができる、2. 英語コミュニケーションについて言語学に基づいた議論ができる</p> <p>【態度】1. 英語や英語コミュニケーションについて論理的かつ学術的に思考できる</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：学科専門科目の選択科目</p>		
授業の内容	いわゆる言語学(英語学)と言語学の変遷について扱います。この授業を通して、英語そのものの言語学的特徴に関する知識を獲得すると同時に、人はこれまで言語をどのように研究してきたのかということについても学習します。		
成績評価の方法	<p>1. 授業参画20% (授業参加が思わしくない場合は単位を取得できません)</p> <p>2. レポート20% (指示に従った上ですべてのレポートを提出しないと単位を取得できません)</p> <p>3. 定期試験60% (受験しないと単位を取得できません)</p> <p>※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。</p>		
テキスト	なし。授業で毎回ハンドアウトを配布する。		
参考文献	G. ユール (1987) . 『現代言語学20章ーことばの科学ー』. 大修館書店.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】主に英語学の考えに則して、英語の中に見られる様々な言語学的特徴について学習します。言語学に関する基礎知識のない人でも理解できるような形で授業を進める予定です。英語以外の言語に興味のある方も歓迎します。授業で行うディスカッションへの参加が重視されます。英語表現論、英語表現論基礎演習を履修していること、英語表現論特論(英文法)を合わせて履修することが望ましいです。</p> <p>【禁止事項】1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2) 前回の授業で配布したプリントは必ず次の授業に持参してください。</p>		

授業科目名	英語表現論特論（英文法）		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	演習形式の対面授業を基本とする。英文法に関する講義と演習を行う。毎回小テストも行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語) 選択、高一種免(英語) 選択		
キーワード	英文法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】 1. 英文法に関する高度な知識を習得する 【思考・判断】 1. 英文の適格性を判断できる 【関心・意欲】 1. 文法規則の下地となっている言語学的根拠を討議できる 【技能・表現】 1. 類似した英文のニュアンスの違いを指摘できる 【態度】 1. 話者の態度や文脈の観点から英文法規則を捉えることができる</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：学科専門科目の選択科目</p>		
授業の内容	この授業では、高等学校で学習した内容以上の高度な英文法知識の獲得を目指します（したがって、英語表現論、英語表現論基礎演習、英語表現論演習とは直接的な内容のつながりはありません）。英文法運用能力よりは明示的な英文法知識の獲得に重点を置きます。授業ではハンドアウトを中心とした講義に加えて、イディオム学習用副教材を使用した小テストを毎回実施します。なお、受講者には全員授業期間中に英語検定試験（TOEIC、TOEFL、英検、IELTS、国連英検のうちいずれか1つ）を1回受験することを義務として課します。TOEICとTOEFLに関しては学内実施のものでも構いません。英語検定試験の結果は当該期の他の科目と併用できます。		
成績評価の方法	1. 授業参画 10%（欠席が6回以上となったり、授業参画が思わしくない場合は単位は取得できません） 2. 小テスト 30%（スコアが一定の基準を下回りますと単位を取得できません） 3. 定期試験 30%（受験しないと単位を取得できません） 4. 英語検定試験受験のスコア 30%（授業期間中に受験しないと単位を取得できません） ※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。		
テキスト	Konaka, H. (2015). A short course in English idiomatic expressions. Nan'un-do .		
参考文献	綿貫陽他 (2000) . 『徹底例解ロイヤル英文法』 . 旺文社. Swan, M. (2005). Practical English usage. OUP.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】 英語関係で卒業論文を執筆したい人や英語教員を目指す人など、既に高い英語力を持っている人を対象とした授業となります。高校までの英文法を十分に理解していることを前提で授業を行います。授業の取り組みが英文法知識向上に直結しますので、積極的に授業に参加してください。また、授業の予習と復習もしっかりと行なってください。辞書は必ず持参してください。</p> <p>【禁止事項】 1) 遅刻・私語・居眠り・飲食・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。 2) 前回の授業で配布したプリントは必ず次の授業に持参してください。</p>		

授業科目名	中国語文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストの内容を使いながら、演習の形で授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国文化 中国語 言葉の背景は文化である。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①この科目は中国語と中国文化に興味がある学習者のための講義である。 ②文化の視点から、中国語の表現、文型、言葉遣い、発想などを理解して、折にふれて日本語や日本文化と対照しながら、中国文化にアプローチすることができる。 ③中国語や中国社会、中国文化に関する研究に必要な語学的・文化的な基礎を固めることができる。</p>		
授業の内容	<p>①数字と数字表現、中国人の数字に見られる好き嫌い ②時間と時間表現、中国人のオープンした性格とその表現 ③あいさつ、中国人の挨拶の特徴 ④買い物と数量表現、中国のお金とものの量り方 ⑤動物と植物、中国におけるその象徴性 ⑥趣味とスポーツ、中国人の生活におけるマージャン ⑦ボディランゲージ、中国におけるそのジェスチャーの意味 ⑧約束 中国の食事マナー ⑨色 色とその象徴性 ⑩病気 医食同源</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の小テスト (15%) ・出席率や授業への取り組み方 (15%) ・期末試験 (70%) ・この3点により、総合的に評価する。 		
テキスト	『ハピネス中国語』相原 茂など 朝日出版社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国語を少なくとも1学年履修したことが必要である。		

授業科目名	中国語文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストの内容を使いながら、演習の形で授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国文化 中国語 言葉を通して中国文化にアプローチしていく。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	①定着まで、自信がつくように、きれいに発音できる演習 ②言葉と本文の内容の学習を通して中国文化にアプローチしていくことができる。 ③中国語文化論演習のために、語学的・文化的な基礎を築くことができる。		
授業の内容	1. 中国語で楽々コミュニケーション術 2. 中国語古典三字経の朗読 3. 中国語シャドーイングの入門 4. 地理環境 5. 人口大国 6. 中国語とその特質 7. 本場の中華料理 8. 黄河文明 9. 姓氏(苗字)		
成績評価の方法	・授業中の小テスト(15%) ・出席率や授業への取り組み方(15%) ・期末試験(70%) ・この3点により、総合的に評価する。		
テキスト	『読解中国語 やさしい中国語でよむ現代中国』 横川伸・王亜新 著 白帝社 その他、事前配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国語V・VIIか中国語VI・VIIIを習得しておく必要がある。		

授業科目名	中国語文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義と演習を並行して行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国文化 中国語 日本語 言葉を通して中国の文化にアプローチしていく。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①「中国語文化論基礎演習」の続きとして、中国文化、中国語に興味があり、中国語の中級学習者のための演習である。</p> <p>②インプットとアウトプットの両面から中国語の能力を高めることができる。</p> <p>③語学と本文の内容の学習を通して中国の文化にアプローチしていくことができる。</p> <p>④中国語や中国社会、中国文化、中国文学に関する研究に必要な語学的・文化的な基礎を築くことができる。</p>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 好一 茉莉花 2. 倒茶的礼貌 3. 春節 4. 漢字小史 5. 中国人的手勢 6. 漢語的外来語 7. 北京の「四合院」 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の小テスト (15%) ・出席率や授業への取り組み方 (15%) ・期末試験 (70%) ・この3点により、総合的に評価する。 		
テキスト	『読解中国語 やさしい中国語でよむ現代中国語』 横川伸・王亜新 白帝社 その他、事前配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国語V・VIIか中国語VI・VIIIを習得したうえ、中国語文化論基礎演習も受講したことが望ましい。		

授業科目名	中国語文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストの内容を使いながら、講義と練習を併用して授業を展開する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語 文法 言葉の背景は文化である。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>①これまでにはばらばら勉強してきた中国語の文法を体系化する。</p> <p>②折にふれて文化の視点から、中国語の文法と中国文化にアプローチすることができる。</p> <p>③中国語や中国社会、中国文化に関する研究に必要な語学的及び文化的な基礎を固めることができる。</p>		
授業の内容	<p>第1章 文の構成素</p> <p>第2章 中国語の品詞</p> <p>第3章 フレーズ</p> <p>第4章 文成分</p> <p>第5章 文</p> <p>第6章 中国語文法の要点</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の小テスト (15%) ・出席率や授業への取り組み方 (15%) ・期末試験 (70%) <p>・この3点により、総合的に評価する。</p>		
テキスト	『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則 東方書店		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	中国語履修が前提。		

授業科目名	韓国・朝鮮語文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。授業日程に従って講義し、学生の個人とかグループ発表等も交えながら実施する。学生は授業に出席し、レポートを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語概論、韓国の言語と文化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語から社会や文化を理解するために設定された授業である。「韓国・朝鮮語」を履修する学生を主たる対象に、その特徴を理解するための概論的内容に重点を置く。また、言語を通して文化を考える意味合いから、言語文化論の一端を担う。		
授業の内容	<p>一般言語学研究の視点から韓国語と関連された多様な主題を体系的に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般言語学の基本概念を基にして、言語を見る視点を持つこと。 2. 形態、通辞構造、意味資質の分析など、文法に関して深く理解すること。 3. 言語政策、方言、言語史と比較言語学の観点で両言語を考察することなど、様々な主題を扱う。 4. 理論的な理解とともに実習を通じて、韓国語使用能力をより高めること。 		
成績評価の方法	授業中の発表や試験やreport (80%), 出席 (20%) 評価する。		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人のための韓国語文法1 (ソウル: communication books社) 2. 韓国語と韓国文化 (ソウル: セムン社) *教材は配布する。 		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語をより深く理解しようとする学生の履修を勧める。 韓国語辞書を準備、持参すること。		

授業科目名	韓国・朝鮮語文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。授業日程に従って講義し、学生の発表と討論を交えながら実施する。学生は授業に出席し、レポートを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国・朝鮮語概論、韓国の言語史、言語政策、方言、言語と社会		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語から社会や文化を理解するために設定された授業である。「韓国・朝鮮語」を履修する学生を主たる対象に、「韓国朝鮮語文化論」で扱った内容の理解の土台の上、実際の多様な言語資料と現状の分析に重点を置く。また、言語を通して社会文化を考える意味合いから、言語文化論の一端を担う。		
授業の内容	<p>韓国語を言語学的研究の視点から実際の多様な言語資料と現状の分析、演習を目的とする。</p> <p>1. 言語と社会文化を考える視点から、言語史、言語政策、方言、言語と社会現状、基本的な造語法の理解、口語と文語の差異、語彙体系の比較対照、言語礼節や話法の比較、日本語との比較対照などを 具体的な言語資料を用いて行う。</p> <p>2. 関連主題に関する論文講読、論文主題の選定、分析方法論、作成法を練習する。</p> <p>韓国語学や言語文化に関心がある学生に対して、韓国語の言語資料を通して、世界を見る論理的な観点を得られるように導く。</p>		
成績評価の方法	授業中の発表や試験やreport (80%), 出席(20%)評価する。		
テキスト	<p>1. 基本テキストは「外国人のための韓国語文法1」</p> <p>2. その他参考資料とプリント配布</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語、特に韓国語をより深く理解しようとする学生、または、言語を通して文化や社会を理解しようとする学生の履修を勧める。 韓国語辞書を準備、持参すること。		

授業科目名	韓国・朝鮮語文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。授業日程に従って講義し、学生のグループ発表等も交えながら実施する。学生は授業に出席し、レポートを含む試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語概論、韓国の言語と文化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語から社会や文化を理解するために設定された授業である。「韓国・朝鮮語」を履修する学生を主たる対象に、「韓国朝鮮語文化論」で扱った内容の理解の土台上、実際の多様な言語資料と現状の分析に重点を置く。また、言語を通して文化を考える意味合いから、言語文化論の一端を担う。		
授業の内容	<p>「韓国朝鮮語文化論基礎演習」を継いでより深化された内容を扱う。</p> <p>韓国語を言語学的研究の視点から実際の多様な言語資料と現状の分析、演習を目的とする。</p> <p>1. 言語と社会文化を考える視点から、言語史、言語政策、方言、言語と社会現状、基本的な造語法の理解、口語と文語の差異、語彙体系の比較対照、言語礼節や話法の比較、日本語との比較対照などを 具体的な言語資料を用いて行う。</p> <p>2. 関連主題に関する論文講読、論文主題の選定、分析方法論、作成法を練習する。 韓国語学や言語文化に関心がある学生に対して、韓国語の言語資料を通して、世界を見る論理的な観点を得られるように導く。</p>		
成績評価の方法	授業中の発表や試験やreport (90%), 出席(10%)評価する。		
テキスト	<p>1. 基本テキストは「外国人のための韓国語文法1」</p> <p>2. その他参考資料とプリント配布</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語、特に韓国語をより深く理解しようとする学生の履修を勧める。 韓国語辞書を準備、持参すること。		

授業科目名	韓国・朝鮮語文化論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	講義・演習融合形式の対面授業。授業日程に従って講義し、学生の個人とかグループ発表等も交えながら実施する。学生は授業に出席し、試験や発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国・朝鮮語の概論とスキルアップ、韓国の言語と文化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、国際文化学科の専門科目に位置し、言語から社会や文化を理解するために設定された授業である。「韓国・朝鮮語」を履修する学生を主たる対象に、概論的内容と実践的内容との橋渡しの意味を持つ。言語を通して文化を考える意味合いから、言語文化論の一端を担う。		
授業の内容	韓国語の音声・語彙・文法の実践的な整理を目標として、高度な会話能力・読解能力の養成を図る。与えられたテーマに対してどう表現するかを練習するための作文や発表、基本的な文章の読解や要約、新聞記事や現代の文章を対象とした話し言葉と書き言葉の比較学習など、言語文化を充実発展させるために総合的な運用能力の向上と社会文化に対する知識理解の深化を図る。		
成績評価の方法	授業中の発表や試験やreport (80%), 出席 (20%) 評価する。		
テキスト	1. 韓国語と韓国文化 (ソウル:セムン社) 2. その他参考資料とプリント配布。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語、特に韓国語を通して文化や社会を理解しようとする学生の履修を勧める。 韓国語辞書を準備、持参すること。		

授業科目名	日本語文化論（日本語学）		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー	在室時であれば基本的にいつでも対応する。 時間割が確定次第（4月）、オフィスアワーを設定し、研究室の扉に掲示する。		
授業の形式・方式	対面講義形式 対面演習形式		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（国語）必修，高一種免（国語）必修		
キーワード	現代日本語，文字と表記，敬語，社会方言と地域方言		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：①各時代の日本語の特性・機能・しくみについての基礎知識を得る。 ②現代日本語の多様性についての認識を深める。 ③日本語の歴史的変遷過程についての認識を深める。 ④歴史的視点から物事を見つめ，対処する態度・姿勢を身につける。 ⑤自らのことばを豊かにしようとする姿勢・態度を身につける。 ⑥常識を疑い，常に新鮮な視点で物事を見つめ，対処する態度・姿勢を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科の学科共通専門科目</p>		
授業の内容	現代日本語のしくみ・多様性について，具体的な事例に基づいて教授する。「日本語文化論特論A」と同様に，「日本語文化論」系科目の基礎科目として，現代日本語の文法，文章と文体，文字と表記，敬語，地域方言，役割語，および日本音韻史について，幅広く取り扱う。また，希望者は1人15分程度の演習発表をおこなうことができる。		
成績評価の方法	毎回提出するコメントカード30%，演習発表10%，期末試験70%。 演習発表を行った場合、最大10%分を加点する。 試験は持ち込み不可，記述式の予定（応相談）。		
テキスト	プリントを配布する		
参考文献	授業中に紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ol style="list-style-type: none"> 「日本語文化論特論A」の履修・修得を前提として講義を進める予定である。同科目を未履修・未修得の学生は，授業開始前に申し出ること。 毎時間，冒頭30分程度をコメントカードに対する回答にあてる。積極的にコメントカードに意見，質問を書くこと。 演習発表の1人の持ち時間は15分。発表10分，質疑応答5分。 3年生前期「日本語文化論基礎演習」は履修者の上限を24人とする。希望者が多数の場合は，「日本語文化論（日本語学）」の成績上位者が優先される。 		

授業科目名	日本語文化論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー	在室時であれば基本的にいつでも対応する。 時間割が確定次第(4月)、オフィスアワーを設定し、研究室の扉に掲示する。		
授業の形式・方式	対面演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	論文輪読, 言語資料の収集, 言語研究の方法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標: ①現代日本語にはどのような規則・しくみがあるのかについて、仮説を立てて検証する態度・姿勢を培う。 ②言語資料の収集方法を学び、資料性(資料の特性)の問題について理解する。 ③言語資料の分析・研究の方法を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置付け: 国際文化学科の学科共通専門科目</p>		
授業の内容	<p>毎週1本の論文を読む。各回の授業の進め方は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前回の担当者によるまとめと振り返り 2) 担当者による担当論文、担当著書の紹介(PPT32枚程度にまとめ、25~30分で発表) 3) 質疑応答 4) 小川による総評 5) 評価・コメントカードへの記入, 提出 <p>※受講生を12グループに分け、グループ毎に取り組む。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生が20名以上の場合⇒演習発表40%, 質疑応答10%, 期末試験50%。 ※試験問題は採点基準も含めて学生の責任で作成、採点は学生と教員とで行う。 ・受講生が20名未満の場合⇒演習発表60%, 質疑応答30%, 期末レポート10%。 <p><以下共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答では、指名または挙手により意見を求められる。答えない人にA以上の成績はつかない。 ・欠席1回につき5点減点。 		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	毎回、授業の際に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>昨年度の「日本語文化論(日本語学)」で予告したとおり履修者の上限を24名とする。履修希望者が24名を超える場合は、「日本語文化論(日本語学)」の成績上位者が優先される。これに、交換留学生が数名加わる。毎時間、授業内容に対する討議の時間を設ける。積極的に授業に参加すること。</p>		

授業科目名	日本語文化論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー	在室時であれば基本的にいつでも対応する。 時間割が確定次第(4月)、オフィスアワーを設定し、研究室の扉に掲示する。		
授業の形式・方式	対面演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	言語資料の収集, 言語研究の方法論, 言語研究の実践		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標: ①自らの興味・関心にしたがい, 研究課題を設定し, 論文化する能力を培う。 ②4年次の卒業論文作成に向けて, 自立的・自律的に言語研究をおこなう態度・姿勢を培う。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ: 国際文化学科の学科共通専門科目</p>		
授業の内容	<p>自らが収集した言語資料に基づいて研究発表をおこなう。 取り扱う研究の内容は, 言語にかんするものであれば, まったく制限しない。音声, 文法, 語彙を対象とするもの, 江戸時代の日本語を対象とするもの, 広島方言を対象とするもの, 漫画やドラマの日本語など, 様々に考えられる。 ※過去の演習発表題目は以下のURLを参照 http://hc7.seikyou.ne.jp/home/Shunsuke.Ogawa/enshu.html</p> <p>演習発表では必ずパワーポイントを使用する。原稿の読み上げは認めない。 受講生は12グループに分かれ、グループ毎に演習、期末レポートに取り組む。</p>		
成績評価の方法	<p>受講生自身の研究発表および期末レポート70%、質疑応答への参加30%。 演習発表はパワーポイントによる「プレゼンテーション」。期末レポートは、演習発表した内容をレポートのかたちにとまとめて提出する。内容は同じもの。形式・体裁が異なる。</p> <p>欠席1回につき、5点減点。</p>		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	演習発表の内容に応じて、授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、授業内容に対する討議の時間を設ける。積極的に授業に参加すること。		

授業科目名	日本語文化論特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー	在室時であれば基本的にいつでも対応する。 時間割が確定次第(4月)、オフィスアワーを設定し、研究室の扉に掲示する。		
授業の形式・方式	対面講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	現代日本語, 音声と音韻, 語彙と意味, 文法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：①言語の特性・機能, 現代日本語のしくみについての基礎知識を得る。 ②現代日本語の多様性についての認識を深める。 ③自らのことばを豊かにしようとする姿勢・態度を身につける。 ④常識を疑い, 常に新鮮な視点で物事を見つめ, 対処する態度・姿勢を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：国際文化学科の学科共通専門科目</p>		
授業の内容	人間の言語の特性・機能, 現代日本語のしくみ・多様性について, 具体的な事例に基づいて教授する。「日本語文化論」系科目の基礎科目として, 現代日本語の音声と音韻, 語彙, 意味, 文法について取り扱う。		
成績評価の方法	各回のコメントカード30%, 期末試験70%で評価する。 試験は持ち込み不可, 記述式の子定(応相談)。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の「日本語文化論(日本語学)」とセットで履修することが望ましい。 ・各回冒頭30分は, コメントカードに対する教員からの回答時間に充てる。コメントカードに対し, 積極的に意見, 質問を書くこと。 		

授業科目名	日本語文化論特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	高永 茂 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	質問や相談がある場合には、授業の前後の時間帯に来てください。		
授業の形式・方式	対面授業。教科書を使用する。補助資料を適宜配付する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2・3・4年次対象(平成21年度以降の入学生)		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修, 高一種免(国語)必修		
キーワード	日本語, 調音音声学, 国際音声記号, アクセント, イントネーション, 音韻論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業では、日本語の音声調音される仕組み、日本語の音声学的特徴、音声の記述方法などを講義する。音声学の基本的な知識や理論を身につけるとともに、音声を知覚し記述する技能も習得してもらいたいと考えている。		
授業の内容	言語に関わる教育・研究においては、それが文法や語彙に関わるものであっても、音声面の正確な観察にもとづかなければ、言語事実を十分に把握することができない。この授業では日本語の音声認識と記述に必要な知識と理論を理解することと、実践的な技術を身につけることを目的としている。具体的には、話し言葉の特徴、子音と母音の分類、拗音、国際音声記号、環境による音声変化、アクセント、イントネーション、音声学と音韻論の関係などについて詳述する。		
成績評価の方法	期末試験と出席状況を合わせて評価する。期末試験が90%程度、出席状況が10%程度の割合である。試験は持ち込み可の形式で実施する予定である。試験時間は70分。		
テキスト	猪塚元・猪塚恵美子著『日本語音声学のしくみ』研究社 (ISBN 4-327-38302-3)。		
参考文献	斎藤純男(1997)『日本語音声学入門』三省堂。 今石元久(2005)『音声研究入門』和泉書院。 松崎寛ほか(1998)『よくわかる音声』アルク。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本語表象論		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式。ただし、ほぼ毎時間、講義の前には事前課題への取り組みを各自発表し、講義後には小レポートを提出することが求められる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	日本近代文学、言語芸術、日本文学史、文体、作家と作品、私小説、自然主義文学、志賀直哉、泉鏡花、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日本近代文学を代表する作家の作品を精読することにより、言語芸術の可能性や日本近代という時代の価値観について理解を深める。国際文化学科の学科専門科目。		
授業の内容	日本近現代文学に大きな影響を与えた志賀直哉の作品を主な分析対象として、小説を支える方法やそこに織り込まれた時代及び先行文学、後続の文学との関係性について具体的に考察する。志賀は日本近代口語文体の完成者であり、日本独自に発達したとされる私小説の代表的作家である。明治・大正・昭和の時代に作家として生きた彼の小説表現を精密に追うことにより、文学という表象が近代において持ち得た力とその限界について考える。		
成績評価の方法	期末試験(40%)、毎時の取り組み(60%)により、総合的に評価する。		
テキスト	『ちくま日本文学 志賀直哉』(筑摩書房)、『和解』(新潮文庫)のほか、毎時間プリント配布。		
参考文献	下岡友加『志賀直哉の方法』(笠間書院)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本語表象論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	日本近代文学、作家論、作品論、テキスト論、文化研究、生成論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本近代文学研究の基礎的能力の習得を目標とする。国際文化学科の学科専門科目。		
授業の内容	日本の代表的な近現代文学作品を分析対象とし、読解する作業を重ねることで、研究を行うための基本的な手順と方法を身につける。各回につき1～2名の担当者が、作品の分析と考察、先行研究や資料の調査収集、レジメ作成などの準備の後、研究発表を行う。受講者全員があらかじめ作品を読んでおき、発表後に質問、意見、問題点の提出・討議を行う。		
成績評価の方法	研究発表(40%)、最終レポート(30%)、質疑応答など毎時の取り組み(30%)により、総合的に評価する。		
テキスト	文学史研究会編『近代の短編』(笠間書院)		
参考文献	授業のなかで適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	全員、次回に扱う作品を熟読し、質疑応答を活発に行うこと。発表担当者は十分に分析・調査し、プリント資料を人数分用意すること。		

授業科目名	日本語表象論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	日本近代文学、作家論、作品論、テキスト論、文化研究、生成論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「日本語表象論基礎演習」を受けて、日本近代文学を対象とした、さらに高度な研究能力の習得を目標とする。国際文化学科の学科専門科目。		
授業の内容	基礎演習で学んだことを踏まえて、日本近代文学研究の諸問題を解明する方法と能力を身につける。各回につき1～2名の担当者が、作品の分析と考察、先行研究や資料の調査収集、レジュメ作成などの準備の後、研究発表を行う。受講者全員があらかじめ作品を読んでおき、発表後に質問、意見、問題点の提出・討議を行う。先行研究と自己の見解を照らし合わせて、発展的自発的な研究が可能となるよう演習を重ねる。		
成績評価の方法	研究発表(40%)、課題レポート(30%)、 質疑応答など毎時の取り組み(30%)により、総合的に評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献	授業のなかで適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「日本語表象論基礎演習」を受講済みであることを前提として授業をすすめる。全員、次回に扱う作品を熟読し、質疑応答を活発に行うこと。発表担当者は十分に分析・調査し、プリント資料を十分に用意すること。		

授業科目名	日本語表象論特論		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式と演習形式を併用。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2, 3, 4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択、高一種免(国語)選択		
キーワード	日本近現代文学、日本語文学、台湾史、国家と民族と言語、ポストコロニアリズム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本語を必ずしも母語としない作家によって生み出された「日本語文学」の読解・分析を通じて、国家と言語・民族を一体化して捉える言語ナショナリズムを相対化する視点や思想を身につけることを目的とする。		
授業の内容	「日本＝日本人＝日本語＝日本文学」という従来 of 枠組みを脱構築し得る、作家の営為と作品の具体的様相を追究することにより、国家・民族・言語・文化の関係性を改めて問い直す視座を獲得する。また、日本語によって成立している言語芸術の様態を明らかにするため、日本近代文学の研究方法を活用して、個々の文学作品の主題やそれを成り立たせている構造、表現について、学生同士(グループ)で分析・考察・発表を行う。分析対象は台湾の日本語作家・黄霊芝の小説とする。		
成績評価の方法	グループ発表(45%)、質疑応答など毎時の取り組み(35%)、最終レポート及び討議(20%)により、総合的に評価する。		
テキスト	黄霊芝著・下岡友加編『戦後台湾の日本語文学 黄霊芝小説選』(溪水社) 黄霊芝著・下岡友加編『戦後台湾の日本語文学 黄霊芝小説選2』(溪水社)		
参考文献	授業のなかで適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	人間心理論		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。2～3回の講義につき、1章の講義を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(公民) 選択		
キーワード	認知心理学、記憶と忘却、日常記憶、認知の制御過程		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	認知心理学は心理学分野において主要なものの一つであり、その考え方は、教育活動、人間の発達、社会行動など、他の心理学分野においても有用である。本科目では、様々な認知心理学的研究からの知見が、日常生活や教育活動においてどのような意義をもつのか考える態度を形成し、人間の認知や学習に関する基本的な行動を理解することを目指す。		
授業の内容	日常生活における具体的な経験を取り上げ、人間の認知的な精神機能がそれらにおいてどのように関与しているかを明らかにする。また、それらをもとにして、人間の認知的な精神機能の特質について心理学的観点から考察し、人間の心理・行動を認知心理学的に理解するために必要な基礎を培う。認知心理学分野のテーマから、特に、記憶や忘却、顔や名前の記憶、自伝的記憶、目撃者証言、アクションスリップやメタ認知に関わる認知心理学的知見について概説する。そして、このような知見が、人間の日常行動の理解にどのように役立つのかをともに探る。		
成績評価の方法	試験50%、レポート50%(当日レポート10%、課題レポート40%)の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み不可、座席指定、学生証呈示、途中退室不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	森敏昭・井上毅・松井孝雄 著 「グラフィック認知心理学」 サイエンス社 1995		
参考文献	第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。全学共通教育科目の「心理学」を履修していることが望ましい。		

授業科目名	人間心理論基礎演習		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免(公民) 選択		
キーワード	質的調査、量的調査、心理統計、実験の論理、実験の方法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	心理学の研究において必要となる統計法の基礎を学ぶ。心理学の学術論文を読んで理解するとともに、自分が行う心理学の研究においてデータを適切に分析できることを目標とする。		
授業の内容	心理学においては、研究課題の実証的な検討が重要となる。そのためには実験計画の立案の仕方や調査の方法を学ぶことが不可欠となる。また、心理学の諸分野では使用される方法も異なっている。この授業では、心理学研究の基礎である測定、実験、調査方法の概要を説明し、様々な研究分野において、実際にどのように適用されているかを理解することを目的としている。具体的には、質的調査や量的調査、統計的検定、実験の論理と方法について概説する。そして、心理学における研究法の長所、短所などを理解することにより、実際に心理学の研究する際に適切な方法を用いることができるようになることを目指す。		
成績評価の方法	試験50%、レポート50%(当日レポート10%、課題レポート40%)の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み可、座席指定、学生証呈示、途中退室不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 編 「心理学研究法入門」 東京大学出版 2001		
参考文献	第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	人間心理論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	高一種免(公民) 選択		
キーワード	心理学研究、心理学実験、実験法、調査法、検査法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>認知心理学の知見を中心に、記憶・思考・言語・学習などについての研究論文の講読、レポートの作成、発表、およびディベートなどを行い、認知心理学の研究分野に関するより一層深い理解を目標とする。その際に、購読した論文の問題点や改善点、その他の文献から新しく得られた知見にもとづいた発展研究の案などを積極的に議論できる態度の育成を目指す。また、文献の熟読、まとめ、発表、ディベートを通し、様々な論文や文献に対して「クリティカル」に考える態度を確立し、実際の研究プロセスを体験することで、心理学研究の楽しさや難しさを理解することを目標とする。</p>		
授業の内容	<p>心理学関係の講義やこれまでの演習で得られた知識をもとに、関心を持った事柄について、簡単な心理学の研究を小グループで協力しながら実際に行う。まず、興味のある内容に関連した論文の講読、レジユメの作成、発表、およびディベートなどを行い、独自性豊かな研究テーマを開拓する。次に、研究の方法について詳細に議論し、エレガントな研究計画を立て、そして、その計画にもとづいて実際に調査や実験を行う。</p>		
成績評価の方法	発表20%、レポート80%(当日レポート4%×5回、実験・実習レポート60%)の割合で評価する。		
テキスト	松井豊 著 「心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くために」 河出書房 2010		
参考文献	第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	書道・書写																		
担当教員氏名(助手氏名)	日比野 貞勝 (非常勤講師)																		
研究室の場所																			
オフィスアワー																			
授業の形式・方式	実習を主とするが、講義を加える。評価は提出物(6課題)、試験、出席状況による。																		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択																
履修要件	国際文化学科 2年次対象																		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修																		
キーワード	文字、書体、書風、筆意、執筆法、用筆法、結構法、章法、時代性、風土性、公と私、拓本・法帖・書式、文房四宝																		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	書道・書写に関する基礎的な知識及び技法の理解・会得を主眼とする。また各教材に付随する史的背景の論述や名跡の鑑賞等から理解の深化を図る。教免の内容にも対応して展開する。																		
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1 ことばと文字と書</td> <td>2 書の特質、漢字と仮名</td> </tr> <tr> <td>3 書体・書風</td> <td>4 執筆法と用筆法と運筆法</td> </tr> <tr> <td>5 楷書的美と技法</td> <td>6 唐時代の楷書</td> </tr> <tr> <td>7 行書的美と技法</td> <td>8 草書的美と技法</td> </tr> <tr> <td>9 王羲之の行・草書</td> <td>10 仮名的美と技法</td> </tr> <tr> <td>11 古筆と料紙</td> <td>12 隷書的美と技法</td> </tr> <tr> <td>13 篆書的美と技法</td> <td>14 漢字仮名交じりの書法</td> </tr> <tr> <td>15 書写教育の課題と展望</td> <td></td> </tr> </table>			1 ことばと文字と書	2 書の特質、漢字と仮名	3 書体・書風	4 執筆法と用筆法と運筆法	5 楷書的美と技法	6 唐時代の楷書	7 行書的美と技法	8 草書的美と技法	9 王羲之の行・草書	10 仮名的美と技法	11 古筆と料紙	12 隷書的美と技法	13 篆書的美と技法	14 漢字仮名交じりの書法	15 書写教育の課題と展望	
1 ことばと文字と書	2 書の特質、漢字と仮名																		
3 書体・書風	4 執筆法と用筆法と運筆法																		
5 楷書的美と技法	6 唐時代の楷書																		
7 行書的美と技法	8 草書的美と技法																		
9 王羲之の行・草書	10 仮名的美と技法																		
11 古筆と料紙	12 隷書的美と技法																		
13 篆書的美と技法	14 漢字仮名交じりの書法																		
15 書写教育の課題と展望																			
成績評価の方法	提出物(課題作品及びそのレポート)・試験・出席状況																		
テキスト	書の古典と理論(全国大学書道学会編)光村図書																		
参考文献	書道全集(平凡社)、書道字典(角川書店)、五体字類(西東書房)																		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)																			

授業科目名	博物館概論		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、学芸員、資料、展示、学習支援、法規		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識と能力を養う。学芸員養成に関する諸科目の入門的な役割を果たす科目である。		
授業の内容	博物館とは何か、学芸員はそこでどのような役割を担うのかを包括的に学習する。現在の博物館をとりまく状況を理解するなかから、自らのめざす学芸員像を思い描いて欲しい。 授業の中で、2～3本のレポート課題を提示する。実際に博物館・美術館・資料館などを見学し、その成果をレポートにまとめること。		
成績評価の方法	レポートと期末試験によって評価する。レポートによって自らのめざす学芸員像がイメージできているか、期末試験によって基礎知識の習得度を評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	倉田公裕ほか『博物館学』東京堂出版、神奈川県博物館協会編『学芸員の仕事』岩田書院		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	博物館経営論		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象(平成24年度以降入学生)		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、使命、マネジメント、ステークホルダー、マーケティング、評価、倫理、リスクマネジメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	博物館概論の履修を前提に、博物館学芸員として実務を遂行していく上で不可欠な、博物館経営の理論と実務を習得する。とくに、博物館の使命を明確にすることが経営の基盤として重要であることを理解し、それを実現するための方法を、博物館をとりまく社会情勢との関係において具体的に考えていく。		
授業の内容	博物館をとりまく社会情勢が大きく変化するなかで、博物館の目ざす姿と現実との間にギャップが生じがちである。そうしたなか、博物館本来の使命を果たしていくために必要なのが、ミュージアム・マネジメントという考え方である。この授業では、博物館がどのような経営資源を有し、それをどのように活用していくことによって使命を達成すべきかを、博物館をとりまく社会とのコミュニケーションという視点から解説していく。また、博物館に関する新聞報道などを適宜取り上げながら、具体的・実践的な議論を深めていきたい。		
成績評価の方法	レポートによって、授業の理解度と、博物館経営に対する理論的・批判的な思考ができているかを評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	大堀哲『ミュージアム・マネジメント』東京堂出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「博物館概論」を履修していること。		

授業科目名	博物館学各論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象(平成24年度以降入学生)		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、使命、マネジメント、ステークホルダー、マーケティング、評価、倫理、リスクマネジメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	博物館概論の履修を前提に、博物館学芸員として実務を遂行していく上で不可欠な、博物館経営の理論と実務を習得する。とくに、博物館の使命を明確にすることが経営の基盤として重要であることを理解し、それを実現するための方法を、博物館をとりまく社会情勢との関係において具体的に考えていく。		
授業の内容	博物館をとりまく社会情勢が大きく変化するなかで、博物館の目ざす姿と現実との間にギャップが生じがちである。そうしたなか、博物館本来の使命を果たしていくために必要なのが、ミュージアム・マネジメントという考え方である。この授業では、博物館がどのような経営資源を有し、それをどのように活用していくことによって使命を達成すべきかを、博物館をとりまく社会とのコミュニケーションという視点から解説していく。また、博物館に関する新聞報道などを適宜取り上げながら、具体的・実践的な議論を深めていきたい。		
成績評価の方法	レポートによって、授業の理解度と、博物館経営に対する理論的・批判的な思考ができているかを評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	大堀哲『ミュージアム・マネジメント』東京堂出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「博物館概論」を履修していること。		

授業科目名	博物館資料論		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象(平成24年度以降入学生)		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修科目		
キーワード	博物館資料、資料収集・整理、古文書		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学芸員資格の取得に必要な必修科目である。博物館資料の収集・整理・保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得するとともに、博物館の調査・研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的な能力を養う。		
授業の内容	博物館資料とは何か、博物館法に定める「博物館資料」の意義と種類を確認した上で、資料の種類と分類に関する方法学ぶ。次に、博物館資料の収集理念と方法、受入の手続きや登録の実務に関する知識を習得するとともに、資料の分類・整理の方法に関する知識と技術を学ぶ。さらに博物館における調査研究活動の意義と内容について学び、調査研究活動の成果がその館の常設展示として表れることを理解させる。あわせて博物館資料としての古文書の基礎知識を得る。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「博物館概論」を履修していることが条件となる。		

授業科目名	博物館学各論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象 (平成23年度以前入学生)		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修科目		
キーワード	博物館資料、資料収集・整理、古文書		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学芸員資格の取得に必要な必修科目である。博物館資料の収集・整理・保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得するとともに、博物館の調査・研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的な能力を養う。		
授業の内容	博物館資料とは何か、博物館法に定める「博物館資料」の意義と種類を確認した上で、資料の種類と分類に関する方法学ぶ。次に、博物館資料の収集理念と方法、受入の手続きや登録の実務に関する知識を習得するとともに、資料の分類・整理の方法に関する知識と技術を学ぶ。さらに博物館における調査研究活動の意義と内容について学び、調査研究活動の成果がその館の常設展示として表れることを理解させる。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「博物館概論」を履修していることが条件となる。		

授業科目名	博物館資料保存論		
担当教員氏名(助手氏名)	大知徳子		
研究室の場所	宮島学センター (2219)		
オフィスアワー	宮島学センターに在室している時はいつでも可。メール等で事前に予約することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象 (平成24年度以降入学生)		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館, 資料, 保存		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	博物館法施行規則に定める「博物館資料論保存論」に対応する。 博物館における資料保存の理念を確認し, 資料の保存・展示環境について科学的にとらえる。また資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。		
授業の内容	博物館資料を保管, 保存し後世に伝えるために必要不可欠な知識を学ぶとともに, 資料活用に伴う保存と保管という視点から, 理想的な博物館資料の保存環境あるいは保存方法について学ぶ。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の中で古文書等の資料を取り扱う。		

授業科目名	博物館展示論		
担当教員氏名(助手氏名)	大知徳子		
研究室の場所	宮島学センター (2219)		
オフィスアワー	宮島学センターに在室する時はいつでも可。メール等で事前に予約することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業，展示体験ではグループでの作業をおこなう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象 (平成24年度以降入学生)		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館，展示		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	博物館法施行規則に定める「博物館展示論」に対応する。展示に関する歴史の変遷や展示による教育活動，展示の諸形態について理解し，博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。		
授業の内容	展示の基本理念と展示の歴史について紹介する。また，展示の実際については，広島県内の博物館施設で活躍する学芸員を招き，具体的な展示の方法，解説活動について学ぶ。		
成績評価の方法	授業への取り組み（展示の企画案，チラシ・ポスター案，キャプション等の作成）で評価する。期末試験は実施しない。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の中で実際に古文書等の資料を取り扱う。		

授業科目名	博物館教育論		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時対応する		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象 (平成24年度以降入学生)		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修科目		
キーワード	博物館教育、学芸員		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	博物館における教育活動の基盤となる理論と実践に関する知識と方法を修得し、博物館の教育機能に関する基礎的な能力を養う。		
授業の内容	博物館教育の意義と理念、博物館の利用と学び、博物館教育の実際に関する基礎的知識を修得するとともに、広島県内の博物館・資料館・美術館における博物館教育の実践例に学び、博物館教育に関する実践的な能力を養う。博物館・美術館・資料館での特別授業も実施する。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「博物館概論」「教育学概論」を履修していることが条件となる。		

授業科目名	博物館実習		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業と実習を交互に行う。実習には学内実習、県内の博物館等に赴いての見学実習、さらには博物館で実践的指導を受ける館務実習がある。		
単位数(時間数)	3単位 (90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 4年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館資料の取り扱い、収納、梱包、整理、資料化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本の博物館学芸員は、資料の収集・保存、調査・研究、展示の企画・運営、各種学習支援行事の企画・運営など、多様な業務に従事している。こうした業務の実際に触れ、また体験することによって、職業人としての実践的な意識、職業倫理などを涵養する。		
授業の内容	対面授業では、学芸員としての実践的な知識・技術・倫理などを説明する。実習では博物館資料の取り扱いや収納・梱包などを繰り返し訓練するとともに、資料カードの作成、写真撮影など、博物館資料の整理・活用方法を習得する。		
成績評価の方法	「博物館実習日誌」に実習内容をレポートとして記入すること。これをもとに、学芸員に必要な知識・技能が習得できているかを評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。資料を配付する。		
参考文献	日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい、その他授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	館務実習の受け入れ先を内定し、受入の詳細や手続方法等について問い合わせしておくこと。		

授業科目名	博物館情報メディア論		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【24年度以降入学生】国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館, 学芸員資格, 博物館情報・メディア, 情報発信, 知的財産, 個人情報保護, デジタル化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、博物館法に規定される学芸員資格取得に必要な「博物館法に関する科目」のうちの「博物館情報・メディア論」に該当する。博物館における情報の意義と活用方法および情報発信の課題について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。		
授業の内容	現代社会においてはコンピュータやネットワークが高度に発達し、それを支えるデジタル技術がモバイル端末などに象徴されるような身近なコミュニケーション・メディアとして活用されている。博物館においても研究、展示、教育を中心にメディアとしてのデジタル技術の利用が行われている。本講義では、文化、技術、経営等の視点から博物館における情報やメディア・コンテンツの活用について考察する。また、学んだ理論や知識を実践する力をつけるため、演習を通して情報収集・蓄積・発信の基礎的な方法を身につける。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。出席状況および期末試験70%、自習課題の実施状況30%の割合で評価する。期末試験は、指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート・教科書類持ち込み不可で実施する。自習課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	適宜、関係資料を配付する。		
参考文献	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版、2012 大堀哲・水嶋英治編著『博物館学Ⅲ』学文社、2012		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「博物館概論」を履修していることが条件となる。資格取得に係る必修科目なので、授業外での積極的な予習・復習に努めること。		

授業科目名	生涯学習メディア論		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【23年度以前入学生】国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館, 学芸員資格, 博物館情報・メディア, 情報発信, 知的財産, 個人情報保護, デジタル化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、博物館法に規定される学芸員資格取得に必要な「博物館法に関する科目」のうちの「博物館情報・メディア論」に該当する。博物館における情報の意義と活用方法および情報発信の課題について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。		
授業の内容	現代社会においてはコンピュータやネットワークが高度に発達し、それを支えるデジタル技術がモバイル端末などに象徴されるような身近なコミュニケーション・メディアとして活用されている。博物館においても研究、展示、教育を中心にメディアとしてのデジタル技術の利用が行われている。本講義では、文化、技術、経営等の視点から博物館における情報やメディア・コンテンツの活用について考察する。また、学んだ理論や知識を実践する力をつけるため、演習を通して情報収集・蓄積・発信の基礎的な方法を身につける。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。出席状況および期末試験70%、自習課題の実施状況30%の割合で評価する。期末試験は、指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート・教科書類持ち込み不可で実施する。自習課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	適宜、関係資料を配付する。		
参考文献	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版、2012 大堀哲・水嶋英治編著『博物館学Ⅲ』学文社、2012		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「博物館概論」を履修していることが条件となる。資格取得に係る必修科目なので、授業外での積極的な予習・復習に努めること。		

授業科目名	生涯学習概論		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 かおり (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	集中講義期間中		
授業の形式・方式	シラバス情報に従って予習を行うことを準備学習として求める。そうした予習にもとづき、質問や意見発表、プレゼンテーションを行うといった、授業に対する主体的な関わりを求める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館に関する科目、生涯学習、社会教育、学芸員		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本授業は、博物館法の第五条第一項第一号に規定される「博物館に関する科目」のうち の「生涯学習概論」に該当する。</p> <p>授業における到達目標は、次の2点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習社会に関する理解を深める。 2. 生涯学習社会を構築するにあたり、社会教育が抱える課題を把握できる。 		
授業の内容	<p>本授業では、まず、生涯学習を論じる上での諸前提について確認する。その上で、生涯 学習が必要とされる社会的背景を再帰的近代化、学力観の変容、「学習する組織」論の 3つの視点から探る。次いで、海外の生涯学習に関する理論と動向について、ユネスコ 、OECD、アメリカにおける理論とその動向を手がかりに理解する。また、日本における 生涯学習政策の展開について、国レベル、地方自治体レベルから理解を深める。さらに 、社会教育・生涯学習関連施設における学びについて、図書館、博物館、公民館および 生涯学習関連施設を取り上げて分析を行う。最後に、生涯学習社会の課題と可能性につ いて検討を加える。</p>		
成績評価の方法	成績評価の内訳は、シラバス情報に従って行った予習にもとづき、質問や意見発表、プ レゼンテーションといった形態で示される、授業に対する主体的な関わりに対する評 価を80%、最終的な課題として課すレポートによる評価を20%とする。		
テキスト	赤尾勝己『新しい生涯学習概論』ミネルヴァ書房、2012。		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	電子辞書を持参すること。		

授業科目名	国語科教育法 I		
担当教員氏名(助手氏名)	谷口 直隆 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	活動を取り入れた講義形式, グループ学習や討論などの演習形式を併用して行う。授業の課題やテーマに沿って個別に考察した後, グループで考察し, 学習を深めるという形態をとる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修, 高一種免(国語)必修		
キーワード	国語教育, 国語科教育, 教材分析, 教材研究, 授業作り		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業は, 中学校・高等学校の国語科の授業を担当するための基礎的な知識, 技能を習得するためのものである。国語科教育の目標や内容について理解し, 具体的な授業を行うための方法について考察する。また, 国語科授業の目標や内容, 方法, 評価について考察することを通して, 自身の教育観や教科指導観, 学習者観に気づいたり, 再構成したりすることも目標とする。		
授業の内容	講義を中心に, 国語科の授業の目標や内容について, 知識としての学習・理解を図る。また, 国語科の授業作り, 授業方法について, 演習形式を用いて受講者全員で考え, 受講者がそれぞれ自身の教育観や教科指導観, 学習者観を意識し, 他の受講者との交流の中で再構成していく。演習では, 実際の教科書教材を用いて, 国語科の授業について具体的に考察を行っていく。また, 「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」「言語事項」といった国語科の領域を横断的に学習し, 一時間の授業での領域のかかわりについて考察を行う。		
成績評価の方法	講義の中での課題や, 討論・話し合い場面での発言などの授業参加度を重視する。授業参加度, レポート, 試験を総合的に評価する。		
テキスト	文部科学省「中学校学習指導要領 解説 国語編」2008東洋館出版, 文部科学省「高等学校学習指導要領 解説 国語編」2010教育出版		
参考文献	その他, 関連文献の複写資料を授業で適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業内容の知識的な理解と, それに基づいて考察する姿勢を求める。		

授業科目名	国語科教育法Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	谷口 直隆 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義と演習形式で行う。授業のテーマに沿って講義を行った後、個別で課題に取り組んだり、グループで考察し、学習を深めるといった形態をとる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)必修, 高一種免(国語)選択		
キーワード	国語教育, 国語科教育, 教材分析, 教材研究, 授業作り		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業は, 中学校・高等学校の国語科の授業を担当するための実践的・専門的な知識, 技能を習得するためのものである。国語科教育の目標や内容に基づいて授業を構想・実践することのできる力を身につけることを目標とする。また, 具体的に授業を構想したり, 模範的に実践したりすることを通して, 自身の教育観や教科指導観, 学習者観を再構成することも目標とする。		
授業の内容	国語科の目標と内容に基づいて具体的な授業を構想し, 模範的な実践を行う。中学校・高等学校の国語科の科目, 領域において, それぞれの目標と内容がどのように授業として具体化されているのかを学び, 考察する。実際の教科書教材を用いて具体的な授業の方法について考察し, 複数の授業方法を身につける。また, 授業を構想した後, その授業の目標と内容, 評価方法などの観点から授業方法について再考し, 構想した授業を見直す姿勢を身につける。		
成績評価の方法	グループ学習や討論, 話し合い場面での発言などの授業参加度を重視する。授業参加度, レポート, 試験を総合的に評価する。		
テキスト	文部科学省「中学校学習指導要領 解説 国語編」2008東洋館出版, 文部科学省「高等学校学習指導要領 解説 国語編」2010教育出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業内容は, 受講者の既習知識, ニーズ, 興味・関心に合わせて適宜変更する。自身の教育観や教科指導観, 構想する授業を見つめなおす姿勢を求める。		

授業科目名	国語科教育法Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 恵子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習形式。前半は主に国語教育に必要な知識，考え方を中心に講義を行い，後半は具体的な作品に即して，教材研究，指導案の作成，板書等について実践的な演習を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択，高一種免(国語)選択		
キーワード	国語教育，国語学力，教材研究，指導案，板書，評価，学習指導要領		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	実践的な国語教育のための，知識，技能を学ぶ。指導要領をふまえた上で，実際の授業構築のために指導者に何が求められるかを理解し，そのためになすべき課題を明確にする。		
授業の内容	国語科教育の基本的な理念，概論をふまえ，中学校・高等学校の学習指導要領から，現在の学校現場における国語科授業のあり方について考える。中学校，高等学校における実際の授業を想定し，中学校国語，高等学校現代文，古典等，具体的な作品に即して，教材研究，教材分析を行い，指導案，板書を作成する。同時に，子どもたちの現在を鑑みて，国語科における今の課題を意識した新しい授業のあり方についても考察する。		
成績評価の方法	授業実践，レポート，出席状況等により，総合的に評価する。		
テキスト	中学校・高等学校学習指導要領，中学校・高等学校教科書教材等を教材プリントとして配付		
参考文献	中学校学習指導要領解説国語偏，高等学校学習指導要領解説，国語偏，「国語科授業研究講座」第1巻～第10巻 他		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	教室で実際に授業ができるだけの授業力，授業評価力を修得すべく受講してほしい。		

授業科目名	国語科教育法Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 恵子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習形式にて行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(国語)選択, 高一種免(国語)選択		
キーワード	国語教育, 国語学力, 教材研究, 指導案, 板書, 評価, 教育資料, 模擬授業		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	国語科教育法Ⅲに続く科目であり, より実践的な国語教育のための, 知識, 技能を实践及び観察を通じて学ぶ。指導要領をふまえた上で, 実際の授業構築のために指導者に何が求められるかを理解し, そのためになすべき課題を明確にする。		
授業の内容	学習指導案を作成し, それに基づいた模擬授業を実践したり, あるいは, 教育現場や研究会に赴き, 実際の授業や最新の授業法に接する機会を設ける。そうした実践や観察を通じて, 授業現場において確実かつ適切に授業を構築し実践することが出来るよう, 授業展開や授業内容のあり方についての学びを展開する。また, 授業内容の深化を図ることが出来るよう, 授業改善の方法の体験的な修得をめざす。		
成績評価の方法	授業実践, レポート, 出席状況等により, 総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じてプリントし配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教室で実際に授業ができるだけの授業力, 授業評価力を修得すべく受講してほしい。		

授業科目名	社会科・地理歴史科教育法 I		
担当教員氏名(助手氏名)	永田 忠道 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	<p>対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。1回の講義につき各章の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週何らあの課題を課し、次週の授業開始時にメモもしくは口頭報告をさせる。学生は、授業に出席し、課題メモもしくは口頭発表の内容を作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。</p>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)必修, 高一種免(地歴)必修		
キーワード	社会科, 地理歴史科, 社会認識教育, 市民性教育, 地理, 世界史, 日本史, 内容構成, 授業構成		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この科目では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の教科論・歴史・目標・内容構成・授業構成を概観することを通して、その現状と問題点、そして様々な改善策について考える。その際、伝統的な地理授業や歴史授業の問題点である閉ざされた社会認識の問題点を考察し、社会科授業を開かれた社会認識の形成を目指すものとするにはどのような方策が必要なのかを追究する。</p>		
授業の内容	<p>中学校社会科及び高等学校地理歴史科の教科論・歴史・目標論・内容構成論・授業構成論について考える。地理の内容構成と授業構成について考える。世界史の内容構成と授業構成について考える。日本史の内容構成と授業構成について考える。中学校社会科及び高等学校地理歴史科の評価論について考える。中学校社会科及び高等学校地理歴史科のあり方についての整理を行う。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験70%, 課題30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。課題は毎回の授業の最後に提示する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。期末試験では、主に課題の中から問題を作成し試問する。</p>		
テキスト	<p>社会認識教育学会編『地理歴史科教育』学術図書出版社, 2010年。 社会認識教育学会編『中学校社会科教育』学術図書出版社, 2010年。</p>		
参考文献	<p>文部省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』教育出版, 2010年。 文部省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版, 2008年。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>履修予定者は、教科書の第1章を通読し、1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。課題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	社会科・公民科教育法 I		
担当教員氏名(助手氏名)	胤森 裕暢 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	集中講義。対面授業。授業日程に従い、下記教科書を基に、講義だけでなく、学習指導案の改善や、それをもとにした模擬授業と協議も行う。学生は、授業に出席し、宿題となる改善学習指導案の提出をすること。また最終回の小テストを受けること。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)必修, 高一種免(公民)必修		
キーワード	公民的資質, 社会認識, 公民教育, 現代社会の諸問題, 教材研究, 学習指導案の作成・改善, 模擬授業と協議, 授業づくり		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本授業は、教科に関する指導法の授業です。講義内容を理解することで、中学校社会科(特に公民的分野)及び高等学校公民科の教員免許状を取得するために必要な専門的知識を身に付けます。また、その知識を用いた模擬授業と学習指導案の改善を通して社会科・公民科授業を構成する基本的な能力を養っていきます。		
授業の内容	社会科(特に公民的分野)と公民科の基準となっている学習指導要領の内容について学習します。また社会科(公民的分野)と公民科の目標、学力、評価について学習します。 さらに今日の社会科・公民科授業に求められていることについて学習します。 これらの学習をふまえて、社会科・公民科の授業づくりの基本的視点や方法の理解、学習指導案作成、模擬授業、学習指導案改善を行っていきます。		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業は学習指導案に基づいて行っているかどうか、基本的な学習指導を行っているかどうかを評価します。(20%) ・模擬授業を踏まえて改善した学習指導案は、基本的事項等を適切に記述しているかどうかを評価します。(30%) ・最終回に行う小テストは、授業で学習してきた用語等を適切に用いて論述しているかどうかを評価します。(20%) ・なお各回の授業では、積極的な参加(ワークシートや付箋などへの記入に基づいた発表内容や出席カードへの記述)であるかどうかを評価します。(30%) 		
テキスト	・ 棚橋健治編著『中等社会系教育』、協同出版、2014年。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編 平成20年9月』、日本文教出版、2008年。 ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編 平成22年6月』、教育出版、2010年。 ・ 社会認識教育学会編『中学校社会科教育』、学術図書出版社、2010年。 ・ 社会認識教育学会編『公民科教育』、学術図書出版社、2010年。 		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	参考文献で示した2つの学習指導要領解説は、いずれも文部科学省ホームページからダウンロードして持っておくとよいです。なお本講義は、社会科・公民科教員の免許を得るための講義です。教師としてのマナーに留意してください。		

授業科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	湯浅 清治 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を主に演習も加えて実施する。3～4回の講義を受けた後、レポート・学習指導案を作成するとともに、それに沿った模擬授業・発表を担当する。学生は、授業に出席し、他者の模擬授業や発表を聴講して所定の用紙を用いて受講記録をレポートし提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択, 高一種免(地歴)選択		
キーワード	地理教育、歴史教育、学習指導要領、教育実習、学習指導案・ワークシート作成、模擬授業、課題設定・課題解決学習、ESD(持続可能な発展のための教育)、地図教育、作図と読図、地域調査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、教職をめざす学生を対象にして、中等教育の現場で求められる学習内容やその展開方法である学習指導案作成手順等の講義を経て学生による模擬授業を実習する。本科目の目標は、履修学生に教育実習をはじめとする教職関連に有効な能力を育てることである。予め「社会・地理歴史科教育法Ⅰ」を受講して身につけた理論を援用する科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	最初に、社会・地理・歴史及び公民のいずれの分野・科目においても基礎となる地図の理解・活用を図る。地図を活用する目的で地域調査の実施案を作成させ、可能な範囲でレポートさせる。次に、学習内容の考察に移る。学習指導要領に沿った教育課程を再確認したうえで、自らの課題設定をもとに学習指導案作成を指導する。並行して、まとまった学習指導案の学生から順に模擬授業を実施する。この展開の中で、聴講する学生は他者の学習内容・学習指導案を分析し、長所・短所を討議する能力を身に付ける。		
成績評価の方法	地域調査のレポート20%、学習指導案作成及び模擬授業後のレポート50%、他者の分析・評価記録30%の割合で評価する。なお、レポートなど提出物は所定の項目等を記した用紙を配布し、記入・提出させる。期末試験は実施しない。		
テキスト	必要に応じて、自作のプリントを配布し使用する。		
参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領』2008年 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』2008年 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「社会科・地理歴史科教育法Ⅰ」を履修していることが望ましい。 そのほかは、必要に応じて伝達する。		

授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	高田 悟 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面方式。最初は講義形式を中心に行う。その後、学生の指導案作成、模擬授業では発表形式に切り替え、さらに互いの授業分析では討議形式にする。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科, 経営学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(社会)選択, 高一種免(公民)選択		
キーワード	社会科教育, 公民科教育, 地歴教育, 系統学習, 問題解決学習, 基本的人権, 憲法, 議院内閣制, 大統領制, 資本主義, 社会主義市場経済, 大きな政府, 小さな政府, 主権, 国家の3要素, 温暖化問題, 京都議定書, COP21, 持続可能な開発, テロ, 徳, 愛, 正義, 生命倫理, 環境倫理, 科学技術社会論, 科学哲学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	中学校社会科や高等学校公民科の教職を目指す学生を対象にする。中等教育の現場で求められる学習内容やその授業展開のための方法についての基本的考え方や技能を学び身に付け、将来教職に就いた時の基礎となることを最終目標とし、さしあたっては教育実習現場で授業開発をする能力を育成することを目標とする。「社会科・公民科教育法Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
授業の内容	先ず、社会科・公民科の教科としての特徴、授業作りの特徴を、他教科と比較しつつ、具体的な事例を提示して理解させる。次に学習指導要領と授業理論がどう関連するかを確認させる。また社会科・公民科の授業作りの上でおおよそ知っておくべき社会科学や人文科学の理論を紹介する。そのうえで学習指導案の作成についての考え方を学ばせ、最後に学生自ら指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を行うとともに学生相互で検証をする。		
成績評価の方法	模擬授業のための指導案作成ならびに模擬授業(70%)、他者の授業の分析・記録(30%)。		
テキスト	必要に応じて、資料その他のプリントを配布する。		
参考文献	社会科, 公民科の教科書, 出版社は問わない。 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語科教育法 I		
担当教員氏名(助手氏名)	波多野 五三 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義形式の対面授業。以下の教科書を参考にして、我が国の英語教育に係わる諸問題に関して詳述する。毎授業に出席し、講義内容を記録するとともに、各種課題についての準備を怠らないこと。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象。TOEIC 550点以上の取得者の履修が望ましい。		
免許等指定科目	中一種免(英語)必修, 高一種免(英語)必修		
キーワード	英語教育, 英語教員, 英語教授法, 英語コミュニケーション能力, 学習指導要領		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	我が国における英語教育の実践に関する知見を深化・拡充させることを主なねらいとする。特に、中学校及び高等学校の学習指導要領(外国語科)に示された、外国語教育の目標, 言語活動, 言語の働きと言語の使用場面, 言語材料, 題材などについて詳述する。本科目は、教職に関する専門科目の中の「各教科の指導法」に属する。		
授業の内容	以下のテーマごとに講義あるいは演習を行う。 1 オリエンテーション 2 英語教育学の対象領域 3 英語教員に求められる資質能力 4 学習指導要領の変遷 5 学習指導要領(目標) 6 学習指導要領(言語活動) 7 学習指導要領(言語の働きと言語の使用場面) 8 学習指導要領(題材) 9 学習指導要領(言語材料-音声, 文字・符号) 10 学習指導要領(語・連語・慣用表現) 11 学習指導要領(文法事項) 12 学習指導要領(文法事項) 13 学習指導要領(文法事項) 14 学習指導要領(文法事項) 15 総括		
成績評価の方法	提出物45%, 期末試験45%, 取組姿勢10%の割合で評価する。期末試験は、指定された期日に教室内で実施する。解答時間は60分。持ち込み不可。講義内容に基づいて出題する。		
テキスト	テキスト(プリント使用): 『高等学校学習指導要領(外国語編・英語編)』(文部科学省, 教育出版)		
参考文献	『新編英語科教育法入門』(土屋澄男編著, 東京: 研究社, 2011) The Practice of English Language Teaching. (Harmer, J. Longman)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教職を目指す学生の履修を望む。真摯な態度で授業に臨み決して授業を欠席しないこと。		

授業科目名	英語科教育法Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	波多野 五三 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義及び演習形式の対面授業。以下の教科書を参考にして、我が国の英語教育に係わる諸問題に関して詳述する。毎授業に出席し、講義内容を記録するとともに、各種課題についての準備を怠らないこと。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象。TOEIC 550点以上の取得者の履修が望ましい。		
免許等指定科目	中一種免(英語)必修, 高一種免(英語)選択		
キーワード	英語教育, 英語教員, 英語教授法, 英語コミュニケーション能力, 学習指導要領		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語教育における授業実践についての知見を深化・拡充させるとともに、英語の授業過程を体系的かつ体験的に把握できるよう指導する。特に、文部科学省検定済の英語教科書を用いて、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを行う。本科目は、教職に関する専門科目の中の「各教科の指導法」に属する。		
授業の内容	以下のテーマごとに講義あるいは演習を行う。 1 外国語教授法の歴史 2 外国語教授法 (Direct Method) 3 外国語教授法 (Audiolingual Method) 4 外国語教授法 (Audiolingual Method) 5 外国語教授法 (Communicative Approach) 6 外国語教授法 (Communicative Approach) 7 授業構成要素 (教授法と教材の連関) 8 学習指導案 9 学習指導案 10 教材研究 (中学校) 11 教材研究 (高等学校) 12 模擬授業 13 模擬授業 14 授業評価 15 総括		
成績評価の方法	提出物40%, 定期試験40%, 授業内貢献度10%, 取組姿勢10%の割合で評価する。期末試験は、指定された期日に教室内で実施する。解答時間は60分。持ち込み 不可。講義内容に基づいて出題する。		
テキスト	テキスト(プリント使用) : 『高等学校学習指導要領(外国語編・英語編)』 (文部科学省, 教育出版)		
参考文献	『新編英語科教育法入門』(土屋澄男編著, 東京: 研究社, 2011) The Practice of English Language Teaching. (Harmer, J. Longman)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教職を目指す学生の履修を望む。真摯な態度で授業に臨み決して授業を欠席しないこと。2年次後期に「英語科教育法Ⅰ」を必ず履修したのちに本科目を履修すること。		

授業科目名	英語科教育法Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 大基 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義形式を基本として進めつつ、適宜、授業づくりに関する実務能力を高めるために演習を行います。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択, 高一種免(英語)選択		
キーワード	英語授業, 授業づくり, 教育実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教育実習に向けて授業力を向上させるために、実際に中学校・高等学校で使用されている教材を題材として取り上げ、教材研究・授業の目標設定・教材作成・測定評価といった英語授業づくりの各局面における実務について、講義による理論的理解と演習による実践力の向上を図ります。また、英語教員として備えておくべき教科内容の知識についても整理と拡充を図ります。		
授業の内容	以下のテーマで講義・演習・討議を行います。 1. 教材研究 2. 目標設定 3. 教材作成 4. 授業構成 5. 単元構成 6. 測定・評価 また、マイクロ・ティーチングや模擬授業を実施します。		
成績評価の方法	授業への参加度(約30%), 授業で指示する課題(約40%), 演習の達成度(約30%)を総合的に判断して評価します。		
テキスト	『中学校学習指導要領解説 外国語編』, 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 その他, 授業で配布する教材類		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・北尾倫彦(監修) 山森光陽・鈴木秀幸・松浦伸和(編集), 2011. 『観点別学習状況の評価基準と判定基準 中学校外国語平成24年度版』. 図書文化. ・萩野俊哉. 2008. 『英文法指導Q&A こんなふうに教えてみよう』. 大修館書店. ・Bland, Susan Kesner. 1996. Intermediate Grammar: From Form to Meaning and Use. Oxford University Press. 		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語科教育法Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 大基 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習および討議を主体とします。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(英語)選択, 高一種免(英語)選択		
キーワード	英語授業, 授業づくり, 教育実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語科教育法Ⅲにおける理論的理解と基礎的知識・技能を前提として, 演習を通じて英語授業づくりの実践力を高めます。英語授業を作る際の局面ごとの演習を積み重ね, 最終的には独力で1つの授業を作り上げる力を付けることを目標とします。		
授業の内容	以下のテーマで演習・討議を行います。 1. 語彙の指導のための教材研究 2. 聞くことの指導のための教材研究 3. 話すことの指導のための教材研究 4. 読むことの指導のための教材研究 5. 書くことの指導のための教材研究 6. 教材研究に基づく1時間の授業構成 また, マイクロ・ティーチングや模擬授業を実施します。		
成績評価の方法	授業への参加度(約30%), 授業で指示する課題(約30%), 演習の達成度(約40%)を総合的に判断して評価します。		
テキスト	『中学校学習指導要領解説 外国語編』, 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』その他, 授業で配布する教材類		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・北尾倫彦(監修) 山森光陽・鈴木秀幸・松浦伸和(編集), 2011. 『観点別学習状況の評価基準と判定基準 中学校外国語平成24年度版』. 図書文化. ・萩野俊哉. 2008. 『英文法指導Q&A こんなふうに教えてみよう』. 大修館書店. ・Bland, Susan Kesner. 1996. Intermediate Grammar: From Form to Meaning and Use. Oxford University Press. 		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	大学基礎セミナー		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦朗, 江島洋介, 辻文, 山縣誉志江		
研究室の場所	1515・1526・1541・1350		
オフィスアワー	本カタログにおいて各教員が記載している担当授業科目の該当項目を参照のこと		
授業の形式・方式	対面授業と演習形式を併用する。授業日程に従って実施する。学生は、毎回のミニレポートと各教員の課題に対するレポートの提出を義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	大学生活, 学習方法, ノートテイキング, ライティング, プレゼンテーション, 情報収集, 健康科学科での学び		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	大学生活を始める新入生を対象とする科目で、主体的・効率的な学習のために必要な基本的知識とスキルを身につけることができる。また、健康科学科で何が学べるかを具体的に知ることができ、多様な視点から健康についての課題を発見し、解決していく態度を養うことができる。本科目は、全学共通教育科目に位置づいており、大学固有の学習環境に適応するための必修科目である。		
授業の内容	大学生活での基礎知識（メンタルヘルスを含む）、大学生としての学習方法の習得、キャリアビジョン、健康科学科の特色等の理解をもとにして、主体的・効率的に学ぶ能力を培う。クラス全体での講義と少人数グループでの演習・討論を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館及びインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、実践的な指導を行う。授業の分担者として、健康科学科の教員の他に、キャリアセンターと学生相談室の担当者が加わる予定である。		
成績評価の方法	授業への参加状況（出席状況及び討論や発表）、ミニレポート・課題レポートの提出状況に基づき、総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて、適宜、担当教員が指示する。		
参考文献	適宜、担当教員が紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	フレッシュマンセミナー		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦朗, 江島洋介, 辻文, 山縣誉志江		
研究室の場所	1515・1526・1541・1350		
オフィスアワー	本カタログにおいて各教員が記載している担当授業科目の該当項目を参照のこと		
授業の形式・方式	対面授業と演習形式を併用する。授業日程に従って実施する。学生は、毎回のミニレポートと各教員の課題に対するレポートの提出を義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	大学生活, 学習方法, ノートテイキング, ライティング, プレゼンテーション, 情報収集, 健康科学科での学び		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	大学生活を始める新入生を対象とする科目で、主体的・効率的な学習のために必要な基本的知識とスキルを身につけることができる。また、健康科学科で何が学べるかを具体的に知ることができる。多様な視点から健康についての課題を発見し、解決していく態度を養うことができる。本科目は、全学共通教育科目に位置づいており、大学固有の学習環境に適応するための必修科目である。		
授業の内容	大学生活での基礎知識（メンタルヘルスを含む）、大学生としての学習方法の習得、キャリアビジョン、健康科学科の特色等の理解をもとにして、主体的・効率的に学ぶ能力を培う。クラス全体での講義と少人数グループでの演習・討論を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館及びインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、実践的な指導を行う。授業の分担者として、健康科学科の教員の他に、キャリアセンターと学生相談室の担当者が加わる予定である。		
成績評価の方法	授業への参加状況（出席状況及び討論や発表）、ミニレポート・課題レポートの提出状況に基づき、総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて、適宜、担当教員が指示する。		
参考文献	適宜、担当教員が紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	1 8 2 2		
オフィスアワー	研究室のドアに貼っておく。		
授業の形式・方式	対面・演習方式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語の読解力、語彙、大学生に必要な教養		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができる。		
授業の内容	<p>さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。</p> <p>本年度はFundamentals: Cultural Literacy for Students を読み、英語の読解力を養うと同時に大学生に必要な教養を身につける。特に、日本語と英語の構造的な違いに注目することによって、英語の読み方の基礎を身につけることとする。</p>		
成績評価の方法	期末試験を基礎とし、授業中の発表・態度を参考にする。		
テキスト	Fundamentals: Cultural Literacy for Students (音羽書房鶴見書店)		
参考文献	授業中に適宜配布する。		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	アットランダムに当てるので必ず予習しておくこと。		

授業科目名	Comprehensive Reading I (英文講読 I)		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	1 8 2 2		
オフィスアワー	研究室のドアに貼っておく。		
授業の形式・方式	対面・演習方式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語の読解力、語彙、大学生に必要な教養		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができる。		
授業の内容	<p>さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。</p> <p>本年度はFundamentals: Cultural Literacy for Students を読み、英語の読解力を養うと同時に大学生に必要な教養を身につける。特に、日本語と英語の構造的な違いに注目することによって、英語の読み方の基礎を身につけることとする。</p>		
成績評価の方法	期末試験を基礎とし、授業中の発表・態度を参考にする。		
テキスト	Fundamentals: Cultural Literacy for Students (音羽書房鶴見書店)		
参考文献	授業中に適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	アットランダムに当てるので必ず予習しておくこと。		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 朝子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	短編小説のコンプリヘンション, 読解ストラテジー, 文体		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し, 多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して, 文化や社会問題等についての理解を深める。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力, 英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態度、等により総合評価する。		
テキスト	E. Hemingway, L. Hearn, K. Mansfield, J. Steinbeck他著 安永義夫編注 "Breakfast and Other Stories" 金星堂, 2013		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和辞典を持って授業に臨んでください。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。		

授業科目名	Comprehensive Reading II (英文講読II)		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 朝子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	短編小説のコンプリヘンション, 読解ストラテジー, 文体		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	語彙力・文法力を駆使し, 多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して, 文化や社会問題等についての理解を深める。		
授業の内容	文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。		
成績評価の方法	語彙や文法などの英語力, 英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価する。		
テキスト	E. Hemingway, L. Hearn, K. Mansfield, J. Steinbeck他著 安永義夫編注 "Breakfast and Other Stories" 金星堂, 2013		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	英和辞典を持って授業に臨んでください。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。		

授業科目名	英語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	1816		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示		
授業の形式・方式	演習を中心とした対面形式の授業。 マルチメディアラボ（2352）での演習も行う。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必須
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	critical reading, presentation		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることを目指す。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、2年生の必修科目である。		
授業の内容	リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。		
成績評価の方法	評価基準は、読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態等である。 毎回の授業に対する取り組み状況（授業外の課題を含む）30%、期末試験70%の割合で評価する。 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。		
テキスト	Yasuko Onjohji et al. Quality of life: Making Smart Healthy Choices. 授業の際に教室で販売します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、必ず英語の辞書を持参してください。 毎日、マルチメディアラボで英語に触れる時間を作ってください。 最初の授業はマルチメディアラボ（2352）で行います。		

授業科目名	Extensive Reading (上級英文読解)		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	1816		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示		
授業の形式・方式	演習を中心とした対面形式の授業。 マルチメディアラボ (2352) での演習も行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必須
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	パラグラフ・リーディング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、「英文購読Ⅰ」「英文購読Ⅱ」で獲得した技能の発展を目標とする。 英文を読み、重要な情報を早く正確に把握する能力の向上を目指す。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。		
授業の内容	パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握しながら、内容についての理解と考察を深め、自分の考えを表現する。		
成績評価の方法	授業の成績評価は、毎回の授業に対する取り組み状況(授業外の課題を含む)30%、期末試験70%の割合で行う。 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に行う。		
テキスト	Yasuko Onjohji et al. Quality of life: Making Smart Healthy Choices. 授業の際に教室で販売します。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎時間、必ず英語の辞書を持参してください。 毎日、マルチメディアラボで英語に触れる時間を作ってください。 最初の授業は、マルチメディアラボ(2352)で行います。		

授業科目名	英語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	福元 広二 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	テキストを用いて毎回1つのUnitを演習形式で進める。またグループ活動を行うこともある。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	経営学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リーディング、リスニング、時事英語		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学術的な英文を読んで理解できる力を習得できる。大学生として必要なアカデミックリーディングを中心とした言語能力を養うことができる。		
授業の内容	学部に応じた内容とレベルの教材を扱い、基本的な専門用語や表現を含めた読解演習を行う。		
成績評価の方法	活動における目標設定、書かれた文章の理解、およびそれに対する認識力、発信力等で総合的に評価する。		
テキスト	初回の授業で指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現 I		
担当教員氏名(助手氏名)	ケイヴォーン・ディビッド・カゼミ (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice.		
授業の内容	The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.		
テキスト	Interchange 1 (Fourth edition, Cambridge University Press) by Jack C. Richards		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	Introductory Conversation (初級英会話)		
担当教員氏名(助手氏名)	ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice.		
授業の内容	The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.		
テキスト	Interchange 1 (Fourth edition, Cambridge University Press) by Jack C. Richards		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects.		
授業の内容	Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.		
テキスト	Topic Talk Issues, 2nd edition by Kirsty Mclean. Published by EFL Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	Intermediate Conversation (中級英会話)		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects.		
授業の内容	Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.		
テキスト	Topic Talk Issues, 2nd edition by Kirsty Mclean. Published by EFL Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語表現Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	Students can contact me after class or by email.		
授業の形式・方式	Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	English Expression - writing and speaking		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.		
テキスト	No textbook. Materials provided by the instructor.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Come to class prepared to be ACTIVELY involved.		

授業科目名	Communicative Writing I (実用英作文 I)		
担当教員氏名(助手氏名)	マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー	Students can contact me after class or by email.		
授業の形式・方式	Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	English Expression - writing and speaking		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.		
授業の内容	Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.		
テキスト	No textbook. Materials provided by the instructor.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Come to class prepared to be ACTIVELY involved.		

授業科目名	英語表現IV		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.		
授業の内容	Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.		
テキスト	Writing from Within 2, 2nd edition by Curtis Kelly & Arlen Garagliano. Published by Cambridge University Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	Communicative Writing II (実用英作文 II)		
担当教員氏名(助手氏名)	デイビッド・リー (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.		
授業の内容	Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.		
成績評価の方法	Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.		
テキスト	Writing from Within 2, 2nd edition by Curtis Kelly & Arlen Garagliano. Published by Cambridge University Press.		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	中国語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	津坂 貢政 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるように進める。受講学生は、授業に主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎初歩、ローマ字による発音表記(?音 [ピンイン]) と漢字(簡体字)表記、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、健康科学科共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。これまでほとんど中国語を学習していない学生を対象として、言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置く。		
授業の内容	中国語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて、発音の習得から始める。それに続いて、発音表記や漢字表記の特徴を踏まえながら、単語の読みと意味と漢字表記とがそれぞれ結びつくように練習する。さらに簡単な会話文によって、楽しみながら語彙・文法の基礎知識の習得ができるよう目指す。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に習得できるよう、練習を繰り返し、日常的なあいさつや自己紹介程度の会話ができるようにする。		
成績評価の方法	出席状況、中間テスト、期末試験などを総合的に判断して評価する。小テスト、期末試験等70%、毎回の授業における発表30%を目安とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書など「持ち込み不可」で実施する。		
テキスト	郭春貴・郭久美子『やさしく楽しい 400語で学ぶ中国語入門—発音中心—』白帝社、2011年。		
参考文献	基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	中国語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	津坂 貢政 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるように進める。受講学生は、授業に主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語の基礎、簡単な日常会話、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、健康科学科共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象として、簡単な日常会話、自己紹介ができるよう、実用に堪える言語能力の習得を目標とする。		
授業の内容	中国語の基本的な語彙・文法の知識の習得を目指す。簡単な会話文を用いて、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に習得できるよう、楽しみながら練習を繰り返す。各課の基礎的な文法知識を習得したのち、様々な会話の場面を想定しながら表現の多様性を研鑽する。加えて聞き取りや・発表・練習問題を繰り返しこなしてゆくことを通じて、簡単な日常会話や自己紹介ができるよう、実用に堪える言語習得を目標に学習する。それと同時に、中国語の発想を考えつつ、中国文化に関する色々な知識を理解し、実践の場でのよりスムーズなコミュニケーションを取るための方法を身につける。		
成績評価の方法	出席状況、中間テスト、期末試験などを総合的に判断して評価する。小テスト、期末試験等70%、毎回の授業における発表30%を目安とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書など「持ち込み不可」で実施する。		
テキスト	郭春貴・郭久美子『やさしく楽しい 400語で学ぶ中国語入門—発音中心—』白帝社、2011年。		
参考文献	基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「中国語Ⅰ」に続けて履修することが望ましい。「中国語Ⅰ」が単位未習得の場合は履修できない。		

授業科目名	情報リテラシー		
担当教員氏名(助手氏名)	船津誠也		
研究室の場所	なし		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	健康科学科 1年		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力 		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>4回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。</p> <p>http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</p>		

授業科目名	情報処理入門		
担当教員氏名(助手氏名)	船津誠也		
研究室の場所	なし		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	健康科学科 1年		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力 		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>4回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。</p> <p>http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</p>		

授業科目名	情報リテラシー演習		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 誠也		
研究室の場所	なし		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	<p>対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。</p>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力</p>		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>4回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</p>		

授業科目名	生命科学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 保		
研究室の場所	広島キャンパス教育研究棟1 1523研究室		
オフィスアワー	木曜日3・4時限目。(これ以外でも可能な範囲で対応しますが、メールで要予約) 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、下記の教科書の各章に関する講義形式及び学生による課題発表形式を併用して実施。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。各時間のテーマに関連し、自ら課題を発見・設定し事前に調べておくこと。事前に調べたことの発表とレポートとしての提出を課す。また、少人数のグループで課題について調べ、発表する形式も併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	生体物質の構造と機能、細胞の構造とその動態、生物の種と個体群、遺伝子の形・働き・制御・解析、ゲノム情報とその応用、再生医学、生命倫理、環境ホルモン、感染症との闘い		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生命科学(生物学)に関する専門的知識をほとんど有していない初年次に、生命とは何か、遺伝子と生命の連続性、生命科学の新展開、社会における生命科学の課題について理解することを当面の目標とする。本科目の目標は、分子や細胞といったミクロの現象の基礎的内容を理解できるようになること、さらには暮らしの中の生命科学の話題を理解し評価できるような常識と教養を身につけることである。 本科目は、健康科学科の学科専門科目に区分されている。また、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の基礎的な科目の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	生命や生物にみられる規則性や法則性に注目して、基礎科学に関する理解の促進を図る。初めに、分子や細胞レベルでのミクロの事象(生体物質の構造や機能・代謝、細胞の構造や機能)を中心に据えて、生命とは何かを論述する。次に、遺伝子の形・働き・制御、細胞増殖や生殖に関する項目を取り上げ、遺伝子と生命の連続性を学ぶ。また、ゲノム情報の医学への応用、再生医学の現状と将来、植物バイオテクノロジー、生体における安全性、先端医療技術と生命倫理など、暮らしや社会における生命科学の話題を提示し、私たちが直面している課題を理解し評価できる教養の習得を目指す。		
成績評価の方法	期末試験40%、課題レポート(宿題)30%、課題発表30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートは毎回の授業の最後に提出させる。記載分量については、授業の中で指定する。		
テキスト	柳田充弘・佐藤文彦・石川冬木 著 『生命科学』東京化学同人、第1版、2004。		
参考文献	授業開始時に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書の第1章を精読し、1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	基礎科学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本・山縣・北台・岡田・江島・馬淵・藤田		
研究室の場所	広島キャンパス 1516・1668・1350・1536・1526・1432・1542研究室		
オフィスアワー	本カタログに各教員が記載している内容（オフィスアワー）に従うこと		
授業の形式・方式	実験・実習の基礎知識と手技の習熟を目指し、主に、実験実習室を使用して行う実践的授業。学科教員複数名によるオムニバス授業。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	実験・実習の基礎知識, 実験・実習の基礎的手技, 実践授業		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科に開講されている多数の実験・実習科目を円滑に履修する上で必要となる基礎的な知識や基礎的な実験手技の習熟することを目的している。 実験器具の使い方・取り扱い方および分析機器の使い方・取り扱い方がわかり、実践することができる。		
授業の内容	1. 谷本－「実験器具の使い方, 取り扱い方, その1」; 2. 山縣－「実験器具の洗浄, 蒸留水の取り扱い方, その基本」; 3. 北台－「顕微鏡の使い方, その基本」; 4. 岡田－「溶液の作り方・その希釈, バッファー溶液の作り方」; 5. 江島－「実験器具の使い方, 取り扱い方, その2」; 6. 藤田・馬淵－「分析機器の使い方, 取り扱い方, その1」; 7. 藤田・馬淵－「分析機器の使い方, 取り扱い方, その2」		
成績評価の方法	出席・授業の履修態度（特に積極性）・小試験・レポート等		
テキスト	全体としては、特に定めない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	基礎科学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本・山縣・北台・岡田・江島・馬淵・藤田		
研究室の場所	広島キャンパス 1516・1668・1350・1536・1526・1432・1542研究室		
オフィスアワー	本カタログに各教員が記載している内容（オフィスアワー）に従うこと		
授業の形式・方式	実験・実習の基礎知識と手技の習熟を目指し、主に、実験実習室を使用して行う実践的授業。学科教員複数名によるオムニバス授業。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	実験・実習の基礎知識, 実験・実習の基礎的手技, 実践授業		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学科に開講されている多数の実験・実習科目を円滑に履修する上で必要となる基礎的な知識や基礎的な実験手技の習熟することを目的している。 実験器具の使い方・取り扱い方および分析機器の使い方・取り扱い方がわかり、実践することができる。		
授業の内容	1. 谷本－「実験器具の使い方, 取り扱い方, その1」；2. 山縣－「実験器具の洗浄, 蒸留水の取り扱い方, その基本」；3. 北台－「顕微鏡の使い方, その基本」；4. 岡田－「溶液の作り方・その希釈, バッファー溶液の作り方」；5. 江島－「実験器具の使い方, 取り扱い方, その2」；6. 藤田・馬淵－「分析機器の使い方, 取り扱い方, その1」；7. 藤田・馬淵－「分析機器の使い方, 取り扱い方, その2」		
成績評価の方法	出席・授業の履修態度（特に積極性）・小試験・レポート等		
テキスト	全体としては、特に定めない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	基礎化学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤田 健一		
研究室の場所	広島キャンパス 1542研究室		
オフィスアワー	随時 (原則として, メールなどで予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業は教科書の内容に従って行うので, スクリーンの内容と教科書を比較しながらノートを取ることを勧める。なお, 教科書の理解を深めるために, 適宜プリントを配布して説明する。また, 理解を深めるための補助として, 練習問題を配布する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	原子, 分子, 化学結合, 濃度とpH, 化学反応と化学平衡, 無機物と有機物, 工業製品, 環境と化学, 生命と化学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は, 物質の基礎的・化学的性質に関する知識を修得することを目標とする。特に, 化学結合, 分子構造, 濃度, 化学平衡, 反応速度, 有機化学という, 化学の基礎的内容を理解することが主たる目標である。本科目は, 健康科学科の専門科目・生体化学分野に区分されており, 学科の専門科目の他の応用化学的科目の基礎となっている。		
授業の内容	健康科学関連科目を学ぶための基礎知識としての化学について, 初歩的なことから, 身近な事例についての説明を含む専門的内容(物理化学, 無機化学, 分析化学, 有機化学)の全般について講義する。まず, 化学と人間との関わり合いを述べ, 物質のマクロな性質とミクロな原子の構造との関係, 化学結合の成り立ち, 物質の状態変化(気, 液, 固)と性質, 化学反応の基本となる酸塩基と酸化還元, 化学反応とエネルギーの関係を解説し, 有機・生体化学の導入に至る。高校時代に主として化学を学んでいない学生も理解できるよう具体的な例を挙げながら環境や生命と化学の接点についても講述する。		
成績評価の方法	原則として, 期末試験の成績により評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で, 指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	江頭 他 著「化学が見えてくる」三共出版, 2005		
参考文献	若山 他 訳「プラディ 一般化学 上, 下」原著第4版, 東京化学同人, 2004		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	分析化学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤田 健一		
研究室の場所	広島キャンパス 1542研究室		
オフィスアワー	随時(原則として、メールなどで予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業は教科書の内容に沿って行うが、理解を深めるために、適宜、授業内容のプリントと練習問題を配布する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	定性分析, 定量分析, モル濃度, pH, 平衡定数, 反応速度, 酸-塩基, 酸化-還元, キレート滴定, 錯生成反応, 分光分析, 電気化学, 原子吸光分析, 原子発光分析		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目の目標は、定量分析法(滴定分析)や分光分析法など、健康科学の諸分野で必要な分析法の基礎となる酸-塩基反応、酸化-還元反応、錯形成反応などの溶液内反応の定量的取り扱いをモル濃度の計算演習を行いながら修得することにある。本科目は、健康科学科の専門科目・生体化学分野に区分されており、専門科目の他の応用化学的科目に関する実験実習を学ぶ上でもっとも基本となる主要な科目の一つである。		
授業の内容	化学反応に基づいた物質の量的関係、平衡移動の法則に特に視点を向ける。物質の濃度の認識は化学を学ぶ上で非常に重要であり、濃度の取り扱いに慣れることをめざし、定量分析化学に基本的な質量作用の法則を導入し、沈殿平衡、緩衝作用、酸塩基反応、酸化還元反応、錯形成反応、電極反応の性格とそれらに係わる平衡の取り扱いを解説する。測定データの統計的処理および具体的に平衡定数の取り扱いから化学種の濃度計算ができるように演習を重要視して講義する。		
成績評価の方法	原則として、成績は期末試験の結果で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	教科書: 木村優・中島理彦 著「分析化学の基礎」裳華房, 1996参考書 鳥居・康 訳「定量分析化学」デイ・アンダーウッド共著, 培風館		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	分析化学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	藤田 健一 ・ 馬淵良太		
研究室の場所	広島キャンパス 1542研究室		
オフィスアワー	随時 (原則として、メールなどで予約)		
授業の形式・方式	授業日程に従って、実験形式で実施する。1回の授業につき授業時間2時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。毎週、実験についてのレポートを課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	物質, 定性分析, 定量分析, 陽イオン, 中和滴定, 酸化還元滴定, キレート滴定, 比色分析, 秤量, 溶液, ガラス器具, データ処理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、化学実験についてこれまでほとんど学習していない学生も対象にして、生活における身近な物質の分析実験を行う。本科目の目標は、履修学生が分析化学実験を通じて、化学実験全般に通ずる様々な基本的知識や基本的操作法・技術を修得することである。本実験科目は、専門科目・生体科学分野に位置付けられており、他の応用化学的科目の実験科目の基礎となる実験科目である。		
授業の内容	生活の中に存在する身近な物質を分析の対象として取り上げ、それらの物質の定性分析および定量分析化学実験を行わせる。定性分析としては、陽イオンの定性分析を、定量分析としては、中和滴定、酸化還元滴定、キレート滴定、比色分析、などを行う。これらの分析化学実験を通じて、化学実験全般に共通の、基本的な心構え、化学試薬の秤量と溶液の調整、ガラス器具と機器の操作法や知識、測定したデータの処理の仕方を習得する。		
成績評価の方法	実験レポート80%、授業への参加姿勢20%の割合で評価する。 実験レポートの提出期限は、通常、その次回の授業時間の開始時とする。		
テキスト	適宜、プリント配布。参考書：木村優・中島理壺 著 『分析化学の基礎』裳華房。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。健康科学科の化学分野の実験の基礎となる科目である。		

授業科目名	基礎生化学		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。数回レポート課題を与える。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	生体分子, アミノ酸, ペプチド, タンパク質, 糖質, 脂質, ヌクレオチド, 核酸, DNA, RNA, 生体膜, ATP, 生体エネルギー論, 酵素, 基質, 酵素反応論, 代謝, 遺伝子, 細胞		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生体や細胞の化学的基礎に関する基本的内容を修得することを目標とする。本科目の履修を通じて、生体や細胞がどのような化学物質から構成されているか、それぞれの化学物質の特徴は何か、それらの化学物質がどのような形で生命現象に関わっているのかといった基本的な概念とその内容を理解する。本科目は、健康科学科の専門科目・生体科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	生体を構成する物質の基本的な性質と、それらが関係するいくつかの生命現象について解説する。アミノ酸、糖、脂肪、ヌクレオチドなどの低分子化合物と、タンパク質、多糖、核酸などの高分子化合物について、それらの化学構造および特徴について説明する。これらの化学物質が、生体の構成成分として、あるいは生体内における化学反応の触媒として、どのような利点を有しているのかを説明する。栄養摂取、細胞の増殖と死、生殖と遺伝などの生命現象において、それらの物質が具体的にどのような役割を担っているかを説明し、生命を化学的な側面から見ることを学ぶ。また、酵素反応を例に、酵素というタンパク質の特徴、酵素と基質との相互作用など、生体内で起こっている生化学的反応の性質を解説する。		
成績評価の方法	期末試験70%、レポート課題30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。中間試験は授業日程の中で行う。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。試験では、主に授業の中で行った例題および演習問題と同様の形式の問題を作成し試問する。		
テキスト	江島洋介『これだけは知っておきたい図解生化学』オーム社、2008。 『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	須藤和夫・山本啓一・有坂文雄 訳 『リッター生化学』東京化学同人、1999。 江島洋介『これだけは知っておきたい図解バイオサイエンス』オー社、2004。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書第1章のQ1-1, Q1-2に目を通しておくこと。授業が終わるごとに、教科書と配付資料の内容を復習し、演習問題を解いて理解を深めておくこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	生化学		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。数回レポート課題を与える。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	代謝, 異化, 同化, 生合成, 解糖, クエン酸回路, ミトコンドリア, 脂肪代謝, アミノ酸代謝, 糖新生, 脂肪酸生合成, アミノ酸生合成, ヌクレオチド生合成, DNA, RNA, タンパク質, 複製, 転写, 翻訳		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は基礎生化学をすでに履修したことを前提とする。基礎生化学で学んだ生体内の物質についてその動的な側面, すなわち代謝と生合成について理解する。本科目の履修を通じて, 生体が食物などから摂取した物質がどのような代謝経路で単純な物質にまで分解されるのか, 生体や細胞を構成する化学物質がどのような経路で合成されるのか, 代謝の過程でエネルギーが獲得されるしくみは何かなどの基本的な概念を身に付けることができる。本科目は, 健康科学科の専門科目・生体科学分野に区分され, 管理栄養士養成施設のカリキュラム「人体の構造と機能, 疾病の成り立ち」の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	基礎生化学では生体を構成するさまざまな物質について解説した。本科目は基礎生化学で学んだそれぞれの生体物質が細胞内でどのように代謝され, どのように合成されるのかを中心に解説する。代謝の中核をなす解糖系, ミトコンドリアにおけるクエン酸回路と電子伝達系, 糖, アミノ酸, ヌクレオチドの生合成などのしくみ, 遺伝子DNAの維持と複製, 転写と翻訳による遺伝子発現の機構など分子生物学の基本について説明する。細胞内での物質の輸送, 細胞外からの刺激の受容, 細胞内での情報伝達など, いくつかの生命現象を生化学の側面から理解する。また, ヒトの健康維持や疾患に関連する生化学分野のトピックスも紹介する。		
成績評価の方法	出席とレポート課題で評価する。		
テキスト	江島洋介『これだけは知っておきたいa図解生化学』オーム社, 2008。 『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	須藤和夫・山本啓一・有坂文雄 訳 『リッター生化学』東京化学同人, 1999。 江島洋介『これだけは知っておきたい図解分子生物学』オーム社, 2005。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は, 基礎生化学で学んだ内容を再確認しておくこと。授業が終わるごとに, 教科書と配付資料の内容を復習し, 演習問題を解いて理解を深めておくこと。授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。試験において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	生化学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介・未定		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	実験授業。生化学実験実習書に従って、7個のテーマに関する実験を行う。テーマごとにレポートの提出を義務づける。学生は、授業に出席し、レポートを提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修(平成21年度以降入学生から必修)
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	生体分子, タンパク質, 酵素, 核酸, DNA, 卵白アルブミン, ビュレット法によるタンパク質定量, SDS-PAGE電気泳動, カラムクロマトグラフィー, 繊毛運動, 遺伝子組換え, プラスミド, 形質転換		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は基礎生化学をすでに履修したことを前提とする。基礎生化学で学んだ生体内の物質について、これらを実際に生体試料から抽出し、その定量と分析を行う。本科目の履修を通じて、基礎生化学で学んだ知識を、体験を通して会得する。本実験を行うことにより、より高度な実験を行うための素地を身に付けることができる。本科目は、健康科学科の専門科目・生体科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	生体を構成する物質のうち、糖、タンパク質、DNA、RNAを用いて、物質の抽出、定量、分離ならびに機能分析を行い、これらの物質についての理解を深めるとともに、基本的な生化学の実験技術を修得させる。生物試料または細胞から物質を抽出し、分光光度計を用いて物質の定量を行う。電気泳動とカラムクロマトグラフィーを用いて物質の分離と精製を行う。また、タンパク質については、酵素活性を指標とした機能分析を、DNAについては、DNAの抽出と定量、初歩的な組換えDNA実験を行う。		
成績評価の方法	レポート課題で評価する。 レポートは、実験のタイトル、目的、方法、結果、考察の順にまとめる。結果と考察はまとめてもよい。引用文献がある場合は、最後に記述する。目的と方法が明確に記載されているか、結果が適切に記載されているか、自分が行った実験の結果に基づいて考察がなされているか、などを基準に評価する。		
テキスト	『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	江島洋介『これだけは知っておきたい図解生化学』オーム社、2008。 須藤和夫・山本啓一・有坂文雄 訳 『リッター生化学』東京化学同人、1999。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書の該当部分を読んで、基礎生化学の内容を復習しておくこと。器具の名称を覚えること、試薬を正しくつくることが実験の前提なので、あらかじめ実習書の「実習前の予備知識」の部分を熟読しておくこと。試薬の取扱いなど安全に留意すること。器具の破損があれば申し出ること。実験は班単位で行うので、方法や結果については班の全員が確認しておくこと。		

授業科目名	細胞生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 保		
研究室の場所	1523 (教育研究棟1の5階)		
オフィスアワー	木曜日 3・4時限目 (それ以外の時間を希望する場合は、メールで予約してください。)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。また、事前に課題を与え、事前学修の成果を発表してもらい形式も併用する。受講者は、授業に出席し、課題レポートの作成、発表並びに期末試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	細胞の起源と多様性、細胞の膜構造と細胞小器官、エネルギー変換の仕組み、核と遺伝情報、タンパク質の細胞内輸送、細胞骨格と細胞運動、シグナル伝達、細胞間コミュニケーション、生殖と発生・細胞分化、細胞死、がんの細胞生物学、免疫の細胞生物学、脳と神経		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生物の機能発現の単位である細胞を構造と機能の両面から理解することを目指す。講義形式と共に、履修者が主体的に学ぶ姿勢と態度を身に付けられるよう、課題を与え、授業時間内に発表する機会も設けている。「生命科学」と共に本科目は、「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」を理解するために必要な基礎科目の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	細胞生物学は、生体を構成する個々の分子が、“細胞という場”の中でどのような働きをしているかを明らかにすることによって、生命活動の基本を捉えようとする学問である。この授業では、分子から個体まで、さまざまな階層構造を扱うことになるが、細胞や組織の個別性及び多様性に注意を払いつつも、その多様な現象が、いかに統一的な一貫した原理と反応機構に基づいているかに重点をおいて学ぶ。主な項目として、細胞の起源と多様性、細胞の膜構造と細胞小器官、エネルギー変換の仕組み、核と遺伝情報、転写、タンパク質の誕生から死まで、タンパク質の細胞内輸送と局在化、細胞骨格と細胞運動、シグナル伝達の原理と多様性、細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーション、生殖と発生・細胞分化、細胞死、がんの細胞生物学、サイトカインと免疫の細胞生物学、脳と神経の細胞生物学、モデル微生物とモデル植物の細胞生物学、モデル動物とヒトの細胞生物学、分子細胞生物学の研究手法・技術を学ぶ。		
成績評価の方法	授業への積極的な取り組みや参加度、課題発表の分担や発表内容、レポート課題に対する積極的な取り組み姿勢並びにレポートの内容について、総合的に評価する。なお、評価の観点ごとの配点については、授業の中で説明する。		
テキスト	「生命科学」及び「生体防御学」で使用する教科書を一部の授業の中で使用する。		
参考文献	永田・中野・米田編「細胞生物学」東京化学同人、中村桂子他監訳「Essential 細胞生物学」南江堂、その他、担当教員が授業の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「生命科学」(健康科学科・担当教員：藤井保)に記載している内容に従うこと。		

授業科目名	生体防御学		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 保		
研究室の場所	1523研究室		
オフィスアワー	木曜日 4時限目 (その他の時間も可能な限り対応しますが、メールで要予約)		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式を基本にして、双方向性の授業並びに学生の主体的な学習を促すことを意識して実施する。できるだけ毎回、授業に関連した宿題又は発展的な課題を与え、その学修成果を次の授業までにまとめ、レポートとして提出することを課す。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	自然免疫, 獲得免疫, 免疫系, 体液性免疫, 補体, 細胞性免疫, アレルギー, 感染症免疫, 移植免疫, がん免疫, 自己免疫疾患, 免疫不全症		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、免疫についてこれまでほとんど学習していない学生を対象にして、免疫反応の仕組みや免疫・アレルギー疾患の成因・病態等の基本的内容を講述する。本科目の目標は、履修学生に免疫の仕組みや免疫・アレルギー疾患に関する基本的な概念、基礎的内容を理解させることである。これによって免疫学の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。本科目は、健康科学科の専門科目・生体科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	生体が自己の恒常性と統一性を維持するために備えている「仕組み」について、自然免疫の基本的なメカニズムとその重要性を提示し、その上で、特異性、多様性、多型性などで表される獲得免疫の特性を、細胞(リンパ球やマクロファージ)や分子(免疫グロブリン、T細胞レセプター、主要組織適合抗原など)のレベルで講述する。また、自然免疫と獲得免疫の何れにおいても病原微生物(寄生体)などの排除に重要な役割を果たす補体系を取り上げ、活性化機構と生物活性を概観する。次に、人体と寄生体との相互関係について、寄生体の侵入、増殖と伝播、防御、免疫病理など、関係する主要な機序に注目して講述する。免疫系に関する基礎的理解を通して、移植片の拒絶反応やアレルギーの発症の仕組みを理解させる。		
成績評価の方法	期末試験50%、課題レポート(宿題)35%、出席15%の割合で評価する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。各レポートの提出期限は、課題提示時に通知する。		
テキスト	シンプル免疫学【改訂第4版】中島 泉, 高橋利忠, 吉開泰信 共著, 南江堂		
参考文献	免疫学イラストレイテッド【原書第7版】高津聖志, 清野 宏, 三宅健介 監訳, 南江堂		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書を精読し授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	免疫学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 保		
研究室の場所	広島キャンパス 1523研究室		
オフィスアワー	木曜日3・4時限目。(それ以外の時間も可能な限り対応するが、メールで要予約) 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	受講者を3～4名ずつの班に分け、各実験を班単位で実施する。また、顕微鏡観察については、授業時間内での設定時間に限りがあることから、受講者各自で空き時間を活用して実施できる。実験項目ごとに、実験の方法と結果、観察の記録、考察、感想等を記したレポートの提出を課す。提出の方法と期限については、授業の最初の時間に伝達する。学生は、授業(実験や観察)に出席し、レポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	定性沈降反応, ゲル内沈降反応, ロケット免疫電気泳動法, 赤血球の凝集反応, 溶血反応, マイクロタイター法, イムノプロット法, リンパ器官(胸腺, 脾臓, リンパ節), 顕微鏡観察		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、免疫学に関する基礎的な知識の深化を目的として、抗原抗体反応や補体結合反応などに関する実験を行う。また、免疫系を構成する細胞、組織及び器官に関する理解を深めることを目的として、組織学的観察等を行う。本科目の目標は、履修学生が自己と非自己の識別に関与する分子や細胞について基礎的内容を理解することである。さらに、実験結果を観察・記録し、それに基づいて考察する力や姿勢を醸成することである。本科目は、学科専門科目の生体科学に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能、疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の実験科目の一つとして位置付けられている。		
授業の内容	免疫に関する理解の促進と分析用試薬としての抗体の有用性を提示するため、支持体を用いない定性沈降反応、アガロースゲルを支持体とする沈降反応、抗体を含むアガロースゲルを支持体に用いるロケット免疫電気泳動法などにより、抗原抗体反応を利用した抗体価の測定実験や抗原の定量実験を実施する。次に、マイクロタイター法による赤血球の凝集反応、並びに溶血反応を利用した補体価の測定実験を行う。また、SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動で分離した抗原を、その泳動面に垂直方向にさらに電気泳動することによって、取扱いやすい支持体に転写し、その支持体上で抗原抗体反応を行うイムノプロット法を体験する。その他に、胸腺、脾臓、リンパ節等のリンパ器官の解剖学的並びに組織学的観察により、免疫系に関する理解を深める。		
成績評価の方法	レポートの内容60%、実験・観察に対する取組み状況40%の割合で評価する。期末試験は実施しない。レポートの提出期限は、実験項目ごとに初回の授業時間の中で提示する。レポートは計画的に作成し、提出期限を厳守すること。期限内提出ができていないか否かも成績評価の対象とする。		
テキスト	担当教員が作成した「免疫学実験実習書」を無料で配布する。		
参考文献	西岡久壽弥 監修, 眞崎知生 編 『役にたつ免疫実験法』(第2版) 講談社サイエンティフィク, 1994。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、生体防御学で使用する教科書の抗原、抗体、抗原と抗体の反応、並びに補体に関する章を精読し、1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。白衣を持参すること。		

授業科目名	生理学		
担当教員氏名(助手氏名)	菅原 芳明		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。各章毎に、レポート課題・小試験を課し、授業内容の理解の確認を行なう。受講者は、授業に出席し、レポートの作成・提出ならびに期末試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食事量, 呼吸, エネルギー代謝, エネルギー代謝の計測手法, 体温, 体温調節, 循環系, 肺循環, 体循環, 心電図, O ₂ -運搬, CO ₂ -運搬, ホメオスターシス, 体液量の計測手法, 水分均衡, 腎機能		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生体の仕組みと機能について、これまでこのような内容についてまったく学習して来なかった学生を対象に講述する。本科目は、健康科学科の学科専門科目・生体科学領域に区分されている一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門基礎分野の「人体の構造と機能」の主要な科目の一つとなっている。		
授業の内容	生体における生理的なメカニズムについて、食事と呼吸、食事量とエネルギー代謝、血液循環、体液と酸塩基平衡、内呼吸と外呼吸、呼吸調節、水分均衡、水分均衡の生理的メカニズム、尿生成、腎機能について講述する。特に、食事量とエネルギー代謝については、酸素運搬の分子生理学(血液中のヘモグロビン分子)から出発し、生体が必要とする酸素量、血液の酸素運搬量、組織(筋肉)での酸素消費、さらには組織から放出される二酸化炭素量等エネルギー代謝と食事量の関係について、生理学の視点に立脚した系統立てた授業展開を行う。これらのことにより、生体の有する生理メカニズムについて系統立てた理解を目指す。		
成績評価の方法	期末試験が50%、各章に設定された課題レポートが50%の割合で評価する。期末試験は、基本的に持ち込み不可で実施。レポート課題(テーマ)は、授業の中で章毎に提示する。期末試験は、基本的に課題レポートとその関連の内容の中から問題を作成、その上で試問する。		
テキスト	彼末一之・能勢博 著 『やさしい生理学, 第6版』南江堂。 授業に必要なプリントは、適宜、授業開始時に配布。		
参考文献	W. F. Ganong 著 『Review of Medical Physiology 』Prentice-Hall International Editions		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	生理学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	増山 悦子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	授業日程に従って、実験・実習形式で実施する。各テーマ終了後、レポートは2週間以内に提出すること。レポート作成は、実験レポートの書き方に従い、課題にも答えるものとする。受講生は予習して実験に臨み、レポートの提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	ウシガエルの生体解剖、カエル神経-筋標本による筋収縮、グリセリン筋による筋収縮、ヒトの血液、白血球、浸透圧		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	どのような仕組みで私達の体が正常に機能しているのかを追求するため、体の機能を各臓器のレベルで、臓器の機能を臓器を構成する個々の細胞のレベルで、さらに細胞の働きを細胞を構成する分子のレベルで理解できるようになるのが目標です。		
授業の内容	ヒトの生理的メカニズムを理解するために、個体、器官系、器官・組織、細胞、分子の各レベルでの実験を行う。具体的には以下の項目内容である。 ①ウシガエルの生体解剖を行い、脊椎動物の体の中の内臓の形態、諸器官の連関の仕方などを理解する。解剖を通してヒトの体内を理解するだけでなく、脊椎動物がたどってきた進化の歴史も紐解く。 ②ウシガエル座骨神経-腓腹筋標本の作成と神経刺激による筋収縮を観察する。 ③調製したグリセリン筋(筋収縮モデル)を用いて、ミオシンATPaseが生体エネルギー物質ATPを分解し、筋収縮することを理解する。また、筋収縮(ミオシンATPase活性)に及ぼす2価イオンの影響を調べる。 ④ヒトの血液の血球成分の観察(白血球の塗抹染色)や血漿タンパク質の分離(CA電気泳動)を行う。 ⑤動、植物細胞を染色して構造や細胞小器官を観察する。植物細胞の液胞の浸透圧を限界原形質分離を観察することで求める。		
成績評価の方法	出席および実験レポート内容、課題回答を総合的に評価する。		
テキスト	実験書を配布する		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	実験レポートは科学的論述力を身につけるのに最適である。過去レポートは写さない、出典を明らかにせず転用しない、引用である場合は引用と示しておくという基本的な事項を守って実験レポートを作成すること。		

授業科目名	臨床血液学		
担当教員氏名(助手氏名)	菅原 芳明		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。各章毎に、レポート課題・小試験を課し、授業内容の理解の確認を行なう。受講者は、授業に出席し、レポートの作成・提出ならびに期末試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	赤血球、白血球、血小板、造血、回転、血液凝固、血液凝固系、凝血塊の溶解、線溶系、凝固・線溶の血中の抑制因子、血小板凝集、トロンピン、フィブリノーゲン、フィブリン、プラスミノゲン、プラスミノゲンアクチベーター、悪性貧血、再生不良性貧血、白血病等、脳梗塞、心筋梗塞、血栓症、これら以外の各種血液疾患。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業科目では、各種の血液疾患（悪性貧血等の貧血症、白血病等の血液がん、脳梗塞や心筋梗塞等の血栓症）を取り上げ疾病論の視点に立脚した講述を行なうと共に、「血液学」の基本的知見とも密接に絡めた形での授業を展開を行う。授業の中で取り上げる具体的な内容は、赤血球の造血・分化・回転、血漿成分が有する機能（血液凝固と凝固系、凝血塊の溶解と線溶系、凝固・線溶の血中抑制因子）、さらには血小板凝集等である。併せて、分子血液生理学的視点（トロンピン、フィブリノーゲン、フィブリン、プラスミノゲン、プラスミノゲンアクチベーター等）に根ざした講述を実施する。なお、この授業科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」を理解する上での主要科目の一つとなっている。		
授業の内容	上記のように各種血液疾患を血液学の基礎と密接に結びつけた形での授業展開を行う。具体的には、以下：第1章－貧血（悪性貧血と再生不良性貧血）；第2章－鉄欠乏性貧血と鉄代謝ならびに溶血性貧血とヘモグロビン分解；第3章－悪性貧血の治療法；第4章－造血の場；第5章－赤血球の回転；第6章－血液学における定量化手法の導入；第7章－血漿タンパク質；第8章－血液のがん（白血病）；第9章－血小板と止血；第10章－血管の抗血栓性と血栓症；第11章－血液凝固；第12章－線溶（血液凝固塊の溶解）。		
成績評価の方法	期末試験が50％、各章に設定された課題レポートが50％の割合で評価する。期末試験は、基本的に持ち込み不可で実施。レポート課題（テーマ）は、授業の中で章毎に提示する。期末試験は、基本的に課題レポートとその関連の内容の中から問題を作成、その上で試問する。		
テキスト	教科書は用いない。ただし、授業に必要なプリントは、日野日野志郎著「臨床血液学」（医歯薬出版）から適宜コピーし、その都度配布する。		
参考文献	日野志郎著「臨床血液学」（医歯薬出版）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	血液学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	菅原 芳明		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	実習書に従った「実験・実習」形式での授業。受講者は、「実験・実習」への参加と共に実験終了後のレポート作成ならびにレポートの提出が義務付けられている。レポートの評価ポイントは、以下：(1) 実験目的が明確に示されているか否か、(2) 観察・計測されたデータが、図表等を用いて、的確に示されているか否か、(3) 考察が、得られた観察・計測データならびにそれらを整理した図表に基づいて的確に成されたのか否かの3点。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	ユニバーサルプレコーション, 感染予防手技, 血漿タンパク質の観察, 採血法, ヘマトクリット, 血液塗末染色法, 血球計数, 赤血球の酸素運搬, 血液凝固系, 血液凝固能の計測, , フィブリンプレート法, 血液凝固の溶解(線溶)の観察, 血液の線溶能計測		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業科目では、血液中の細胞成分(赤血球・白血球・血小板)ならびに液性成分(血漿)が担う機能の理解を具体的な実験・実習テーマの遂行を通して目指す。具体的には、「採血法の検察」、「血液が固まること(血液凝固)の観察」、「血液凝固時間の計測」、「血餅退縮と血清の観察」、「ヘマトクリットの観察・計測」、「血球計数」、「血液薄層塗抹標本の作製」、「凝血塊の溶解」、「凝固・線溶に関わる観察・計測実験」を行う。なお、ガイダンス時にユニバーサルプレコーションの概念と感染予防の手技を紹介し、実習全般を通してその習熟を図ることとしている。本授業科目は、健康科学科の学科専門科目・生体科学領域に区分される一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムの基礎をなす「人体の構造と機能」を理解する上での主要科目の一つである。		
授業の内容	以下の実験をそれぞれの実験テーマに沿って行う。第1章(ガイダンス)ーイギリスにおけるユニバーサルプレコーションの概念と感染予防手技;第2章ー採血法とヘマトクリット;第3章ー電気泳動法による血漿タンパク質の観察ならびにフィブリンプレート法による線維素溶解(線溶)の観察;第4章ー血液の薄層塗末標本の作製と薄層塗末標本染色法;第5章ー血球計数と血球計数法;第6章ー赤血球の酸素運搬;第7章ー血液凝固系の観察と血液凝固能の計測;第8章ー血液凝固の溶解(線溶)系と線溶能の計測。		
成績評価の方法	各実験の終了後に提出される実験レポートについて、その内容を上記に示した評価ポイント(基準)に従って総合的な評価を行い成績評価(100%の割合で)とする。		
テキスト	「血液学実験実習書」を授業前に配付。		
参考文献	日野志郎著「臨床血液学」(医歯薬出版)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	病理解剖学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	北台 靖彦		
研究室の場所	広島キャンパス 1426 研究室		
オフィスアワー	午後、在室中はいつでも可能。(金曜日は除く)		
授業の形式・方式	対面授業。教科書にしたがって講義形式で実施する。必要に応じてスライド並びにプリントを用いる。レポート課題を一回課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	医学、医療、医の倫理、健康、病気の内因外因、炎症、腫瘍、診断学、剖検		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	医学には、自然科学としての医学(基礎医学、臨床医学、予防医学と保健学、環境医学、産業医学、医療情報学)、社会科学としての医学(医療システム、福祉医療、医療経済学)があり、その特徴を理解する。医療においては、医師、看護師、コメディカルのチーム医療により質の高い医療行為がおこなわれ、さらに健康教育も実践し、予防におい手も重要な役割を演じていることを学ぶ。また医学の進歩と病気の成り立ちを理解する。本科目は、専門教育科目の関連科目に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	医学の本質ならびにそれがどのような方向に発展しつつあるかを学習する。そのためには、医学全般の進歩の歴史を理解し、生物としての人間の疾病像、悩む人格体としての人間のすがた、さらに医学がどのように社会に受け入れられているか、今後の医学の進むべき方向について講義をする。これまでの医学の歩みの輝かしい成果のみでなく、様々な問題点についても学習する。また健康、病気、医学の体系について理解し、病気の原因、病気による身体の変化、病気の診断についても学習する。		
成績評価の方法	成績は、期末試験、課題レポートで評価する。試験は、講義内容に関する論述問題を作成し試問する。		
テキスト	日野原重明 著 「医学概論」 医学書院、2003。		
参考文献	平井良則 編 「医療学総論」 金原出版 2002。 伏木信次 編 「生命倫理と医療倫理」 金芳堂2014		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、自然科学の一分野である医学に関して、自主的に関心を持つように心がけ、医学(医療)のあるべき姿を考えてほしい。		

授業科目名	病理解剖学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	北台 靖彦		
研究室の場所	広島キャンパス 1426 研究室		
オフィスアワー	午後、在室中はいつでも可能。(金曜日は除く)		
授業の形式・方式	対面授業。教科書にしたがって講義形式で実施する。必要に応じてスライド並びにプリントを用いる。レポート課題を一回課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	組織分類、骨格系、骨の連結、頭部骨、脊椎、胸郭、上下肢、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、腎臓・泌尿生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	解剖学・病理学は、医学の中で最も基本的で大事な領域であるため、下記の授業内容を十分理解することを目標とする。本科目は、専門教育科目の生体科学に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	人間の構造と機能の両者を系統的に学習する。特にからだの運動に必要な、骨格と筋、循環器、呼吸器、神経等の全身の諸臓器を機能面からも関連づけて学習する。細胞の機能、血液、間質液、リンパおよび生体防御機構、心臓血管系の役割、呼吸運動、呼吸調節、消化管ホルモン、消化液の分泌、腎臓による体液調節、神経の興奮についても学習する。		
成績評価の方法	成績は、期末試験で評価する。試験は、講義内容に関する論述問題を作成し試問する。		
テキスト	教科書 林正健二 編者 解剖生理学 メディカ出版		
参考文献	笹野公伸 編者 シンプル病理学 南江堂 入門人体解剖学 藤田恒雄著 南江堂		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学が、人体の構造と機能を理解するための基礎となるので、十分理解するように努力しなければいけない。		

授業科目名	病理解剖学Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	北台 靖彦		
研究室の場所	広島キャンパス 1426研究室		
オフィスアワー	午後、在室中はいつでも可能。(金曜日は除く)		
授業の形式・方式	対面授業。教科書にしたがって講義形式で実施する。必要に応じてスライド並びにプリントを用いる。病理組織学の顕微鏡実習も行い、典型的な病変を学ぶ。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象「病理解剖学I, II」を履修していることが必要。		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	細胞障害、変性と壊死、萎縮、代謝障害、虚血と梗塞、血栓、充血、浮腫、炎症、免疫、良性腫瘍、悪性腫瘍、増殖、転移、病理発生、病因、遺伝子異常、循環器病理、呼吸器病理、消化器病理、泌尿生殖器病理、内分泌病理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	病理総論では、細胞とその変化、循環障害、炎症、腫瘍におけるそれぞれの病理学的な概念を十分理解し、各論では、臓器特有の疾患の組織発生を知る。本科目は、専門教育科目の生体科学に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	医療における病理学のさまざまな分野の役割と、それらの分野の共通の目標である病気の成り立ちについて講義をする。特に細胞とその変化、循環障害、炎症、腫瘍について総論を学習し、循環器では動脈硬化、狭心症、心筋梗塞、心不全、ショック、呼吸器では、肺炎、肺結核症、肺性心、肺癌、消化器では、唾液腺疾患、食道炎、食道癌、慢性胃炎、胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌、肝炎、肝癌、膵炎、膵癌などの主な疾患についてその病理発生を理解し、生活習慣病の予防についても病理学的に考察する。		
成績評価の方法	成績は、期末試験で評価する。試験は、講義内容に関する論述問題を作成し試問する。		
テキスト	笹野公伸 編者 シンプル病理学 南江堂		
参考文献	辺林正健二 編者 解剖生理学 南江堂 メディカ出版入門人体解剖学 藤田恒雄 南江堂		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	解剖学が、人体の構造と機能を理解するための基礎となるので、十分理解するように努力しなければならない。		

授業科目名	病理解剖学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	北台 靖彦		
研究室の場所	広島キャンパス 1426研究室		
オフィスアワー	午後、在室中はいつでも可能。(金曜日は除く)		
授業の形式・方式	実習の前にその日の顕微鏡観察しスケッチする疾患に関して対面式の授業をおこない、その後実習に移る。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	組織形態、組織発生、生活習慣病、糖尿病、動脈硬化症、心肥大、心筋梗塞、肺炎、結核、間質性肺炎、肝炎、肝硬変、食道静脈瘤、食道炎、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、肺癌、前立腺癌、乳癌、子宮癌		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	下記の生活習慣病について、組織形態からそれらの疾患の成り立ちを理解することを目標にする。本科目は、専門教育科目の生体科学に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能。疾患の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	生活習慣病についての各論の講義を行い、代表的な疾患(糖尿病、動脈硬化症、心肥大、心筋梗塞、肺炎、結核、間質性肺炎、肝炎、肝硬変、食道静脈瘤、食道炎、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、肺癌、前立腺癌、乳癌、子宮癌)について、各自顕微鏡観察でそれらの形態変化をスケッチし病態を理解するための学習をする。また実際の剖検症例を用いて、人が生活習慣病で死亡する場合、全身の主要臓器に種々の形態的变化が系統的に発症していることを示し、その病気の成り立ちを理解する。		
成績評価の方法	毎回の顕微鏡実習により、提出されたスケッチで評価する。原則として2回以上の欠席は不合格とする。		
テキスト			
参考文献	参考書 高橋 徹 著 金原出版 2003。 Kumar et al 「Basic pathology」Sunders 2003.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	病理学の履修者は、この実習で形態学的に勉強することにより、より深く疾患の成り立ち並びに疾患概念が理解できる。		

授業科目名	健康スポーツ科学		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 配布資料, ビジュアル・エイド(PCプロジェクター, ビデオ映像など)を用いた講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	栄養一種免必修		
キーワード	スポーツ, 運動, 体力, フィットネス, 健康, 生理学, 疫学, 高齢化, 肥満, ライフスタイル		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この講義は, 健康科学についてこれまでほとんど学習したことのない学生の受講を前提に進める。この授業を受講することによる具体的な到達目標は以下である。①現代の健康問題について自然科学的観点に基づいて, 自分の意見を述べるができるようになる, ②ライフスタイルとしての運動習慣と健康のかかわりについて考える上で基本となる, 公衆衛生的な考え方の基礎を身につける, ③ヒトの健康問題に常に興味, 関心をもつようになる。</p> <p>この授業の受講によって, 後に開講される, 「運動生理学」や「体力科学」, さらに応用的な「スポーツ医学」や「トレーニング科学」といった関連する専門的授業の内容を理解するための背景知識を身に付ける。本科目は, 健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されている。一方, 管理栄養士養成施設のカリキュラムには, 専門基礎分野の教育内容の一つとして「社会・環境(人間や生活)と健康」の規定があり, 本科目は当該分野の1科目として位置付けられている。</p>		
授業の内容	<p>講義内容の概略を述べる。導入として, 「現代における健康科学とは何か」, 「健康科学情報とは何か」について学ぶ。特にここでは, evidence-basedという考え方を理解する。次に本講義のメインテーマである, 運動-体力(フィットネス)-健康の3者それぞれと, 相互の関連性について理解する。具体的な内容は, 1:これまでの健康の捉え方, 2:運動と健康のかかわり, 3:運動とはなにか, 4:運動と体力のかかわり, 5:体力と健康のかかわり, である。最終的に, 今日の健康観-ライフスタイルのひとつであるスポーツや運動-体力(フィットネス)の3者のかかわりについての基本的な捉え方を理解する。このような健康科学, 健康スポーツ科学への多面的な理解を通して, 生涯にわたる自己の健康管理といった視点による, 積極的な健康増進を目的とした具体的な方法の考え方とその実際を習得する。</p>		
成績評価の方法	<p>基本的に, 期末試験(100点)の成績を中心に評価する。提出レポート(回数は未定)の内容, ならびに中間試験の結果, 出席等も必要に応じて加味して総合的な評価を行う。期末試験は指定された教室(試験室)内で, 指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。評価方法・基準は最初の授業で具体的に説明する。</p>		
テキスト	教科書は使用しない。『複写資料教材』を適宜, 授業時に配布する。		
参考文献	<p>彼末一之/能勢 博編集『やさしい生理学(改訂第6版)』, 南江堂, 2012 勝田茂編著『入門運動生理学(第3版)』, 杏林書院, 2007</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は, 授業の中で, 適宜, 紹介する参考著書・文献を, 積極的に読むことをすすめる。</p>		

授業科目名	運動生理学		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主にビジュアル・エイド(PCプロジェクター, ビデオ映像など)とそれに関連した配布資料を用いた講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	生理学, スポーツ, 運動, フィットネス, 呼吸, 循環, エネルギー代謝, 骨格筋, 自律神経		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この講義は, 1年次の「健康スポーツ科学」を履修した学生が受講することを前提として進める。この授業を受講することによる到達目標は以下である。①運動に対する生理的反応を学ぶことを通して, 生体の巧妙な調節系への基本的な理解がもてるようになる, ②ヒトが1回の運動を行った際に, 身体の内側で起こっている適応的な生理機能調節のしくみの概略について, 主に生理学的用語を使って, 一般人に説明できるようになる, ③ヒトの健康に果たす運動の役割について, 運動生理学の視点から関心を持ち, 自分の意見を述べることができるようになる。本科目は, 健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されている。一方, 管理栄養士養成施設のカリキュラムには, 専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」の規定があり, 本科目は当該分野の1科目として位置付けられている。		
授業の内容	健康科学的な視点をふまえて, 生涯にわたる健康の保持・増進に果たす運動習慣の役割についての理解に必要な運動生理学の基本的知識を中心に学ぶ。加えて, エネルギーの摂取-供給-消費の観点から, 運動時のエネルギー消費の主要な機構である有酸素性エネルギー供給を支える呼吸循環系や神経-筋系について, 運動によってそれらの機能に生じる急性の反応を, 健康者を対象に理解する。具体的な章立ては, 1:運動と神経系, 2:運動と骨格筋, 3:運動と呼吸機能, 4:運動と循環機能, である。最終的に, ヒトが身体運動を行う際, それを支える生体内の急性の生理的調節メカニズムの基本について統合的に理解する。このことで, 日常の身体活動, すなわち運動の反復(通常, 身体トレーニング, あるいは運動療法と呼ばれる)が健康に果たす役割に関する応用的な講義となる, 「スポーツ医学」, 「体力科学」, さらに「トレーニング科学」といった内容を, 将来の講義で学び, 理解するための基本的知識を身に付ける。		
成績評価の方法	基本的に, 15週の中で, 各単元が終了するたびに, その教授内容をまとめる意味で提出してもらおうレポートの内容(20点×4回), ならびにその知識の応用問題として課す小レポート(5点×4回)の結果を中心に, 出席等を加味して総合的な評価を行う。評価方法・基準は最初の授業で具体的に説明する。		
テキスト	教科書は使用しないが, それに類した『複写資料ならびに教材』は適宜, 授業時に配布する。		
参考文献	生理学の教科書: 彼末一之・能勢 博 編集『やさしい生理学(改訂第6版)』, 南江堂, 2012, は常時, 持参のこと。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は, 授業の中で, 適宜, 紹介する参考著書・文献を, 積極的に読むことをすすめる。		

授業科目名	運動生理学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之, 鍛島秀明		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。 鍛島助教は, 実習期間中は, 1667実習準備室で随時。		
授業の形式・方式	対面形式の実験実習。 こちらで作成した実験テーマ・スケジュールに従って実施する。受講する学生本人が被験者ならびに実験者の両者になって行うことを基本とする。 実験テーマ別にTA (teaching assistant) を配する予定で, 教員は巡回しながら教育を行う。学生は, 授業に出席し, 各実験についてレポートを提出する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	運動, フィットネス, 換気, 呼吸, 循環, エネルギー代謝, 骨格筋, 反応時間, 血圧, スパイロメトリ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本実験の履修による到達目標は以下である。①本実験での測定を通して, 2年次前期に履修した「運動生理学」の知識を体験的に理解する, ②数名から数十名の対象者全体のデータ解析を行う具体的な方法を学ぶことによって, ヒト集団を対象として実測されたデータの取り扱いに慣れ, その統計解析の基本的な方法を理解し, 将来, 使うことができるようになる, ③本実験での測定体験を通して, 将来, 保健・医療領域に就職した際に遭遇するであろう, 測定される患者あるいはボランティアといった対象者への配慮ができるようになる。この実験の受講により, さらに「体力科学」, 「スポーツ医学」, 「トレーニング科学」といった, 運動と健康に関する応用領域への興味がひろがるのが期待される。本科目は, 健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されている。一方, 管理栄養士養成施設のカリキュラムには, 専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」の規定があり, 本科目は当該分野の1科目として位置付けられている。		
授業の内容	運動生理学の理論的な背景を理解する上で, 必要かつ最も基本的な生理的測定項目のいくつかについて, その測定法の実際を体験し, 習得する。対象となる主な生理機能は, 呼吸機能, 循環機能, 骨格筋機能ならびに神経機能である。これら基礎的な測定項目として, ガス交換諸量(肺換気量, 肺酸素摂取量, 肺二酸化炭素排出量), 心拍数(心電図), 血圧, 血流, 骨格筋の機能的評価(筋電図)などを取り上げ, その具体的な測定方法を習得する。いくつかの項目では, 実際の運動時に, これらの諸項目を測定し, 運動時の急性反応を, 自分自身を被験者として観察する。運動としては, 全身性動的・局所性静的運動それぞれの代表的な様式である, 自転車こぎ運動とハンドグリップ運動を用いる。さらに, 応用的な実験として, 神経-筋機能の実際的な評価である反応時間測定も取り上げる。また, データ取り扱いの基本を理解するために, 情報処理演習室を利用して, 本実習で測定した実データに基づく簡単な演習(データ表の作成, 図示, 統計検定の実際)を行う。		
成績評価の方法	全日程の6回以上の出席が単位認定の必須条件となる。遅刻は2回で1回の欠席とみなす。その上で, 提出の実験レポートで評価する。毎週の実験によるレポートの提出期限は, 次回の授業開始時で, 提出場所は1623室前の所定のボックスである。この時点で, レポートの一次評価が行われる。最終週には, レポート全体の講評(解説)が行なわれると同時に, 受講生の各レポート(一時評価後: 内容がチェックされて, 修正・加筆等が必要な場合には, それらを具体的に書き込んだもの)が一旦, 返却される。期日までに修正した最終バージョンのレポートを提出すること。それらに基づいてレポートによる成績の最終評価が行われる。		
テキスト	県立広島大学・健康スポーツ科学講座(編)「運動生理学実験マニュアル」を, 第一週目に配布する。		
参考文献	運動生理学の授業での配布プリントが最も主要な参考文献になるのでレポートを書く際に活用すること。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は, 運動のできる服装を用意すること。詳細は, 第1週目に述べる。また, 実験マニュアルを, かならず事前に精読してくること。		

授業科目名	体力科学		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主にビジュアル・エイド(PCプロジェクター)を用いた講義形式で実施する。適宜, 指示する課題のレポート提出を課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	健康, 体力, 運動, 体組成, 筋の形態と機能, ヒトの作業能力, 運動負荷試験, 運動処方, 高齢者の体力特性, スポーツ選手の体力特性		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では, 健康管理科学の専門性を身につけるうえで, その基礎となる, 「健康と体力の関係」について正しく理解し, 自分なりの健康観と体力観を持つことを目標とする。そのためには, まず, 行動体力と防衛体力を構成する要素に関する知識を身につけ, それらと健康の維持増進との関係について考察し理解する。次に, 身体活動の出力源である筋の構造と形態およびその機能について, 体力との関わりから知識を深める。さらに, 日常の身体活動性と健康の関係を考える際に有効となる有酸素性作業能力の評価法を中心に, いくつかの指標を題材として, 利用法を理解する。なお, この科目は, 健康科学科の専門科目「体力評価実習」と合わせて履修することにより, 体力科学の理論と実際について理解を深め, 技能を習得することができる。この科目は, 健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されており, 必修科目に位置づけられている。また, 管理栄養士専門科目においては, 専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。		
授業の内容	授業では, まず, 健康を定義することから始める。その上で, 行動体力と防衛体力を構成する要素を理解させ, それらと健康の関係について考察させる。次に, 筋の構造と形態およびその機能について知識を深めさせ。加えて, ヒトの身体作業能力は筋が活動するためのエネルギー供給能力に依存することを理解させる。続いて, 持久性能力としての有酸素性作業能力の指標である, 最大酸素摂取量 (Vo2max) ・疲労性作業閾値 (Fatigue Threshold, Critical Power) ・無酸素性作業閾値 (Anaerobic Threshold, Lactate Threshold)などを, 運動負荷試験の実際と共に論述する。また, 運動負荷試験が生理的に大きな負担となる高齢者については, 自立した日常生活動作を支える体力テストとその評価法について論じ, 特に自立歩行を支える下肢の筋の形態測定による体力水準の評価法について解説を加える。あわせて, 子どもの体力についても論述し, 成長期の体力特性や年齢に応じた諸能力の発達についても理解させる。さらに, 競技力向上を目指すスポーツ選手の体力特性やその測定方法についても知識を広める。		
成績評価の方法	期末試験の成績を70%, 授業で出題するレポートと授業への出席状況をあわせて30%として総合的に評価する。期末試験は持ち込み不可で, 指定された試験日の授業時間内で実施する。期末試験は, 講義内容の中から問題を作成し試問する。具体的な評価方法や基準は, 初回の授業で説明する。		
テキスト	教科書は使用しない。「複写資料教材」を適宜, 授業時に配布する。		
参考文献	参考文献: 「トレーニングの科学的基礎, 改訂増補版」宮下充正著, ブックハウスHD。「やさしい生理学, 改訂第5版」森本武利・彼末一之編, 南江堂		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は, 授業の中で, 適宜, 紹介する参考著書・文献を, 積極的に読むことをすすめる。		

授業科目名	トレーニング科学		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主にビジュアル・エイド(PCプロジェクター)を用いた講義形式で実施する。適宜, 指示する課題のレポート提出を課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	健康, 競技力向上, 有酸素性トレーニング, 無酸素性トレーニング, 筋力トレーニング, 高齢者の身体トレーニング, スポーツ選手の身体トレーニング, エネルギーの補給		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では, 健康管理科学の専門性を身につけるうえで, その基礎となる, 「ヒトに対する身体トレーニングの効果」についての知識を正しく身につけた上で, 最終的には, 生活習慣病予防を目的とした中高齢者のための有酸素性トレーニングや, 自立歩行能力を維持するための筋力トレーニングの実践方法について, その処方内容を作成できるようにすることを目標とする。まず, いくつかの有酸素性・無酸素性作業能力の指標を題材として, それぞれに対する運動の効果に関する知識を身につける。その上で, トレーニング方法の実際について理解し, 効果的なトレーニング方法を理解する。そのために, トレーニングの基本原則や効果の生じる運動の条件(様式, 強度, 回数, 頻度等)についての具体的な知識を身につける。また, トレーニングと栄養, メンタル・トレーニングについても理解する。この科目は, 健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されており, 選択科目に位置づけられている。		
授業の内容	まず, トレーニングが成立するヒトの適応について解説する。次に, すべてのトレーニングに共通する「トレーニングの基本5原則」を理解させる。その上で, トレーニング効果が生じる運動の条件や人間の適応能力の限界について, 過去の研究知見を示しながら論述する。さらに, 健康の保持増進や, スポーツの競技力向上のための身体トレーニング方法の具体例を, 有酸素性トレーニングと無酸素性トレーニングおよび筋力トレーニングに分けて論述する。特に, 生活習慣病予防を目的とした中高齢者のための有酸素性トレーニング(たとえばウォーキング)や, 自立歩行能力を維持するための筋力トレーニングの実践方法については, 運動の強度, 回数や運動時間, 頻度, 運動のフォームについて具体的に詳述する。また, エネルギーの補給(スポーツの栄養学), ダイエット(体重の調整), メンタル・タフネス(ストレスのコントロール)についても論述する。		
成績評価の方法	期末課題レポートの成績を70%, 授業で出題する小レポートと出席状況をあわせて30%として総合的に評価する。課題レポートは, 講義内容の中から出題する。具体的な評価方法や基準は, 初回の授業で説明する。		
テキスト			
参考文献	教科書は使用しない。「複写資料教材」を適宜, 授業時に配布する。参考文献: 「トレーニングの科学的基礎, 改訂増補版」宮下充正著, ブックハウスHD。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は, 授業の中で, 適宜, 紹介する参考著書・文献を, 積極的に読むことをすすめる。		

授業科目名	体力評価実習		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面形式の実習。「体力評価実習マニュアル」を配布し、授業日程にしたがって、実習形式で実施する。受講する学生本人が被験者、実験者の両者になって実習する。毎回の実習についてレポートを提出を課す。期末に「研究発表会」を実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	健康管理, 体力, 測定評価, 筋機能, 有酸素性作業能力, 無酸素性作業能力, 形態計測, 体組成の評価, エネルギー消費の推定, 運動処方, データ解析と発表		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この実習では、健康の維持増進という観点から運動処方を作成するうえで必要となる「体力の測定・評価方法」について実習し、必要な技能を身につける。身体機能の評価項目としての、筋機能測定、有酸素性作業能力(エアロビックパワー)の測定、無酸素性作業能力(アネロビックパワー)の測定、形態計測・体組成の評価、エネルギー消費の推定などを、自らが実際に行うことにより具体的な測定手順や評価方法に関する技能を習得することを目標とする。なお、この科目は、健康科学科の専門科目「体力科学」と合わせて履修することにより、体力科学の理論と実際について理解を深めることができる。この科目は、健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されており、選択科目に位置づけられている。また、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」に位置づけられている。		
授業の内容	実習形式で、ヒトの体力の測定・評価方法を習得させる。ヒトの日常生活動作を支える身体機能の測定評価を試みるという観点から具体的項目は選定されている。項目としては、まず身体活動や動作の出力源である筋機能の測定、比較的長時間の身体活動を持続する能力としての有酸素性作業能力(エアロビックパワー)の測定、短時間の高強度の身体活動を支える無酸素性作業能力(アネロビックパワー)の測定の3項目を、基礎的な評価項目としてとりあげる。さらに、身体組成の評価法として形態計測(超音波法による四肢組織厚計測)、や日常生活の活動度評価のためのエネルギー消費の推定を項目として取りあげる。それらの測定を、受講者自らが、被験者・実験者となり、実際に測定し、具体的な測定手順や評価方法を習得する。最終的には、得られた測定データを処理・解析した上で、グループに分かれて、テーマごとにパワーポイントを使って「全体発表会」で発表する。		
成績評価の方法	実習であるので、全日程の80%の出席が単位認定の条件となる。遅刻は2回で1回の欠席とカウントされる。実習であるので、出席点を50%とし、毎回実施する課題レポートを40%、さらに、最終回に行う「全体発表会」の発表内容の評価をあわせて総合的に判定する。		
テキスト			
参考文献	担当教員作成の「体力評価実習マニュアル」を配布する。特にテキストの指定はない。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	スポーツ科学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面形式の実習。授業日程にしたがって、「ストレッチング」、「ウォーキング」、「トレーニング」、「応急処置」に関する資料を適宜配布しながら実習形式で実施する。中間と期末にレポート課題を課す。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	健康管理, トレーニング, ウォーミングアップ, クーリングダウン, ストレッチング, ウォーキング, 筋力トレーニング, スポーツ, 応急処置		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、健康の保持増進に効果的な、生活の中に取り入れることのできる体力トレーニング方について、運動の種類、強度、継続時間、および頻度を自ら設定し、実践できるようにすることを到達目標とする。この科目は1年次前期に開講されており、運動生理学・体力科学・トレーニング科学・スポーツ医学といった関連分野への興味を発展させることも目標のひとつである。この科目は、健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されており、必修科目に位置づけられている。また、管理栄養士専門科目においては、専門基礎分野の「社会・環境(人間や生活)と健康」に位置づけられている。		
授業の内容	健康の保持増進を目指した安全で効率のよい体力トレーニング方法を、生涯にわたる健康管理という認識のもとに実習させる。まず、全身持久力を高めるような有酸素性トレーニング運動の種類、強度、継続時間、および頻度についてその根拠を示しながら実習させる。具体的には、心拍数測定による運動強度評価法を習得させ、ウォーキングや各種スポーツ種目(たとえば卓球やバドミントン)実践時における運動強度の評価を行わせる。また、中高年を対象とした、筋力の維持・増進のための、筋力アップ運動の実習を行う。さらに、障害の予防のためのウォーミングアップ(ストレッチング)や疲労軽減のためのクーリングダウン、および障害発生時の応急手当(心肺蘇生法、けがの応急手当、熱中症の応急手当)の一般的な手順を、手当ての意義を理解しながら実習させる。		
成績評価の方法	実習であるので、全日程の80%の出席が単位認定の条件となる。遅刻は2回で1回の欠席にカウントされる。その上で、出席点と授業での活動状況を70%とし、2回実施する課題レポートの成績を30%(中間・期末)として総合的に判定する。		
テキスト	特にテキストの指定はない。 「ストレッチング」、「ウォーキング」、「トレーニング」、「応急処置」に関する資料を適宜配布する。		
参考文献	参考文献: 「トレーニングの科学的基礎, 改訂増補版」宮下充正著, ブックハウスHD。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	●第1回目の授業は体育館にて行う。運動のできる服装と体育館シューズを用意すること。●授業に関する連絡は、教学課の掲示によって行う。		

授業科目名	スポーツ医学		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主にビジュアル・エイド(PCプロジェクター, ビデオ映像など)を用いた講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	運動習慣, 体力, 呼吸, 循環, エネルギー代謝, 骨格筋, 自律神経, 生活習慣病, 肥満, 高脂血症, 糖尿病, 動脈硬化, 高血圧, 虚血性心疾患		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は, 「健康スポーツ科学」, 「運動生理学」ならびに「体力科学」を履修していることを前提として進める。この授業を受講することによる目標は, まず, 今日的なヒトへの予防医学方策の中で, 栄養・食品以外の生活習慣として重要な要因, 定期的な運動習慣が果たす役割について, 常に関心をもつようになることをめざす。最終的な到達目標は, 以下の授業内容で示すいくつかの生活習慣病について, 疫学, 発症メカニズム, 治療法, 運動がもたらす一次・二次予防効果, その背景にある奏功メカニズム, ならびに具体的な運動処方について理解し, 対象疾患患者あるいはその予備軍を主な対象として, それらをわかりやすく説明できるようになることである。本科目は, 健康科学科の専門科目・健康スポーツ科学分野に区分されている。一方, 管理栄養士養成施設のカリキュラムには, 専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」の規定があり, 本科目は当該分野の1科目として位置付けられている。		
授業の内容	定期的な運動習慣といった身体活動性が, 健常者と生活習慣病の有患者・予備軍の健康保持・増進に果たす役割の生理的機序について学ぶ。特に, 主な生活習慣病やその基礎疾患と身体活動性の関連を理解する上で大切な基礎的知識である運動時の呼吸循環機能について, またその統合的な指標で, 各種の現場で頻用されるVO2maxやATといった運動耐容能の指標の生理的意味についてもあわせて理解する。本講義でとりあげる生活習慣病は, 1:肥満, 2:高血圧, 3:脂質異常症, 4:糖尿病, 5:動脈硬化で, それらへの定期的な運動習慣の一次・二次予防効果を中心に, 疫学, 発症メカニズム, 治療法, 運動がもたらす効果の背景にある奏功メカニズム, ならびに具体的な運動処方について, 現時点での最新の知識を理解する。このことによって, 健康の保持・増進に果たす運動の役割に関する基礎的知識とその応用である運動処方の考え方を身に付ける。加えて, 高齢者の自立した生活に必要な体力, 運動実施時の温度や気圧といった環境要因の影響などについても学ぶ予定である。		
成績評価の方法	単元が終了するたびに提出を課すレポートの内容を, 成績評価の対象とする。すなわち, 各単元ごとのレポート評価(満点:20点×5)を基本として, 出席等の状況を加味し, 総合的な成績評価を行う。なお, 評価方法・基準の詳細は, 第一回目の授業で具体的に説明する。		
テキスト	教科書は使用しない。『複写資料教材』を適宜, 授業時に配布する。ただし, 生理学の教科書:彼末一之・能勢 博 編集『やさしい生理学』, 南江堂, 2012, は常時, 持参のこと。		
参考文献	池上晴夫 著 『スポーツ医学I-病気と運動-』, 朝倉書店, 1994。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講生が10名以下であれば, セミナー室を用いてラウンドテーブル形式の授業を行う。授業に関する連絡方法は, 正式には教務課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は, 授業の中で, 適宜, 紹介する参考著書・文献を, 積極的に読むことをすすめる。		

授業科目名	発達発育スポーツ論		
担当教員氏名(助手氏名)	辻 文		
研究室の場所	広島キャンパス 1541研究室		
オフィスアワー	※随時対応 要連絡		
授業の形式・方式	対面授業。本授業科目では、一方的な講義形式ではなく、グループにわかれて学生同士の議論や意見発表、全体で教員も含めた質疑などを行い、学生が主体的に運動・スポーツの意義について考えることを目指していきます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	年齢に応じた運動、発育発達、幼児期、高齢期、性差、環境		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①身体の形態および機能が加齢に伴ってどのように発達するのか説明できる。</p> <p>②運動・トレーニングが幼少期、青年期および中高齢期の体力にどのような影響を及ぼすのか理解するとともに、各年代に適した運動やトレーニングの内容を説明できる。</p> <p>③性別の違い(男女差)によって運動時の生理的反応やトレーニング効果がどのような影響を受けるのか説明できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>この授業科目は、健康科学科の専門科目である健康スポーツ科学分野に区分されている。</p>		
授業の内容	この授業では、ヒトが誕生し成熟するまで、どのように体格が発育し、体力や運動能力が発達していくのか、そしてその後、加齢によってどのような時間的变化(機能低下)を示すのか学修していきます。その中で、幼少期や青年期といった発達過程にはどのような運動を行うべきなのか、また、中高齢期における身体機能の低下を防ぐためにはどのような運動トレーニングが効果的なのか等について、実習を交えながら理解を深めていきます。加えて、性別(男女)や環境的な要因(環境温度や低酸素など)によって、運動中の生理的反応やトレーニング効果がどのような影響を受けるのか学修していきます。		
成績評価の方法	授業態度30%、講義中のレポート30%、期末レポート40%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	教科書なし。毎回、資料プリントを配布する。		
参考文献	体力学(中谷敏昭 編、化学同人)、年齢に応じた運動のすすめ(宮下充正、杏林書院)、健康づくりのための運動の科学(嶋木秀夫 編、化学同人)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業態度は、積極的な授業参加だけでなく、私語の抑止、携帯電話の禁止等の授業のマナーを守ることを含む。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>		

授業科目名	発達発育スポーツ論演習		
担当教員氏名(助手氏名)	辻 文		
研究室の場所	広島キャンパス 1541研究室		
オフィスアワー	※随時対応 要連絡		
授業の形式・方式	対面形式の演習授業。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	発育発達、性差、環境、温度感覚、冷え性、体温調節		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①運動・トレーニングが幼少期、青年期および中高齢期の体力にどのような影響を及ぼすのか理解するとともに、各年代に適した運動やトレーニングの内容を説明および実践できる。②性別の違い(性差)によって運動時の生理的反応やトレーニング効果がどのような影響を受けるのか説明できる。③環境的な要因(環境温度や低酸素)によって、運動中の生理的反応および知覚(感覚)反応がどのような影響を受けるのか説明できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>この授業科目は、健康科学科 専門科目の健康スポーツ科学分野に区分されている。</p>		
授業の内容	<p>この授業では、ヒトが誕生し成熟するまで、どのように体格が発育し、体力や運動能力が発達していくのか、そしてその後、加齢によってどのような時間的変化(機能低下)を示すのか学修していきます。その中で、幼少期や青年期といった発達過程にはどのような運動を行うべきなのか、中高齢期における身体機能の低下を防ぐためにはどのような運動トレーニングが効果的なのか等について、実習を交えながら理解を深めていきます。</p> <p>また、性別(男女差)によって、運動中の生理的反応やトレーニング効果がどのような影響を受けるのか学修していきます。</p> <p>さらに、環境的な要因(環境温度や低酸素など)によって運動中の生理的反応や知覚感覚(この授業では、温度感覚(暑い、寒いといった感覚)を主に取り扱う。冷え性者の特徴などについて)がどのような影響を受けるのか、実習を交えて学修していきます。</p>		
成績評価の方法	授業態度40%、講義中のレポート30%、期末レポート30%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	教科書なし。毎回、資料プリントを配布する。		
参考文献	体力学(中谷敏昭 編、化学同人)、年齢に応じた運動のすすめ(宮下充正、杏林書院)、体温Ⅱ(井上芳光、近藤徳彦 編、NAP)、スポーツ生理学(富樫健二 編、化学同人)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業態度は、積極的な授業参加だけでなく、私語の抑止、携帯電話の禁止等の授業のマナーを守ることを含む。</p> <p>この授業は後期の前半に15回分を実施する。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>		

授業科目名	基礎栄養学		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義形式で実施する。適宜、指示する課題の小テストおよびレポートを課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必須		
キーワード	栄養, 糖質, 脂質, タンパク質, 無機質, ビタミン, 水分・電解質, 摂食調節, 消化吸収, エネルギー代謝, 遺伝子		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>栄養とは、食物を摂取し、体内で消化・吸収し、代謝して、エネルギーや身体の構成成分をつくるといった現象をいう。この科目では、栄養について食品化学、生理学、生化学等の面から総合的に理解するための基礎を身につけることを目指す。適正な栄養とは何かを科学的根拠をもとに学び、栄養に関する基礎的知識を健康の維持・増進、疾病の予防・改善の活用に発展させることを目標とする。</p>		
授業の内容	<p>この科目では、基礎的知識として、栄養の概念について学び、栄養素（糖質、脂質、蛋白質、ビタミン、無機質、水・電解質）の種類・機能・代謝を理解する。消化吸収、エネルギー代謝、摂食行動について、生理学及び生化学的理解を深める。また、生活習慣病と遺伝子の関わりについて理解する。授業内容は、管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム（日本栄養改善学会）に準拠している。</p>		
成績評価の方法	<p>中間・期末試験（70%）、課題レポート（20%）、授業中の積極的な受講態度（10%）の割合で総合的に評価する。 出席が「授業時間数の3分の2に満たない者」は、原則として「評価はD」とする。</p>		
テキスト	健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 奥恒行, 柴田克己 編, 南江堂		
参考文献	基礎栄養学 飯塚美和子, 奥野和子, 保屋野美智子 編, 南山堂		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学習(予習), 事後学習(復習)をする。 2) 受講態度は、積極的な授業参加だけでなく、私語の抑止、携帯電話の禁止、教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。 3) 無断の途中退室は認めない。遅刻または無断の途中退室をした場合は3回につき欠席1回分として取り扱う。 4) 履修生の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。 		

授業科目名	栄養生化学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子 (神田 雅子, 鍛島 秀明)		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時, これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って実験形式で実施する。毎週, 実験テーマに適した課題を課し, 次週の授業開始時に課題レポートを提出させる。最終日に各テーマ毎の発表討論会を行う。学生は出席し実験に参加すること, 課題レポートを作成・提出・発表することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	人体解剖, 唾液アミラーゼ, 糖負荷試験, 基礎代謝量, 尿中成分		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 栄養学の基礎的知識を実験を通して理解することを目的としている。具体的には, 生体のエネルギー代謝, 糖代謝, タンパク質代謝について実験を行い, 得られたデータを分析し, 考察する。この実験を通して, 実験技術の習熟を図るとともに, レポート作成によって科学的根拠に基づいた論理的思考能力を身につける。実験では, 分光光度計, マイクロプレートリーダー, ダグラスバックを使用することで, それらの計測技術を身につける。		
授業の内容	人体模型(骨格, 筋肉, 臓器)のスケッチを行い, 解剖学的知識を深める。食前と食後の唾液アミラーゼ活性を測定し, 糖の分解を理解する。グループ毎にタンパク質量の異なる食事を摂取した後, 尿中成分(尿素窒素, 尿酸, クレアチニン)を測定し, タンパク質の代謝を理解する。グループ毎に塩分量の異なる食事を摂取した後, 尿中ナトリウムを測定し, ナトリウムの代謝を理解する。基礎代謝量をダグラスバックを用いて測定し, エネルギー代謝量測定の原理について理解を深める。また, テーマ毎に, 全員の実験データをまとめて発表し, 総合討論を行う。		
成績評価の方法	課題レポート(70%), 課題発表(20%), 授業中の積極的な態度(10%)の割合で総合的に評価する。 授業時間数の3分の2に満たない者は, 原則として「評価はD」とする。		
テキスト	担当教員作成の実験書を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1) 事前学習(予習), 事後学習(復習)をする。 2) 課題レポートの提出期限を厳守する。 3) 受講態度は, 積極的な授業参加だけでなく, 私語の抑止, 携帯電話の禁止, 教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。 4) 無断の途中退室は認めない。遅刻または無断の途中退室をした場合は3回につき欠席1回分として取り扱う。		

授業科目名	応用栄養学		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可。場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従いパワーポイント等のメディアを使用し、主として講義形式で授業を進めるが、演習形式で行う場合もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	ライフステージ、乳児、児童、成人、高齢者、食事		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	栄養管理を行う場合には、その対象者は乳幼児から高齢者まで幅広い。本科目においては、その幅広い年齢の者を対象に、生活習慣病予防の観点から授業を進める。管理栄養士養成施設カリキュラムでは、専門科目「応用栄養学」に位置づけられる。		
授業の内容	妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解することにより、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の基本的考え方を修得する。また、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について理解する。		
成績評価の方法	期末試験80%、出席、小テスト、レポートで 20%の割合で評価する。		
テキスト	教科書：栄養科学イラストレッド 応用栄養学 羊土社		
参考文献	参考書：厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	ライフステージ栄養学		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義形式で実施する。適宜、指示する課題のレポートを課す。一部、集中授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	ライフステージ, 妊娠期, 授乳期, 新生児期, 乳児期, 成長期, 成人期, 更年期, 高齢期, 運動, ストレス, 特殊環境		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生涯を通して適切な栄養を摂取するためには、各ライフステージに沿った栄養管理（栄養ケア・マネジメント）が必要である。この科目では、ライフステージごとの人体の構造や機能、栄養状態、心身機能といった特性について理解し、対象者に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方を学ぶことを目標とする。健康維持・増進および疾病予防のために、食事摂取基準に基づいた各ライフステージにおける食事改善の方法を修得する。		
授業の内容	この科目では、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、成長期、成人期、更年期、高齢期の身体的・生理的特性について理解し、それぞれの特性に望ましい栄養ケア・マネジメントの具体的な方法について学ぶ。また、応用的知識として、運動時、ストレスおよび特殊環境下での生理的特徴や栄養ケア・マネジメントについて学ぶ。授業内容は、管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム（日本栄養改善学会）に準拠している。		
成績評価の方法	期末試験（70%）、課題発表（20%）、積極的な受講態度（10%）の割合で総合的に評価する。 授業時間数の3分の2に満たない者は、原則として「評価はD」とする。		
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 羊土社 複写資料教材等を適宜、授業時に配布する。		
参考文献	日本人の食事摂取基準 2015年版（厚生労働省） その他、授業内で提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1) 事前学習(予習)、事後学習(復習)をする。 2) 受講態度は、積極的な授業参加だけでなく、私語の抑止、携帯電話の禁止、教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。 3) 無断の途中退室は認めない。遅刻または無断の途中退室をした場合は3回につき欠席1回分として取り扱う。 4) 途中で理解度を確保するための小テストを数回行う。小テストの結果は、成績には反映しない。小テストは結果を返却後、必ず復習を行うこと。 5) 履修生の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。		

授業科目名	スポーツ栄養科学		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義形式で実施する。適宜、指示する課題のレポートを課す。一部、集中授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必須		
キーワード	栄養素, エネルギー代謝, 運動時の生理応答, トレーニング, 運動時の栄養補給		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生活習慣病の予防・改善, 健康維持・増進及びスポーツ競技力を高めるためには, 適切な運動・栄養・休養が欠かせない。スポーツ栄養科学を理解するためには, 運動と栄養, 双方の基礎的知識が必須である。この科目では, 運動と栄養の関係について, 運動生理学, トレーニング科学, スポーツ医学, 栄養学の基礎的知識を深め, 応用知識や実践技術として, 健康増進とスポーツ競技力向上のための栄養に関する知識を修得する。この科目では, 健康づくりのための運動指導からスポーツ選手の競技現場まで, 幅広く活用できるスポーツ栄養科学を科学的根拠に基づいて学ぶことを目標とする。		
授業の内容	この科目では, 基礎的知識として, 栄養素の種類・機能・代謝, エネルギー代謝, 運動時の生理的特徴, 特殊環境下の生理的特徴について理解を深める。また, 応用的知識として, 運動時の栄養補給(糖質, 脂質, 蛋白質, ビタミン及び無機質の摂取), 運動時の水分補給, サプリメントとエルゴジェニックエイド, 試合前後及びトレーニング期の食事について学ぶ。授業内容は, 管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム(日本栄養改善学会)に準拠している。		
成績評価の方法	期末試験(80%), 課題レポート(10%), 受講態度(10%)の割合で総合的に評価する。 授業時間数の3分の2に満たない者は, 原則として「評価はD」とする。		
テキスト	複写資料教材等を適宜, 授業時に配布する。		
参考文献	改訂 環境・スポーツ栄養学 金子佳代子, 高田和子 編, 建帛社 スポーツと健康の栄養学 下村吉治 著, NAP 基礎栄養学 奥恒行, 柴田克己 編, 南江堂 新版 コンディショニングのスポーツ栄養学 樋口満 編, 市村出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1) 事前学習(予習), 事後学習(復習)をする。 2) 受講態度は, 積極的な授業参加だけでなく, 私語の抑止, 携帯電話の禁止, 教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。 3) 無断の途中退室は認めない。遅刻または無断の途中退室をした場合は3回につき欠席1回分として取り扱う。 4) 履修生の理解度に応じて, 15回の授業計画の内容を若干変更することがある。		

授業科目名	健康栄養学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子 (神田 雅子, 山縣 誉志江)		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時, これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って実習形式で実施する。グループあるいは個人毎に実習テーマに適した課題を課し, レポートを作成し, 発表する。学生は出席し実習に参加すること, 課題レポートを作成・発表・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必須		
キーワード	妊娠期, 乳児期, 幼児期, 学童期, 成人期, 高齢期, 運動・スポーツ時		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	乳幼児から高齢者までのライフステージの特性を理解し, 対象者の性, 年齢, 生活・健康状態等に応じた適切な栄養管理(栄養ケア・マネジメント)能力の習得を目標とする。		
授業の内容	乳児期, 妊娠期, 乳児期, 幼児期, 学童期, 成人期, 高齢期, 運動・スポーツ時の栄養について, ケースをもとに, 栄養アセスメントの内容を評価し, 対象者の問題点について, 改善目標とケアプランを作成する。また, 対象者の食事記録をもとに対象者に提案する食事プランを考える。上記のライフステージごとに作成した栄養ケア・マネジメントについてグループ毎に発表し, 発表をもとに討論を行う。作成した基本献立をグループ単位で実習し, 試食, 評価を行う。これらの実習を通して, 各ライフステージに適切な栄養管理について理解を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(60%), 課題発表(30%), 授業中の積極的な態度(10%)の割合で総合的に評価する。 授業時間数の3分の2に満たない者は, 原則として「評価はD」とする。		
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 羊土社 担当教員作成の実習書を配布する。		
参考文献	日本人の食事摂取基準 2015版(厚生労働省)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1) 事前学習(予習), 事後学習(復習)をする。 2) 課題レポートの提出期限を厳守する。 3) 受講態度は, 積極的な授業参加だけでなく, 私語の抑止, 携帯電話の禁止, 教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。 4) 無断の途中退室は認めない。遅刻または無断の途中退室をした場合は3回につき欠席1回分として取り扱う。		

授業科目名	臨床栄養学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	神原 知佐子		
研究室の場所	1447		
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章の事項について講義形式および演習形式で実施する。1回の講義（2時間）について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。各時間のテーマに関連し、レポート（宿題）の課題を適宜提示し、作成・提出させる。グループ単位で課題検討を行い、発表する形式を併用する。学生は授業に出席すること、レポート課題を作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養評価、栄養管理計画、経口栄養法、経腸栄養法、経静脈栄養法、食品と医薬品の相互作用、臨床検査		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床現場での栄養管理は、入院期間短縮、合併症軽減、予後改善に貢献できることから、高度な医療にとって、また傷病者のQOLを高めるために特に重要である。本科目では、医療人として社会に貢献するために必要な心構え、チーム医療の一員としての管理栄養士の位置づけおよび役割について理解する。さらに、栄養状態の評価・判定、栄養管理を行うために必要な基本的知識を習得することを目標とする。本科目は管理栄養士養成施設のカリキュラムの専門分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	病態の理解に基づく栄養療法を行う上で必要な基礎知識について学ぶ。臨床栄養学の意義と医療人としての心構え、他職種との連携（チーム医療）および管理栄養士の役割について理解する。栄養状態を評価するために必要な臨床診察、臨床検査、身体計測、食事調査について理解する。適切な栄養管理を行う手順（栄養ケアプランの作成・実施・評価）と考え方について理解する。栄養補給法の選択方法や特徴について理解する。食品と医薬品の相互作用について理解する。		
成績評価の方法	受講態度20%、課題発表・レポート提出30%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。レポート（宿題）の課題を適宜提示し、その都度、提出期限を設定するので、同期限を厳守すること。レポートは、A4用紙で3枚程度にまとめること。期末試験を解答時間90分で行う。指定された教室（試験室）内で、持ち込み不可で実施する。		
テキスト	エッセンシャル臨床栄養学 第7版 佐藤和人ら編、医歯薬出版（2014）		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書を精読して授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	臨床栄養学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	神原 知佐子		
研究室の場所	1447		
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章の事項について講義形式および演習形式で実施する。1回の講義（2時間）について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。各時間のテーマに関連し、レポート（宿題）の課題を適宜提示し、作成・提出させる。グループ単位で課題検討を行い、発表する形式を併用する。学生は授業に出席すること、レポート課題を作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	病態、診療ガイドライン、栄養食事療法、代謝疾患、胃・腸疾患、肝・胆・膵臓疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、腎臓疾患、栄養障害、小児疾患、高齢者疾患		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床現場での栄養管理は、入院期間短縮、合併症軽減、予後改善に貢献できることから、高度な医療にとって、また傷病者のQOLを高めるために特に重要である。本科目では、食事療法が必要となる疾病について、疾病の定義、病因、病態、症状、診断、治療法について理解し、病態の理解に基づく栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養食事指導、モニタリング・評価の方法を習得することを目標とする。本科目は管理栄養士養成施設のカリキュラムの専門分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	栄養障害、消化器疾患、内分泌・代謝性疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、腎臓疾患等の病態や症状、経過および栄養評価、栄養管理について学ぶ。各疾患の原因や背景を理解する。症状や病態を総合的に理解する。適切な治療が施されない場合の経過や合併症について理解する。診療ガイドラインに基づく治療・予防法の意義と手法を理解する。栄養学的観点から病態を分析し、実践に活用できる総合知識を習得する。		
成績評価の方法	受講態度20%、課題発表・レポート提出30%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。レポート（宿題）の課題を適宜提示し、その都度、提出期限を設定するので、同期限を厳守すること。レポートは、A4用紙で3枚程度にまとめること。期末試験を解答時間90分で行う。指定された教室（試験室）内で、持ち込み不可で実施する。		
テキスト	エッセンシャル臨床栄養学 第7版 佐藤和人ら編、医歯薬出版（2014）		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書を精読して授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	臨床栄養アセスメント		
担当教員氏名(助手氏名)	神原 知佐子		
研究室の場所	広島キャンパス 1447研究室		
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章の事項について講義形式および演習形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。グループ単位で具体的な症例の検討を行い、課題発表する形式を併用する。症例検討に対する事前学習・事後学習をレポート形式で作成し、期限内に提出させる。学生は授業に出席すること、レポート課題を作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、摂取量、身体計測、臨床検査、身体所見、既往歴、必要栄養量算定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	管理栄養士の実践活動としてもっとも重要なものが栄養ケア・マネジメントであり、いま管理栄養士に求められている能力は栄養ケア・マネジメントの計画・実行がしっかりとできることである。栄養アセスメントは適切な栄養ケア・マネジメントを行ううえで最も重要で不可欠な一過程である。本科目では栄養アセスメントの方法について理解し、摂取量、身体計測、臨床検査、身体所見、既往歴等の情報を収集・整理することにより的確な栄養アセスメントが行える能力を身につけることを目標とする。本科目は管理栄養士養成施設のカリキュラムの専門分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	各疾患の症例を基に、摂取量、身体計測、臨床検査、身体所見、既往歴等の情報を収集・整理することにより、栄養状態を的確に評価・判定し、適正な栄養管理計画および対象者自らが実践出来るような支援計画を立案するプロセスを学ぶ。		
成績評価の方法	受講態度20%、課題発表・レポート提出50%、期末試験30%の割合で総合的に評価する。レポートの課題を適宜提示し、その都度、提出期限を設定するので、同期限を厳守すること。期末試験を解答時間90分で行う。指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。		
テキスト	臨床栄養学実習書 第11版、玉川 和子ら編、医歯薬出版(2013)		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、事前学習・事後学習して授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	病態別栄養マネジメント		
担当教員氏名(助手氏名)	神原 知佐子, 天野 純子, 伊藤 圭子		
研究室の場所	広島キャンパス 1447研究室		
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章の事項について講義形式および演習形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。グループ単位で具体的な症例の検討を行い、課題発表する形式を併用する。症例検討に対する事前学習・事後学習をレポート形式で作成し、期限内に提出させる。学生は授業に出席すること、レポート課題を作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養マネジメント、診療録(カルテ)、カンファレンス、栄養指導、チーム医療、NST、クリティカルパス、症例検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	管理栄養士の実践活動としてもっとも重要なものが栄養ケア・マネジメントであり、いま管理栄養士に求められている能力は栄養ケア・マネジメントの計画・実行がしっかりとできることである。本科目では、傷病者の身体状況・病態、薬剤の服薬状況、摂食機能や要介護度等を含めた身体状況、生活・居住環境、およびその栄養状態のアセスメントに基づいた栄養ケアプランを作成・実施・モニタリング・評価し、それに基づいた栄養補給、栄養教育を関連専門職との連携の下に行う能力を身につけることを目標とする。本科目は管理栄養士養成施設のカリキュラムの専門分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	各疾患の症例を基に、診療録(カルテ)の見方・書き方、カンファレンス、栄養指導、他職種との連携など管理栄養士が臨床業務を行う上で必要となる専門的知識および実践的技術を習得する。		
成績評価の方法	受講態度20%、課題発表・レポート提出50%、期末試験30%の割合で総合的に評価する。レポートの課題を適宜提示し、その都度、提出期限を設定するので、同期限を厳守すること。期末試験を解答時間90分で行う。指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。		
テキスト			
参考文献	病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック、日本病態栄養学会編、メディカルレビュー社(2014)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、事前学習・事後学習して授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	臨床栄養学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	神原 知佐子 (佐野 尚美)		
研究室の場所	広島キャンパス 1447研究室 1447		
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、実験・実習形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。グループ単位で実験・実習を行い、各テーマ毎にレポート作成し、期限内に提出させる。グループあるいは個人毎に課題発表する形式を併用する。学生は授業に出席すること、レポート課題を作成・提出・発表することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養アセスメント、栄養管理計画、栄養マネジメント、診療録(カルテ)、カンファレンス、栄養指導、チーム医療、NST、クリティカルパス、症例検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	臨床栄養管理の一連の流れを理解し、傷病者の病態や栄養状態、摂食機能等に応じた適切な栄養管理計画、献立作成、実現可能な栄養指導が行える実践的な能力と技術を習得する。臨床栄養管理に携わるチーム医療の一員として、管理栄養士に必要な総合的な専門的知識と実践的技術を養うことを目標とする。本科目は管理栄養士養成施設のカリキュラムの専門分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	栄養アセスメントによる具体的な栄養ケアプランを作成する。各種疾患に応じた食事計画(治療食の献立作成や食品選択)の立案、栄養指導媒体作成、栄養指導ロールプレイングを実習する。栄養指導報告書を診療録に記載する技能を身につける。		
成績評価の方法	実験・実習への取り組み40%、課題発表・レポート提出60%の割合で総合的に評価する。レポートは授業内で提出期限を設定するので、同期限を厳守すること。		
テキスト	臨床栄養学実習書 第11版、玉川 和子ら編、医歯薬出版(2013)		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、事前学習・事後学習してに臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	臨床栄養アセスメント実習		
担当教員氏名(助手氏名)	神原 知佐子 (佐野 尚美)		
研究室の場所	広島キャンパス 1447研究室		
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、実験・実習形式で実施する。1回の講義（2時間）について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。グループ単位で実験・実習を行い、各テーマ毎にレポート作成し、期限内に提出させる。グループあるいは個人毎に課題発表する形式を併用する。学生は授業に出席すること、レポート課題を作成・提出・発表することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養評価、栄養管理計画、摂取量、身体計測、臨床検査、身体所見、既往歴、必要栄養量算定、経静脈栄養法、経腸栄養法、経口栄養法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床栄養管理の一連の流れを理解し、傷病者の病態や栄養状態、摂食機能等に応じた適切な栄養管理計画、献立作成、実現可能な栄養指導が行える実践的な能力と技術を習得する。臨床栄養管理に携わるチーム医療の一員として、管理栄養士に必要な総合的な専門的知識と実践的技術を養うことを目標とする。本科目では本科目は管理栄養士養成施設のカリキュラムの専門分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	栄養アセスメントの指標として用いられる身体計測、食事摂取量（食事調査）、臨床検査等について計測方法、調査方法の実践的技術を習得する。経静脈栄養法、経腸栄養法、経口栄養法の手法を理解し、各栄養補給法の適応、合併症とその対策への技能を身につける。形態別治療食について理解する。		
成績評価の方法	実験・実習への取り組み40%、課題発表・レポート提出60%の割合で総合的に評価する。レポートは授業内で提出期限を設定するので、同期限を厳守すること		
テキスト	臨床栄養学実習書 第11版、玉川 和子ら編、医歯薬出版（2013）		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、事前学習・事後学習してに臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	臨床栄養臨地実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	施設（病院）における実習。施設での実習期間は1週間（40時間）であり、給食経営管理臨地実習 I，臨床栄養臨地実習 II とあわせて3週間（120時間）の実習期間とする。施設では、自らの学習目標を明確にした上で、施設の指導担当者の指示に従って実習する。		
単位数(時間数)	1単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 4年次対象（備考欄参照）		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	臨床栄養，栄養管理，栄養教育，栄養スクリーニング，栄養アセスメント，栄養ケアプラン，栄養ケア記録，チーム医療，カンファレンス，クリニカルパス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：病院における栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価についての総合的なマネジメント，チーム医療における管理栄養士の役割などの実際を学習し，傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理に必要な専門的知識及び技能を修得する。本実習は栄養士・管理栄養士の役割や業務について理解を深め，実践活動の場での課題発見，解決を通して専門知識および技術の統合を図ることを目的とする。</p> <p>カリキュラム上の位置付け：本科目は，管理栄養士養成施設の臨地実習4単位のうち，「臨床栄養学」に係る臨地実習1単位に位置付けられる。</p>		
授業の内容	<p>実践活動の場で専門知識および技術の統合を図る。施設の状況に応じて，指導担当者の指示に従った内容となるため，学内において専門領域の基礎的な知識・技術・態度を身につけ，目標を明確にしておくことが重要である。具体的には，以下の事項を参考に，個人およびグループで目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 診療科やベッドサイドへの訪問・患者対応 (2) 外来・入院患者を対象とした栄養・食事指導（集団および個別）の実際 (3) カルテの閲覧，栄養問題の実際 (4) 栄養アセスメントの実施，栄養ケアプランの立案，クリニカルパスの実際 (5) カンファレンス，病棟回診への参加，チーム医療における他職種との連携（栄養サポートチームの実際） (6) 栄養管理計画書および報告書の実際 		
成績評価の方法	事前学習，実習状況，事後学習，実習記録，実習報告などにより，総合的に評価する。		
テキスト	「臨地・校外実習の手引き」，「臨地実習記録」を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本臨地実習を履修するためには，原則として，教育課程表で当該科目の前の学期までに配当されている，管理栄養士免許必修科目をすべて履修していること。また，臨地実習の事前事後指導に関する科目「総合演習」，「健康科学総合演習」を履修していること。		

授業科目名	臨床栄養臨地実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	神原 知佐子 (佐野 尚美, 山縣 誉志江)		
研究室の場所	広島キャンパス 1447研究室		
オフィスアワー	在室時いつでも可 (事前連絡を望む)。		
授業の形式・方式	施設(病院)における実習。施設での実習期間は1週間(40時間)であり、給食経営管理臨地実習Ⅰ、臨床栄養臨地実習Ⅰとあわせて3週間(120時間)の実習期間とする。施設では、自らの学習目標を明確にした上で、施設の指導担当者の指示に従って実習する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 4年次対象(備考欄参照)		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	臨床栄養, 栄養管理, 栄養教育, 栄養スクリーニング, 栄養アセスメント, 栄養ケアプラン, 栄養ケア記録, チーム医療, カンファレンス, クリニカルパス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標: 病院における栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価についての総合的なマネジメント, チーム医療における管理栄養士の役割などの実習を学習し, 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理に必要な専門的知識及び技能を修得する。本実習は栄養士・管理栄養士の役割や業務について理解を深め, 実践活動の場での課題発見, 解決を通して専門知識および技術の統合を図ることを目的とする。</p> <p>カリキュラム上の位置付け: 本科目は, 管理栄養士養成施設の臨地実習4単位のうち, 「臨床栄養学」に係る臨地実習1単位に位置付けられる。</p>		
授業の内容	<p>実践活動の場で専門知識および技術の統合を図る。施設の状況に応じて, 指導担当者の指示に従った内容となるため, 学内において専門領域の基礎的な知識・技術・態度を身につけ, 目標を明確にしておくことが重要である。具体的には, 以下の事項を参考に, 個人およびグループで目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 診療科やベッドサイドへの訪問・患者対応 (2) 外来・入院患者を対象とした栄養・食事指導(集団および個別)の実際 (3) カルテの閲覧, 栄養問題の実際 (4) 栄養アセスメントの実施, 栄養ケアプランの立案, クリニカルパスの実際 (5) カンファレンス, 病棟回診への参加, チーム医療における他職種との連携(栄養サポートチームの実際) (6) 栄養管理計画書および報告書の実際 		
成績評価の方法	事前学習, 実習状況, 事後状況, 実習記録, 実習報告等により総合的に評価する。		
テキスト	「臨地・校外実習の手引き」「臨地実習記録」を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本臨地実習を履修するためには, 原則として, 教育課程表で当該科目の前の学期までに配当されている, 管理栄養士免許必修科目をすべて履修していること。また, 臨地実習の事前事後指導に関する科目「総合演習」, 「健康科学総合演習」を履修していること。		

授業科目名	食品学		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。可能な限り対応します。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週コメントシートを課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食品成分、食品の物性、成分変化、食品成分表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	管理栄養士として必要となる食品学の基礎的知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)食と生活の関わりについて説明できる。(2)食品成分(嗜好成分を含む)および食品の物性について説明できる。(3)食品成分の変化について説明できる。本科目は、健康科学科の専門科目・栄養・食品科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	食と生活、食品の分類、日本食品標準成分表、食品成分(水分、炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質)、食品の色、味、香り、食品の物性、食品成分の変化について解説する。		
成績評価の方法	期末試験(40%)、中間試験(40%)、レポート・コメントシート(20%)の結果に基づいて総合的に評価される。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。中間試験・期末試験は指定された試験日の授業時間(60分)内で実施する。		
テキスト	「食品学-食品成分と機能性」東京化学同人ISBN:978-4-8079-1606-1		
参考文献	「食品学-食品成分と機能性-第2版補訂」東京化学同人 ISBN:978-4-8079-1606-1 『食品加工貯蔵学 第2版』東京化学同人 ISBN:978-4-8079-1605-4		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。 授業に関する連絡は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	食品学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、実験形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習2時間を想定した授業を行う。定期的の実験テーマに適した課題を課し、提出させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食品分析法、栄養素、機器分析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>管理栄養士として、食品学を実験を通して理解する上で必要となる基礎的な知識・態度・技能を身につけことを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1) 実験器具や化学薬品の取り扱いなど基礎的な実験操作ができる。(2) 食品に含まれる成分および栄養素についての定量および定性分析ができる。(3) 成分分析の結果や食品成分の加工・貯蔵中の変化など食に関わる諸現象を考察できる。本科目は、健康科学科の専門科目・栄養・食品科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>実験器具や化学薬品の取り扱いなど基礎的な実験操作について解説する。実験データのみかたやレポートの書き方についても解説する。実験に必要な試薬の調製を行う。食品を試料として、水分、タンパク質、炭水化物、脂質、灰分など一般成分の分析を行う。また、食品成分の貯蔵加工中の変化についての実験を行う。</p>		
成績評価の方法	コメントシート(60%) およびレポート(40%) に基づいて総合的に評価する。		
テキスト	『わかりやすい基礎と機能性分析法 アイ・ケイコーポレーション』 ISBN:978-4-87492-330-6 『プリント』		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>レポートは、目的、実験方法、結果、考察、参考文献の順にまとめる。履修者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。</p>		

授業科目名	食品加工学		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義（2時間）について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週コメントシートを課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食品加工法、食品の保存法、加工食品の規格・表示		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>管理栄養士として必要となる食品加工の基礎的知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。（1）食品加工の目的について説明できる。（2）原料の食品加工特性や加工方法を説明できる。（3）食品の保存方法の原理について説明できる。（4）食品の規格・表示について説明できる。本科目は、健康科学科の専門科目・栄養・食品科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	食品加工の目的、意義、原理、農産食品の加工、水畜産食品の加工、畜産食品の加工、油脂およびその加工品、発酵食品の製造、食品貯蔵の原理、包装、加工食品の表示・規格について解説する。		
成績評価の方法	期末試験（40%）、中間試験（40%）、コメントシート（20%）の結果に基づいて総合的に評価される。試験は指定された教室（試験室）内で、持ち込み不可で実施する。中間および期末試験は指定された試験日の授業時間（60分）内で実施する。		
テキスト	『食品加工貯蔵学 第2版』東京化学同人 ISBN：978-4-8079-1605-4		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	食品加工学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島 キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面授業。プリント配布、説明後、実験を行う。毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の月曜授業開始前に提出させる。学生は、授業に出席すること、宿題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食品加工、嗜好性、衛生管理、貯蔵性、生産性、クックチルシステム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本実験では、食品の加工過程における成分変化や現象を理解し、その制御に視点をおいた加工工程を構築する能力を備えることを目的とする。貯蔵性を目的とした伝統的な食品加工、および、生産性を目的としたクックチルシステムなどの仕組みを学ぶ。本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門基礎分野の教育内容である「食べ物と健康」の1つの科目として位置づけられている。また、健康の維持増進並びに疾病予防に係わる栄養と食品について、新たな課題を発見し問題解決に向けて学究的に取り組む態度を養う科目である。		
授業の内容	食品を安全で、かつ、おいしくすることが加工調理であり、さらに、貯蔵性や生産性が加工には求められる。本実験では、一人ひとりのおいしさが異なることを理解した上で、加工工程を科学的に解析し、制御する視点を養う。また、導きだした加工理論・加工技術を、「食べる」目的にあわせて応用する力を身につける。なお、可能な限り「大量調理施設衛生管理マニュアル(HACCP)」に基づいて加工操作を行う。具体的な実験内容は以下のとおりである。①官能検査、②炊飯・だし・梅干し、③パン・ジャム・あん、④ケーキ、⑤ゼリー、⑥餅・団子、⑦魚の酢じめ・真薯、⑧豆腐、クックチルシステム		
成績評価の方法	実験への取り組み(レポート課題を含む)で評価する。 レポート(宿題)の課題は1回目の授業で提示する。各レポートの提出期限は、原則として、次週月曜の授業開始前とし、提出期限に遅れた場合は受け付けない。		
テキスト	テキスト：プリント配布		
参考文献	食品加工貯蔵学(東京化学同人)、調理と理論(同文書院)、大量調理施設衛生管理マニュアル・中小規模調理施設における衛生管理の徹底について(厚生労働省HP)、学校給食衛生管理の基準(文部科学省HP)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、プリント、教科書を精読し授業に臨むこと。さらに、「大量調理施設衛生管理マニュアル」も精読のこと。実験にあたっては専用の白衣、エプロン、帽子、調理用シューズ、包丁、爪ブラシ等の購入が必要となるため、事前に指示する。これらは調理科学実験など調理を伴う他の実験実習・臨地実習においても使用する。		

授業科目名	食品衛生学		
担当教員氏名(助手氏名)	多山 賢二 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	<p>対面授業。授業日程に従い、主に下記の教科書の各章の大切な事項について講義形式で実施する。理解度を測りながら(毎回5分程度、過去の授業について問答形式で復習し)講義を進める。授業1回(2時間)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。数回レポート課題を課し、提出させる。このことにより、より理解が深まり、記憶に残る。また、時々、講義内容にかかわるトピックスを紹介し、興味を持たせる。学生は、授業に出席し、レポート課題を作成・提出し、試験を受けることが義務付けられる。</p>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食の安全, 食中毒, 食品添加物, 環境汚染物質, 農薬, 食中毒細菌, アフラトキシン, アレルギー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>食品及びその流通の多様化, さらには食糧輸入の自由化など, 食を巡る状況は, めまぐるしく変化している。なくなることはない食中毒事件や食品汚染問題, 輸入食品に対する安全性の問題, ポジティブリスト制導入や食品表示は食品衛生の中心的な課題や制度であり, かつ国民の健康を守るために保健衛生上重要である。本授業の目標は, 上記の課題や制度に充分対処できるよう基本的な事柄について講述する。また, BSEや内分泌攪乱物質に端を発して重要になり, 2011年の東日本大震災で発生した放射能汚染で再び注目されている「食とリスク」についても理解が深まることを目標とする。食品衛生学の知識は健康を科学する上でも重要であり, また管理栄養士課程カリキュラムの「食べ物と健康」分野で主要な項目となっている。</p>		
授業の内容	<p>①食品衛生学の学問上の位置, 食品行政・食品衛生法・輸入食品の問題(コーデックス委員会を含む)について概観し, 安全性ということに関して, 昨今重要になってきた「食と安全」をリスク分析から講述する。 ②食品と微生物・寄生虫について説明し, 食中毒菌の性質を知る。あわせて, 食中毒の予防対策(HACCPを含む)について考える。 ③食品中の天然有害物質とその毒作用について, ④食品添加物の種類や役割について, ⑤食品汚染物質(重金属, 放射性物質, 洗剤, 家畜飼料と抗生物質)とその経路について知る。 ⑥農薬や遺伝子組み換え食品についても共に考えたい。</p> <p>教科書の内容を全て講義するわけではないので, 講義で触れなかった箇所は自学自習のこと。知っておいた方がいい箇所は説明する。レポート課題は講義や教科書に沿った重要とおもわれるポイントであるので, 自分で調べ, まとめた上で提出のこと。一つの資料を単に丸写しするだけでは無意味である。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験80%, レポート課題20%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で, 持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート課題と提出期限は適宜提示する。レポートはA4サイズ(縦長で使用)を用い, 横書きで手書きすること。期末試験はレポート課題も含めて問題を作成し試験する。学生の授業態度によっては, 中間試験を行う場合もありうる(その場合は, 中間試験20%, 期末試験60%へ変更)。</p>		
テキスト	食品衛生学 ”新スタンダード栄養・食物シリーズ” (東京化学同人) 一色賢治編		
参考文献	<p>a. 授業での配布資料 b. 日本食品微生物学会雑誌”</p>		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>自分で教科書や参考書などを読んで欲しい。学問が高度化する中, 教員が知っているのは限られた領域であり, 教員は単なる案内役でしかない。疑問に思ったところを, 自学自習してこそ大学での勉強である。また履修予定者は, 授業の前に教科書に目を通して欲しい。授業に関する連絡は, 授業中の連絡によって行う。宿題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	食品衛生学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、実験形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習2時間を想定した授業を行う。定期的の実験テーマに適した課題を課し、提出させる。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食品微生物、食品分析、食品衛生		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	管理栄養士として、食品学を実験を通して理解する上で必要となる基礎的な知識・態度・技能を身につけことを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)微生物に関する基礎的な実験操作ができる。(2)保存料や着色料についての定量および定性分析ができる。(3)成分分析の結果や食品成分の加工・貯蔵中の変化の中で食品衛生に関わる諸現象を考察できる。本科目は、健康科学科の専門科目・栄養・食品科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	微生物の取り扱い方やグラム染色を学ぶ。食品中の保存料や着色料についての定量および定性分析を行う。この中で有機溶媒の取り扱い、水蒸気蒸留法、クロマトグラフの原理および機器分析法を学ぶ。		
成績評価の方法	コメントシート(60%)およびレポート(40%)に基づいて評価する。		
テキスト	1. 『図解 食品衛生学実験 第3版』978-4-06-139836-8 2. 『プリント』を授業開始時に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	レポートは、目的、実験方法、結果、考察、参考文献の順にまとめる。履修予定者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	食品化学		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	対面授業および演習授業。 授業日程に従って、講義形式（6回）と演習授業（9回）で実施する。1回の講義（2時間）について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週コメントシートを課し、指定した日時までに提出する。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食品化学, 食品機能, 化学・生化学変化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>管理栄養士として必要となる食品化学の知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてである。（1）食品および食品の加工・貯蔵中における化学的、生化学的変化について説明できる。（2）食品の3次機能について化学的に説明できる。（3）特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品、健康食品について説明できる。（4）食品成分の化学分析法について説明できる。（5）食品化学に関する内容について発表し、質問に対して自分の意見を述べることができる。</p> <p>本科目は、健康科学科の専門科目・栄養・食品科学分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の科目の一つとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>対面授業では、食品成分の化学、食品の加工・貯蔵中における科学的、生化学的変化、食品機能化学、特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品、健康食品、食品成分の化学分析法について解説する。演習授業については、食品化学に関する内容について調べ学習を行い、発表する。</p>		
成績評価の方法	<p>中間試験（40%）、期末試験（30%）、発表および質疑応答、コメントシート（20%）の結果に基づいて総合的に評価される。中間および期末試験は指定された試験日の授業時間（60分）内で実施する。</p>		
テキスト	<p>『食品学・食品機能学』朝倉書店 『図解 食品衛生学実験 第3版』 『食品加工貯蔵学 第2版』東京化学同人</p>		
参考文献	<p>『新しい食品化学』三共出版 『わかりやすい食品化学』三共出版</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>履修予定者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。</p>		

授業科目名	調理学		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島 キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章の事項について講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席すること、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	調理、食事、日本食品標準成分表、献立、嗜好性、テクスチャー、レオロジー、調理操作、調理器具、植物性食品、動物性食品、成分抽出素材		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、学生が修得した授業内容を食事(献立作成)に表現できる能力を備えることを最終目的とする。そのために、食品の特性を理解した学生を対象にして、調理過程でおこる現象とその制御方法を理解させる。また、「食べること」の意味を考える。本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門基礎分野の教育内容である「食べ物と健康」の1つの科目として位置づけられている。また、健康の維持増進並びに疾病予防に係わる栄養と食品について専門的知識を養う科目である。		
授業の内容	生体内の栄養状態を適正に保つために必要な「栄養成分」を食事としておいしく提供しなければならない。しかしながら、食生活の原点である「おいしさ」は、かなり広範囲な研究領域を同時に含むために、調理過程におこる諸問題を科学的に理解することは困難であり、そのためには、基礎的な調理学の理解と関連分野における新しい知見を理解しようという意識が必須条件となる。本講では、食品の備えている特性が、調理過程において理化学的、組織学的、物性学的にどのように変化するかを対象とし、調理の目的、すなわち「おいしさ」を達成させるためにはどうしたらよいのかを、味覚の計量方法を理解するとともに考究する。		
成績評価の方法	期末試験70%、課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題および提出期限は授業時に提示し、提出期限に遅れた場合は受け付けない。食事設計(献立作成)に係わるレポートはパソコン(表計算ソフト)を使用して作成すること。期末試験は、講義から問題を作成し試問する。		
テキスト	調理学(朝倉書店)、調理と理論(同文書院)、食品成分表(女子栄養大)、調理の基礎とサイエンス(学際企画)		
参考文献	授業内で提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、テキストを精読し授業に臨むこと。また、これまで調理経験の少ない者はテキストに示された調理過程における食品成分やテクスチャーの変化等を理解することが困難であるため、日常生活の中で調理経験を積んでおくこと。複合性が調理学の最大の特質であり、その理解のために様々な分野に対する理解と探究を望みます。		

授業科目名	調理科学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島 キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面授業。プリント配布、実演後、調理を行う。毎週宿題（レポート課題）を課し、次週の月曜授業開始前に提出させる。学生は、授業に出席すること、宿題のレポートを作成・提出すること、実技試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	調理、食事、日本食品標準成分表、献立、嗜好性、調理理論、調理操作、調理器具、衛生管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、食品の調理過程における成分変化や現象を系統化し、その制御に視点をおいた調理工程に基づいて食事（料理）を作成する能力を備えることを目的とする。本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門基礎分野の教育内容である「食べ物と健康」の1つの科目として位置づけられている。また、健康の維持増進並びに疾病予防に係わる栄養と食品について、新たな課題を発見し問題解決に向けて学究的に取り組む態度を養う科目である。		
授業の内容	おいしく調理する技術は経験によって体得されるものであり、調理理論に裏打ちされている。本実験では、おいしさの構成要素を理解した上で、さまざまな要因が錯綜している調理工程を解析する科学的・分析的視点を養う。また、導きだした調理理論を多様な食材を対象として実践できる力を身につける。また、食中毒へのリスク対策として可能な限り「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づいて調理操作を行う。		
成績評価の方法	課題レポート（宿題）80%、期末試験（実技試験）20%の割合で評価する。レポート（宿題）の課題は1回目の授業で提示する。各レポートの提出期限は、原則として、次回授業時間の開始時とする。実技試験の実施日については授業内で指示する。		
テキスト	プリント配布、調理と理論（同文書院）、食品成分表（女子栄養大）、調理の基礎とサイエンス（学際企画）		
参考文献	大量調理施設衛生管理マニュアル・中小規模調理施設における衛生管理の徹底について（厚生労働省HP）、学校給食衛生管理の基準（文部科学省HP）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、プリント、教科書を精読し授業に臨むこと。さらに、「大量調理施設衛生管理マニュアル等」も精読のこと。実験にあたっては専用の白衣、エプロン、帽子、調理用シューズ、包丁、爪ブラシ等の購入が必要となる。食品加工学実験を履修していることが望ましい。		

授業科目名	公衆衛生学		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 純子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。指定した教科書、参考書を中心に、パワーポイント、プリント等の資料を補助的に用いて講義を進める。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	健康, 予防医学, ヘルスプロモーション, 健康教育, 保健統計, 生活習慣病, 地域保健, 母子保健, 学校保健, 高齢者保健, 精神保健, 健康保険・年金保険, 生活保護, 衛生法規		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	公衆衛生とは、集団組織化された地域社会が向上することによって、疾病の予防、寿命の延伸、身体的・精神的健康とその能率の増進をめざす科学であり技術であるとされている。管理栄養士として、健康を守り増進する社会システムを学ぶことを目標とする。管理栄養士課程カリキュラム「社会・環境と健康」として位置づけられている。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と疾病総論 2. 健康, 疾病, 行動に関わる統計, 健康状態疾病の測定と評価 3. 環境と健康, 国際保健 4. 母子保健, 学校保健 5. 主要疾患の疫学, 生活習慣の現状と対策 		
成績評価の方法	期末試験, 課題レポートで総合的に評価する		
テキスト	伊達ちぐさ・村松康弘編著 管理栄養士講座「改訂公衆衛生学」, 建帛社、2009年		
参考文献	国民衛生の動向, 厚生統計協会, 2012/2013		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	疾病の成り立ちについての基本的な知識を身につけていることを前提に講義を進める。		

授業科目名	環境衛生学		
担当教員氏名(助手氏名)	田中 純子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。指定した教科書，参考書を中心に，パワーポイント，プリント等の資料を補助的に用いて講義を進める。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	生態系，生活環境，公害，環境保全，気候変動，疫学，分析疫学，リスクコミュニケーション，行動科学，産業保健		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	公衆衛生の中の特に環境要因が，疾病の発生あるいは健康の保持増進に関連することを学ぶ。管理栄養士課程カリキュラムの「社会・環境と健康」として位置づけられ公衆衛生学と連続して学習する。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学・環境疫学 2. リスクコミュニケーション 3. 環境保全・気候変動 4. 生活環境 5. 産業保健 6. 公害・消費者行政 7. その他の環境衛生 		
成績評価の方法	期末試験，課題レポートで総合的に評価する		
テキスト	伊達ちぐさ・村松康弘編著 管理栄養士講座「改訂公衆衛生学」，建帛社，2009年		
参考文献	国民衛生の動向，厚生統計協会，2012/2013		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	疾病の成り立ちについての基本的な知識を身につけていることを前提に講義を進める。		

授業科目名	健康科学情報処理演習		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	演習授業。演習書に従って、1回ごとにテーマを設定して演習を行う。テーマごとにレポートの提出を義務づける。学生は、授業に出席し、レポートを提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	ソフトウェア, データ解析, エクセル, エクセル関数, グラフ化, 統計処理, マクロプログラミング, インターネット, 文献検索, データベース		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、実験データ等をコンピュータ上で解析するために必要な知識と基本的なデータ処理の方法を学ぶ。表計算ソフトウェアであるエクセルを用いて、データ処理、エクセル関数の利用、データのグラフ化などの手法を学ぶ。また、エクセルマクロプログラミングを通して、論理的な思考法に慣れ、基礎生物科学分野から健康科学分野にわたって幅広く活用するための基礎となる方法を修得する。本科目の目標は、基本的な情報処理の演習を通して、実際の課題に取り組む場合に、これを適切に処理できる実践的な能力を修得することである。		
授業の内容	健康科学分野に関連したテーマについて、主に表計算ソフトウェアを用いたデータ処理、プログラム作成ならびにインターネット利用に関する演習を行う。データの収集と整理に関する基本技術、収集したデータに基づく検定や回帰分析などの統計処理の方法、関数の利用法、データのグラフ化の方法などを修得する。インターネット上での文献検索、データベース検索、ソフトウェア解析などを通して、コンピュータの多様な利用法を身につける。		
成績評価の方法	レポート課題で評価する。レポートは、演習のタイトル、目的、方法、演習実施報告、考察の順にまとめる。実施報告と考察はまとめてもよい。引用文献がある場合は、最後に記述する。目的と方法が明確に記載されているか、実施報告が適切に記載されているか、自分が行った演習作業に基づいて考察がなされているか、などを基準に評価する。		
テキスト	『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業が終わるごとに復習し、演習問題を解いて理解を深めておくこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	予防医学		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室		
オフィスアワー	(在室時は随時)		
授業の形式・方式	対面方式の授業。何回か遠隔システムを使用する可能性があります。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	メタボリックシンドローム予防生活習慣病予防禁煙支援地域保健サービス提供体制		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>1. 主に生活習慣病を主体とした予防活動について、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健など、いろいろな側面からとらえます。</p> <p>2. メタボリックシンドローム予防のための運動療法や禁煙支援について理解します。</p>		
授業の内容	<p>1. メタボリックシンドローム予防 2. 運動療法 3. 禁煙支援 4. 生活習慣病予防 5. 地方分権の推進と地域保健予防サービス提供体制 6. 学校保健での予防対策 7. 母子保健での予防対策</p>		
成績評価の方法	出席と授業への参加状況(レポート提出など、10%程度)、および筆記試験(90%程度)		
テキスト	教科書指定:「保健所研修ノート 第3版(2014年発行)」、医歯薬出版, 安武繁 著		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	具体的事例をもとに検討します。		

授業科目名	保健政策論		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁		
研究室の場所	三原キャンパス 3510研究室		
オフィスアワー	(随時)		
授業の形式・方式	対面方式の授業。何回か遠隔システムを使用する可能性があります。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	健康危機管理医療安全対策過重労働対策アスベスト健康障害対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康危機管理の具体的対応について理解します。 2. 医療安全対策の考え方について理解します。 3. 地域保健、学校保健、産業保健など、さまざまな分野における保健医療福祉の現状と課題について理解します。 		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 過重労働による健康障害 2. アスベスト健康障害対策 3. 健康危機管理について 4. 食と感染症 5. 医療安全対策 6. 地方分権の推進と地域保健医療の課題 		
成績評価の方法	出席と授業への参加状況（レポート提出など、10%程度）、および筆記試験（90%程度）		
テキスト	教科書指定：「保健所研修ノート 第3版（2014年発行）」、医歯薬出版、安武繁 著（「予防医学」と同じ本です。）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	具体的事例をもとに検討します。		

授業科目名	栄養教育概論		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従いパワーポイント等のメディアを使用し、講義形式で授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養教育、成人、高齢者、栄養、食事		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目においては、健常者（乳児～高齢者）を対象とした栄養教育のあり方について学ぶ。管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野「栄養教育論」に位置づけられる。		
授業の内容	対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。さらに身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について修得する。		
成績評価の方法	期末試験80%、出席および小テスト20%の割合で評価する。		
テキスト	教科書：厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準2015年版 第一出版		
参考文献	食品成分表		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	栄養教育論実習		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳(馬淵良太)		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	課題をグループで検討し、まとめをパワーポイントで発表する。授業の半分は情報処理室を使用。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養教育、栄養調査、嗜好調査、生活活動調査		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	対象者から、日常生活状況、食生活状況などの聞き取り方を学ぶ。また、得られたデータから、日常生活や食生活の問題点を検討し、その改善の提案を行う。		
授業の内容	対象者から聞き取ったデータを基に、日常生活から消費エネルギー量を算定し、食生活状況から、摂取エネルギー量や栄養素量を算定する。得られたデータを基に対象者の問題点を把握し、その改善を提案する。また、個人のデータを集約し、全体での傾向を算定する。最後の授業では、パワーポイントを用い発表を行う。		
成績評価の方法	出席、発表内容 で総合的に評価する。		
テキスト	教科書：厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準2015年版 第一出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	世代別栄養教育論		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子		
研究室の場所	広島キャンパス 1442研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可(事前連絡を望む)。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程にしたがって、主に講義形式で実施する。 学生は授業に参加し、課題を発表し、課題レポートを提出すること、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養教育, 栄養指導, 行動科学, カウンセリング, 栄養教育マネジメント, ライフステージ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標 : ①各世代に応じた健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。 ②各世代に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質(QOL)の向上につながる主体的な実践能力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を習得する。 ③身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ(世代)、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について修得する。</p> <p>カリキュラム上の位置付け: 本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野の教育内容「栄養教育論」の1科目として位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>主な内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・授乳期の栄養教育(母性の育成) 2 乳幼児期の栄養教育(食事・生活のリズムの形成、味覚嗜好の形成) 3 学童期・思春期の栄養教育(学校を拠点とした食育) 4 成人期の栄養教育(ワークライフバランス、勤務形態) 5 高齢期の栄養教育(退職・死別・病気・介護などライフイベント) 		
成績評価の方法	授業態度(発表・ミニレポート・ミニテスト)30%、課題レポート40%、期末試験30%により評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、教学課の掲示板、学生に対する授業内での連絡により行う。試験等について、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、本学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	臨床栄養教育論		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従いパワーポイント等のメディアを使用し、講義形式・演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	栄養管理、嚥下障害、栄養指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	高齢者の増加に伴い、数十年前では問題とならなかった低栄養や摂食嚥下障害などの状態が問題となってきている。これらの状態に関連する疾患および栄養指導法を学ぶ。本科目は、管理栄養士養成施設カリキュラムにおいて、「栄養指導論」として位置づけられる。		
授業の内容	高齢社会が進展する中で、平成28年度より、低栄養、摂食嚥下障害、ガン患者の栄養指導に保険点数が付与された。管理栄養士としてこれらの疾病を理解し、栄養指導できるような知識技能が要求される。本科目では、低栄養に関連する疾患、摂食嚥下障害に関する疾患を中心にその概要と食事療法、栄養指導方法について講義する。		
成績評価の方法	期末試験を中心に、出席状況、小テスト、レポートを加味して判断する。		
テキスト	教科書：「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」(医歯薬出版)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	臨床栄養教育実習		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。作成したスケジュールに従い、実験および実習を行う。実験についてはレポートを作成、実習については発表を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験に係る必修		
キーワード	臨床栄養、栄養教育、嚥下、食品物性、症例検討		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実習では症例検討、実験では嚥下障害者に対する適切な物性について学ぶ。 本科目は、生化学、基礎栄養学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育概論、食品学等の知識を基に実験、実習を行う。		
授業の内容	実習では、症例を基に、病態の把握、アセスメント、プランニングを行い、パワーポイントを用いて発表を行う。実験では、①市販トロミ剤を用い、種々の液体にトロミ付けを行い、そのトロミの程度を測定するとともに官能評価を行う。②市販ゲル化剤を用い、種々の液体をゲル化し、その物性を測定するとともに官能評価を行う。③離乳食と咀嚼機能や嚥下機能の低下した高齢者食との比較を行う。		
成績評価の方法	出席、発表内容、レポート内容を基に総合的に評価する。		
テキスト	小冊子を配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	公衆栄養学		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子		
研究室の場所	広島キャンパス 1442研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可(事前連絡を望む)。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、主に講義形式で実施する。 学生は授業に参加し、課題を発表し、課題レポートを提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修 栄養士免許必須		
キーワード	ヘルスプロモーション, 公衆栄養マネジメント, 公衆栄養活動, 栄養行政, 管理栄養士・栄養士制度, 国民健康・栄養調査, 健康づくり対策, 食事摂取基準, 諸外国の健康問題・栄養政策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標:</p> <p>①地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。</p> <p>②保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を習得する。</p> <p>カリキュラム上の位置付け: 本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野の教育内容「公衆栄養学」の1科目として位置付けられている。</p>		
授業の内容	<p>主な内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公衆栄養の概念 (概念、公衆栄養活動) 2 健康・栄養問題の現状と課題 (社会環境との関連、健康状態・食事・食生活・食環境の変化、諸外国の現状と課題) 3 栄養政策 (公衆栄養活動、関連法規、管理栄養士・栄養士制度、国民健康・栄養調査、実施に関連する指針・ツール、国の健康増進基本方針と地方計画、諸外国の健康・栄養政策) 4 栄養疫学 (暴露情報としての食事摂取量、食事摂取量の測定方法・評価方法) 		
成績評価の方法	授業態度(発表・ミニレポート)30%、レポート課題40%、期末試験30%により評価する。		
テキスト	前大道教子ほか編: ウェルネス公衆栄養学(第9版), 医歯薬出版(2012)		
参考文献	藤沢良知編著: 栄養・健康データハンドブック(第13版), 同文書院(2011)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。 レポート課題や試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	地域栄養論		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子		
研究室の場所	広島キャンパス 1442研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可（事前連絡を希望）。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、主に講義形式、一部演習形式で実施する。 学生は授業に参加し、課題を発表し、課題レポートを提出すること、試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	洗濯
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	ヘルスプロモーション、地域栄養活動、マネジメント、活動指針、栄養施策、ライフステージ、食環境づくり、地区組織活動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <p>①地域の保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を習得する。</p> <p>②地域の各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。</p> <p>カリキュラム上の位置付け：本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野の教育内容「公衆栄養学」の1科目として位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>主な内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域栄養マネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域栄養マネジメント 2) 地域栄養アセスメント 3) 地域栄養プログラムの目標設定 4) 地域栄養プログラムの計画・実施・評価 2 地域栄養プログラムの展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域特定に対応したプログラムの展開 2) 食環境づくりのためのプログラムの展開 3) 地域集団の特性別プログラムの展開 3 地域栄養プログラムの課題と展望 		
成績評価の方法	授業態度（発表・ミニレポート）30%、レポート課題40%、期末試験30%により評価する。		
テキスト	前大道教子ほか編：ウエルネス公衆栄養学（第9版），医歯薬出版		
参考文献	笹谷美恵子ほか著：実践事例から学ぶ地域栄養活動論—地域社会の健康づくりがわかる同文書院（2008）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。 レポート課題や試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	健康教育プログラム論		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子		
研究室の場所	広島キャンパス 1442研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可（事前連絡を望む）。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、講義と演習（発表・討論）形式で実施する。 学生は授業に参加し、課題を発表し、課題レポートを提出することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	健康教育, 保健指導, マネジメント, ヘルスプロモーション, プログラム, 保健行動, 食行動, 行動変容		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目的：①健康教育は、健康とQOLの向上に寄与するという認識を持ち、人々が自らの健康をコントロールし、自己決定し、行動をとることが可能となるプロセス（ヘルスプロモーション）を支援する役割があることを理解する。②健康・栄養状態、健康・食行動、食環境等の評価・判定に基づき、健康教育プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を理解する。</p> <p>カリキュラム上の位置付け：この科目は、健康科学科の専門科目・健康管理科学に区分されており、選択科目に位置づけられる</p>		
授業の内容	<p>地域や集団が抱えている健康・栄養問題及び影響を与えている社会や環境要因を分析し、ヘルスプロモーションの理念に基づく適切な健康教育プログラムを計画・実施・評価するための知識と技能を学ぶ。その基礎として、健康教育の理念、保健・医療対策、保健行動、健康教育の方法と媒体などについて学ぶ。演習を通して健康教育の具体的な方法を体験的に学ぶ。</p>		
成績評価の方法	授業態度（発表・討論・ミニレポート）60%、レポート課題40%により評価する。		
テキスト	授業中に資料を提示または配布する。		
参考文献	宮坂忠夫ほか：健康教育論，メヂカルフレンド社（2006） 松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎，医歯薬出版（2002）2006		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	公衆栄養学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子 (鍛島 秀明)		
研究室の場所	広島キャンパス 1442研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可 (事前連絡を望む)。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、主にグループワーク形式で実習する。 個人で課題レポートを作成し、それを基にグループで課題について討論し、発表するとともに他グループと討論し、問題解決をはかる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	地域、実態把握、課題分析、公衆栄養計画、目標設定、評価、公衆栄養活動、プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：</p> <p>①地域や集団の健康・栄養問題、ニーズ等を情報収集・分析できる。 ②適切な課題分析・診断に基づく公衆栄養プログラムの作成・実施ができる。 ③総合的な評価を行う公衆栄養マネジメントの技術・技能を修得する。</p> <p>カリキュラム上の位置付け： 本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムでは、専門分野の教育内容「公衆栄養学」の1科目として位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>主な内容は次のとおりである。</p> <p>①公衆栄養学実習の基本的な考え方 ②地域や集団の健康・栄養状況の実態把握・課題分析・診断の方法 ③公衆栄養計画・目標の立て方 ④公衆栄養活動の進め方と評価方法</p>		
成績評価の方法	<p>課題レポート50%、実習への取り組み(実習態度、課題発表・討論状況とその内容)50%の割合で評価する。 課題レポート及び提出期限は授業の中で提示する。 課題の発表は実習時間内で実施する。</p>		
テキスト	<p>井上浩一・川野因・本田榮子編：公衆栄養学実習，建帛社(2012) 授業時に担当教員が作成した「公衆栄養学実習書」を配付する。</p>		
参考文献	<p>金田雅代他編：公衆栄養学実習，講談社(2011)</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>履修者は、授業の前に教科書・実習書を必ず精読し、個人で課題を検討し、グループ内で討論しておくこと。 授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。</p>		

授業科目名	地域保健臨地実習		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子 (鍛島 秀明)		
研究室の場所	広島キャンパス 1442研究室		
オフィスアワー	在室時いつでも可 (事前連絡を望む)。		
授業の形式・方式	保健所・保健センターにおける実習。自らの実習目標を明確にした上で、実習施設指導者の指導に基づき、実習プログラムに従って実習する。実習期間は5日間 (38時間45分) とし、実習前・実習中・実習後の各時期に応じて、実習記録、実習日誌、実習報告、自己評価などの実習関連書類を作成・提出を行うことが義務づけられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象 (備考欄参照)		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る選択必修		
キーワード	保健所, 保健センター, 保健衛生行政, 地域保健, 健康づくり, 栄養教育, 健康教育, 地区組織, 市町村支援, 特定給食施設指導, 食環境整備		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：①保健所・保健センターが果たす役割と業務を理解する。②健康・栄養問題を取り巻くさまざまな情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定できる。③対象に応じた適切な健康関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の過程を通じて総合的なマネジメントに必要な事項の実際を学ぶ。以上の目標を達成することにより、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図ることを目的とする。</p> <p>カリキュラム上の位置付け：本科目は、管理栄養士養成施設の臨地実習4単位のうち、「公衆栄養学」に係る臨地実習1単位の位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>実習施設指導者の指導に基づき、次の事項を参考に施設の状況に応じた内容とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織体制・管内の現状 (2) 公衆衛生行政の概要 (保健所又は保健センターの役割) (3) 管理栄養士の業務の概要、関連法規 (法的根拠) (4) 健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクル (5) 生活習慣病の発症予防と重症化予防や社会生活を営むために必要な機能の維持・向上 (6) 食を通じた社会環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> ① 保健、医療、福祉及び介護領域における管理栄養士・栄養士の育成 ② 食育推進のネットワークの構築 (関係部局との調整、連携) ③ 健康危機管理体制の整備 (都道府県や関係機関等との調整・支援体制) (7) 市町村との連絡調整及び栄養・食生活の改善のための技術的な支援 (保健所の実習) (8) 保健所 (都道府県) との連絡調整及び栄養・食生活の改善のための協働 (保健センターの実習) (9) 人材の育成と活用 (地域活動栄養士の育成と活用) (保健センターの実習) 		
成績評価の方法	事前学習、実習状況、事後学習、実習記録、実習報告などにより、総合的に評価する。実習記録などの提出期限は、実習前に適宜、提示する。		
テキスト	「臨地・校外実習の手引き」、 「臨地実習記録」 を配布する。		
参考文献	橋本加代他：現場で役立つ公衆栄養学実習，同文書院 <+978-4-8103-1433-5+>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本臨地実習を履修するためには、原則として、教育課程表で当該科目の前の学期までに配当されている、管理栄養士免許必修科目をすべて履修していること。また、臨地実習の事前事後指導に関する科目「総合演習」を履修していること。地域保健臨地実習 (3年後期1単位) と給食経営管理臨地実習Ⅱ (4年前期1単位) は管理栄養士国家試験受験資格のための選択必修科目 (学生便覧参照)。3年生前期にある臨地・校外実習オリエンテーション後、希望をとる。ただし、学生が地域保健臨地実習 (3年後期1単位) と給食経営管理臨地実習Ⅱ (4年前期1単位) の両方を履修したい希望があり、実習先が確保された場合のみ、両方の履修を認める。学生の選定は3年前期までの成績や学習態度により選考する。		

授業科目名	カウンセリング		
担当教員氏名(助手氏名)	大下 由美		
研究室の場所	三原キャンパス4529、広島キャンパス2413		
オフィスアワー	メール等でご連絡ください		
授業の形式・方式	対面授業および一部演習を含む		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	身体症状とコミュニケーション、対人関係と心身症、家族支援、困難事例の問題解決		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	対人関係上の問題と食行動に関連する心身の健康問題（摂食障害、糖尿病、高血圧症などの）をシステムの視点から理解できるようになる。その上で、具体的な問題解決のための実践技術を体験的に学び修得する。そして栄養指導等の場面において、対象者が意欲的に食行動を改善していけるように支援していくための基礎知識と実践的コミュニケーションスキルを習得する。		
授業の内容	摂食障害、糖尿病、高血圧症などの心身の問題を、コミュニケーションの語用論的側面から理解する理論と技術について概説する。また対人関係的側面の変容法について、基本的原理を概説し、問題解決のための具体的支援過程を、実践的スキルの実演を通して教授する。これらの知識と技術の統合を図るための実践的学習（ロールプレイ）を行う。		
成績評価の方法	レポートおよび演習技術点で評価する		
テキスト	学習資料は適宜授業内で指示。		
参考文献	『ファミリーソーシャルワークの理論と技法』九州大学出版会、2014		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	栄養指導等の場面で出会う多問題の対象者の方に対し、関係を上手に作っていくコミュニケーション技術について学びたいと考えている学生さんの受講を期待します。		

授業科目名	給食安全管理論		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島 キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章の事項について講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。給食の目的を達成するためには、個人の能力を最大限に発揮させる組織を構築しなければならない。従って、レポート課題(宿題)は、すべてグループ単位での提出とする。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	リスクマネジメント リスク対策 生産管理、衛生管理、食中毒、HACCP、調理施設、作業指示書、標準化、作業工程表、作業動線		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、特定給食施設における給食経営管理のうち、【給食を安全に提供するためのリスクマネジメント(衛生管理システム構築)】について学ぶ。本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「給食経営管理論」の1つの科目として位置づけられている。		
授業の内容	特定給食施設における食事の生産工程は、喫食者一人ひとりに合わせた献立構成であること、日々異なる献立構成であるなどに由来して非常に複雑である。しかし、この複雑な生産工程を制御しなければ食中毒などの危害を発生させることとなる。この科目では、特定給食施設における給食経営管理のうち、【給食を安全に提供するためのリスクマネジメント(衛生管理システム)】について学ぶ。具体的には、HACCP概念に基づいた衛生的な生産管理を行うためのリスク対策(人的対策(運用)、技術的対策(施設設備))について学ぶ。修得課題は、①作業指示書(レシピ)の標準化ができること、②大学内給食経営管理実習室の衛生管理マニュアル、機器管理、什器管理マニュアルが作成できること、③作業指示書から、作業工程表、作業動線を作成できること、④危機管理体制を構築できることである。		
成績評価の方法	課題レポート(宿題)への取り組みで評価する。レポート(宿題)の課題および提出期限は授業時に提示し、提出期限に遅れた場合は受け付けない。		
テキスト	給食マネジメント論(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015の実践・運用(第一出版)		
参考文献	大量調理施設衛生管理マニュアル・中小規模調理施設における衛生管理の徹底について(厚生労働省HP)、学校給食衛生管理の基準(文部科学省HP)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、テキストを精読し授業に臨むこと。すべての課題レポートはグループでの提出であり、評価もグループに対して行う。グループ内でのコミュニケーションを十分に図ること。		

授業科目名	給食栄養管理論		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島 キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章の事項について講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。給食の目的を達成するためには、個人の能力を最大限に発揮させる組織を構築しなければならない。従って、レポート課題(宿題)は、すべてグループ単位で提出とする。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出することことが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 2年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	アセスメント、献立、食事、食品群別荷重平均成分表、給与栄養基準量、食品構成表、栄養教育、作業指示書		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、特定給食施設における給食経営管理のうち、【栄養・食事管理の基礎となる献立計画、実施、評価を定着させること】を目的とする。本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「給食経営管理論」の1つの科目として位置づけられている。		
授業の内容	給食提供の目的は、喫食者に食物選択行動の自己管理能力を身につけさせ、心身の発達・発育、健康維持・増進、疾病の治療・予防などを行うことであり、栄養教育の媒体として給食献立の役割は大きい。この科目では、特定給食施設における給食経営管理のうち、【栄養・食事管理の基礎となる献立計画、実施、評価を定着させること】を目的とする。また、病院、学校、福祉施設などの特定給食施設の栄養・食事管理システムの実際や特性も理解させる。習得課題は、①「美味しく楽しく食べることの出来る普通の食事(献立)」を設計し、食品群別荷重平均成分表を作成できること、②喫食者の栄養アセスメントおよびアンケートから、給与栄養基準量(荷重平均栄養量)および食品構成表の作成と栄養教育計画を決定できること、③実施献立表、作業指示書(標準化されたレシピ)を作成できることである。		
成績評価の方法	課題レポート(宿題)への取り組みで評価する。レポート(宿題)の課題および提出期限は授業時に提示し、提出期限に遅れた場合は受け付けない。		
テキスト	給食マネジメント論(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015の実践・運用(第一出版)		
参考文献	大量調理施設衛生管理マニュアル・中小規模調理施設における衛生管理の徹底について(厚生労働省HP)、学校給食衛生管理の基準(文部科学省HP)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、テキストを精読し授業に臨むこと。すべての課題レポートはグループでの提出であり、評価もグループに対して行う。グループ内でのコミュニケーションを十分に図ること。		

授業科目名	給食経営管理論		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島 キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章の事項について講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。給食の目的を達成するためには、個人の能力を最大限に発揮させる組織を構築しなければならない。従って、レポート課題(宿題)は、すべてグループ単位で提出とする。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出することことが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	品質保証、戦略、組織管理、会計管理、システム構築		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、特定給食施設における給食経営管理のうち、【喫食者が給食に求める品質を保証した食事を、効率的に提供するためのマネジメント能力を養うこと】を目的とする。そのため、給食における栄養管理、安全管理に関して十分に理解した学生を対象として、給食経営の戦略を立て、効率的に人的資源、物的資源、財務的資源、さらに、知識、技術、情報などを活用することの重要性を理解させる。本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「給食経営管理論」の1つの科目として位置づけられている。また、健康管理科学についての専門的知識と、諸問題の解決のために他者と協調し、組織的に取り組める社会的態度を養う科目である。		
授業の内容	給食提供の目的は、喫食者に食物選択行動の自己管理能力を身につけさせ、心身の発達・発育、健康維持・増進、疾病の治療・予防などを行うことである。この科目では、特定給食施設における給食経営管理のうち、【喫食者が給食に求める品質を保証した食事を、効率的に提供するためのマネジメント能力を養うこと】を目的とする。すなわち、給食の栄養管理、安全管理を十分に理解した上で、目標達成のために、関連の資源(食品の流通や食品開発の状況、給食に係る組織や経費等)を総合的に判断しマネジメントできる能力を養う。そのために、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。		
成績評価の方法	課題レポート(宿題)への取り組みで評価する。レポート(宿題)の課題および提出期限は授業時に提示し、提出期限に遅れた場合は受け付けない。		
テキスト	給食マネジメント論(第一出版)、給食マネジメント論(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015の実践・運用(第一出版)		
参考文献	大量調理施設衛生管理マニュアル・中小規模調理施設における衛生管理の徹底について(厚生労働省HP)、学校給食衛生管理の基準(文部科学省HP)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、テキストを精読し授業に臨むこと。すべての課題レポートはグループでの提出であり、評価もグループに対して行う。グループ内でのコミュニケーションを十分に図ること。		

授業科目名	給食経営管理実習		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島 キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	5グループ(7名/グループ)がそれぞれ100食規模の給食を提供する。さらに、グループ間での連携をとり、クラス全体として給食を組織的に運営し、喫食者の健康の維持増進につながる食事の提供を目指す。従って、給食サービスを提供する組織の一員である学生は、事前準備、給食提供、レポートの作成・提出が義務付けられる。レポート課題(宿題)は、すべてグループ単位での提出とする。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	給食サービス、品質保証、マネジメント、栄養・食事管理、生産・安全管理、効率、改善、HACCP概念に基づいた大量調理の衛生管理、新調理システム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、給食栄養/安全/経営管理論で習得した知識を基にして、給食サービス提供に関する技術を体得するとともに、【喫食者に食物選択行動の自己管理能力を身につけさせ、心身の発達・発育、健康維持・増進、疾病の治療・予防などを行う】という給食提供の目的達成のためには組織管理などのマネジメント能力が重要であることを理解する。本科目は、管理栄養士養成施設のカリキュラムにおいて、専門分野の教育内容である「給食経営管理論」の1つの科目として位置づけられている。また、健康の維持増進並びに疾病予防のための「食」について企画・実践に関する基礎技能、諸課題の解決のために他者と協業し、組織的に取り組める社会的態度を養う科目である。		
授業の内容	給食栄養/安全/経営管理論で習得した知識を基にして、100食規模の給食提供を行う。このことで、給食サービス提供に関する技術を体得するとともに、【喫食者に食物選択行動の自己管理能力を身につけさせ、心身の発達・発育、健康維持・増進、疾病の治療・予防などを行う】という給食提供の目的達成のためのマネジメント能力の重要性を理解する。具体的には、①給食の目標を達成する食事提供サービス実施のための戦略を立てた上で、②栄養・食事管理(栄養アセスメントの実施、給与栄養基準量の設定、献立、栄養教育の計画立案)、③生産・安全管理(作業工程表、作業動線確認表、施設・機器・衛生・危機管理マニュアルの作成)を行い、④効率的な人的資源、物的資源、財務的資源、さらに、知識、技術、情報などの活用に取り組む。最終回では実施した給食サービスを評価し、改善案を作成する。		
成績評価の方法	実習への取り組み(レポート課題を含む)で評価する。レポート(宿題)の課題および提出期限は授業時に提示し、提出期限に遅れた場合は受け付けない。		
テキスト	テキスト：給食マネジメント論(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015の実践・運用(第一出版)		
参考文献	大量調理施設衛生管理マニュアル・中小規模調理施設における衛生管理の徹底について(厚生労働省HP)、学校給食衛生管理の基準(文部科学省HP)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	組織的に100食規模の給食を提供するためには、一人ひとりが給食提供の目的を十分に理解し、目標達成のために自身の知識・技術を有効活用したいという意識が重要である。さらに、有する能力を効率的に活かすためには、グループ間、グループ内での連携は不可欠である。従って、レポート課題(宿題)等の評価はグループに対して行う。レポート等への取り組みにおいて、一人ひとりが十分に貢献できたか、改善点は何かなど、自己評価、グループ評価を行いながら実習にあたってほしい。		

授業科目名	給食経営管理臨地実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美 (山縣 誉志江)		
研究室の場所	広島キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	施設(病院)における実習。施設での実習期間は1週間(40時間)であり、臨床栄養臨地実習 I, 臨床栄養臨地実習 II とあわせて3週間(120時間)の実習期間とする。施設では、自らの学習目標を明確にした上で、施設の指導担当者の指示に従って実習する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 4年次対象 (備考欄参照)		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	給食業務, 食事計画, 調理, 給食サービス, 情報処理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標: 病院における食事の計画や調理を含めた給食管理業務を体験し、喫食者の栄養状態とニーズに対応した給食サービス提供に必要な専門的知識及び技能を修得する。本実習は栄養士・管理栄養士の役割や業務について理解を深め、実践活動の場での課題発見、解決を通して専門知識および技術の統合を図ることを目的とする。</p> <p>カリキュラム上の位置付け: 本科目は、管理栄養士養成施設の臨地実習(校外実習1単位を含む4単位)のうち、「給食の運営」に係る校外実習1単位に位置づけられる。また、健康管理科学についての専門的知識と、諸課題の解決のために他者と協調し、組織的に取り組める社会的態度を養う科目である。</p>		
授業の内容	<p>実践活動の場で専門知識および技術の統合を図る。施設の状況に応じて、指導担当者の指示に従った内容となるため、学内において専門領域の基礎的な知識・技術・態度を身につけ、目標を明確にしておくことが重要である。具体的には、以下の事項を参考に、個人およびグループで目標を設定する。</p> <p>(1) 施設の組織・運営の特徴, 給食部門・栄養部門・各種委員会の位置づけと目的の理解</p> <p>(2) 給食管理業務の体験(献立作成や材料発注などの食事計画, 衛生管理や施設設備のレイアウトを考慮した調理作業計画, 給食関連帳簿の作成など)</p> <p>(3) 給食における個人対応と食数管理の実際</p>		
成績評価の方法	事前学習, 実習状況, 事後学習, 実習記録, 実習報告などにより、総合的に評価する。		
テキスト	「臨地・校外実習の手引き」, 「臨地実習記録」を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本臨地実習を履修するためには、原則として、教育課程表で当該科目の前の学期までに配当されている、栄養士免許必修科目をすべて履修していること。また、臨地実習の事前事後指導に関する科目「総合演習」, 「健康科学総合演習」を履修していること。		

授業科目名	給食経営管理臨地実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美 (馬淵 良太)		
研究室の場所	広島キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	施設(学校)における実習。施設での実習期間は1週間(40時間)であり、教育実習(栄養教諭)とあわせて2週間(80時間)の実習期間とする。施設では、自らの学習目標を明確にした上で、施設の指導担当者の指示に従って実習する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 4年次対象 (備考欄参照)		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	給食業務, 食事計画, 調理, 給食サービス, 情報処理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：学校における食事の計画や調理を含めた給食管理業務を体験し、児童・生徒の栄養状態とニーズに対応した給食サービス提供に必要な専門的知識及び技能を修得する。本実習は病院における校外実習(給食の運営)を履修済みの学生を履修対象とし、給食実務の学修にとどまることなく、教職員、厨房職員等との関わりの中で、学校給食のマネジメントの考え方や方法を理解することを目的とする。</p> <p>カリキュラム上の位置付け：本科目は、管理栄養士養成施設の臨地実習(校外実習1単位を含む4単位)のうちの1単位に位置づけられる。また、健康管理科学についての専門的知識と、諸課題の解決のために他者と協調し、組織的に取り組める社会的態度を養う科目である。</p>		
授業の内容	<p>実践活動の場で専門知識および技術の統合を図る。施設の状況に応じて、指導担当者の指示に従った内容となるため、学内において専門領域の基礎的な知識・技術・態度を身につけ、目標を明確にしておくことが重要である。具体的には、以下の事項を参考に、個人およびグループで目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校給食の意義・役割の理解 (2) 学校給食のマネジメントの考え方や方法の理解 (3) その他 		
成績評価の方法	事前学習, 実習状況, 事後学習, 実習記録, 実習報告などにより、総合的に評価する。		
テキスト	「臨地・校外実習の手引き」, 「臨地実習記録」を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本臨地実習を履修するためには、原則として、教育課程表で当該科目の前の学期までに配当されている、栄養士免許必修科目をすべて履修していること。また、臨地実習の事前事後指導に関する科目「総合演習」, 「健康科学総合演習」を履修していること。		

授業科目名	総合演習		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下淳, 杉山寿美, 森脇弘子, 神原知佐子, 山縣誉志江, 鍛島秀明, 神田雅子		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い, 主に講義形式・演習方式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	管理栄養士, 実践活動, 栄養評価, 栄養管理, マネジメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 「基礎栄養学」, 「応用栄養学」, 「栄養教育概論」, 「臨床栄養学」, 「公衆栄養学」, 「給食経営管理論」などで習得した知識・技能を統合し, 栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行う能力を身につけるため, 科目横断的な講義を行う。 また, 「臨地実習」の事前・事後教育を行い, 実践の場での問題解決ができる能力を養う。本科目は, 管理栄養士養成施設カリキュラムにおいて, 専門分野「総合演習」として位置づけられる。		
授業の内容	専門分野の教育で習得した知識・技能を統合し, 医療機関および行政機関などで管理栄養士の業務を遂行する能力を養う。 「臨地実習」に向けて, 病院や保健センター等の管理栄養士の先生方による講義を受け, 臨地実習に向けて準備すべき事柄を整理し, 自らが取り組むべき課題を設定する。また, 地域保健臨地実習については実習施設ごとの事前指導, 実習後の報告会も行う。		
成績評価の方法	出席状況, 課題の取り組みなどを基に総合的に判断する。		
テキスト	必要に応じて, 「臨地・校外実習の手引き」, 「臨地実習記録」を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	臨地実習を履修するためには, 臨地実習の事前事後指導に関する本科目を履修すること。		

授業科目名	健康科学総合演習		
担当教員氏名(助手氏名)	神原知佐子, 栢下淳, 杉山寿美, 森脇弘子		
研究室の場所	広島キャンパス 1447研究室 (神原)		
オフィスアワー	在室時はいつでも可 (事前連絡を望む)。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い, 主に講義形式・演習方式で実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 4年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	管理栄養士, 実践活動, 栄養評価, 栄養管理, マネジメント		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 「基礎栄養学」, 「応用栄養学」, 「栄養教育概論」, 「臨床栄養学」, 「公衆栄養学」, 「給食経営管理論」などで習得した知識・技能を統合し, 栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行う能力を身につけるため, 科目横断的な講義を行う。 また, 「臨地実習」の事前・事後教育を行い, 実践の場での問題解決ができる能力を養う。本科目は, 管理栄養士養成施設カリキュラムにおいて, 専門分野「総合演習」として位置づけられる。		
授業の内容	専門分野の教育で習得した知識・技能を統合し, 医療機関および行政機関などで管理栄養士の業務を遂行する能力を養う。 「臨床栄養・給食経営管理臨地実習」に向けて, 糖尿病食と腎臓病食を3日間調理・試食することで, 管理栄養士として求められることを体験を通して考え, 臨地実習に向けて準備すべき事柄を整理し, 自らが取り組むべき課題を設定する。また, 臨床栄養・給食経営臨地実習については実習施設ごとの事前事後指導, 実習後の報告会も行う。		
成績評価の方法	出席状況, 課題の取り組みなどを基に総合的に判断する。		
テキスト	必要に応じて, 「臨地・校外実習の手引き」, 「臨地実習記録」を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	臨地実習を履修するためには, 臨地実習の事前事後指導に関する本科目を履修すること。		

授業科目名	健康科学外書講読		
担当教員氏名(助手氏名)	福場良之・三浦 朗・藤井 保・江島洋介・北台靖彦		
研究室の場所	本カタログにおいて各教員が記載している担当授業科目の該当項目を参照のこと		
オフィスアワー	本カタログにおいて各教員が記載している担当授業科目の該当項目を参照のこと		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、授業の内容に示す順番で、各教員がそれぞれ3回の授業を講義形式で実施する。各教員が、適宜、指示する課題のレポートを作成し、提出すること。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語論文, 英語専門書, 文献検索, 文献書誌情報, 英文講読		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は、健康科学科の関連科目である。学科教員5名がそれぞれ3回ずつ、オムニバス形式で担当する。この科目を履修することで、健康科学科で学習や卒業研究を行う上で必要な英語の論文や教科書、専門書を講読する能力の基礎を身につけることができる。この授業を受講することによる具体的な到達目標は以下である。①あるテーマに関する科学的情報が必要となった場合に、英語の総説ならびにコクランライブラリ情報を、本学図書館の各種データベースと検索システムを使って探し出すことができる、②PubMedなどを通して検索した英語の原著論文の抄録(abstract)を辞書を用いながら読み、その内容の概略(背景と目的、方法、結果、結論)を30分以内で把握できるようになる、③関連領域の英語の教科書を辞書を用いながら読み、その内容を正確に理解することができる、④関連領域の英語の専門書を辞書を用いながら読み、その内容をほぼ理解することができる。		
授業の内容	健康科学の分野における最新の科学的な知見を理解する上で必要となる英語の論文や専門書を講読する能力を養成する。以下の順序で、各教員が3週ずつ担当する。 (福場) 導入部として、なぜ外書講読能力が必要なのかといった学習意欲の動機付けのため、いくつかの解説、記事を読み、本講義の背景を理解する。次に、文献検索(主にPubMed)によって、自分が興味をもったテーマに関する英語論文を探す方法を理解し、獲得した論文の抄録部分の実践的な講読方法を学ぶ。あわせて、コクランライブラリの利用法を理解する。 (三浦) まず、健康科学に関する英語の原著論文の典型的な構成(タイトル、著者、所属、抄録、背景と目的、方法、結果、論議、文献)や図・表の見方について理解する。その上で、抄録部分の構成を把握し、その内容の概略を読み取る能力を身につける。また、日本語の説明的文書を要約し、抄録を作成する作業を通して、リーディングの基本技能を養う。 (藤井) 健康科学と基礎的なかわりのある免疫学の分野から抽出したテーマに関する教材を用いて実践的な講読能力を養う。 (江島) 健康科学と基礎的なかわりのある生化学の分野から抽出したテーマに関する教材を用いて実践的な講読能力を養う。 (北台) 内容は未定		
成績評価の方法	期末試験は実施しない。各担当教員がそれぞれ指示する課題に対するレポートの評価、ならびに出席状況を総合的に20点満点で評価する。それらを合計(100点満点)して成績とする。		
テキスト	共通のテキスト・教科書は使用しない。『複写資料教材』を適宜、授業時に配布する。		
参考文献	(福場担当関連) 佐々木敏・等々力英美 編集 『EBN入門』, 第一出版, 平成14年。 「原著論文の意味と価値」, 佐々木敏, 食生活, 98(5):92-96, 2004。など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は、授業の中で、適宜、紹介する参考著書・文献を、積極的に読むことをすすめる。 なお、講義全体の取りまとめ責任者は福場が担当する。		

授業科目名	調査・研究の理論と実際		
担当教員氏名(助手氏名)	大谷 敬子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義およびパソコンを用いた演習を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	疫学, 統計解析, データ解析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーソフトウェアRを用いて, 統計解析の基本について学ぶ。 ・公衆衛生活動における調査研究の必要性を学ぶ。 ・研究計画の立て方を学ぶ。 ・データの集積, 分析方法など統計処理について学ぶ。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のデータを用いて, データ解析の手順, 及び結果の解釈について学ぶ。 		
成績評価の方法	レポートおよび授業態度。		
テキスト	中村 好一 著「保健活動のための調査・研究ガイド」 医学書院, 2002		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	積極的に授業に参加すること。		

授業科目名	行動心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	向居 暁		
研究室の場所	広島キャンパス 1814研究室		
オフィスアワー	第1回の授業において提示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～2回の講義につき、1章の講義を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	国際文化学科・健康科学科 1年次対象、経営学科・経営情報学科 1・2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(公民) 選択必修		
キーワード	知覚、記憶、思考、社会的認知、パーソナリティ、発達		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔たりがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の全般的な内容について講義を行う。そして、心理学に対してこれまで抱いていた誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象にしている。		
授業の内容	授業では、人間の基本的な心の働きや行動を扱う。授業内容は、心理学の歴史に始まり、感覚・知覚、認知、社会、発達、教育、パーソナリティ、臨床など多岐にわたる心理学分野を少しずつ紹介するものとなっている。毎回の授業において、学生からも日常生活で体験する「心についての素朴な疑問」を受け付ける。そして、それら疑問は「学問としての心理学」ではどのように考えられているかを講義内容に沿って紹介する。		
成績評価の方法	試験90%、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み不可、座席指定、学生証呈示、途中退室不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。		
テキスト	北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子 共著 「グラフィック心理学」 サイエンス社 1997		
参考文献	第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	学校栄養教育論 I		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山寿美 熊谷陽子 (非常勤)		
研究室の場所	1626		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書の各章の事項について講義形式で実施する。授業時間 2 時間 (1 回) と学生の自習 4 時間を想定した授業を行う。数回の宿題 (レポート課題) を課し、指定した授業回の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席すること、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	栄養教諭一種免許状に係る必修		
キーワード	栄養教諭 栄養 食生活 学校給食 食育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>栄養教諭の職務内容や使命・役割および学校給食の意義・役割、歴史などについて、学校における児童・生徒の食の現状の事例とともに説明する。また、学校給食を「生きた教材」として、根拠に基づいた食育を展開するために、食や栄養に関する調査データと歴史的・文化的事項や社会事情等を併せて考察する。</p> <p>本科目は栄養教諭一種免許状取得のための「栄養に係る教育に関する科目」として位置づけられており、「栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項」「幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項」「食生活に関する歴史のおよび文化的事項」を学ぶ科目である。</p>		
授業の内容	<p>栄養教諭として、児童及び生徒の生涯にわたる健康づくりに寄与することを目指した指導方法の基礎理論を身につける。</p> <p>熊谷：栄養教諭の職務内容や使命・役割等、実践の実際を講義する。</p> <p>杉山：食に関する調査データの解説等、実践の裏付けを講義する。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験60%、課題レポート(宿題) 40%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。</p> <p>期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題および提出期限は授業時に提示し、提出期限に遅れた場合は受け付けない。</p>		
テキスト	<p>栄養教諭論(理論と実際) 建帛社, 栄養教諭論(実践研究) 建帛社, 食に関する指導の手引</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	学校栄養教育論Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	辻 文、馬淵 良太、栗栖 智弘 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義および演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	栄養一種免必修		
キーワード	食に関する指導、指導案、模擬授業、指導計画		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食に関する指導方法を理解し、栄養教諭として効果的な指導ができるように指導計画を立て、指導案の作成および模擬授業を行う。本授業は、栄養教諭一種免許の取得にあたって、「食に関する指導の方法に関する事項」の科目区分を習得するためのカリキュラムである。		
授業の内容	学校における食に関する指導は、教育活動全体を通して行うことが重要であるため、各教科(家庭科、技術・家庭科、体育科、保健体育科、理科、社会など)や総合的な学習の時間、特別活動(給食の時間、学級活動、学校行事など)等、校内における種々多様な場面での食に関する指導とその評価について講義する。上記のような食に関する指導方法を理解した上で、食に関する指導案を作成する。作成した指導案は、発表と相互批評を行う。さらに作成した指導案を用い模擬授業を行う。これについても相互批評を行う。		
成績評価の方法	出席・課題レポート・指導案・模擬授業等総合的に判断する。		
テキスト	三訂 栄養教諭論[第2版]-理論と実際- 金田雅代編著 建帛社2012、栄養教諭論Ⅱ-実践研究- 金田雅代編著 建帛社2013、食に関する指導の手引-第一次改訂版- 文部科学省2008		
参考文献	現行学習指導要領・生きる力(小学校:2011-, 中学校:2012-)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子、辻 文		
研究室の場所	広島キャンパス 1541室		
オフィスアワー	※随時対応 要連絡		
授業の形式・方式	対面授業。一部演習形式で実施。学外フィールドワークあり。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科4年（教育実習経験者）		
免許等指定科目	教免必修		
キーワード	自己理解 課題の発見 対人関係能力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	当演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力を習得させる。具体的には、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③児童・生徒理解や学校給食等に関する事項、④「食育」等の指導力に関する事項をテーマとする。		
授業の内容	教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持って、カリキュラムの全体像を視野に入れつつ、食に関する指導や学校給食管理等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を習得させる。そのために、役割演技（ロールプレイング）、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等を取り入れる。また、現職の教員又は教員勤務経験者を講師とした授業も行う。		
成績評価の方法	実技指導、グループ討論、補完指導、試験の結果等を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、評価を行う。		
テキスト	なし		
参考文献	授業中に随時提示。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本科目を履修するためには、教員免許状取得に必要な履修科目のうち、教職実践演習を除く1年次から4年次前期配当の科目での必要単位を4年次前期終了までにすべて習得しておくこと。		

授業科目名	教育実習指導（栄養教諭）		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳・山岡 雅子・辻 文（馬淵 良太）		
研究室の場所	1535・1448・1541		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い、主に講義形式、演習形式で授業を行う。		
単位数(時間数)	1単位（15時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	栄養一種免必修		
キーワード	学級活動，特別活動，給食指導，学習指導案，学習評価，栄養バランス，食事と安全・衛生，食事環境の整備，食事と文化，偏食，食と健康，食物アレルギー，食の自己管理，健康管理，食事と運動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、「学校栄養教育論Ⅰ・Ⅱ」，教職に関する科目などで習得した知識・技術を統合し，小学校・中学校において教育実習（栄養教諭）を行うための能力を身につけることを目標としている。		
授業の内容	教育実習前の事前指導として，教育実習（栄養教諭）の意義や目的，心構え，実習の評価の方法，実習後の提出物（実習ノートや指導案など），実習中の大学との連絡方法などについて説明する。また，指導案の実践的な作成と発表，模擬授業などの演習，評価をとおして，食に関する指導法の体得を図る。さらに，事後指導として，実習の反省，問題点の整理，今後の課題の明確化等を行う。		
成績評価の方法	授業への参加状況，課題の取り組み等を基に総合的に判断する。		
テキスト	実習記録など必要なプリントは適宜配付する。		
参考文献	笠原賀子 著「栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート」 医歯薬出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	栄養教育実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳・山岡 雅子・辻 文(馬淵 良太)		
研究室の場所	1535・1448・1541		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い、主に講義形式、演習形式で授業を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 3年次対象		
免許等指定科目	栄養一種免必修		
キーワード	学級活動, 特別活動, 給食指導, 学習指導案, 学習評価, 栄養バランス, 食事と安全・衛生, 食事環境の整備, 食事と文化, 偏食, 食と健康, 食物アレルギー, 食の自己管理, 健康管理, 食事と運動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、「学校栄養教育論 I・II」, 教職に関する科目などで習得した知識・技術を統合し, 小学校・中学校において教育実習(栄養教諭)を行うための能力を身につけることを目標としている。		
授業の内容	教育実習前の事前指導として, 教育実習(栄養教諭)の意義や目的, 心構え, 実習の評価の方法, 実習後の提出物(実習ノートや指導案など), 実習中の大学との連絡方法などについて説明する。また, 指導案の実践的な作成と発表, 模擬授業などの演習, 評価をとおして, 食に関する指導法の体得を図る。さらに, 事後指導として, 実習の反省, 問題点の整理, 今後の課題の明確化等を行う。		
成績評価の方法	授業への参加状況, 課題の取り組み等を基に総合的に判断する。		
テキスト	実習記録など必要なプリントは適宜配付する。		
参考文献	笠原賀子 著「栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート」 医歯薬出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育実習（栄養教諭）		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子, 辻 文, 馬淵 良太		
研究室の場所	広島キャンパス 1448, 1541, 1432研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	小学校・中学校における現地での実習。 自らの学習目標を明確にした上で、実習施設指導者の指導に基づき実習プログラムに従って実習する。 実習中は実習記録、実習終了後は課題レポートと自己評価の作成・提出を行うことが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 4年次対象		
免許等指定科目	栄養一種免必修		
キーワード	学級活動, 特別活動, 給食指導, 学級担任・教科担任との連携, 家族・地域との連携・調整, 学習指導案, 学習評価, 食と安全・衛生, 食と文化, 食と運動, 食の自己管理・健康管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学校における食に関する指導の目標は、①日常生活における食事について、正しい理解と望ましい食習慣を養うこと②学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと、③食生活の合理化、栄養の改善および健康の増進を図ること、④食糧の生産、配分および消費について正しい理解に導くことである。また、これらの目標を実現されるために、「体の健康」「心の育成」「社会性の両涵養」「自己管理能力の育成」の4つの柱が示されている。これらの食に関する指導を充実させるための総合的な方策として、小学校・中学校では「学校における一体的取組」「学校・家庭・地域社会の連携等による取組」等が行われている。その中で、栄養教諭は学級担任や教科担任等と連携・調整し、栄養教育を実施している。小学校・中学校において実習を行い、栄養教育の実際を理解し、課題発見・解決を通じて、専門的知識及び技術の統合を図ることを目標とする。		
授業の内容	学校経営、校務分掌、サービス等について理解する。児童・生徒への教科・特別活動等における指導の実際を理解する。学級活動及び給食の時間における指導、教科等における教科担任等と連携した指導・給食指導、配膳指導、後片付け指導等を行う。 児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の実際を知る。指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等を行い、授業を実施する。児童および生徒への個別的な相談・指導の実際を理解する。食に関する指導の連携・調整の実際を理解する。校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）および家庭・地域との連携、調整を理解する。		
成績評価の方法	実習記録、課題レポート、実習への取り組み、自己評価を勘案して総合評価を行う。		
テキスト	実習記録など必要な資料は適宜配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教育者としてふさわしい態度・服装・言葉遣いを身につけ、熱意と誠意をもって臨むこと。 本教育実習を履修するためには、3年後期までに、教育実習指導（栄養教諭）、教職実践演習（栄養教諭）を除く「栄養に係る教育に関する科目」「教職に関する科目」「日本国憲法、体育、外国語コミュニケーションおよび情報機器の操作の科目」のすべてが履修済みであること。 ※ 教育実習指導（栄養教諭）は事前事後指導に関する科目である。 ※ 教職実践演習（栄養教諭）は4年後期の科目である。		

授業科目名	栄養教育実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子, 辻 文, 馬淵 良太		
研究室の場所	広島キャンパス 1448, 1541, 1432研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	小学校・中学校における現地での実習。 自らの学習目標を明確にした上で、実習施設指導者の指導に基づき実習プログラムに従って実習する。 実習中は実習記録、実習終了後は課題レポートと自己評価の作成・提出を行うことが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	健康科学科 4年次対象		
免許等指定科目	栄養一種免必修		
キーワード	学級活動, 特別活動, 給食指導, 学級担任・教科担任との連携, 家族・地域との連携・調整, 学習指導案, 学習評価, 食と安全・衛生, 食と文化, 食と運動, 食の自己管理・健康管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学校における食に関する指導の目標は、①日常生活における食事について、正しい理解と望ましい食習慣を養うこと②学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと、③食生活の合理化、栄養の改善および健康の増進を図ること、④食糧の生産、配分および消費について正しい理解に導くことである。また、これらの目標を実現されるために、「体の健康」「心の育成」「社会性の両涵養」「自己管理能力の育成」の4つの柱が示されている。これらの食に関する指導を充実させるための総合的な方策として、小学校・中学校では「学校における一体的取組」「学校・家庭・地域社会の連携等による取組」等が行われている。その中で、栄養教諭は学級担任や教科担任等と連携・調整し、栄養教育を実施している。小学校・中学校において実習を行い、栄養教育の実際を理解し、課題発見・解決を通じて、専門的知識及び技術の統合を図ることを目標とする。		
授業の内容	学校経営、校務分掌、服務等について理解する。児童・生徒への教科・特別活動等における指導の実際を理解する。学級活動及び給食の時間における指導、教科等における教科担任等と連携した指導・給食指導、配膳指導、後片付け指導等を行う。 児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の実際を知る。指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等を行い、授業を実施する。児童および生徒への個別的な相談・指導の実際を理解する。食に関する指導の連携・調整の実際を理解する。校内における連携・調整(学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等)および家庭・地域との連携、調整を理解する。		
成績評価の方法	実習記録、課題レポート、実習への取り組み、自己評価を勘案して総合評価を行う。		
テキスト	実習記録など必要な資料は適宜配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教育者としてふさわしい態度・服装・言葉遣いを身につけ、熱意と誠意をもって臨むこと。 本教育実習を履修するためには、3年後期までに、教育実習指導(栄養教諭)、教職実践演習(栄養教諭)を除く「栄養に係る教育に関する科目」「教職に関する科目」「日本国憲法、体育、外国語コミュニケーションおよび情報機器の操作の科目」のすべてが履修済みであること。 ※ 教育実習指導(栄養教諭)は事前事後指導に関する科目である。 ※ 教職実践演習(栄養教諭)は4年後期の科目である。		